愛媛大学埋蔵文化財調査報告 V

愛媛大学構内遺跡調査集報 I

1987～1994年度における
立会・試掘・確認調査成果の報告

愛媛大学埋蔵文化財調査室

1 9 9 7

愛媛大学構内遺跡調査集報 I

1987～1994年度における

立会・試掘・確認調査成果の報告

愛媛大学埋蔵文化財調査室

1 9 9 7

序　文

愛媛大学は、松山市および愛媛県内各所に大小のキャンパスをもち、敷地総面積は464ヘクタールにおよぶ。その敷地の中で、本部事務局と４つの学部を抱える城北地区には文京遺跡、農学部と附属農業高等学校がある樽味地区には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡など、数多くの遺跡が営まれている。埋蔵文化財調査室では、こうした埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合、影響度に応じて、本格的な全面調査、試掘調査、立会調査の方法で発掘調査を実施している。また、1992年度からは、大学構内における埋蔵文化財の有無や精度の高い分布状況を把握するために、確認調査を始めている。

こうした調査の成果は、客観的な資料化を進めて調査報告書にまとめて公開する必要がある。ところが、本格的な全面調査については調査報告書を刊行してはいるが、小規模調査といえる試掘・立会・確認調査については調査成果の公開はなされていなかった。しかし、現在では、試掘・立会・確認調査は50件を越え、全面調査とは違った成果が得られつつある。そこで、まず、愛媛大学埋蔵文化財調査室が設立された1987年度から1994年度までに実施した試掘・立会・確認調査の成果を報告することとした。

また、本書で報告する山越・城北・持田団地は、道後・城北遺跡群と呼ばれる遺跡群の中に位置している。そのために、ひとり大学構内に営まれた遺跡を検討するだけでは、遺跡群の詳細な性格や動向を把握することはできず、個々の調査で発見される遺跡の評価も困難である。そこで、別冊の図版篇として、周辺の埋蔵文化財調査・発見地点を表記した地図を作成した。

本書をまとめるにあたり、発掘調査から記録・遺物類の整理、そして報告書の刊行にいたるまでには、多くの機関・部局・個人の方々から協力を得た。それらに深く感謝するとともに、本書が多くの人々に利用・活用されることを祈念します。

平成９年２月１日

愛媛大学埋蔵文化財調査室長
下 條　信 行

例　言

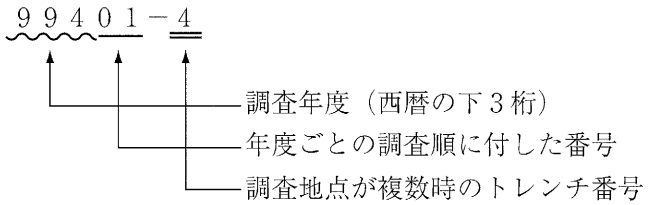
1．本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が設立された1987年度から1994年度までに大学構内で実施された試掘・立会・確認調査の成果を報告する愛媛大学構内遺跡調査集報Ⅰであり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅴにあたる。

2．また、埋蔵文化財調査室が実施してきた調査一覧として、本格的な全面調査の概要も収録した。

3．本書で報告する愛媛大学山越・城北・持田団地は、道後・城北遺跡群と呼ばれる遺跡群の中に所在する。遺跡群の詳細な性格や動向を把握するため、周辺の埋蔵文化財調査・発見地点を表記した地図を作成し別冊の図版篇とし、本書巻末に調査一覧表を付した。図版篇の地点番号の表記方法については、図版篇の例言を参照されたい。

4．以外の発掘調査を実施した団地については、本書本文中に1/500もしくは1/1,000の詳細位置図を作成して掲載している。

5．現在、埋蔵文化財調査室では、1975年から始まった発掘調査まで遡って調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に各年度ごとの調査順に１からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点(トレンチ)を調査した場合、本書では－の後に地点（トレンチ）番号を付している。本書挿図中では、この調査番号－調査トレンチ番号で調査地点を表示している。



6．本書では、遺構番号に冠して、柵列：SA、掘立柱建物：SB、竪穴式住居跡：SC、溝：SD、炉跡・竈：SF、貯蔵穴：SU、土壙：SK、水口：SM、柱穴・小穴：SP、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。

7．本書で表示した方位・標高数値は、全面調査においては、すべて平面直角座標Ⅳ系にしたがった。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示した。

8．城北団地と樽味団地では、既往の調査成果から、団地全域にわたる基本層序を設定し、個々の調査地点の特徴は大区分を基本層序に準拠し、それを構成する土層群ごとに細かな特徴や構成を観察し記録化している。本書で報告する城北団地と樽味団地の調査報告では、この基本層序に基づく層序関係の表記を行っている。

9．土色・遺物の色調は、1991年以降、農林省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(1996)に準拠したが、本文中ではマンセル記号は省略した。

10．本書に使用した遺構図は、宮本一夫・田崎博之・宮崎直栄が作成し浄写を行った。

11．本書で使用した写真は、宮本・田崎が撮影した。

12．本書は田崎が執筆し、編集を下條信行の指導のもとに田崎が行った。

13．本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管されている。

目　次

序　説

1　愛媛大学における埋蔵文化財調査と体制……1

①1986年度までの構内遺跡の調査と体制

②1987年度以降の調査体制

2　埋蔵文化財分布の把握状況と基本層序……3

①埋蔵文化財分布の把握状況

②調査番号と城北・樽味団地における基本層序

Ⅰ　1987年度の調査

98701　国際交流会館新営工事に伴う調査(鷹子遺跡１次調査)……5

98702　連合農学研究科校舎新営工事に伴う調査……8

98703　附属農業高等学校課外活動施設新営工事に伴う調査……12

98704　連合農学研究科校舎新営工事に伴う調査(樽味遺跡１次調査)……13

98705　城北地区プール廻り浄化装置増設工事に伴う調査……15

98706　城北地区プール廻り浄化装置増設工事に伴う調査(文京遺跡９次調査)……15

Ⅱ　1988年度の調査

98801　工学部情報工学科校舎新営工事に伴う調査(文京遺跡10次調査)……19

98802　城北地区基準点等設置工事に伴う調査……25

98803　工学部講義棟高圧ケーブル埋設工事に伴う調査(その１)……25

98804　工学部講義棟高圧ケーブル埋設工事に伴う調査(その２)……25

98805　工学部情報工学科校舎排水施設取設工事に伴う調査……25

98806　工学部情報工学科校舎給水施設取設工事に伴う調査……26

Ⅲ　1989年度の調査

98901　法文学部講義棟身障者用昇高機取設工事に伴う調査(文京遺跡11次調査)……27

98902　城北団地電波障害用の外線工事に伴う調査……29

Ⅳ　1990年度の調査

99001　城北団地囲障工事及び教育学部自転車置場新設工事に伴う調査……30

Ⅴ　1991年度の調査

99101　農学部研究実験棟新営工事に伴う調査(樽味遺跡２次調査) ……30
99102　教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設工事に伴う調査 ……33
99103　城北団地囲障（Ⅱ期）改修及び外灯改修工事に伴う調査……34

Ⅵ　1992年度の調査

99201　農学部屋外ガス本管改修工事に伴う調査 ……35
99202　城北地区東側囲障改修工事に伴う調査 ……35
99203　附属図書館農学部分館新営工事に伴う調査 ……38
99204　医学部附属病院病歴室新営工事に伴う調査（その１）……39
99205　1992年度構内遺跡確認調査（その１）……42
99206　農学部拓翠寮他自転車置場新設工事に伴う調査（その１）……46
99207　農学部拓翠寮他自転車置場新設工事に伴う調査（その２）……47
99208　城北団地外灯設備改修工事に伴う調査 ……47
99209　教育学部附属小学校給水設備工事に伴う調査 ……48
99210　医学部附属病院駐車場取設工事に伴う調査 ……51
99211　1992年度構内遺跡確認調査（その２）……51
99212　城北団地情報通信設備工事に伴う調査 ……55
99213　医学部附属病院病歴室新営工事に伴う調査（その２）……57
99214　樽味団地自転車置場取設その他工事に伴う調査 ……58
99215　城北団地交通規制遮断機取設工事に伴う調査 ……60

Ⅶ　1993年度の調査

99301　医学部看護学科校舎新営工事に伴う調査 ……61
99302　附属図書館農学部分館新営工事(樹木移植)に伴う調査 ……64
99303　農学部自転車置場取設工事に伴う調査 ……67
99304　附属図書館農学部分館新営工事に伴う調査(樽味遺跡３次調査) ……67
99305　城北団地大学会館廻り道路整備(樹木移植)工事に伴う調査 ……71
99306　附属図書館農学部分館新営(外灯設備管路)工事に伴う調査 ……72
99307　城北団地他情報通信電気設備工事に伴う調査（その１）……73
99308　城北団地他情報通信電気設備工事に伴う調査（その２）……73
99309　1993年度構内遺跡確認調査 ……74
99310　城北団地情報機器更新電源容量増設工事に伴う調査 ……79
99311　農学部附属図書館新営(排水管埋設)工事に伴う調査 ……80
99312　農学部自転車置場排水管路工事に伴う調査 ……81
99313　城北団地基幹整備(屋外環境)工事に伴う調査 ……82

99314　工学部研究実験棟の建設に伴う調査 ……87

Ⅷ　1994年度の調査

99401　東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査(その１) ……88
99402　東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査(その２) ……98
99403　樽味団地環境整備(附属農業高等学校他自転車置場取設)工事に伴う調査 ……101
99404　城北団地他環境整備(単車置場整備)工事に伴う調査 ……103
99405　城北団地他環境整備(自転車置場設置)工事に伴う調査 ……104
99406　城北団地他環境整備(自転車置場・排水管設置)工事に伴う調査……105
99407　城北団地他環境整備(排水枡及び管路取設)工事に伴う調査 ……105
99408　城北団地他環境整備(電気配管路取設)工事に伴う調査 ……107
99409　工学部岩盤切削試験機設置工事に伴う調査 ……107
99410　工学部校舎新営(Ⅰ期)に伴う調査(文京遺跡12調査) ……108
99411　教育学部附属養護学校野外施設(東屋)設置工事に伴う調査……112

本文挿図目次

図.1　埋蔵文化財調査室の調査体制 …… 2
図.2　1987年度鷹子団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 5
図.3　98701（鷹子遺跡１次調査）遺構配置図
（縮尺 1/200） …… 6
図.4　1987～1991年度樽味団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 9
図.5　1987～1996年度樽味団地調査地点
位置図（縮尺 1/1000）… 10・11
図.6　98702－１～10トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 12
図.7　98703－１・２トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 12
図.8　98704（樽味遺跡１次調査）
遺構配置図（縮尺 1/200）…… 14
図.9　1987年度城北団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 16
図.10　98706（文京遺跡９次調査）調査区遺構
配置・土層断面図（縮尺 1/100・1/50）
…… 17
図.11　1988～1991年度城北団地
調査地点（縮尺 1/3,500）…… 20
図.12　98801（文京遺跡10次調査）遺構配置・
土層断面図（縮尺 1/150・1/75） … 22・23
図.13　98802－１～５トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 24
図.14　98803－１・２トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 24
図.15　98805調査区平面図・土層断面図
（縮尺 1/50）…… 26
図.16　98806調査区平面図・土層断面図
（縮尺 1/40）…… 26
図.17　98901（文京遺跡11次調査）遺構配置・
土層断面図（縮尺 1/100・1/50） …… 28
図.18　98902調査区中央部・東端部
土層柱状図（縮尺 1/40） …… 29
図.19　99001－１～３トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 30
図.20　99101（樽味遺跡２次調査）
主要遺構配置図
（縮尺 1/200） …… 31
図.21　1991年度津田山団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 33
図.22　99103－１～９トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 34
図.23　99201－１・２トレンチ
土層柱状図（縮尺 1/40） …… 35
図.24　1992年度樽味・北吉井団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 36
図.25　1992年度城北団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 37
図.26　99202－１～３トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 38
図.27　99203調査区土層断面図
（縮尺 1/40）…… 39
図.28　99204土層柱状図（縮尺 1/40）…… 39
図.29　1992年度重信団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 40
図.30　99204・99213調査地点位置図
（縮尺 1/500） …… 41
図.31　1992年度山越団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 43
図.32　99205－１～５トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 44
図.33　99205－１・２トレンチ土層断面
（縮尺 1/40）…… 44

図.34　99205－５トレンチ出土の杭
（縮尺 1/40）…… 45
図.35　99206－１～４トレンチ土層断面図
（縮尺 1/40）…… 47
図.36　99207－１トレンチ土層断面図
（縮尺 1/40）…… 47
図.37　99208－２トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 48
図.38　1992年度持田団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 49
図.39　99210－３～５トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 49
図.40　99210調査地点位置図
（縮尺 1/500）…… 50
図.41　99211－１・２トレンチ位置図
（縮尺 1/500）…… 52
図.42　99211－３トレンチ位置図
（縮尺 1/500）…… 53
図.43　99211－４トレンチ位置図
（縮尺 1/500）…… 53
図.44　99211－１～４トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 54
図.45　99212－１トレンチ（縮尺 1/40）…… 56
図.46　99212－２トレンチ（縮尺 1/40）…… 57
図.47　99213土層断面図（縮尺 1/40）…… 58
図.48　99214遺構検出状況（縮尺 1/60）…… 59
図.49　99215－１・２トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 60
図.50　1993年度重信団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 62
図.51　99301調査地点位置図
（縮尺 1/500）…… 63
図.52　99301調査区西端土層柱状図
（縮尺 1/40）…… 64
図.53　1993年度樽味・北吉井団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 65
図.54　99302調査地点遺構実測図および土層断面図
（縮尺 1/40）…… 66
図.55　99304（樽味遺跡３次調査）全体図
（縮尺 1/125）…… 68
図.56　1993年度城北団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 70
図.57　99305調査地点土層断面図
（縮尺 1/40）…… 71
図.58　99306－３トレンチ平面図・土層断面図
（縮尺 1/40）…… 72
図.59　99308－２トレンチ平面図・土層断面図
（縮尺 1/40）…… 74
図.60　1993年度持田団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 75
図.61　99309－１～６トレンチ土層断面
および土層柱状図（縮尺 1/40）…… 77
図.62　99310調査区平面図および土層断面図
（縮尺 1/40）…… 79
図.63　99311調査区全体図…… 81
図.64　99312調査区内Ⅳ層の変化
（縮尺 1/200）…… 81
図.65　99313－１～３・５・６トレンチ
土層断面図（縮尺 1/40）…… 83
図.66　99313－２トレンチSD－01および
土層断面図（縮尺 1/40）…… 85
図.67　99313－４・５トレンチおよび
文京遺跡11次調査の土層対応関係
（縮尺 1/40）…… 86
図.68　99314調査攪乱壙壁の土層柱状図
（縮尺 1/400・1/40）…87
図.69　1994年度城北団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 89
図.70　1994年度樽味・北吉井団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 90
図.71　1994年度東長戸団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 91

図.72　1994年度津田山団地調査地点
（縮尺 1/3,500）…… 91
図.73　99401トレンチ位置図
（縮尺 1/500）…… 92
図.74　99401－1トレンチ遺構・土層断面
実測図（縮尺 1/50）…… 94・95
図.75　99401－2トレンチ遺構実測図・土層
断面実測図（縮尺 1/50）…… 96・97
図.76　99402－1～8トレンチ位置図
（縮尺 1/500）…… 99
図.77　99402－1～8トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）……100
図.78　99403－1～3トレンチ位置図
（縮尺 1/500）…… 102
図.79　99403－1～3トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）……102
図.80　99404土層柱状図（縮尺 1/40）……103
図.81　99405トレンチ実測図および土層
柱状図（縮尺 1/400・1/40）……104
図.82　99406－1～3トレンチ実測図
（縮尺 1/40）……106
図.83　99407－1トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）……107
図.84　99408土層柱状図（縮尺 1/40）……107
図.85　99409土層柱状図（縮尺 1/40）……108
図.86　99410（文京遺跡12次調査）
調査区全体図…109
図.87　99411土層断面図（縮尺 1/40）……112

本文写真目次

写真.1　98701（鷹子遺跡1次調査）調査区
南半部（東から）…… 7
写真.2　98701（鷹子遺跡1次調査）調査区
北半部（南から）…… 7
写真.3　98704（樽味遺跡1次調査）調査区
全景（南西から）…… 13
写真.4　98706（文京遺跡9次調査）北壁
土層断面 …… 18
写真.5　98801（文京遺跡10次調査）調査区
中央～西半部（東から）…… 21
写真.6　98801（文京遺跡10次調査）調査区
東半部（東から）…… 21
写真.7　98801（文京遺跡10次調査）SC－01
（東から）…… 24
写真.8　98801（文京遺跡10次調査）SB－05
（北西から）…… 24
写真.9　98801（文京遺跡10次調査）SK－15
（南から）…… 24
写真.10　98801（文京遺跡10次調査）SX－14
（東から）……24
写真.11　98901（文京遺跡11次調査）Ⅳ層縄文
土器出土状況（西から）…… 27
写真.12　99101（樽味遺跡2次調査）遠景
（北から）…… 32
写真.13　99101（樽味遺跡2次調査）全景
（西から）…… 32
写真.14　99202－2トレンチ土層断面…… 38
写真.15　99203トレンチ土層断面…… 39
写真.16　99205－2トレンチ土層断面…… 45
写真.17　99205－5トレンチ検出の杭…… 45
写真.18　99206－1トレンチ土層断面…… 46
写真.19　99206－3トレンチ土層断面…… 46

写真.20　99206－４トレンチ土層断面……46
写真.21　99208－１トレンチ……48
写真.22　99208－２トレンチ土層断面……48
写真.23　99210－５トレンチ土層断面……49
写真.24　99211－２トレンチ土層断面……54
写真.25　99211－４トレンチ土層断面……54
写真.26　99212－１トレンチ（北から）……56
写真.27　99212－２トレンチ（北東から ）…57
写真.28　99213調査トレンチ土層断面……58
写真.29　99214調査区全景（北西から）……59
写真.30　99214調査区（北東から）……59
写真.31　99301調査状況……61
写真.32　99302調査区遠景（南西から）……66
写真.33　99302調査区全景（南から）……66
写真.34　99303調査区全景（東から）……67
写真.35　99304（樽味遺跡３次調査）調査状況
……68
写真.36　99304（樽味遺跡３次調査）調査区
全景（南から）……69
写真.37　99304（樽味遺跡３次調査）
SC－02･04（西から）…69
写真.38　99305調査地点土層断面　……71
写真.39　99306－３トレンチ……72
写真.40　99308－２トレンチ西半部分の
Ⅲ層残存状況　……73
写真.41　99309－１トレンチ土層……75
写真.42　99309－２トレンチ北端土層……75
写真.43　99309－３トレンチ土層……76
写真.44　99309－４トレンチ土層……76
写真.45　99309－５トレンチ土層……76
写真.46　99309－６トレンチ土層……76
写真.47　99310調査区全景……80
写真.48　99310調査区土層断面……80
写真.49　99313－１・２トレンチ（南から）… 82
写真.50　99313－３～６トレンチ
（南東から）……82
写真.51　99313－１トレンチⅢ層検出状況
（西から）　……84
写真.52　99313－２トレンチ SD－01検出状況
（南から）　……84
写真.53　99313－３トレンチ南壁
土層断面　……84
写真.54　99313－６トレンチ南壁
土層断面 …… 84
写真.55　99313－２トレンチ西壁
土層断面 …… 85
写真.56　99401－１トレンチ（東から）……93
写真.57　99401－２トレンチ（東から）……93
写真.58　99401－２トレンチ（北西から）…93
写真.59　99401　SD－23土層断面 ……98
写真.60　99402－３トレンチ土層断面 ……100
写真.61　99402－５トレンチ土層断面 ……100
写真.62　99403－１トレンチ（西から）……101
写真.63　99403－２トレンチ（東から）……101
写真.64　99404調査地点（東から）……103
写真.65　99405調査区西端土層断面 ……104
写真.66　99405調査区東端土層断面 ……104
写真.67　99406－１～３トレンチ ……106
写真.68　99406－３トレンチ ……106
写真.69　99406－１トレンチ土層断面 ……106
写真.70　99406－２トレンチ土層断面 ……106
写真.71　99410（文京遺跡12次調査）調査区
全景（南西から）……109
写真.72　99410（文京遺跡12次調査）調査区
北半部の遺構の重複状況……110
写真.73　99410（文京遺跡12次調査）SC-27
……110
写真.74　99410（文京遺跡12次調査）SC-62
……110
写真.75　99410（文京遺跡12次調査）掘立柱建物
……110
写真.76　99410（文京遺跡12次調査）掘立柱建物

柱穴断面……110
写真.77　99410(文京遺跡12次調査) SU－375
……111
写真.78　99410(文京遺跡12次調査) SU－33
……111
写真.79　99410(文京遺跡12次調査) SK－387
……111
写真.80　99410(文京遺跡12次調査) SK－81
……111
写真.81　99410(文京遺跡12次調査) SD－06
馬歯出土状況……111
写真.82　99410(文京遺跡12次調査)
現地説明会……111
写真.83　99411調査地点遠景（北東から）…112

巻末表目次

1．愛媛大学構内における調査一覧
……114～118
2．道後・城北遺跡群における調査一覧
……119～129
参考文献　……129～130

序　説

1　愛媛大学における埋蔵文化財調査と体制

①1986年度までの構内遺跡の調査と体制

埋蔵文化財調査室が設置される1987年以前は、松山市教育委員会、法文学部人類考古学研究室が、城北団地における発掘調査を実施している。

城北団地は、1951年頃から、しばしば弥生時代の土器や石器が採集され、文京遺跡もしくは鉄砲町遺跡として考古学界に紹介されている。さらに、1963年に愛媛県教育委員会が作成した遺跡台帳に文京遺跡として登録され、周知化が進められた。こうした中で、最初の本格的な発掘調査が行われたのは1975年のことである。この調査は、文京遺跡１次調査とされ、松山市教育委員会が担当した。調査地点は、団地南西部の工学部２号館の増築部分で、弥生時代中期の竪穴式住居跡や数多くの遺物が出土し、文京遺跡が弥生時代の集落遺跡であることが明らかにされた。

その後、城北団地は周知化された埋蔵文化財包蔵地として、松山市教育委員会による工学部３号館建設に伴う２次調査、法文学部本館新営工事に伴う３次調査、工学部危険物貯蔵所建設に伴う５次調査が続いた。しかし、大学施設充実のため連年続く諸工事は、松山市教育委員会側の協力に限界を生じさせ、大学会館など無為に葬られた遺跡もあった。

1985年４月、愛媛大学法文学部に人類考古学研究室が開講された。大学事務当局は構内遺跡の発掘調査を人類考古学研究室に要請した。研究室は開設されたばかりであり、調査体制をめぐっては事務当局側との苦難の協議が続いた。その結果、人類考古学研究室が発掘調査を全面的に引き受けるが、調査主任として学外の研究者に加わってもらうという、苦肉の調査体制がとられることとなった。しかし、こうした調査体制は、人類考古学研究室に多大な負担をかけ教育・研究に大きな障害を生じさせ、さらに、発掘調査後の整理作業・報告書の刊行も大きく沈滞する結果を招いた。加えて、1987年度には、樽味団地で連合農学研究科校舎新営工事、鷹子団地では国際交流会館新営工事が計画され、事前の試掘調査では遺跡の分布が確認され、工事予定地全面の調査が必要となった。

こうした状況から、教養部・教育学部・法文学部の歴史学関係教官は当時の坂上学長に大学全体の責任で組織的で長期的な調査体制を整えることを求めた。以後、いくらかの紆余曲折もあったが、学長をはじめとする大学本部事務局の検討、関係者との協議によって、1987年４月に学長を委員長とする埋蔵文化財調査委員会が発足し、実施機関として埋蔵文化財調査室が設置されることとなった。以下、1986年度までの校内遺跡の調査概要については、巻末の調査一覧表にまとめているので、参照されたい。

②1987年度以降の調査体制

1987年６月に、埋蔵文化財調査室が設置され、室長には下條信行(法文学部・先史考古学・教授)が就任し、法文学部から当面の室員として

宮本一夫(法文学部・物質文化論・助教授)が着任した。また、松原弘宣(教養部・歴史学・助教授)と川岡勉（教育学部・歴史学・助教授）が埋蔵文化財調査委員会に参加することとなった。

しかし、1991年３月、当面の室員として調査にあたっていた宮本は本務の法文学部へ帰ることとなり、同年４月～12月には埋蔵文化財調査室は閉鎖状況に陥った。その一方で、樽味団地の農学部研究実験棟の建設計画がもちあがり、これを実施する調査体制の再整備が必要となった。室員の確保は困難をきわめたが、1992年１月に田崎博之が教養部教官(歴史学・助教授)として着任し、室員として主に調査にあたる形で、ようやく調査体制問題に一応の解決がはかられた。

その後、1994年３月に宮本が九州大学に移り、後任として村上恭通が着任した際、専門委員として村上を迎えることとなった。また、1995年度には、大学改革に伴って教養部が廃止されるとともに、教養部の所属であった埋蔵文化財調査委員会委員の松原、室員の田崎は法文学部へ移動している。

こうした調査体制に解決がはかられたものの1992年度以降、発掘調査が年間10～15件を数えるようになり、さらに、1994年度以降、城北団地における工学部校舎新営工事や地域共同研究センター建物建設などの大規模な全面調査が連続して実施されることになり、現有の調査スタッフでは、発掘調査に対応できないだけではなく、調査成果の資料化や報告書の早期刊行も困難な状況となってきた。これに対応するために、埋蔵文化財調査室では体制の充実を求める要望書を三木学長へ提出するなどしたが、1996年４月に吉田広(法文学部・原史考古学・講師)と三吉秀充(法文学部・先史考古学・助手)が室員に加わり、調査体制の強化がはかられることとなった(図.１)。

現在、埋蔵文化財調査室は、工事で生じる埋蔵文化財への影響度合いを勘案して、本格的な全面調査、試掘調査、立会調査の方法で発掘調査を実施している。1987～1996年度に実施された調査は、全面調査11件、試掘調査32件、立会調査28件を数える。こうした調査成果として、本書を含めて６冊の調査報告書が刊行されている。

また、愛媛大学は松山市および愛媛県内各所に大・小規模の団地をもつが、その多くの団地では埋蔵文化財の分布の有無さえ把握できていない。調査が比較的進んだ城北団地・樽味団地でも、遺跡の範囲や内容を把握するまでには至っていない。1981年の文化庁からの通知では、埋蔵文化財包蔵地の所在状況を周知徹底し、正しい理解と協力を得るために、分布調査や発掘調査の成果により一段と精度を高めることなどが求められている。そこで、試掘や遺物の表面採集などの方法によって、大学構内における埋蔵文化財の有無や分布状況を把握する確認調査を1992年度から始めている。

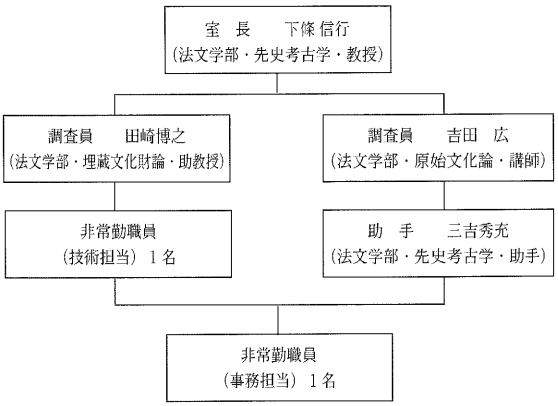


図.１　埋蔵文化財調査室の体制

2 埋蔵文化財分布の把握状況と基本層序

①埋蔵文化財分布の把握状況

前述したように、愛媛大学の敷地は松山市および愛媛県内の各所に分散しているが、1996年度の時点で把握できている埋蔵文化財の分布は以下の通りである。既往の調査がなく遺跡の有無が未確認の団地については、今後とも確認調査などを進めていく必要がある(図版篇 索引図参照)。

城北団地：松山市道後樋又10番、文京町2・3番

法文学部・教育学部・理学部・工学部・大学事務局が所在する。1951年から遺物が採集され、1～3・5～15次にわたる全面調査と試掘・立会調査が行われ、縄文時代後期～古墳時代6世紀の集落遺跡であることが確認されている。

持田団地：松山市持田町1丁目5番22号

教育学部附属中・小・幼・養護学校が所在する。1929年に旧制松山高等学校で開かれた陳列会では、旧グランドから採集された弥生時代前期の木葉文をもつ壺や石包丁が展示された。最近、団地北東側の隣接した地点で松山市教育委員会が14世紀を前後する水田跡を調査している。既往の調査成果を含めて、団地北半を中心として遺跡が分布していると考えられる。

樽味団地：松山市樽味3丁目5番7号

農学部・附属高等学校・附属研究施設が所在し、既往の調査では、団地東半部には14～15世紀の中世集落、西半部には古墳時代5～6世紀代の集落遺跡が営まれていることが明らかになっている。

御幸団地：松山市御幸町2丁目3番15号

学生寄宿舎が所在するが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無さえ未確認である。

米野団地：松山市米野町乙184-1

農学部附属演習林が所在するが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無さえ未確認である。

梅津寺団地：松山市梅津寺1861

大学課外活動施設が所在するが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

北持田団地：松山市北持田町128-1

職員宿舎が所在しているが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

東長戸団地：松山市東長戸4丁目3番1号

職員宿舎が所在する。東側の丘陵部裾の段丘の落ち際に位置し、団地東半部を中心として遺跡が営まれている可能性がある。

喜与団地：松山市喜与町1丁目8番8号

職員宿舎が所在しているが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

北吉井団地：松山市桑原2丁目9番8号

職員宿舎が所在する。既往の調査で埋蔵文化財が団地全面に分布することが確認されている。

鷹子団地：松山市鷹子町40

国際交流会館が所在する。鷹子遺跡1次調査では、弥生時代中期後葉、7～8世紀、中世の土壙や溝が調査されている。

山越団地：松山市山越4丁目11番10号

大学課外活動施設の野球場・馬場・サッカーグランドなどの施設がある。東側の丘陵部裾からのびる段丘の落ち際に位置し、団地東半部では弥生時代以降の水田層、西半部では古墳時代に埋没した自然河道が確認されている。

中島団地：温泉郡中島町大字小浜字瀬戸木

理学部附属臨海実験所が所在する。既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

重信団地：温泉郡重信町大字志津川

医学部および附属病院が所在する。既往の調査の成果から、団地東北部分には遺跡が営まれ

ている可能性が残されている。

溝辺団地：松山市溝辺町乙298

農学部附属高等学校の校舎があるが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

横河原団地：温泉郡重信町大字横河原字横川

職員宿舎が所在する。現在の重信川の氾濫原にあり、埋蔵文化財は分布していないと考えられる。

北条団地：北条市八反地字伊利甲498

農学部附属農場が所在するが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

津田山団地：松山市北斎院町津田山

教育学部附属養護学校の施設が所在する。1996年度までに２件の調査を実施したが、埋蔵文化財の分布は確認されていない。

伊予団地：伊予市森字下新田729

大学課外活動施設が所在するが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

大井野団地：松山市大井野町乙145-2

農学部附属演習林が所在する。既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

東野団地：松山市東野４丁目222

農学部附属演習林・短期学生宿舎が所在する。東野古墳群が営まれている。

②調査番号と城北・樽味団地における基本層序

現在、埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内において実施されたすべての発掘調査に調査番号を与え、調査データの整理・管理を行っている。調査番号は、西暦の下３桁の後に各年度ごとの調査順に１からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示されている。複数の地点(トレンチ)を設定した場合には、トレンチ番号を調査番号の後に枝番号で加えて表記している。本書の挿図中でも、この表示方法がとられている。

また、調査が進む城北団地と樽味団地については、遺跡が営まれた土地環境を把握・理解するために、団地全域にわたる基本層序を設定している。個々の調査ごとに、大区分を基本層序に準拠し、それを構成する細かな土層ごとに枝番号を付けて特徴や構成を観察し記録化している。以下、本書でも、基本層序を用いた報告を行っている。

城北団地の場合、これまで文京遺跡１～３次調査、５～15次調査などの調査成果から、基本層序を上位からⅠ～Ⅴ層に区分している。

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。

Ⅱ層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。９～11次調査で報告されている赤褐色土層は、Ⅱ層の床土部分にあたる。

Ⅲ層：弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する黒色～黒褐色系の土層である。

Ⅳ層：黄褐色系のシルト層で、下部には礫が混じる。縄文時代後期から晩期の遺構・遺物が確認されている。

Ⅴ層：Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層で、最終氷期の最盛期に、城北地区から堀江低地へ向けて流れていた石手川系の堆積物と考えられる。

樽味団地の場合、樽味遺跡１～３次調査と団地各所で実施されてきた諸工事などに伴う試掘調査や立会調査の成果から、基本層序を上位からⅠ～Ⅴ層に区分している。

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。

Ⅱ層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。２次調査のⅡ層と対応する。

Ⅲ層：遺物を包含する黒色～黒褐色系の土層。２次調査のⅣ層と対応する。

Ⅳ層：黄褐色系のシルト層で、下部には礫が混じる。２次調査のⅤ～Ⅸ層と対応。

Ⅴ層：Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層。２次調査のⅩ～Ⅻ層。

Ⅰ 1987年度の調査

埋蔵文化財調査室が設置された初年度にあたる1987年度には、それまで懸案であった鷹子遺跡１次調査、樽味遺跡１次調査、文京遺跡９次調査の３件の全面調査が相次いで実施され、樽味団地で２件、城北団地で１件の試掘調査を調査室をあげて行うなど、厳しいスケジュールでの出発となった。

98701 国際交流会館新営工事に伴う調査 (鷹子遺跡１次調査)

調 査 地 点：松山市鷹子町40
鷹子団地(図.２)
調 査 面 積：962㎡
調 査 期 間：1987年７月20日～1987年９月20日
調査の種別：全面調査
調 査 担 当：宮本一夫

前年度に法文学部人類考古学研究室によって実施された試掘調査(調査番号：98605)では、現表土下20～40㎝で弥生時代～古墳時代の遺物を包含する土層が確認され、その下面で当該期の溝や土壙と考えられる遺構が検出された。調査結果から、予定地全面に遺構が広がっている可能性が強いことが指摘され、６月に設置された

図.２ 1987年度 鷹子団地調査地点（縮尺 1/3,500）

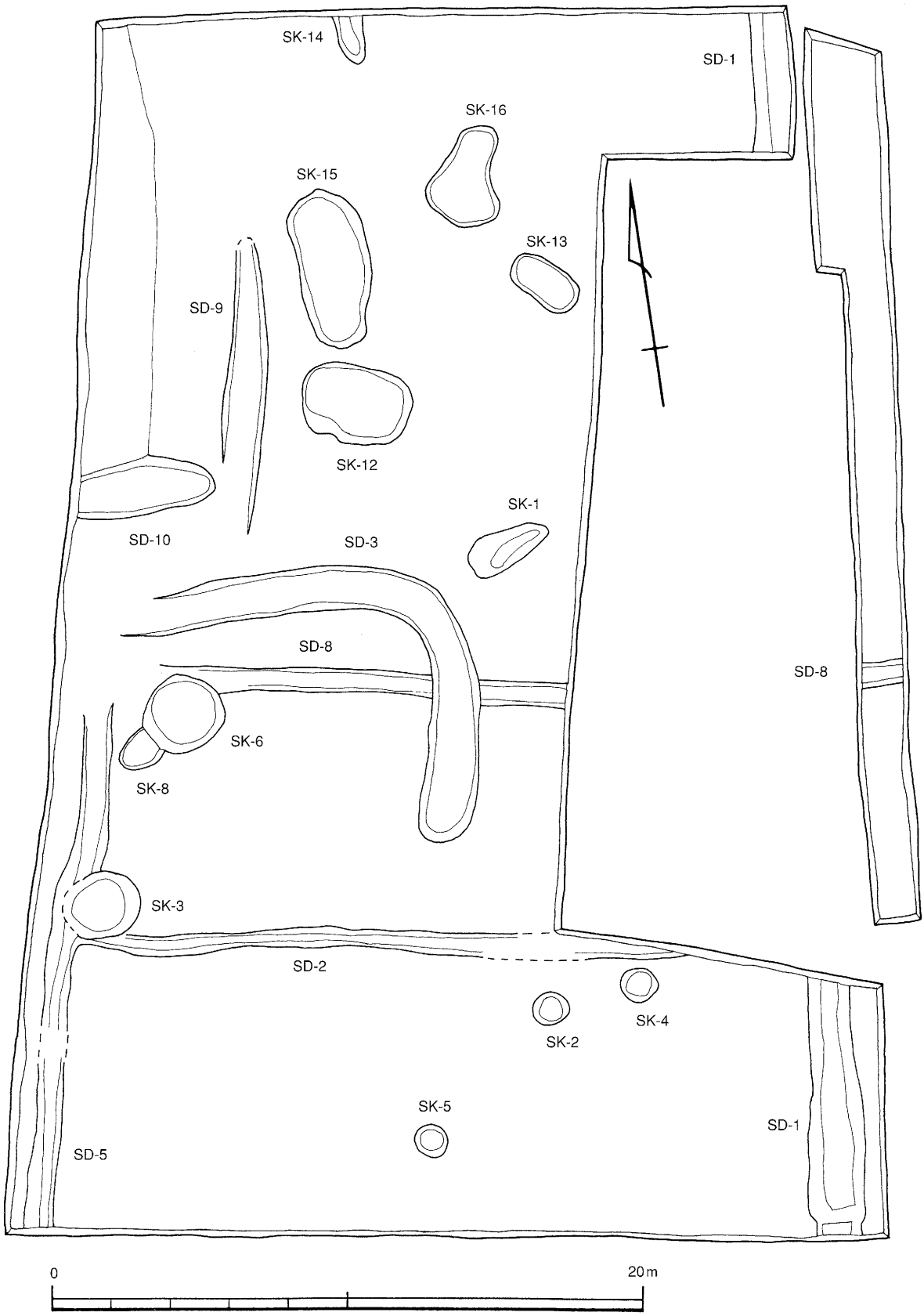


図. 3　98701(鷹子遺跡 1 次調査)遺構配置図（縮尺 1/200）

写真.1　98701(鷹子遺跡1次調査) 調査区南半部(東から)

写真.2　98701(鷹子遺跡1次調査) 調査区北半部(南から)

ばかりの埋蔵文化財調査室が調査を行うこととなった。

発掘調査では、弥生時代中期後葉の土壙２基(SK-１・15)、７～８世紀の溝３条(SD-２・５・８)と土壙６基(SK-２・４・５・12～14)、中世の溝４条(SD-１・３・９・10)と土壙４基(SK-３・６・８・16)が検出され調査された(図.３・写真.１・２)。その中で、弥生時代の土壙は、これまで周辺では知られていなかった時期の遺構で、近隣に住居跡を含む集落遺跡が展開していると考えられる。また、７～８世紀の３条の溝は、条里に基づいた長方形の区画溝である可能性が指摘されている。

調査の詳細は、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅰとして『鷹子・樽味遺跡の調査』が刊行されている。

98702　連合農学研究科校舎新営工事に伴う調査

調査地点：松山市樽味３丁目５番７号
　　樽味団地(図.４)
調査面積：18㎡
調査期間：1987年８月20日～1987年８月21日
調査の種別：試掘調査
調査担当：下條信行

前年度に法文学部人類考古学研究室によって行われた試掘調査(調査番号：98604)は、校舎新営予定地のみの調査であった。ところが、校舎新営に伴って給水・電線管などの配管が埋設されることとなり、再度の試掘調査を行うこととなった(図.５)。10ヶ所にトレンチを設定したが、３・７～９トレンチで遺物を包含する黒色土層(樽味団地全域の基本層序Ⅲ層)が確認された。各トレンチの状況は以下のとおりである(図.６)。

［１トレンチ］

表土の造成土部分の下層から黒色土があらわれた。攪乱されたⅢ層部分であり、造成土部分をⅠ-1層、黒色土層をⅠ-2層とした。Ⅰ-2層下はⅣ層の黄褐色土層である。

［２トレンチ］

攪乱が著しい。表土の造成土部分であるⅠ-1層の下層は、現地表下1.2mまでⅠ-2層とした礫混じりの真砂土層である。

［３トレンチ］

現地表下55cmで基本層序のⅢ層にあたる黒色土層があらわれた。層厚は５～10cmと薄いが、弥生土器ないし土師器の細片が出土した。

［４トレンチ］

表土のⅠ層の直下には、遺物包含層のⅢ層はみられず、基本層序のⅣ層があらわれた。

［５トレンチ］

Ⅰ層の造成土部分の下層には、灰色粘質土層がみられ、下部は黄灰色粘質土に変化している。造成以前の水田層で、基本層序のⅡ層にあたる。上部の灰色土は耕作土部分(Ⅱ-1層)、下部の黄灰色土は床土部分(Ⅱ-2層)にあたる。Ⅱ層の直下は、遺物包含層のⅢ層はみられず、基本層序のⅣ層である。

［６トレンチ］

５トレンチと同じく表土層のⅠ層下に黄灰色土層がみられる。旧水田層のⅡ層である。Ⅱ層下では、基本層序のⅣ層があらわれた。

［７トレンチ］

表土層は、アルファルト舗装部分(Ⅰ-1層)、造成土(Ⅰ-2層)である。Ⅰ層下には遺物包含層のⅢ層、黄褐色土層のⅣ層がみられる。Ⅲ層は10cmの厚さを測り、砂礫を含まず比較的安定し

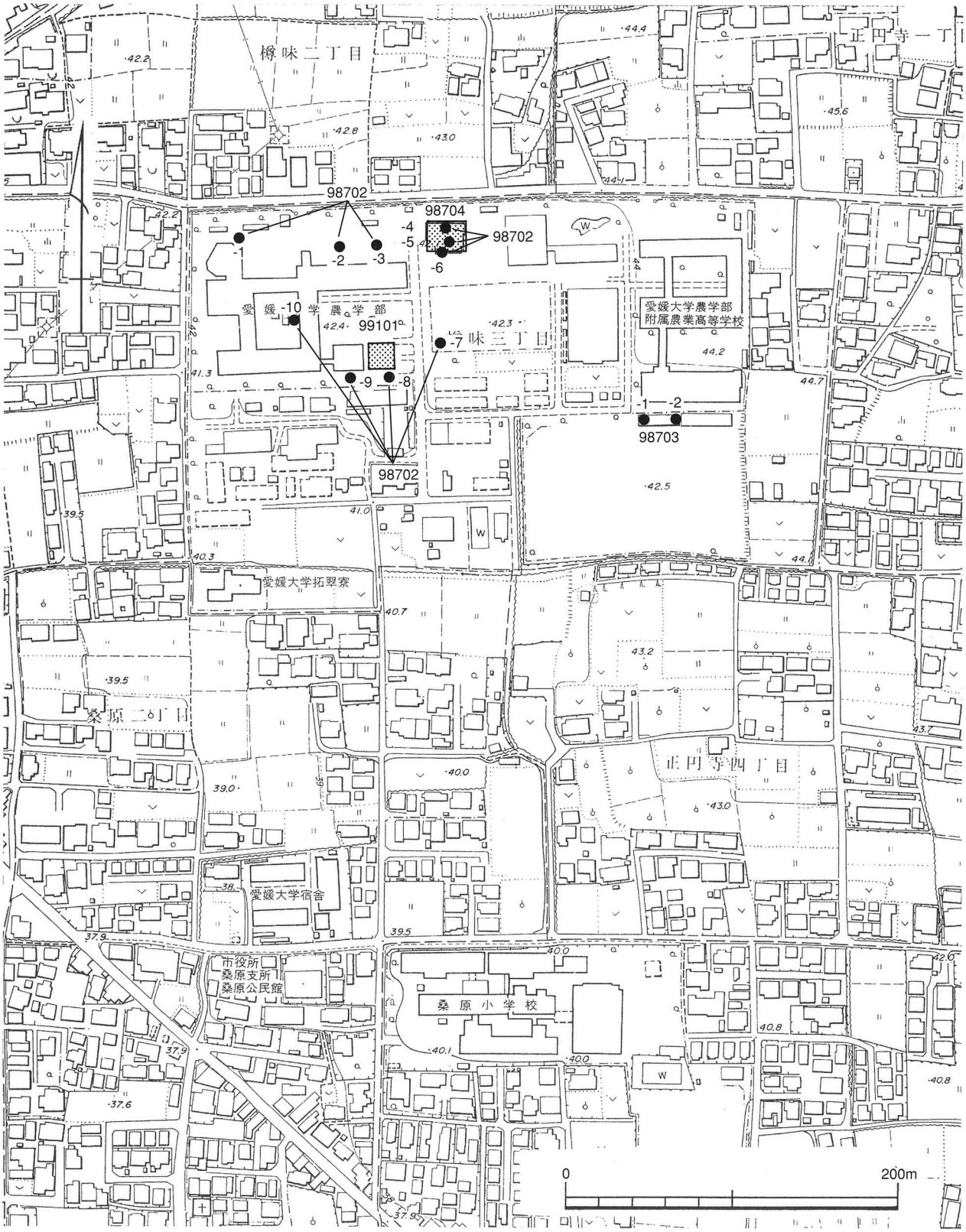


図４　1987～1991年度　樽味団地調査地点（縮尺　1／3,500）

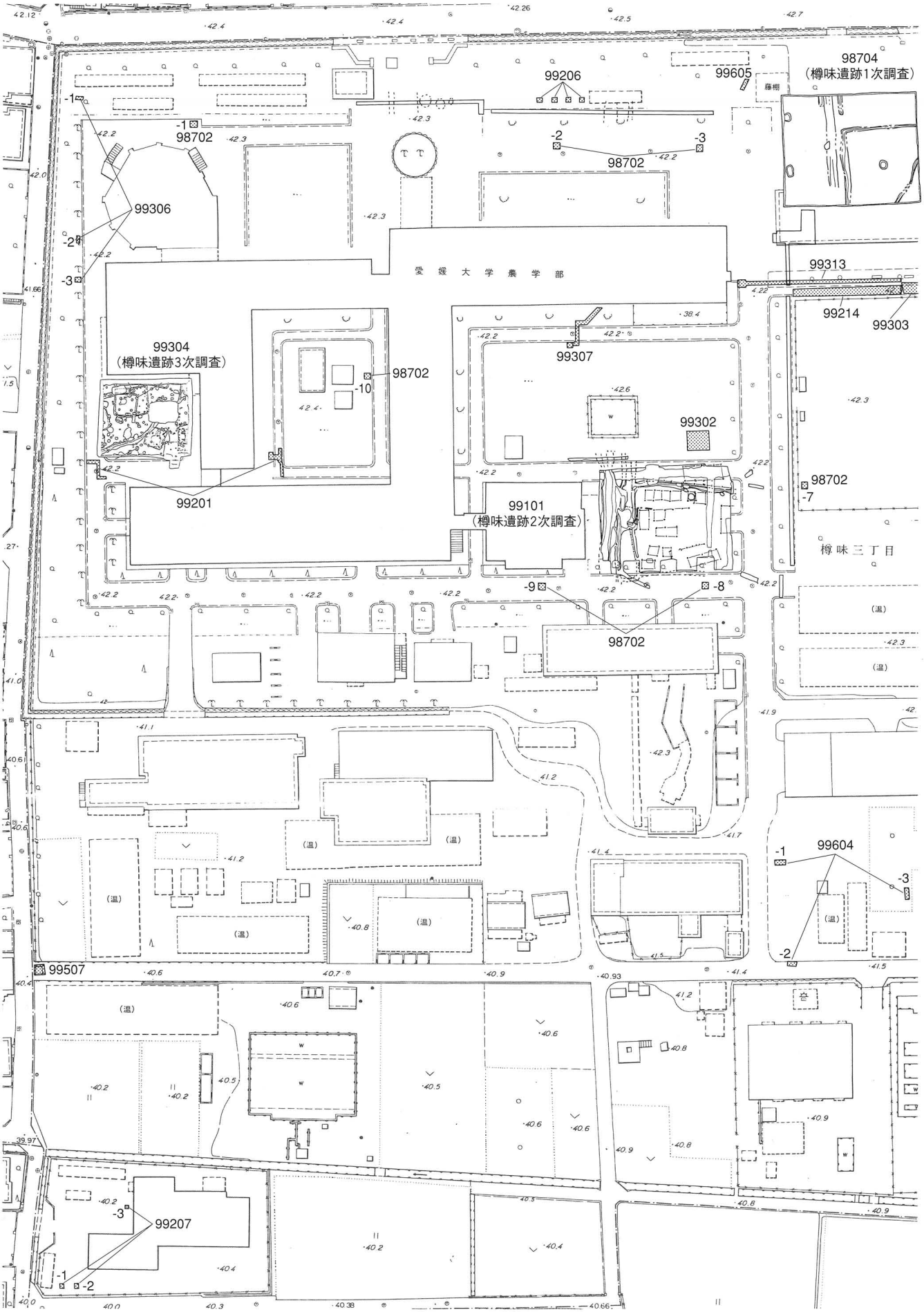
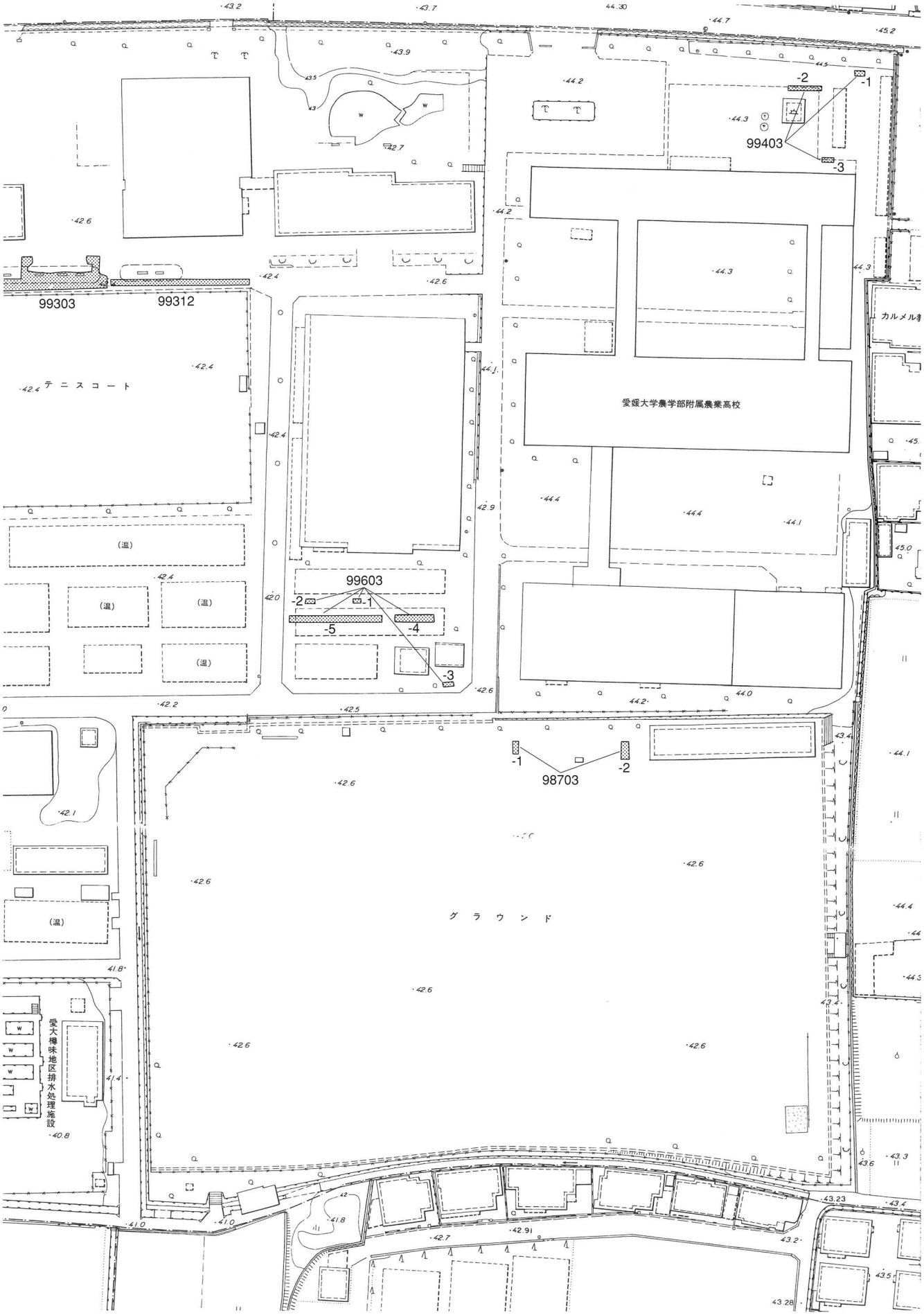


図. 5　1987～1996年度 樽味団地調査地点位置図（縮尺 1/1,000）


99403
-1
-2
-3
99303
99312
テニスコート
愛媛大学農学部附属農業高校
カルメル
(温)
99603
-1
-2
-3
-4
-5
98703
-1
-2
グラウンド
愛大樽味地区排水処理施設

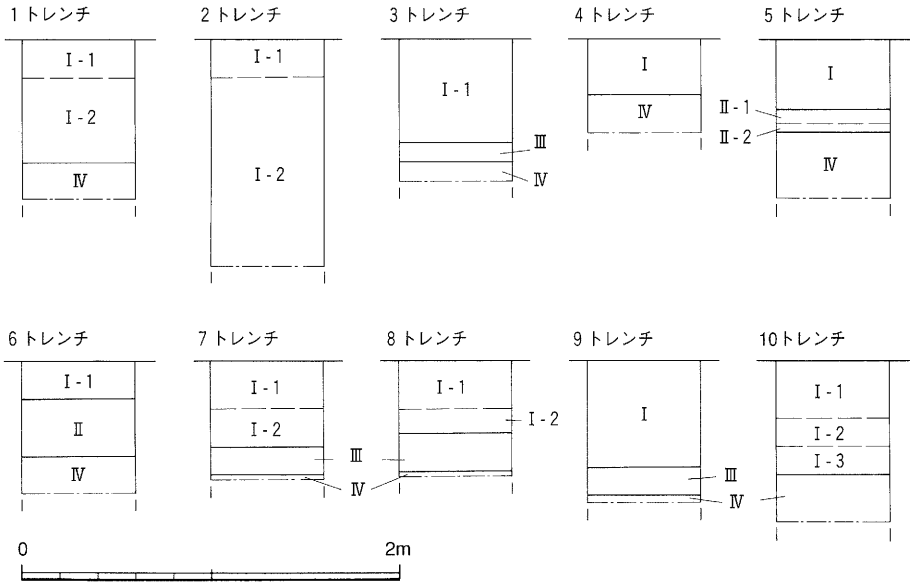


図.6　98702-1～10トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

ている。

［8トレンチ］

7トレンチと同様な層序がみられ、Ⅲ層は20cm以上の厚さである。

［9トレンチ］

表土層のⅠ層下には、遺物包含層のⅢ層が層厚10～15cmでみられる。

［10トレンチ］

表層のⅠ層は、造成土部分のⅠ-1層、砂礫層部分のⅠ-2層、攪乱部分のⅠ-3層からなる。Ⅰ層下には、遺物包含層のⅢ層はみられず、基本層序のⅣ層があらわれた。

今回の調査では、調査面積が狭いために、遺構は検出されなかった。しかし、樽味団地の広い範囲に遺跡が展開していることは確実で、工事に際して全面調査が必要である。

98703　附属農業高等学校課外活動施設新営工事に伴う調査

調査地点：松山市樽味3丁目5番7号
　　樽味団地（図.4）
調査面積：6㎡
調査期間：1987年8月20日
調査の種別：試掘調査
調査担当：下條信行

樽味団地南東部の運動場北辺に、附属農業高等学校課外活動施設が新営されることになり、工事範囲の東西端にトレンチを設定して試掘調

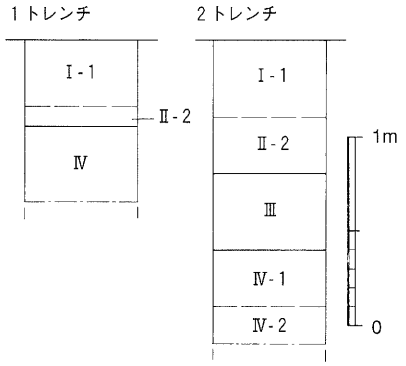


図.7　98703-1・2トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）

査を実施した。西側を1トレンチ、東側を2トレンチとした(図.5)。

1トレンチでは、造成土である真砂土部分を掘り下げると、砂利混じりの土層があらわれた。攪乱部分と考え、真砂土部分をⅠ-1層、砂利混じりの土層部分をⅠ-2層とした。Ⅰ層の直下には、樽味団地全域にわたる基本層序のⅣ層がみられ、後述する2トレンチで確認できた遺物を包含する黒色土層はみられない(図.7)。

2トレンチでは、Ⅰ層下で遺物を包含する黒色粘質土層を確認した。基本層序のⅢ層に対応する。さらに下位には、茶色の粘質土層と黄色の粘質土層がみられる。ともに、基本層序のⅣ層に対応する土層群で、それぞれⅣ-1層とⅣ-2層とした(図.7)。

98704　連合農学研究科校舎新営工事に伴う調査（樽味遺跡1次調査）

調 査 地 点：松山市樽味3丁目5番7号
樽味団地(図.4)
調 査 面 積：684㎡
調 査 期 間：1987年10月28日～1987年12月17日
調査の種別：全面調査
調 査 担 当：宮本一夫

8月に実施した試掘調査(調査番号：98702)の結果に基づいて、工事対象範囲の全面を発掘調査することとなった。調査地点は、校舎建物本体部分の団地北辺のほぼ中央に位置する第Ⅰ区(図.5 98704-1)、第Ⅰ区から南へのびる管路部分の第Ⅱ区(同 98704-2)、西へのびる第Ⅲ・Ⅳ区がある(同 98704-3・4)。

第Ⅰ区では、弥生時代前期の溝1条(SD-04)と土壙1基(SK-05)を、中世の溝3条(SD-01・

写真.3　98704(樽味遺跡1次調査)調査区全景（南西から）

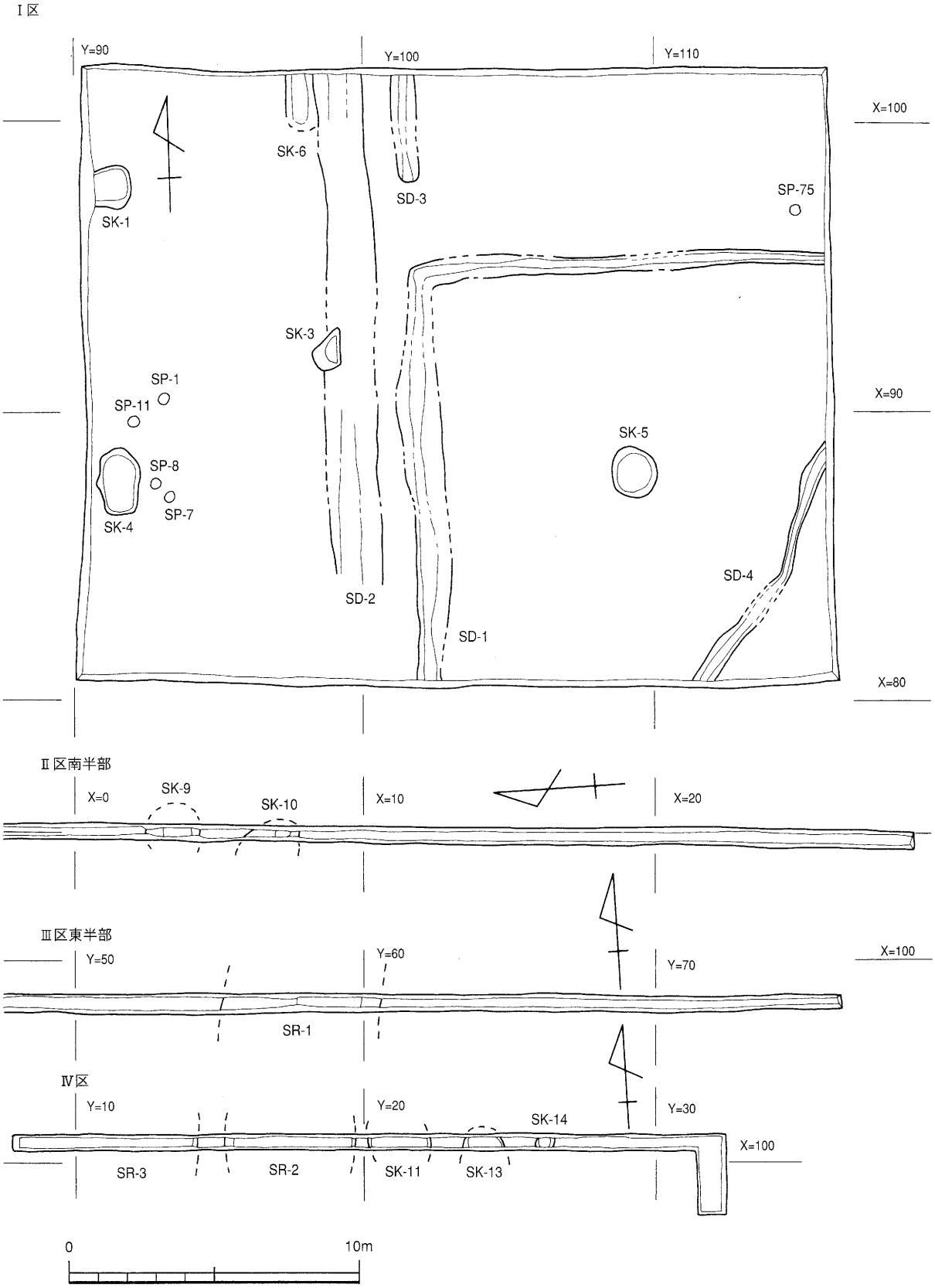


図. 8　98704(樽味遺跡 1 次調査)遺構配置図（縮尺 1/200）

02・03)、土壙4基(SK-01・03・04・06)、柱穴(SP-01・07・08・11・75)を調査した。第Ⅱ区では、南半部分で中世の土壙2基(SK-09・10)、第Ⅲ区では中世の自然流路もしくは溝を1条(SR-01)、第Ⅳ区では弥生時代中期の土壙(SK-11)と古墳時代後期の6世紀後半～末の自然流路もしくは溝(SR-02・03)を確認した(図8、写真.3)。

その中で、弥生時代前期の土壙は貯蔵穴と考えられ、樽味遺跡周辺でもっとも時期が遡る遺構である。また、中世の溝や土壙は、14～15世紀代の遺構で、L字形のSD-01は中世集落を取り囲む区画溝である可能性が強い。この他、調査の詳細は、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅰとして『鷹子・樽味遺跡の調査』が刊行されているので、参照されたい。

98705　城北地区プール廻り浄化装置増設工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町3番
　　城北団地(図.9)
調 査 面 積：2㎡
調 査 期 間：1987年11月13日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：宮本一夫
図版篇図幅：図幅18 (J4-20)

調査地点は、城北団地の北西角に位置する。3ヶ所に調査トレンチを設定したが、いずれも攪乱が著しかった。

その中で、3トレンチでは、現地表下40～50㎝に弥生時代～古墳時代の遺物包含層、80㎝前後でにぶい黄褐色シルト層を確認した(図.10)。にぶい黄褐色シルト層からは、150mほど北西に離れた南海放送RNB遺跡(図版篇　図幅18：MC-62064)で縄文時代後期～晩期の遺物が出土しており、当該期の遺物包含層である可能性が強い。

工事に際しては、全面調査が必要である。

98706　城北地区プール廻り浄化装置増設工事に伴う調査 (文京遺跡9次調査)

調 査 地 点：松山市文京町3番
　　城北団地(図.9)
調 査 面 積：62㎡
調 査 期 間：1988年1月11日～1988年1月29日
調査の種別：全面調査
調 査 担 当：宮本一夫
調 査 補 助：宮崎直栄
図版篇図幅：図幅18 (J4-20)

事前の試掘調査(調査番号：98705)の結果に基づき、浄化装置が増設される工事範囲を全面的に調査することとなった。城北団地全域にわたる基本層序であるⅠ層(表土の造成土部分)、Ⅱ-1層(褐色粘質土層)、Ⅱ-2層(赤褐色土層)、Ⅲ層(暗茶褐色土層)、Ⅳ層(黄褐色粘質土層)、Ⅴ層(灰色砂礫層)が上位から確認された(図.10、写真.4)。

今回の調査の大きな成果は、Ⅳ層の黄褐色粘質土層が縄文時代の遺物包含層であることを確認できたことである。出土遺物は土器が20点ほどと少ないが、松山平野で数少ない縄文時代後期～晩期前葉の資料である。城北団地全域にわ

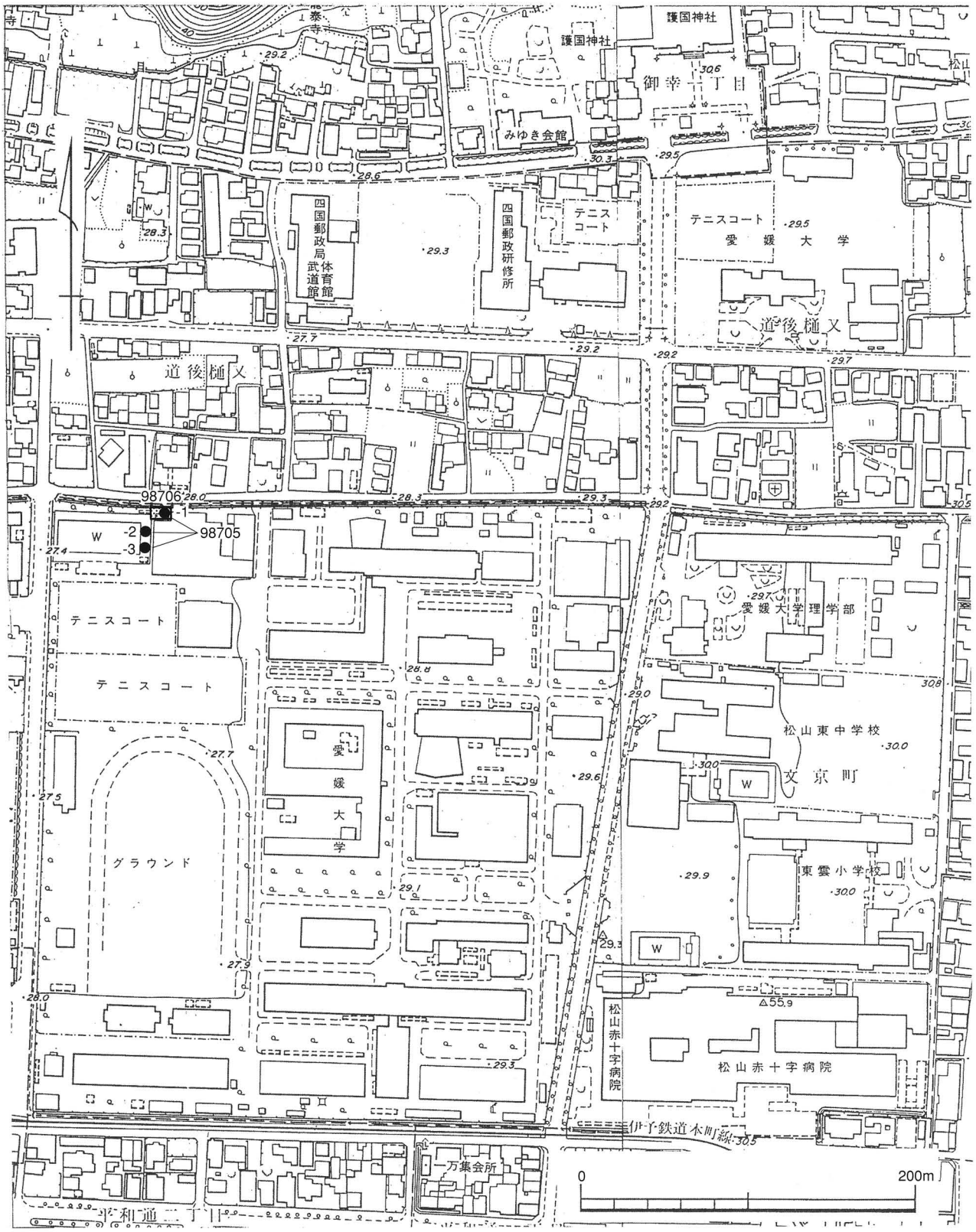


図. 9　1987年度 城北団地調査地点（縮尺 1/3,500）

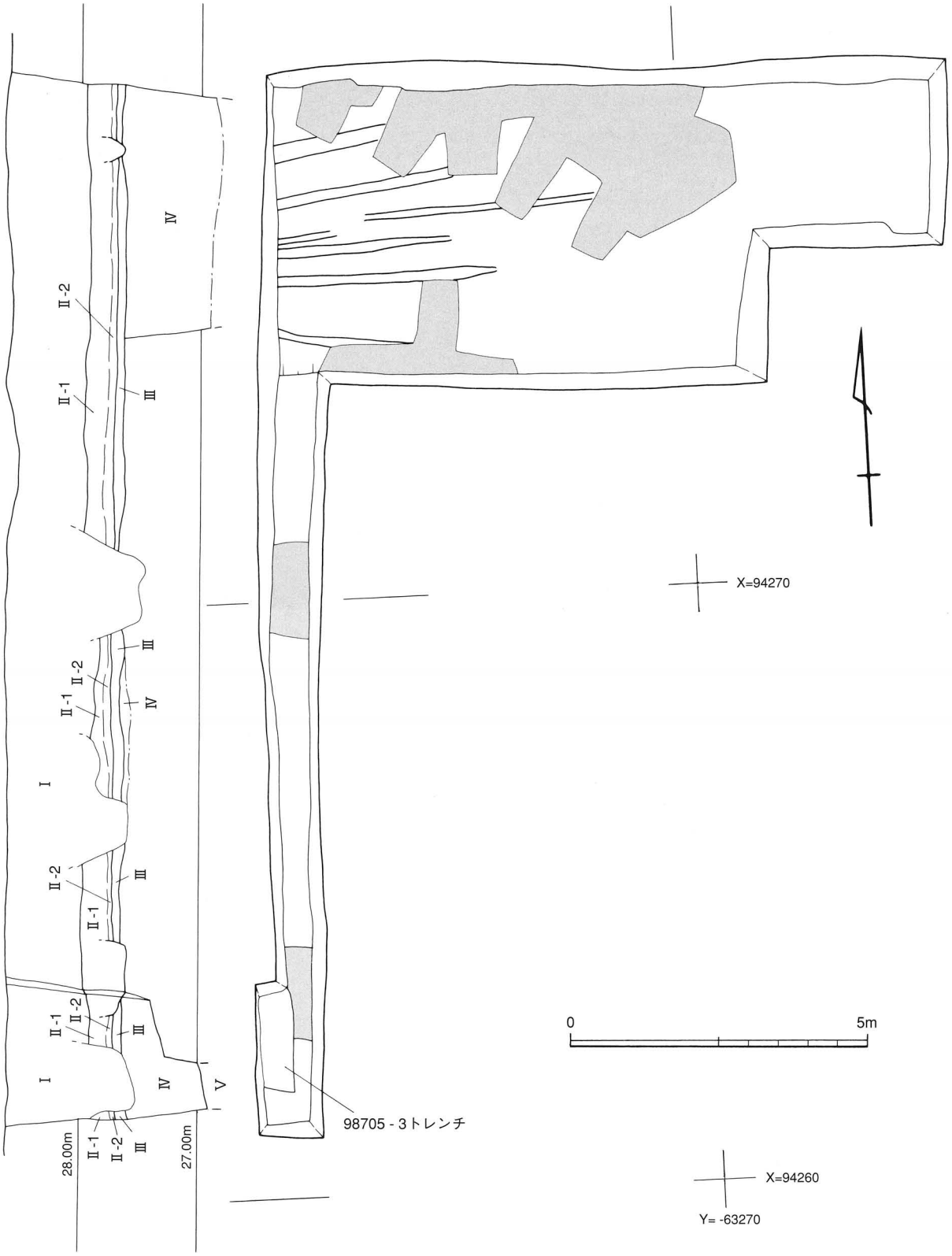


図.10　98706(文京遺跡 9 次調査)調査区遺構配置・土層断面図（縮尺 1/100・1/50）

写真.4　98706（文京遺跡９次調査）北壁土層断面

たる基本層序のⅣ層の堆積時期を決めることができ、遺跡が営まれた土地環境を知る上でも貴重な資料である。

この他、Ⅱ-1層中から掘り込まれた溝１条（SD-01）、Ⅲ層上面で検出した東西にのびる溝群などの遺構を調査した。Ⅱ-1層は近世～近代の遺物を包含することから、SD-01は近代の遺構と考えられる。Ⅲ層上面で検出した溝群は、砂質土を含む埋土で、深さはごく浅い。中世段階の耕作に伴うものと考えられる。また、Ⅲ層に対応する暗茶褐色土層は薄く、遺物も出土していない。

調査の詳細は、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅱとして刊行された『文京遺跡第８・９・11次調査』に報告されている。

Ⅱ　1988年度の調査

1988年度には、1000㎡をこえる全面調査である文京遺跡10次調査が実施された。しかも、構内各所で実施される諸工事については、10次調査の合間を見て立会調査を行うという前年度にも増した厳しいスケジュールとなった。加えて、文京遺跡10次調査の開始直後、調査範囲内の載荷試験調査計画が提示された。結果的には、調査を実施したものの、調査地点が1号竪穴式住居跡と重なり、調査工程に支障が生じた。計画的な工事設計が必要である。

98801　工学部情報工学科校舎新営工事に伴う調査 (文京遺跡10次調査)

調 査 地 点：松山市文京町3番
　　城北団地(図.11)
調 査 面 積：1075㎡
調 査 期 間：1988年9月19日～1989年3月3日
調査の種別：全面調査
調 査 担 当：宮本一夫
調 査 補 助：宮崎直栄
図版篇図幅：図幅24 (J4-25)

調査地点は、城北団地南西部、運動場の南側に位置する。文京遺跡2次調査(調査番号：98001)地点の西側に隣接している。

城北団地の他の調査地点と同じく、上層からⅠ層の表土層、Ⅱ層下部の赤褐色土層、Ⅲ層の暗茶褐色土層が堆積している。Ⅲ層下には、Ⅳ層の黄褐色粘質土層が調査区の中央～西半部にみられるが、東端付近ではⅢ層の直下にⅤ層上部の灰色砂礫層が盛り上がっている(図.12)。

Ⅱ層からは、古墳時代～中世の遺物が出土した。Ⅱ層を掘り下げ、Ⅲ層上面で、古代～中世の遺構を確認した。溝3条(SD-01～03)は古代、掘立柱建物2棟(SB-07・08)・柵列1条(SA-01)・土壙3基(SK-01～03)・小穴SP-42は中世の遺構である。

以上の遺構を調査した後に、人力でⅢ層を上中下部の3層に人為的に分層して掘り下げた。その過程で、12ヶ所の遺物が集中して出土した部分(SX-01～05・07～13)を確認した。遺物には、弥生時代中期後葉～後期前半の土器に加えて、中国鏡破片・板状鉄製品・鉄鏃・管玉・分銅形土製品・土錘・ガラス滓などがある。とくに、中国鏡の破片は、北部九州を除く西日本地域でもっとも時期の遡る資料である。

Ⅳ層上面では、弥生時代の遺構が検出された(写真.5～10)。竪穴式住居跡4棟(SB-01～04、うち、円形住居跡2棟、方形住居跡2棟)、高床倉庫と考えられる掘立柱建物2棟(SB-05・06)、溝10条(SD-04～SD-13)、円形周溝遺構1基(SX-14)、土壙6基(SK-04・06・11・13・15・18)がある。いずれも弥生時代中期後葉～後期初頭の遺構である。

その他、調査の詳細については、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅲとして刊行された『文京遺跡第10次調査』に報告されているので、参照されたい。

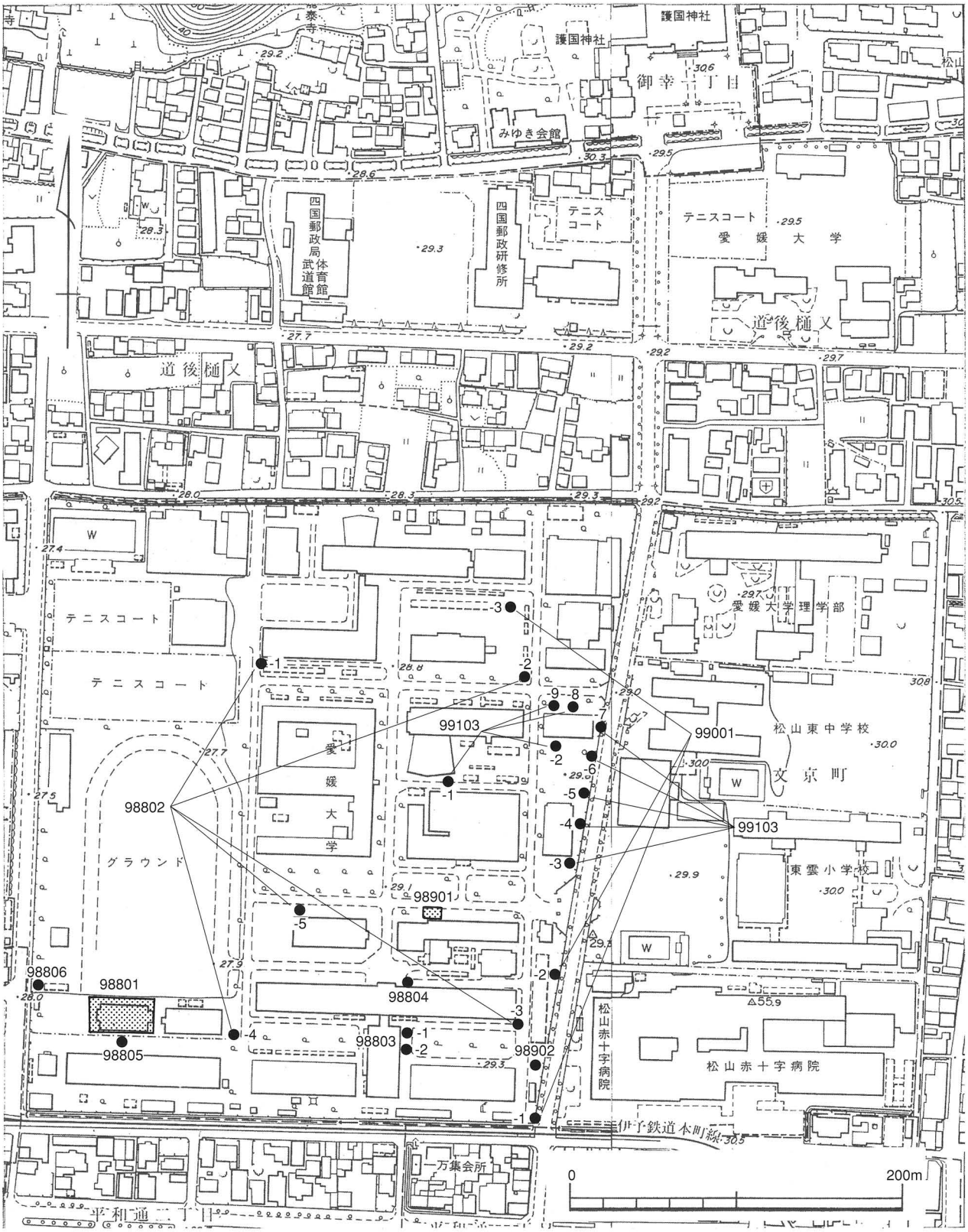


図.11　1988～1991年度 城北団地調査地点（縮尺 1/3,500）

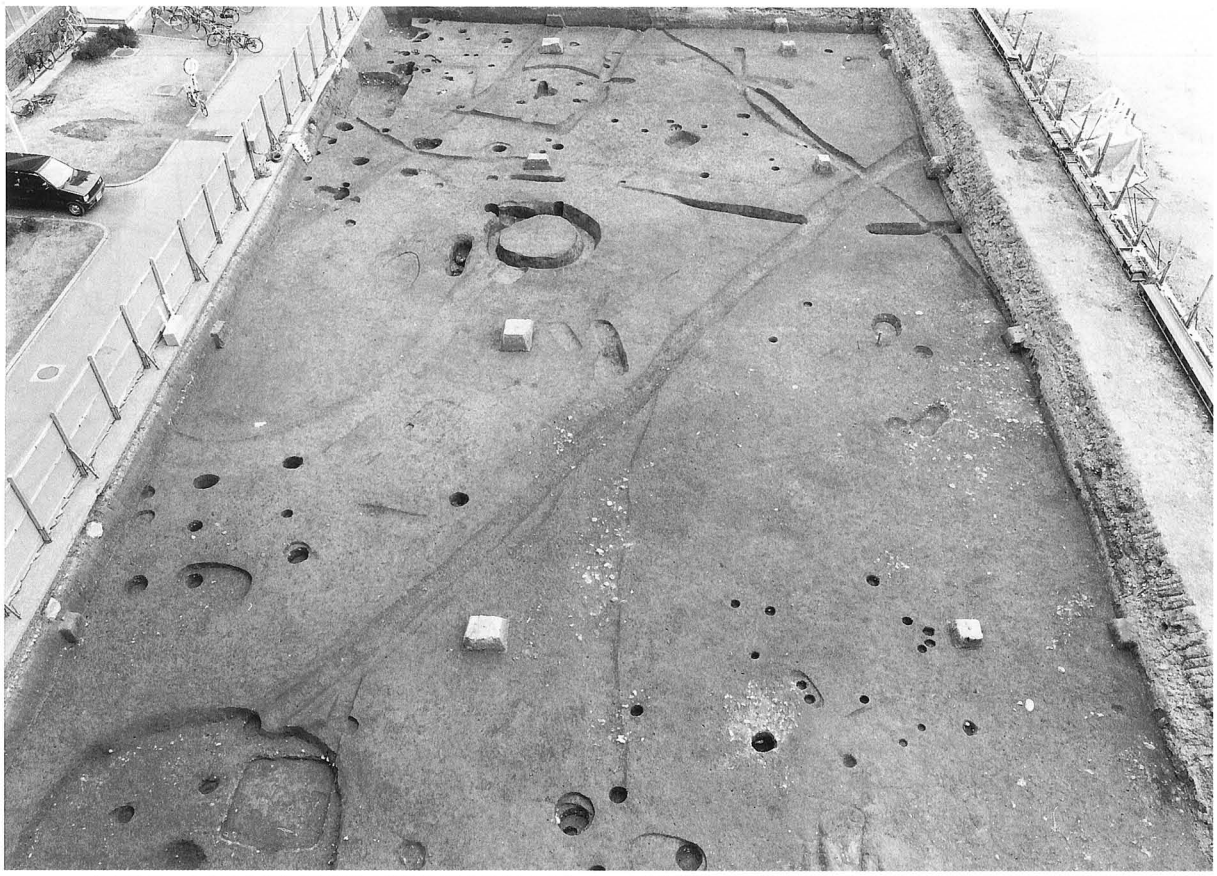


写真.5　98801（文京遺跡10次調査）調査区中央～西半部（東から）

写真.6　98801（文京遺跡10次調査）調査区東半部（東から）

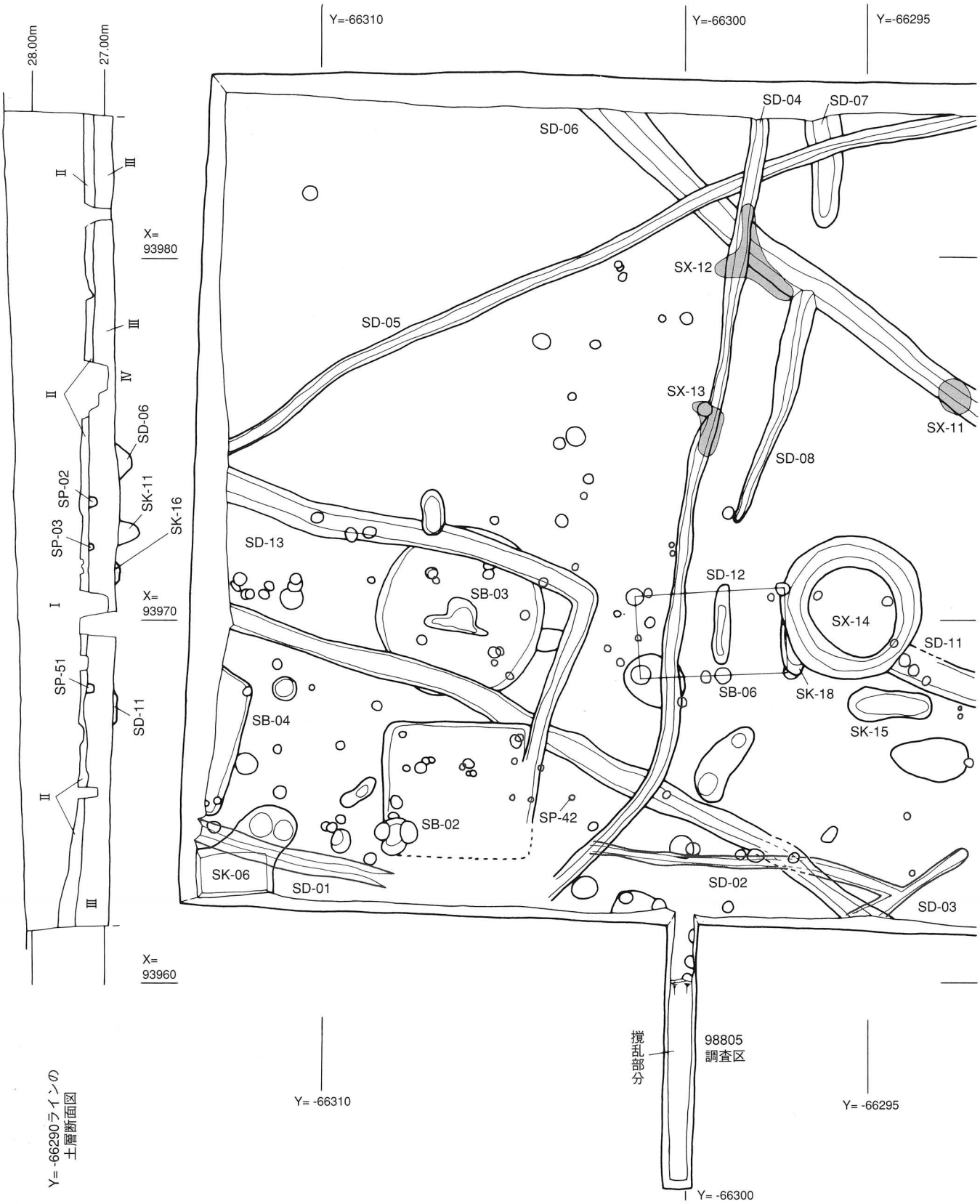
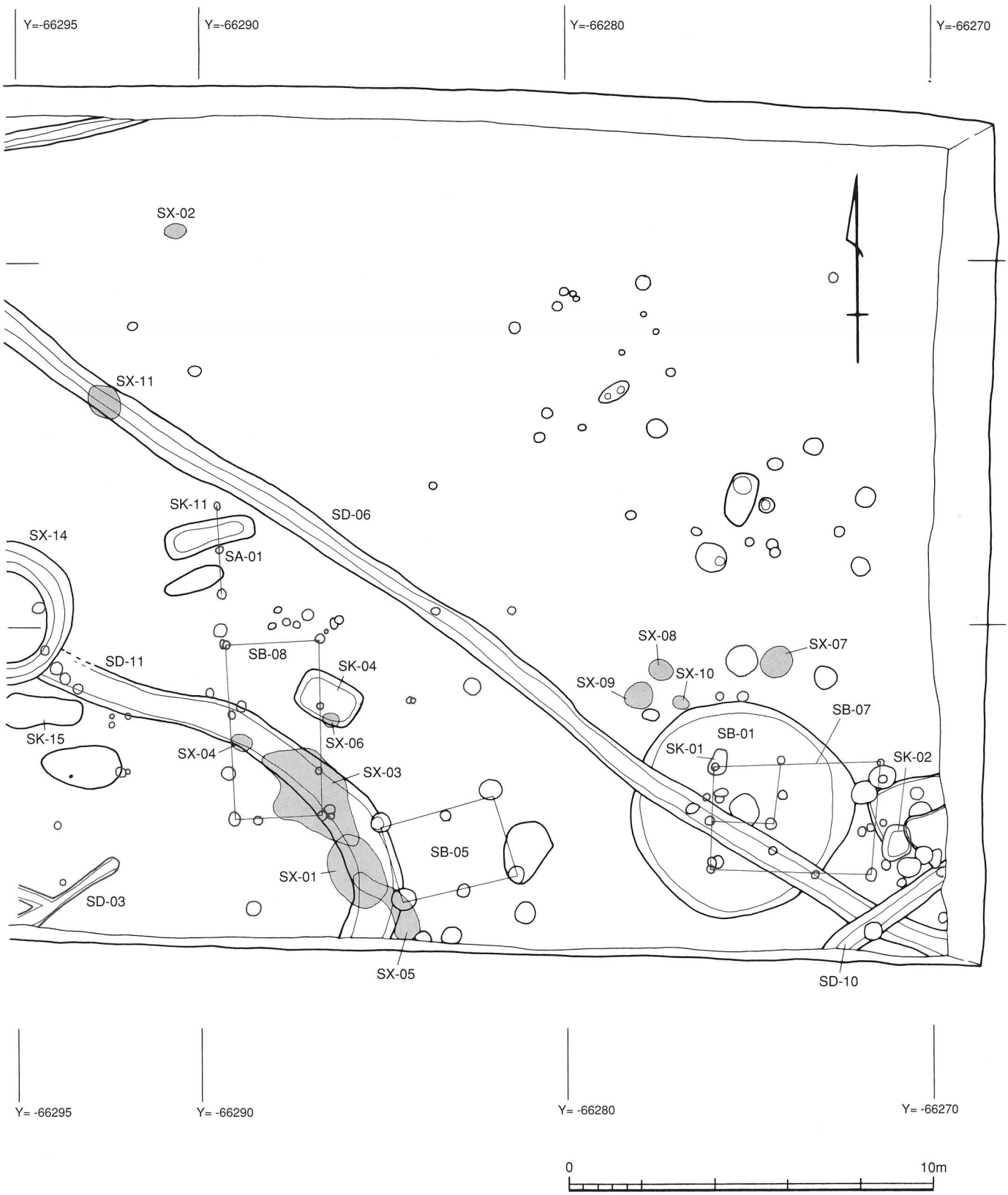


図.12　98801（文京遺跡10次調査）遺構配置・土層断面図（縮尺 1/150・1/75）


Y=-66295
Y=-66290
Y=-66280
Y=-66270
SX-02
SX-11
SK-11
SD-06
SX-14
SA-01
SD-11
SB-08
SK-04
SX-06
SX-04
SX-03
SK-15
SD-03
SX-01
SB-05
SX-05
SX-08
SX-07
SX-09
SX-10
SB-07
SB-01
SK-01
SK-02
SD-10
Y= -66295
Y= -66290
Y= -66280
Y= -66270
0
10m

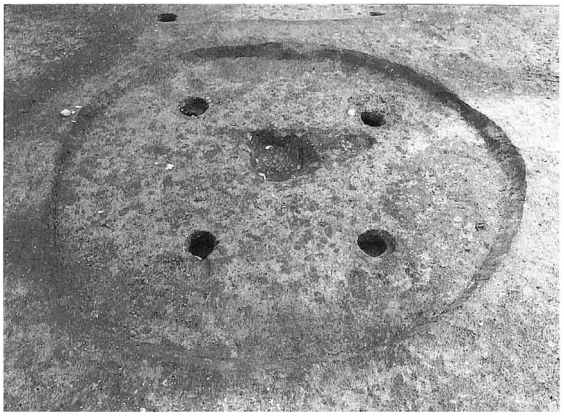


写真.7　98801（文京遺跡10次調査）ＳＣ-1（東から）

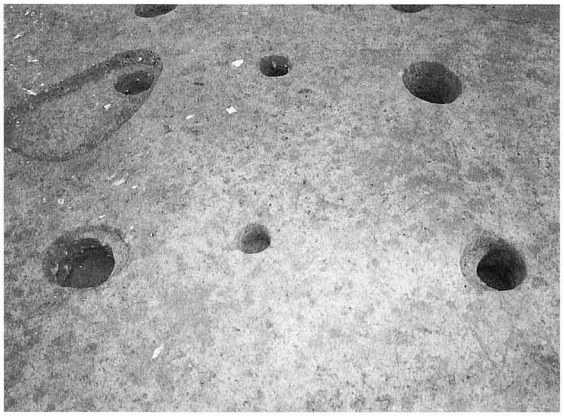


写真.8　98801（文京遺跡10次調査）ＳＢ-05（北西から）

写真.9　98801（文京遺跡10次調査）ＳＫ-15（南から）

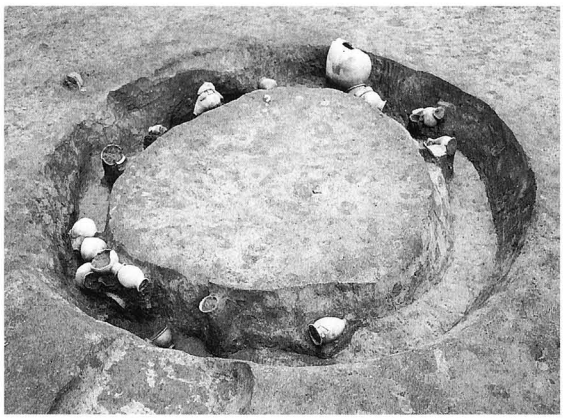


写真.10　98801（文京遺跡10次調査）ＳＸ-14（東から）

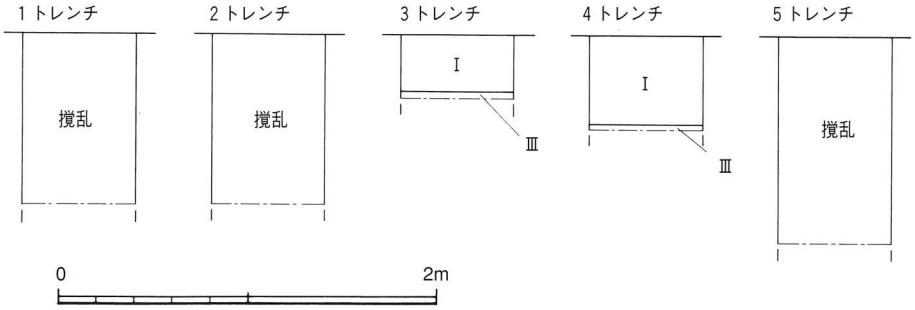


図.13　98802-1～5トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

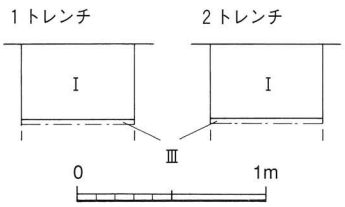


図.14　98803-1･2トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

98802　城北地区基準点等設置工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.11)
調 査 面 積：５㎡
調 査 期 間：1988年10月13日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：宮本一夫
図版篇図幅：図幅18(Ｊ４-20)
　　図幅24(Ｊ４-25)

城北地区における埋蔵文化財調査のため、国土座標Ⅳ系の３級基準点を設置することとなり、事前に試掘調査を実施した。城北団地南半部に位置する３・４トレンチでは基本層序のⅢ層を確認したが、北半部の１・２・５トレンチでは近接する建物の余掘り部分にあたり、いずれも攪乱されていた(図.13)。

98803　工学部講義棟高圧ケーブル埋設工事に伴う調査(その１)

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.11)
調 査 面 積：２㎡
調 査 期 間：1988年12月８日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：宮本一夫
図版篇図幅：図幅24（Ｊ４-25)

調査地点は、城北団地の南西部、工学部１号館の南側、講義棟の東側に位置する。高圧ケーブルが埋設される管路部分の南北端の２ヶ所にトレンチを設定した。北側が１トレンチ、南側が２トレンチである。ともに、現地表下40cmで城北団地の各地点でみられる遺物包含層であるⅢ層の上面を確認した(図.14)。

98804　工学部講義棟高圧ケーブル埋設工事に伴う調査(その２)

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.11)
調 査 面 積：１㎡
調 査 期 間：1988年12月12日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：宮本一夫
図版篇図幅：図幅24(Ｊ４-25)

調査地点は、城北団地の南西部、工学部１号館正面玄関の北側に位置する。共同溝から１号館へ高圧ケーブルを埋設する工事が計画され、工事に先立って事前に試掘調査を実施した。しかし、工学部１号館建設に伴う余掘り部分にあたり、工事地点は遺跡がすでに破壊されているものと判断し、調査を終了した。

98805　工学部情報工学科校舎排水施設取設工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.11)
調 査 面 積：６㎡
調 査 期 間：1989年２月７日

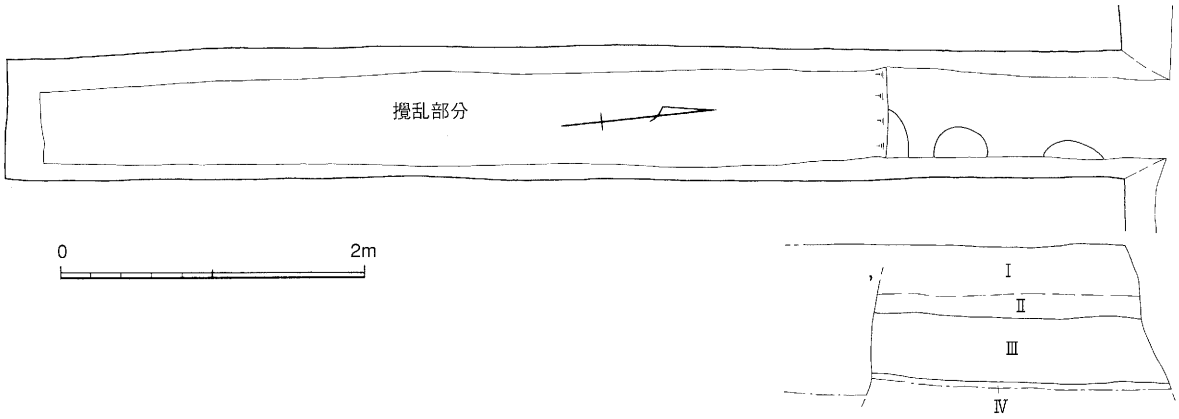


図.15　98805 調査区平面図・土層断面図（縮尺 1/50）

調査の種別：立会調査
調 査 担 当：宮本一夫
図版篇図幅：図幅24（J 4 -25）

調査地点は、城北団地の南西角近くの工学部4号館（文京遺跡10次調査地点）と2号館をつなぐ地点である。文京遺跡10次調査中に、施設部から計画の提示があり、調査の合間を縫って立会調査を実施することとなった。北端部分では小穴を3基検出したが、調査区の大部分は共同溝のために、すでに大きく破壊されていた（図.12・15）。

98806　工学部情報工学科校舎給水施設取設工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町3番
　　城北団地（図.11）
調 査 面 積：3 m^2
調 査 期 間：1989年2月9日～1989年2月10日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：宮本一夫
図版篇図幅：図幅24（J 4 -25）

調査地点は城北団地の南西角近くの西門北側に位置する。調査区の大半はすでに撹乱されていたが、現地表下70cmで遺物を包含する暗褐色土層のⅢ層を確認した。工事に伴う掘削が100cmまでおよぶことから、Ⅲ層を精査しながら掘り下げた。下層のⅣ層の上面では、調査範囲が狭く、遺構は検出されていない（図.16）。

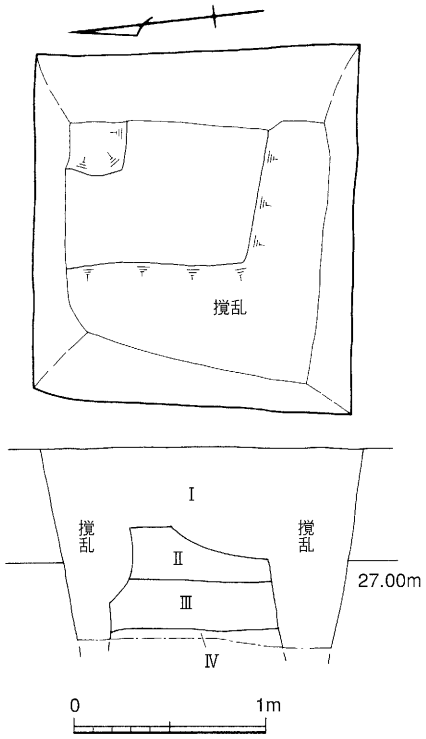


図.16　98806 調査区平面図・土層断面図
（縮尺　1/40）

Ⅲ　1989年度の調査

98901　法文学部講義棟身障者用昇高機取設工事に伴う調査 (文京遺跡11次調査)

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.11)
調 査 面 積：85㎡
調 査 期 間：1989年８月１日～1989年８月29日
調査の種別：全面調査
調 査 担 当：宮本一夫
調 査 補 助：宮崎直栄
図版篇図幅：図幅24 (J４-25)

調査地点は、城北団地の南東部、法文学部２号館北側に位置する。城北団地全域の基本層序に対応するⅠ層(表土層)、Ⅱ層下部(赤褐色土層)、Ⅲ層(暗茶褐色土層)、Ⅳ層(黄褐色～明褐色の粘質土および砂質土)、Ⅴ層(灰色砂礫層)が上位から堆積している。Ⅳ層は、Ⅳ-1層の黄褐色粘質土層、Ⅳ-2層の黄褐色砂質土層、Ⅳ-3層の明褐色粘質土層、Ⅳ-4層の黄白色砂質土層から構成される。ただし、Ⅳ-3層は調査区の西

写真.11　98901(文京遺跡11次調査)Ⅳ層縄文土器出土状況（西から）

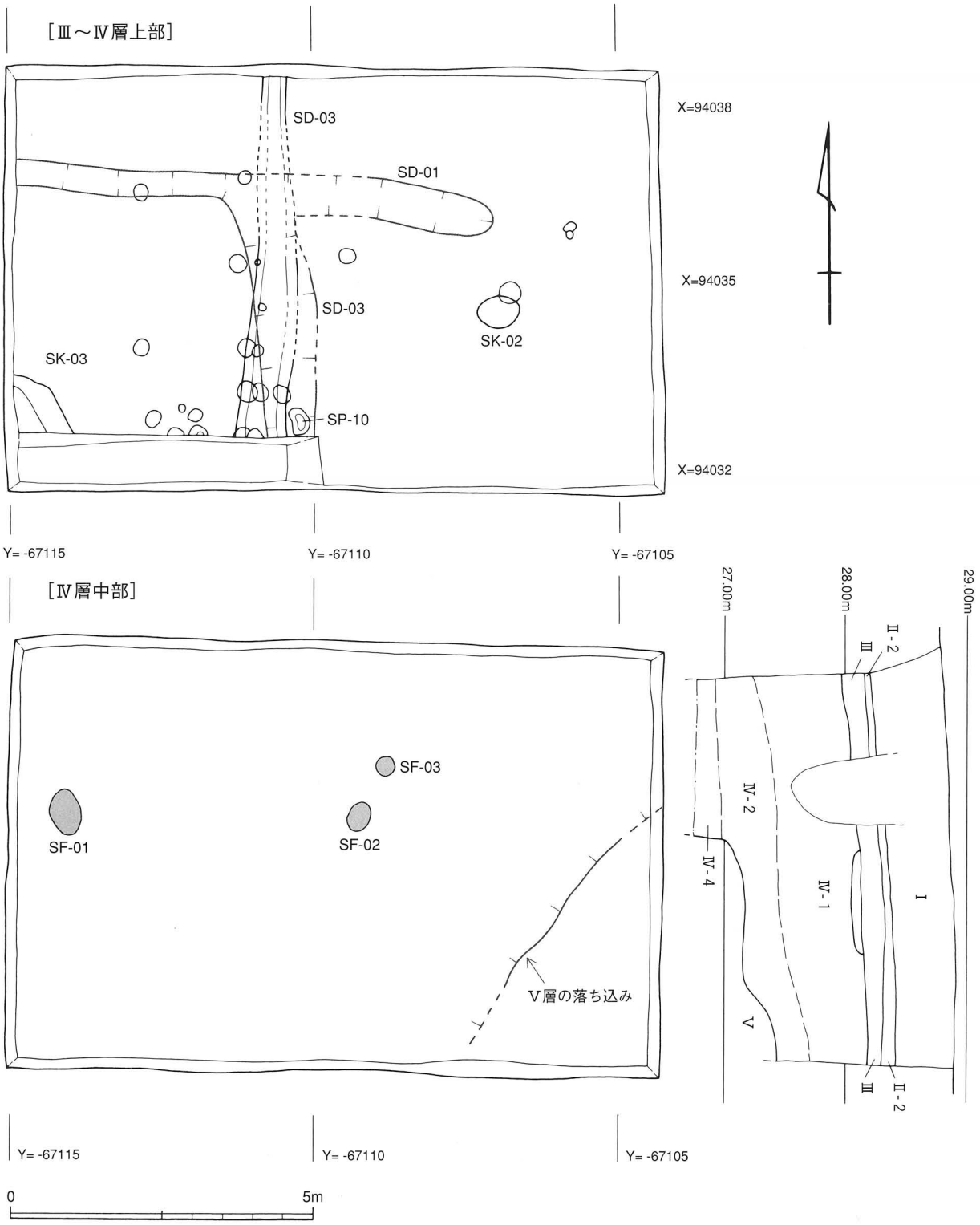


図.17　98901（文京遺跡11次調査）遺構配置・土層断面図（縮尺 1/100・1/50）

半部分にしか堆積していない(図.17)。

調査では、Ⅲ層上面で１・２号溝(SD-01・02)を検出した(写真.11)。ともに、灰色砂で埋まる浅い自然流路である。古墳時代～中世と考えられる須恵器甕の破片が出土した。

Ⅲ層中位～Ⅳ層上面では、弥生時代の遺構を確認した。南北にのびる溝１条(SD-03)、土壙２基(SK-02・03)を主要な遺構として、他に小穴がある(図.17上)。３号土壙(SK-03)からは、弥生時代中期末の土器と伴に、分銅形土製品と板状鉄斧が出土した。

Ⅳ-1層下半から縄文時代後期の遺物が出土し始めた。Ⅳ-2層でもっとも多く、Ⅳ-3層には若干の遺物は含まれるものの、Ⅳ-4層には遺物は含まれていない(図.17下、写真.11)。Ⅳ-2層上面で野外炉１号(SF-01)、Ⅳ-2層中で野外炉２・３号(SF-02・03)を確認した。また、遺物は調査区南東隅のⅤ層(灰色砂礫層)の落ち込みに対応するように、擂り鉢状に埋没していた。出土した縄文土器は、縄文時代後期の津雲Ａ式新段階に属し、南西四国の平城Ⅱ類に類似した資料が含まれている。その他、石皿・磨石が出土している。

調査の詳細については、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅱとして刊行された『文京遺跡第８・９・11次調査』に報告されているので、参照されたい。

98902　城北団地電波障害用の外線工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.11)
調 査 面 積：２㎡
調 査 期 間：1990年３月３日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：宮本一夫
図版篇図幅：図幅24(Ｊ４-25)

電波障害用の外線を城北団地内へ引き込むこととなり、引き込み線の管路部分を立会調査した。調査地点は、団地南東角に位置する。

管路部分の西側は、共同溝の設置工事の際に攪乱を受けている。中央部と東端では、表土の造成土部分であるⅠ-1層の下位に、青灰色土層がみられた。Ⅰ-2層とした。また、東端部では、現地表下25cmで、城北団地における基本層序のⅢ層(茶褐色土層)を確認したが、遺物は出土しなかった。さらに、現地表下40cmでⅣ層にあたる黄褐色土層がみられる(図.18)。

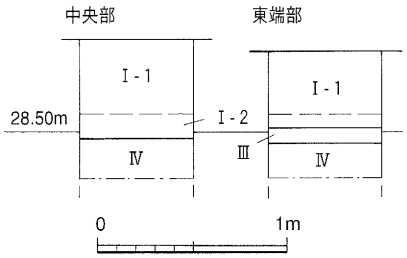


図.18　98902 調査区中央部・東端部
土層柱状図（縮尺 1/40）

Ⅳ　1990年度の調査

99001　城北団地囲障工事及び教育学部自転車置場新設工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.11)
調 査 面 積：３㎡
調 査 期 間：1990年８月８日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：宮本一夫
図版篇図幅：図幅18（Ｊ４-20）
　　図幅24（Ｊ４-25）

城北団地東辺囲障の整備と教育学部自転車置場の新設が計画され、工事に先立って事前に試掘調査を行った。調査地点は３ヶ所で、南から１～３トレンチとした。

１トレンチは、城北団地の南東角に位置する。表土層のⅠ層下には、造成以前の旧水田層の床土部分にあたる赤褐色土層のⅡ-2層、現地表下50cmで茶褐色土層のⅢ層上面が確認できた。

２トレンチは団地正門の南に位置する。表土である造成土部分のⅠ層を掘り下げると、現地表下40cmで茶褐色土層のⅢ層を検出した。

３トレンチは団地北半部の教育学部３号館の南側に位置する。表土のⅠ層直下で茶褐色土層のⅢ層を確認した。Ⅲ層上面は現地表下50cmにある(図.19)。

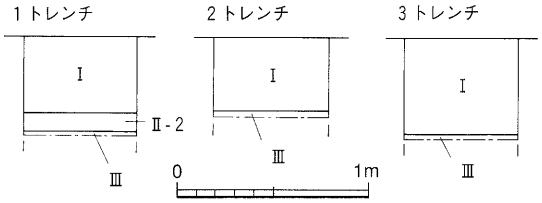


図.19　99001-1～3トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

Ⅴ　1991年度の調査

99101　農学部研究実験棟新営工事に伴う調査 (樽味遺跡２次調査)

調 査 地 点：松山市樽味３丁目５番７号
　　樽味団地(図.４)
調 査 面 積：506㎡
調 査 期 間：1992年１月７日～1992年２月28日
調査の種別：全面調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄

農学部では、研究施設の充実をはかるために、農学部３号館の東側に研究実験棟が新営される

こととなり、全面調査を実施した(図.5)。

調査の結果、14～16世紀の中世集落を構成する掘立柱建物12棟(SB-09～20)、柵列3条(SA-21～23)、土壙3基(SK-08・25・26)、溝6条(SD-01・02・05～07・24)、水口2ヶ所(SM-03・04)などが発見された(図.20、写真.12・13)。

その中で、1号溝(SD-01)は14世紀前半～中頃に開削され、3号水口(SM-03)と2号溝(SD-02)が付設される。この溝の北側延長線上にあたる樽味遺跡1次調査Ⅲ区(調査番号：98704-3)では、幅5m前後の溝(SR-01)が確認されている。2次調査の1号溝と同一の溝と考えられ、総延長が90mをこえる水路となる。樽味遺跡周辺では13世紀までの遺構がほとんどないことを考えれば、この水路の開削によって、樽味地区の中世の開発が軌道にのったことが伺える。同時に営まれたのは、9・15・19号掘立柱建物(SB-09・15・19)である。

つづく14世紀後半～15世紀に一部かかる時期には、1号溝に4号水口(SM-04)と6号溝(SD-06)が付設される。さらに、5・7号溝(SD-05・07)と21・22号柵列(SA-21・22)で南北16.5m、東西20m前後の方形区画が設けられ、10・12・13・16・18号掘立柱建物(SB-10・12・13・16・

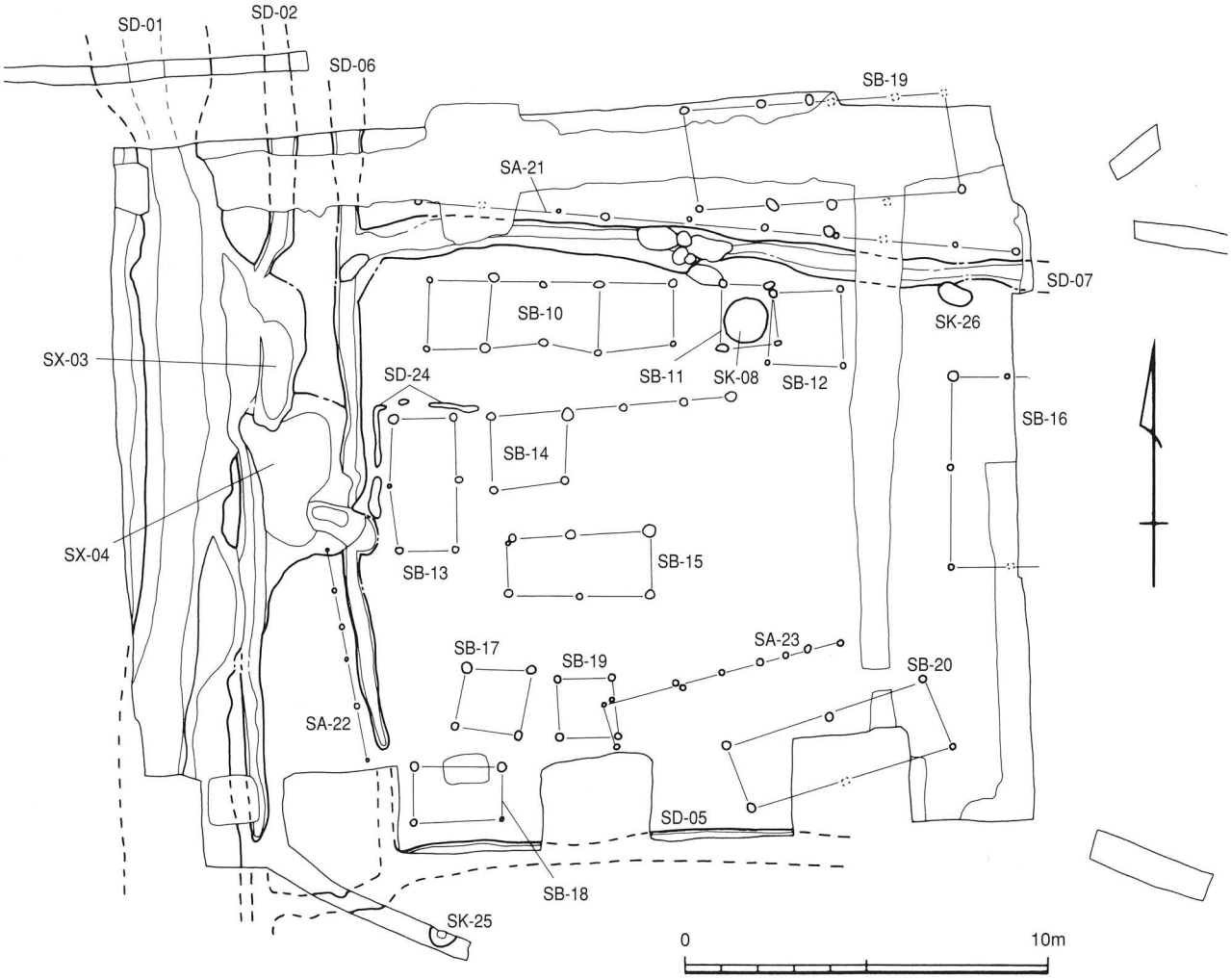


図.20 99101(樽味遺跡2次調査)主要遺構配置図(縮尺 1/200)

写真.12　99101（樽味遺跡２次調査）調査区遠景（北から）

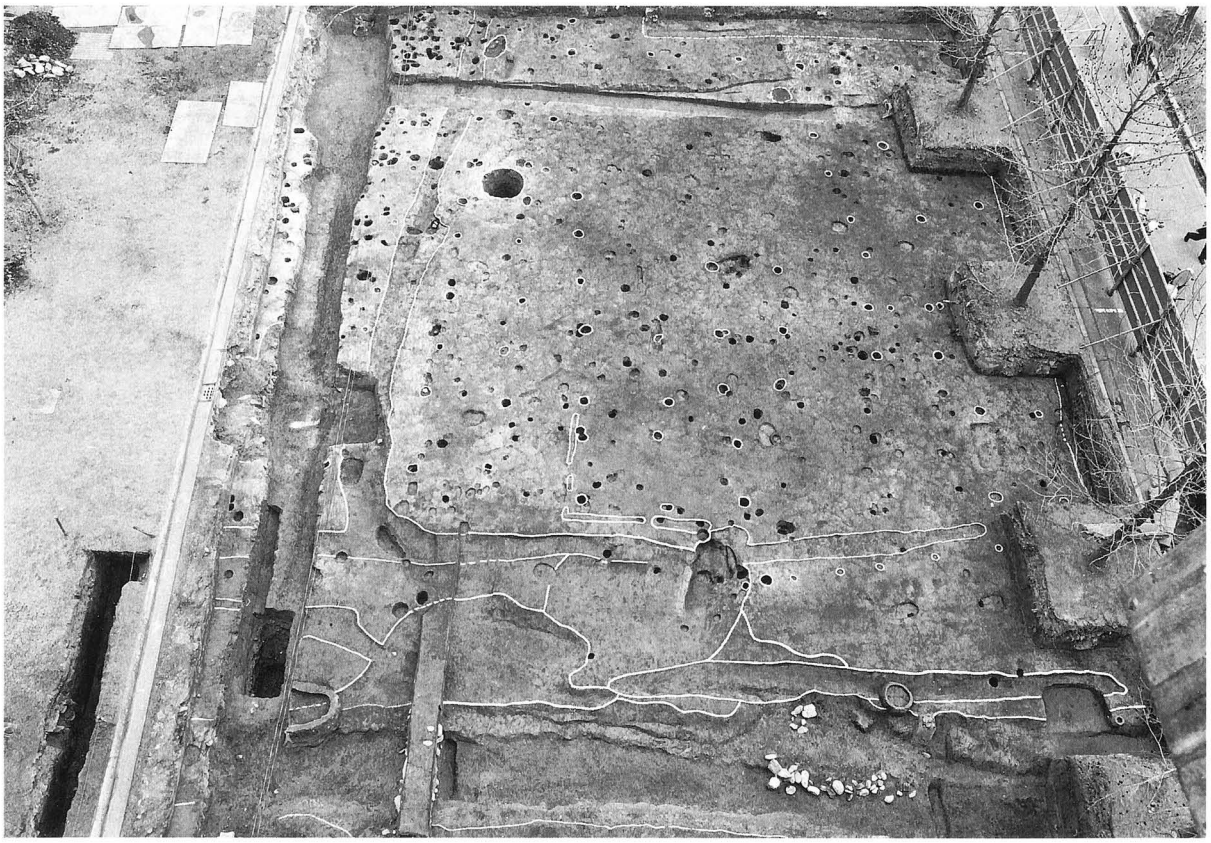


写真.13　99101（樽味遺跡２次調査）調査区全景（西から）

18)が営まれる。1次調査区でもL字形に曲がる溝など同時期の3条の区画溝が調査されている。1次調査区は近代～現代の攪乱が著しく、掘立柱建物などは確認できなかったが、樽味団地全域に広がる複数の方形区画が連結した中世集落の姿を想定できる。

遺構出土の14～16世紀の遺物は、土師器の皿・杯や土鍋・三足付羽釜が大半を占める。他に、亀山焼の大壺、備前焼の擂鉢、東藩系須恵器のこね鉢、常滑焼の大甕、中国産の白磁・龍泉窯系青磁・同安窯系青磁の皿や碗などがある。また、「治平元寶」「嘉祐元寶」などの中国銭、石硯、獣骨などの自然遺物が出土した。8号土壙(SK-08)からは16世紀代の備前焼大甕・石臼などが出土した。

調査の詳細については、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅳとして刊行された『樽味遺跡Ⅱ』に報告されているので、参照されたい。

99102　教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市北斎院町津田山
　　津田山団地(図.21)
調 査 面 積：13㎡
調 査 期 間：1991年6月8日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：下條信行

津田山団地において日常生活訓練施設が新営される計画が提示された。しかし、津田山団地では、これまで発掘調査は行われておらず、埋蔵文化財の有無さえ把握されていなかった。そのため、試掘調査を実施することとした。

日常生活訓練施設の建設予定地は、団地が占

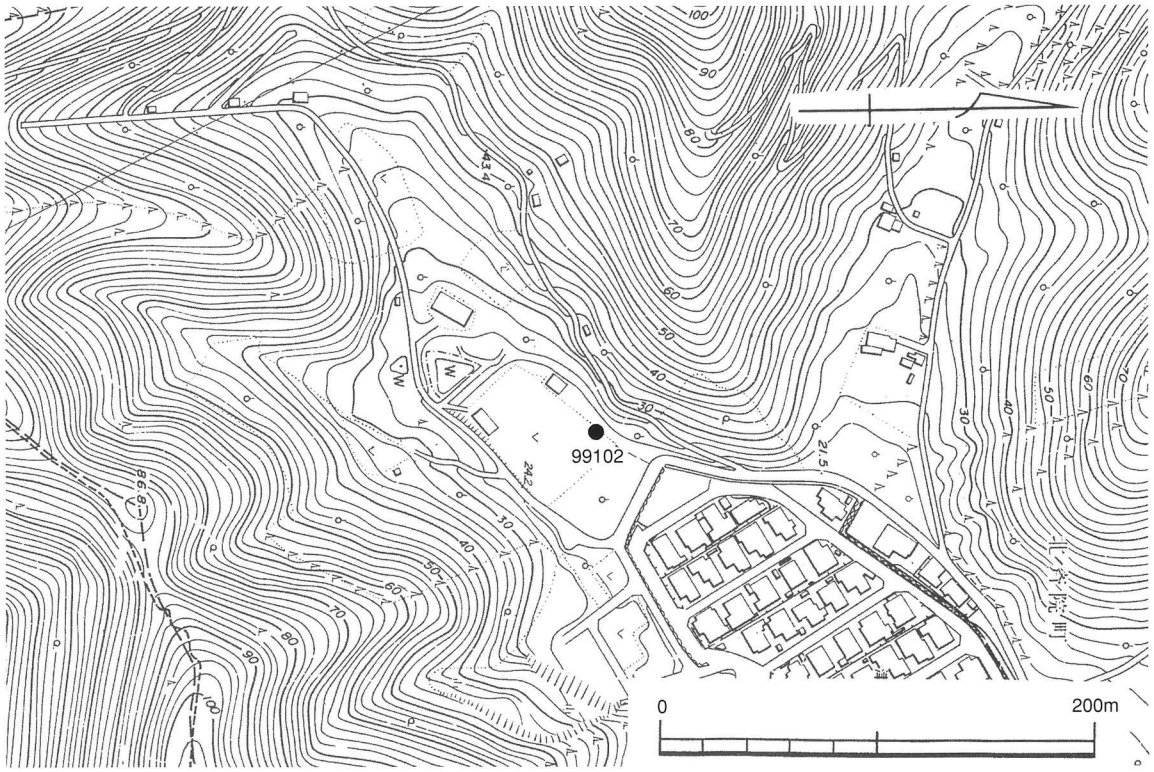


図.21　1991年度 津田山団地調査地点（縮尺 1/3,500）

める谷の中央部分である。予定地のほぼ中央に北西－南東方向の長さ12.6m、幅0.7mのトレンチを設定した。調査の結果、工事に伴う掘削面の現地表下85cmまで盛土部分が続く。確認のために、トレンチの両端で現地表下1.7mまで深掘りを行ったが、やはり盛土部分が続き、埋蔵文化財の有無は不明である。

99103　城北団地囲障(Ⅱ期)改修及び外灯改修工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.11)
調 査 面 積：36m²
調 査 期 間：1991年８月21日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：下條信行
図版篇図幅：図幅18（Ｊ４-20）
　　図幅24（Ｊ４-25）

1990年に続いて城北団地西辺囲障の改修と外灯の改修工事が計画され、工事に先立って団地西部の附属図書館北側１ヶ所、講堂周辺３ヶ所、課外活動施設周辺５ヶ所の計９ヶ所で試掘調査を実施した。調査順に１～９トレンチとし、工事の掘削面までの調査を行った。

１トレンチでは、表層のⅠ層（Ⅰ-1層：アスファルト舗装部分、Ⅰ-2層：客土部分）の下位、現地表下40cmで茶褐色土層があらわれた。城北団地の基本層序のⅢ層である。２トレンチでは現地表下40cmで鉄分が沈着した茶褐色土層を確認した。基本層序のⅡ-2層にあたる。３トレンチでは現地表下50cmで淡褐色砂層があらわれ、下位では鉄分が沈着した茶褐色土層を確認した。

４トレンチでは現地表下41cmで基本層序のⅢ層に対応する暗褐色土層を検出した。５トレンチでは表層のⅠ層下、現地表下50cmで漆喰状の白土があらわれた。建物の基礎部分である。６トレンチでは現地表下33cmまで表層のⅠ層が続く。７トレンチでは表層のⅠ層下、現地表下35cmで基本層序のⅡ層にあたる褐色土層があらわれ、掘削面の現地表下50cmまで続く。８・９トレンチでは掘削面の現地表下80cmまで客土部分のⅠ-2層がみられる(図.22)。

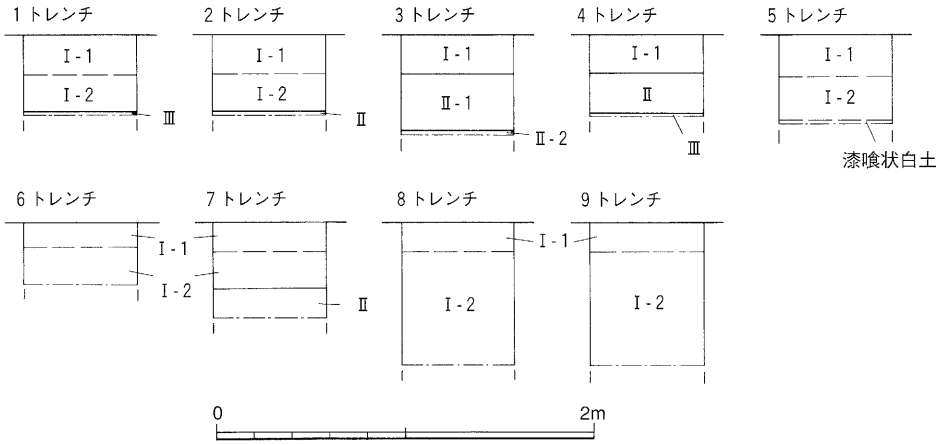


図.22　99103-1～9トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

Ⅵ　1992年度の調査

1992年度は、前年度に実施した農学部研究実験棟(農学部３号館)新営工事に伴う樽味遺跡２次調査(調査番号：99101)の整理作業を進めるとともに、構内各所で行われる諸工事に対処して立会調査・試掘調査を計13件行った。団地ごとの内訳は、試掘調査が城北団地１件、樽味団地２件、重信団地３件、立会調査が城北団地３件、樽味団地３件、持田団地１件である。

また、愛媛大学の敷地は松山市および愛媛県内の各地に所在する。こうした大学敷地における埋蔵文化財の分布状況を把握するため、構内遺跡範囲確認調査を1992年度から実施することとなった。今年度には、山越団地と重信団地で各１件の確認調査を行った。

99201　農学部屋外ガス本管改修工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市樽味３丁目５番７号
　　樽味団地(図.24)
調 査 面 積：６㎡
調 査 期 間：1992年５月26日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄

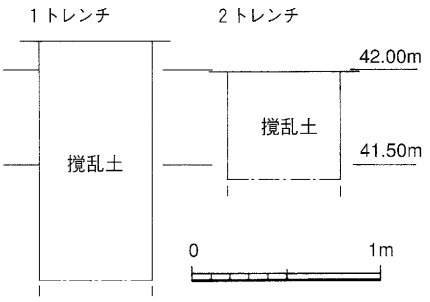


図.23　99201-1･2トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

農学部本館屋外の埋設管からのガス漏れが発見され、急遽、ガス管の改修工事が行われることとなり、立会調査を実施した。調査地点は、樽味団地の北西部の２ヶ所で、東側の工事地点を１地点(トレンチ)、西側を２地点(トレンチ)として調査にあたった(図.５)。しかし、両地点ともに、農学部本館の建設時にすでに攪乱されている部分にあたり、遺構・遺物ともに出土しなかった(図.23)。

99202　城北地区東側囲障改修工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.25)
調 査 面 積：３㎡
調 査 期 間：1992年７月30日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄
図版篇図幅：図幅19（Ｊ５-16）

城北団地東北角の囲障を改修する工事計画が施設部から埋蔵文化財調査室へ提示された。協議の結果、工事に伴う掘削を埋蔵文化財に影響

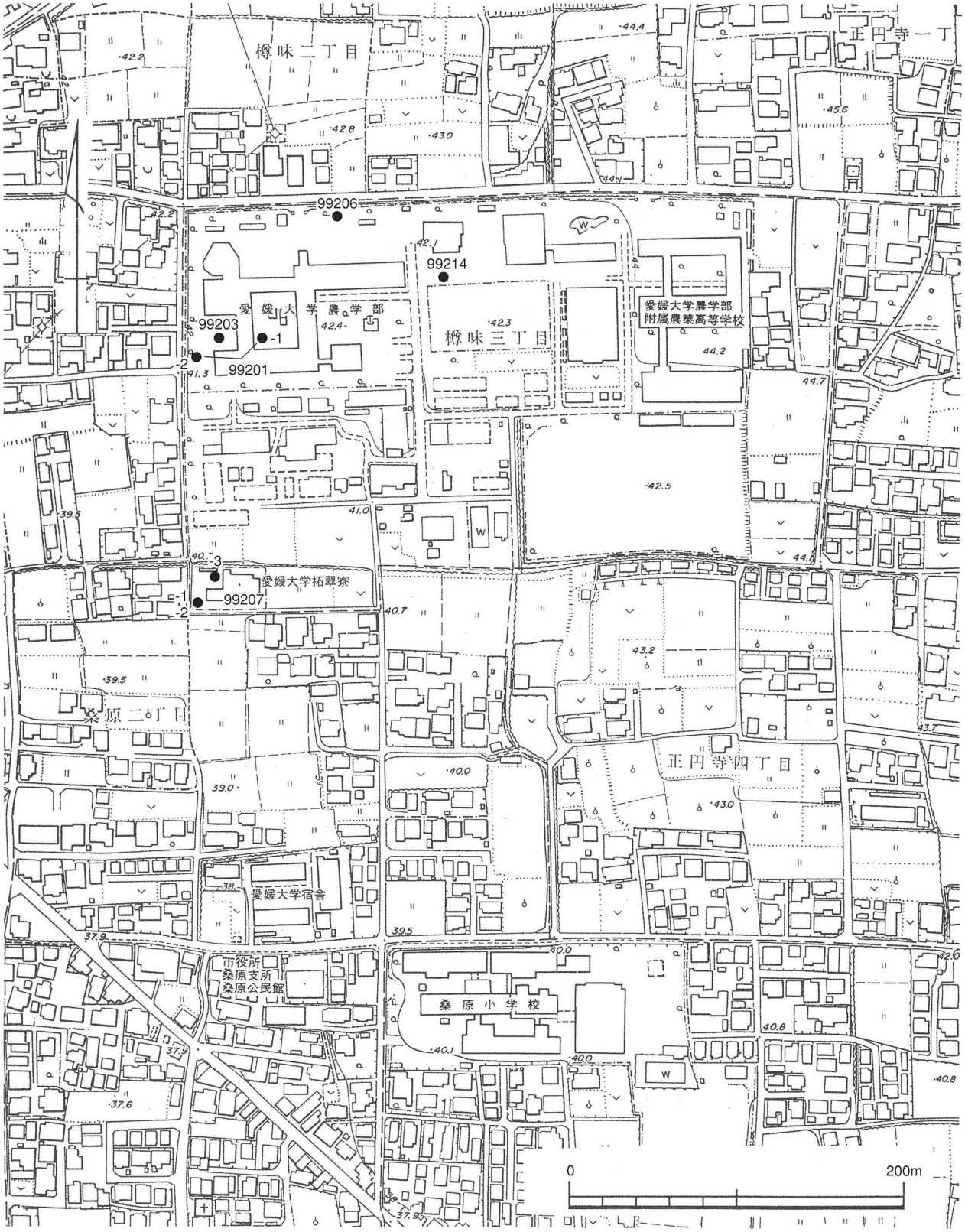


図.24　1992年度 樽味・北吉井団地調査地点（縮尺 1/3,500）

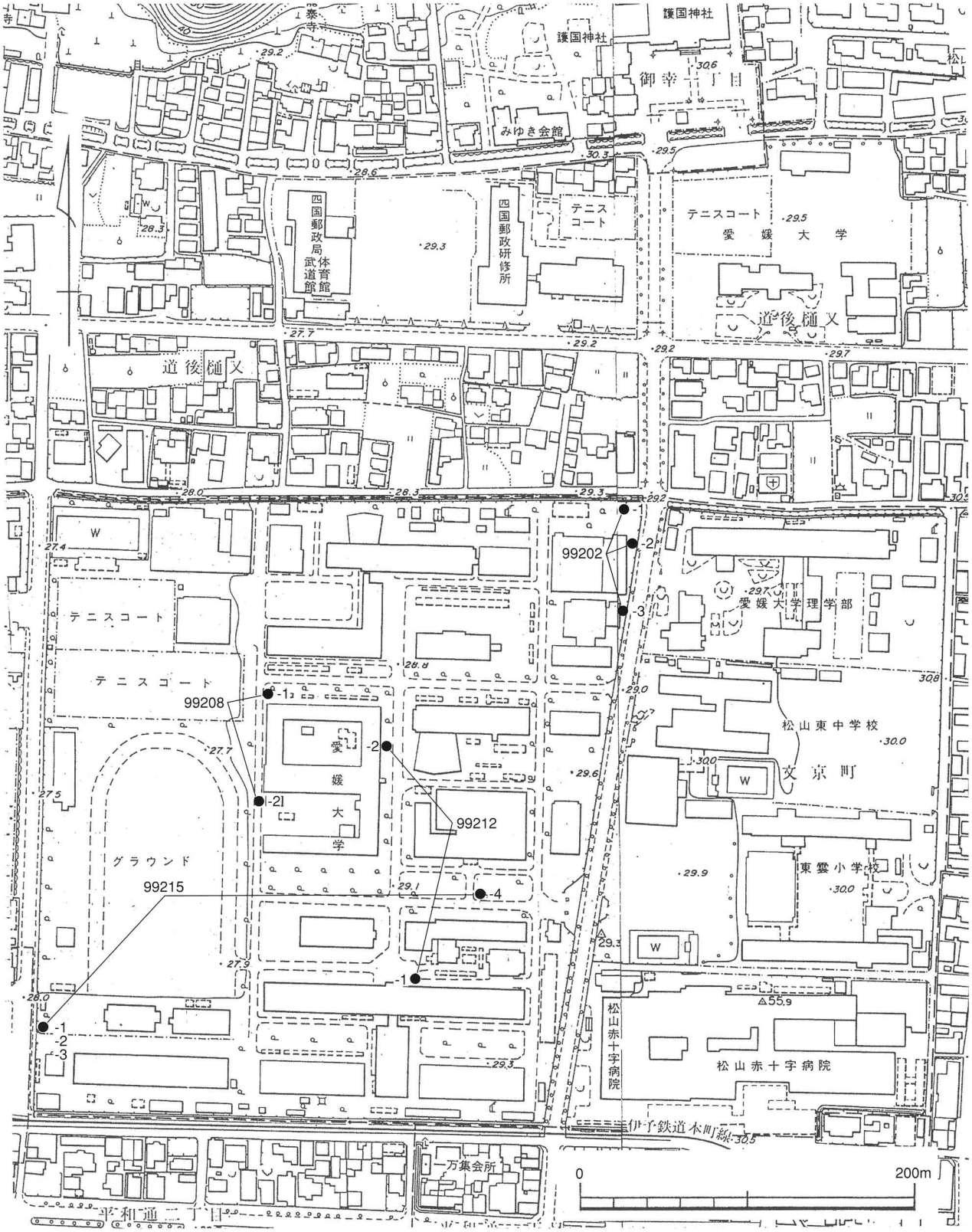


図.25　1992年度 城北団地調査地点（縮尺 1/3,500）

がない深度にとどめることとなり、工事に先立って試掘調査を実施した。

囲障が改修される範囲の南北端２ヶ所と中央部分に調査トレンチを設けた。各トレンチともに、表土であるⅠ層の造成土を掘り下げると、褐灰色シルト層のⅡ-1層があらわれた。下部には鉄・マンガンが薄く沈着している。Ⅱ-1層は造成以前の旧水田層である。Ⅱ-1層下には、淡茶色の砂礫層がみられ、１・２トレンチではさらに下層に灰褐色の砂質土が堆積している。砂礫層をⅡ-2層、砂質土をⅡ-3層としたが、ともに薄いレンズ状の細砂ブロックが互層状態で観察できる。流水による堆積物と考えられる。さらに下層の現地表下45～50cm以下には、暗茶褐色砂質シルトが堆積している。これまで城北団地で調査されてきた弥生時代～古墳時代の遺物を包含する暗褐色～黒褐色土層とは土色・土質ともに異なっている。比較的新しい時期に堆積した土層と考え、Ⅱ-4層とした(図.26)。

工事に伴う掘削深度である現地表下70cmまで掘り下げたが、Ⅱ-4層が続く。そのために、工事によって埋蔵文化財が破壊されるなど影響はないものと判断し、施設部へ慎重工事を申し入れた。

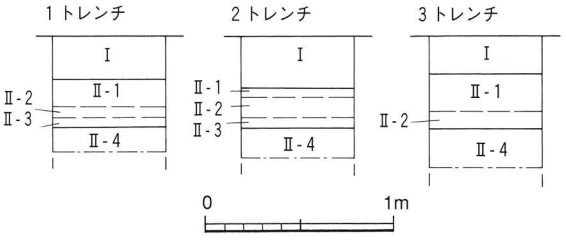


図.26　99202-1～3トレンチ土層柱状図
（縮尺 1/40）

写真.14　99202-2トレンチ土層断面

99203　附属図書館農学部分館新営工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市樽味３丁目５番７号
樽味団地(図.24)
調 査 面 積：１㎡
調 査 期 間：1992年８月26日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄

1992年７月に、愛媛大学附属図書館農学部分館の増築計画が1993年度に実施計画されることとなり埋蔵文化財調査室に提示された。農学部分館がある樽味団地では、1987年に愛媛大学大学院連合農学研究科の校舎新営工事に伴う樽味遺跡１次調査(調査番号：98704)、1992年に農学部研究実験棟(農学部３号館)新営工事に伴う２次調査(調査番号：99101)などが行われ、団地周辺でも松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センターにより1987年から試掘調査と本格調査が続き、弥生時代～古墳時代、中世の集落遺跡が断続的に営まれていることが確認され、遺跡の周知化が進んでいる。こうした既往の調査成果から、今回、提示された計画予定地にも何

写真.15　99203トレンチ土層断面

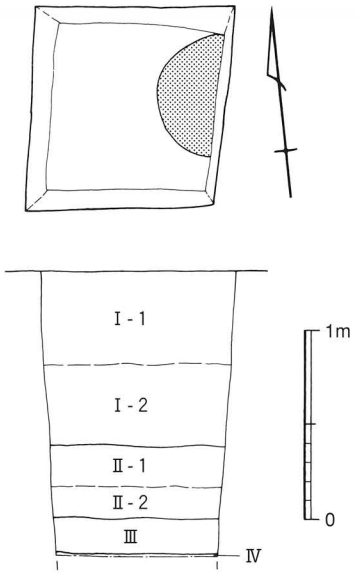


図.27　99203調査区土層断面図（縮尺 1/40）

らかの遺構が分布する可能性が強い。そこで、事前の試掘調査を実施することとなった。

調査では、計画予定地の南端部分に、試掘トレンチを設定した(図.５)。その結果、表土にあたるⅠ層の造成土、造成以前の旧水田層であるⅡ層(Ⅱ-1層：暗灰黄色シルトの耕作土部分、Ⅱ-2層：鉄・マンガンが沈着する床土部分)を掘り下げると、地表下1.35～1.5mで遺物を包含する黒褐色粘質シルト層のⅢ層があらわれた。Ⅲ層下面で柱穴の一部を確認した(図.27、写真.15)。予定地全面には遺構が営まれていることが考えられる。

99204　医学部附属病院病歴室新営工事に伴う調査（その１）

調 査 地 点：温泉郡重信町大字志津川
　　重信団地(図.29)
調 査 面 積：３㎡
調 査 期 間：1992年８月26日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄

施設部から埋蔵文化財調査室に医学部附属病院が所在する重信団地に病歴室を新営する計画が提示された。建設予定地は、重信団地北半部の附属病院外来病棟の北西側である。これまで、重信団地では発掘調査が行われておらず、遺跡の有無さえ把握できておらず、試掘調査を実施することとした。

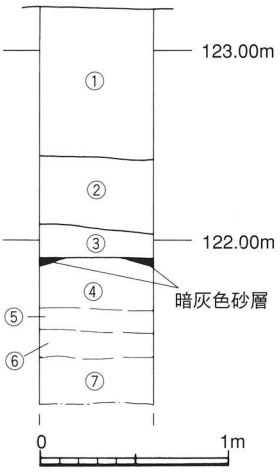


図.28　99204
土層柱状図
（縮尺 1/40）

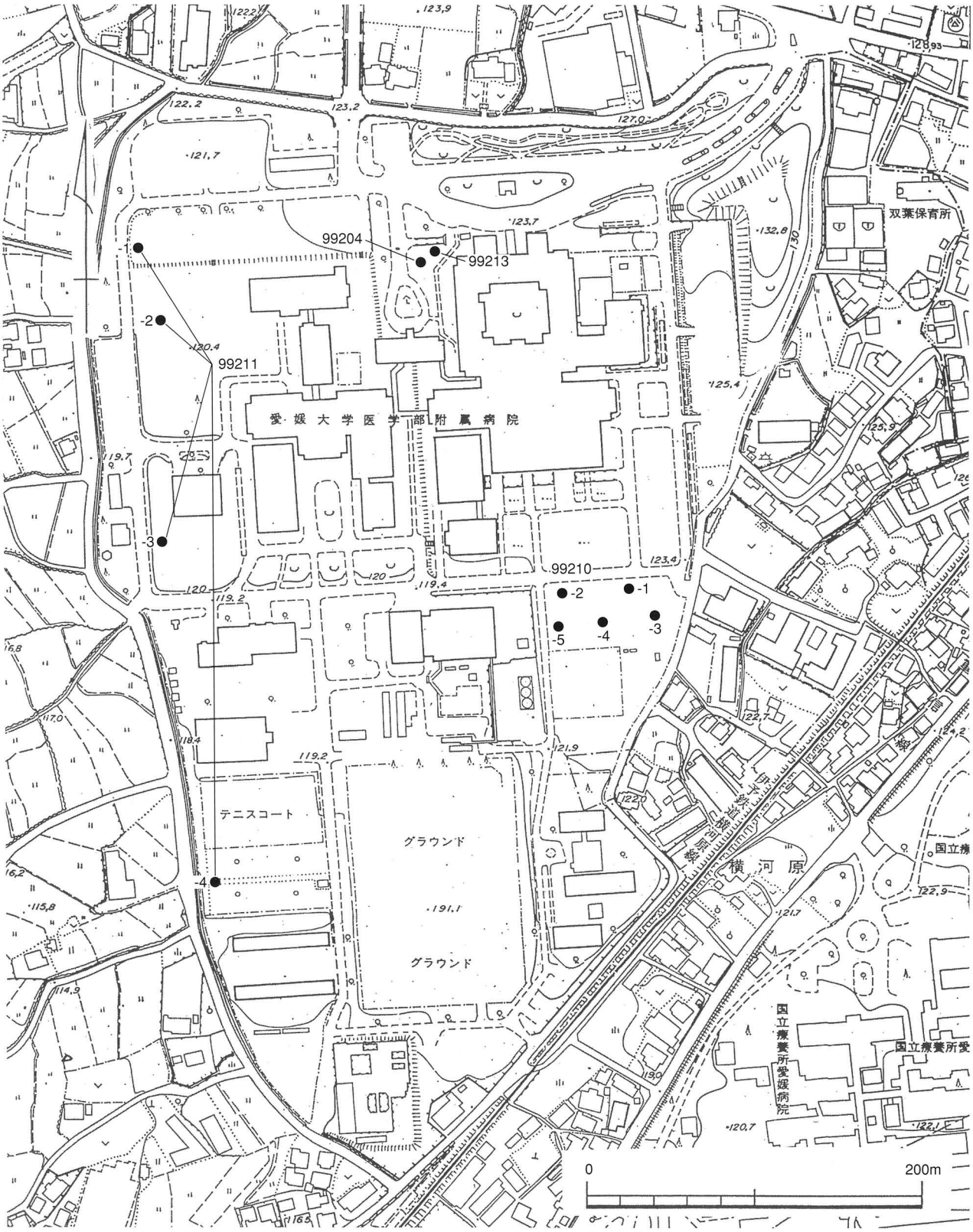


図.29　1992年度 重信団地調査地点（縮尺 1/3,500）

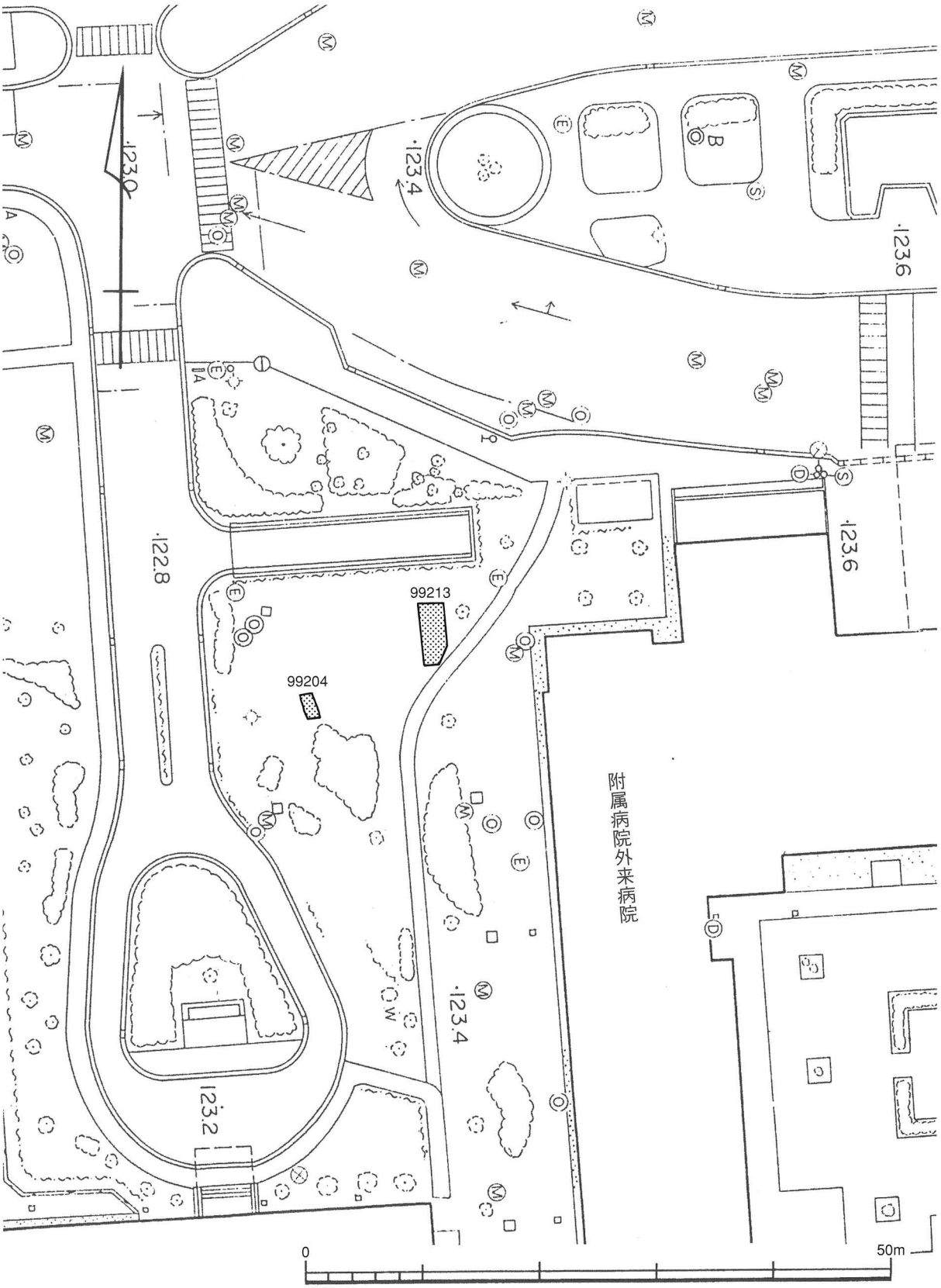


図.30　99204・99213 調査地点位置図（縮尺 1/500）

予定地のほぼ中央に長さ2m、幅1.5mのトレンチを設定した(図.30)。調査の結果、上位から、①層の真砂土層、②層の小石混じりの暗青灰色の粘質シルト層、③層の暗黄褐色粘質土層、④層の小石混じりの茶褐色粘質土層、⑤層の粒の揃った茶褐色砂礫層、⑥層の灰褐色砂層、⑦層の花崗岩の円礫からなる礫層を確認した。その中で、④層は、小石が混じるが、比較的安定した堆積状態を示し、③層との境界には部分的に暗灰色砂層が挟まっている。暗灰色砂層は、細砂の薄いレンズ状ブロックからなっており、溝あるいは自然流路であることが考えられた(図.28)。しかし、出土遺物もなく、調査面積も狭いため、遺跡の有無は確定できない。

そこで、調査終了後、施設部と協議を行った結果、本年度内に、再度、調査を実施することとした。

99205　1992年度構内遺跡確認調査（その１）

調 査 地 点：松山市山越４丁目11番10号
　　山越団地(図.31)
調 査 面 積：57㎡
調 査 期 間：1992年８月28日
調査の種別：確認調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・佐伯美幸
図版篇図幅：図幅02（I４-22）
　　図幅05（J４-２）

山越団地には、合宿研修施設や球技場・馬場などの課外活動施設が所在する。城北団地の再開発に伴って運動場が手狭になるため、教養教育の体育授業が山越団地で行われることになり、将来的には、体育施設などの建設が考えられる。しかし、これまで山越団地での調査はなく、埋蔵文化財の有無さえ把握できていない。そこで、1992年度から予算化できた大学構内における遺跡範囲の確認調査を、まず山越団地を対象として実施することとした。

山越団地は、東側の丘陵部周縁の段丘面から沖積低地への境界部分に位置する。調査が可能な空き地を選び、東から西へ向って５ヶ所のトレンチを設定した。各トレンチの調査結果は以下の通りである(図.32・33)。

［１トレンチ］

山越団地の入り口部分に設定した。表土部分は客土の真砂土層と、客土・整地を行う以前の水田層からなる。表土部分を①層とし、前者の真砂土部分を①-1層、下層の水田層を①-2層とした。

①層下には、上位から②層とした暗茶褐色の粘質シルト層、③層とした黄灰褐色砂層、④層のやや灰色味を帯びた暗茶褐色ないし灰黄褐色のシルト層、⑤層とした砂層および砂礫層が堆積している。

④層は、上部の暗茶褐色粘質シルトから下部は灰黄褐色砂質シルトへ漸移的に変化する。上部を④-1層、下部を④-2層とした。④-2層は部分的にしかみられない。最下部の⑥層は、黄灰色の細砂層である⑤-1層、直径５～７㎜の礫が混じる灰褐色の砂礫層である⑤-2層と⑤-3層、茶褐色の砂礫層の⑤-3層から構成される。

②～④層から遺物が出土している。②層の遺物は、近代の砥部焼きなどの陶磁器片をはじめとする遺物である。③・④層からは、弥生土器ないしは土師器の細片が出土したが、時期を決定できるほどの特徴をもつものはない。

［2トレンチ］

団地敷地の南東角に設定した。造成土である真砂土部分を①層としたが、以下の堆積物は1トレンチとは異なっている。1トレンチから通しの⑥～⑩層の層位番号を付した。⑥層は、上位から黒灰色のシルト層、直径2～3㎜の小礫が混じる黄色味を帯びた暗灰褐色の粘質土層、黄褐色の粘質土層、砂礫を非常に多く含む暗灰褐色の砂質シルト層から構成される。上位から、それぞれ⑥-1層～⑥-4層とした。⑥層からは細片化しているが、弥生土器が出土している。

⑥層下には、黒灰色の粘質土層である⑦層が堆積している。⑦層下部から下位の⑧層上部には、マンガンの沈着が著しい。また、⑦層の上面はほぼ水平であるが、⑥-4層との層界部分は極端な不整合面をなしている(写真.16)。トレンチの西端では、高さ5㎝ほどの⑦層の盛り上がりと、溝状の窪みを確認できた。以上から、⑦層は水田層であり、確認できた盛り上がりと窪みは畦畔および水路であると考えられる。⑥層からは弥生土器が出土しており、弥生時代に遡る可能性が強い。

⑧層は暗灰青色の粘質シルト層、⑨層は暗灰色の砂礫層である。⑨層から湧水があり、調査区の壁が一部倒壊し始めたので、調査を中止した。遺物は出土していない。

［3トレンチ］

団地北辺の中央からやや東寄りに設定した。造成土の真砂土部分である①層の下位には、黄灰褐色の砂質シルト層、1トレンチで確認した茶褐色砂質シルト層である②層がみられる。黄灰褐色の砂質シルト層は、層序的には②層の上位にあるので、①-3層とした。

②層以下は、茶褐色の砂質シルト層、黄褐色シルト層がみられる。土質は、城北団地でみられる黄褐色のシルト～砂質シルト(城北団地の

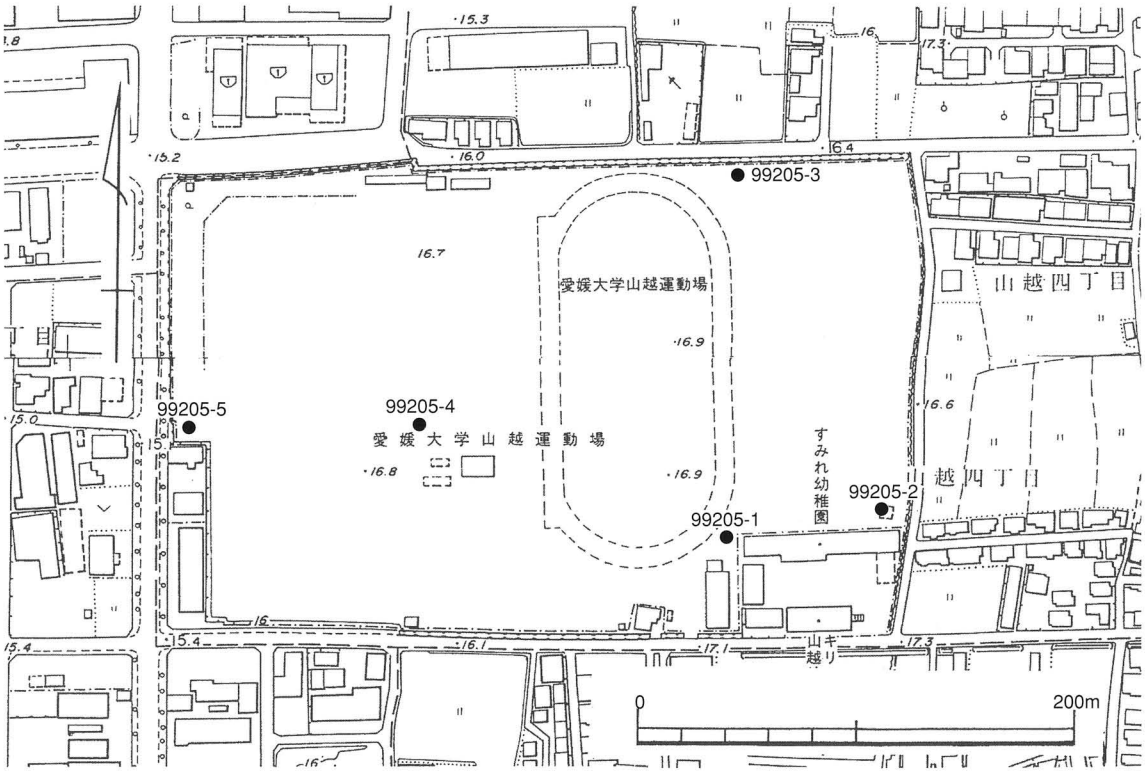


図.31　1992年度 山越団地調査地点（縮尺 1/3,500）

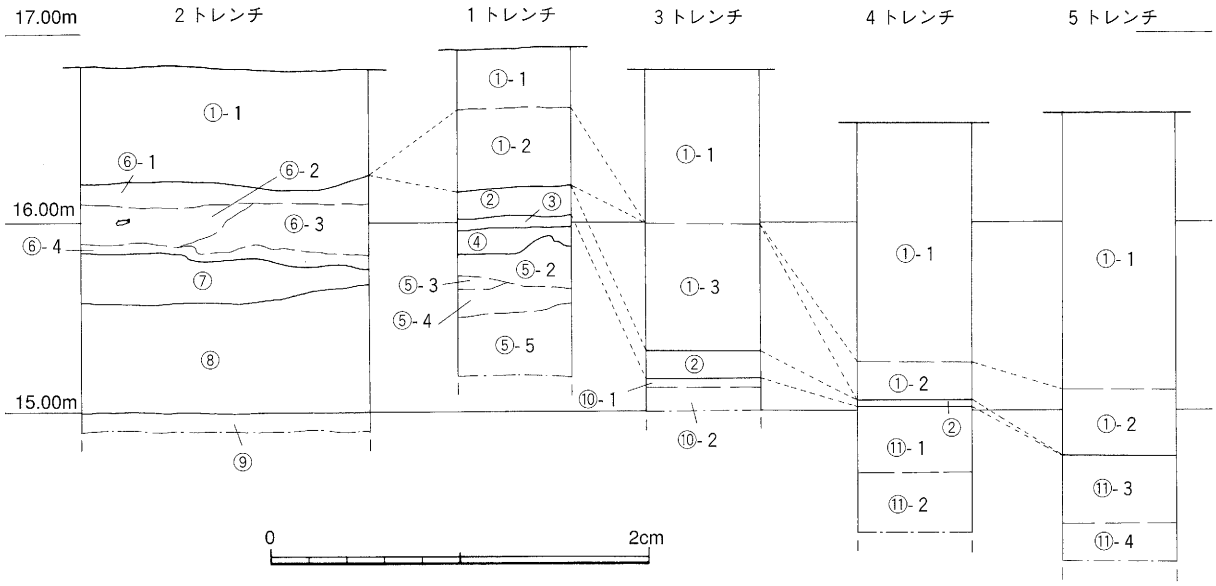


図.32　99205-1～5トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

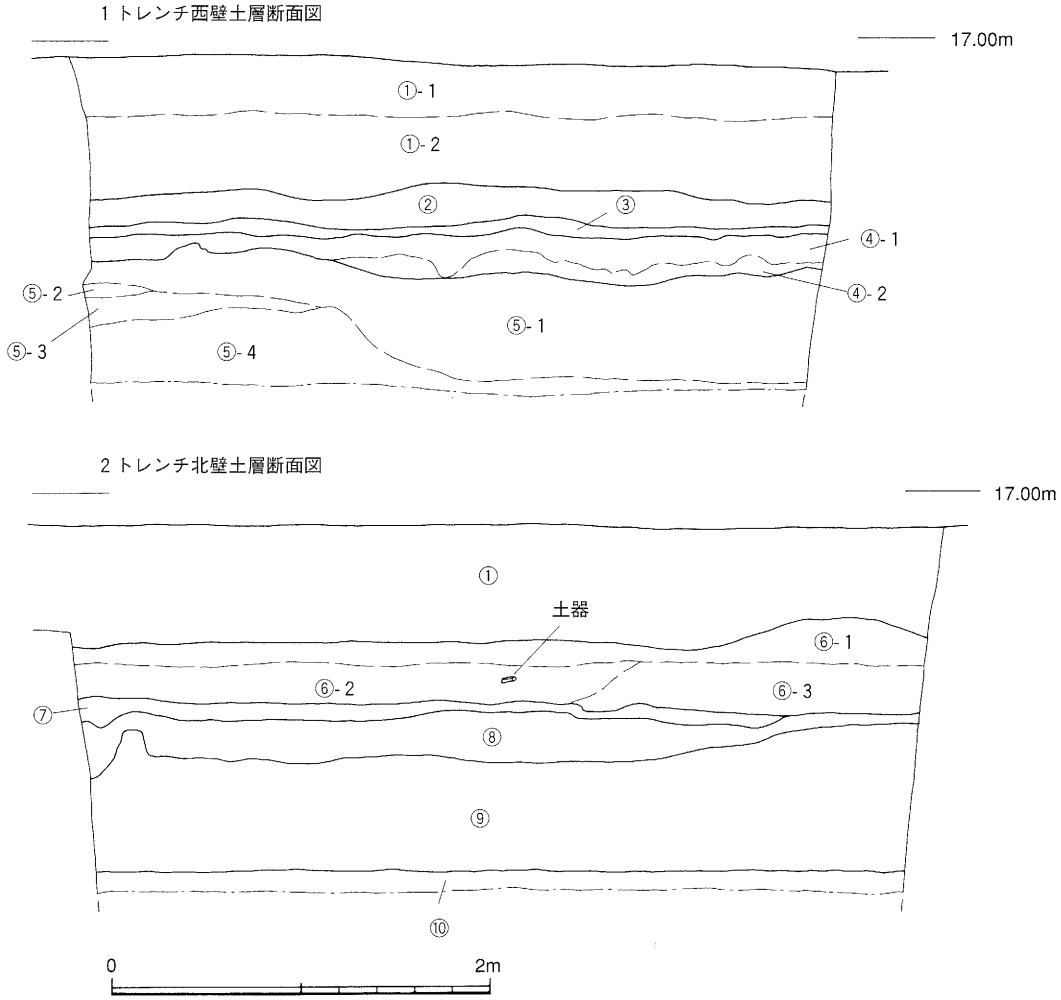


図.33　99205-1･2トレンチ土層断面（縮尺 1/40）

写真.16　99205-2トレンチ土層断面

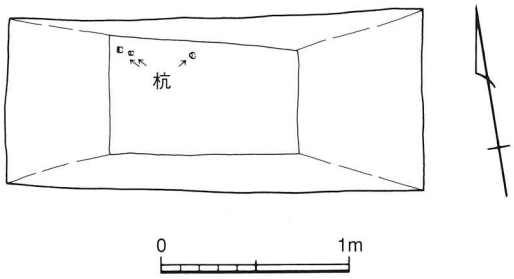


図.34　99205-5トレンチ出土の杭（縮尺 1/40）

写真.17　99205-5トレンチ検出の杭

基本層序Ⅳ層）に近似する。上位の砂質シルト層を⑩-1層、下位を⑩-2層とした。

［4トレンチ］

団地南辺の中央からやや西寄りに設定した。1トレンチの①-1層と①-2層に対応する表土部分を掘り下げると、層厚5㎝ほどの茶褐色砂質シルト層があらわれた。1・3トレンチの②層と対応する。②層以下は砂礫層である。上部は暗青灰色の砂層、下部は暗灰色の礫層である上部の砂層を⑪-1層、下部の礫層を⑪-2層とした。遺物は出土しなかった。

［5トレンチ］

団地敷地の西端に設定した。4トレンチと同様に、厚い表土部分である①層以下には、暗褐灰色の砂礫と暗茶褐色細砂が互層で堆積しており、さらに下層には暗灰色の砂礫層がみられる。層序的には、4トレンチの⑪層と対応するものと考え、上部の砂層を⑪-3層、下部の砂礫層を⑪-4層とした。ともに自然流路を埋める堆積物である。

⑪-4層からは古墳時代後期、6世紀代の須恵器が点々と出土している。自然流路の時期を当該期に求めることができよう。また、⑪-4層の上面で杭を確認した。水利施設の一部である可能性が強い（図.34、写真.17）。

今回の調査では、調査範囲が狭く部分的であったため、明確な遺構は確認できなかった。しかし、2トレンチでは弥生時代に遡る可能性をもつ水田層（⑦層）、5トレンチでは6世紀代の自然流路と水利施設の一部と考えられる杭を確認できた。山越団地の敷地全面には、かなり厚い造成・客土が行われている。しかし、今回の調査成果から、今後、掘削深度が深い工事に対して調査を実施する必要がある。

99206　農学部拓翠寮他自転車置場新設工事に伴う調査（その１）

調 査 地 点：松山市樽味３丁目５番７号
　　樽味団地(図.24)
調 査 面 積：３m^2
調 査 期 間：1992年９月21日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・佐伯美幸

工事地点は、樽味団地の東北部、正門の東側にあたり、樽味遺跡１次調査(調査番号：98704)のⅢ区に隣接している。工事予定地付近は、１次調査の結果から、削平が著しく遺物包含層(基本層序Ⅲ層)は失われているものと考えられる。しかし、２次調査(調査番号：99101)地点から直線的にのびる14世紀代の大溝(１号溝)の延長線上の流路であるSR-01の延長部分が予想された。そこで、施設部と協議を行い、掘削深度が深くとらざるをえない自転車置場の支柱部分のみを立会調査することとした。支柱部分は４ヶ所で、東から１～４トレンチとした(図.５)。

表土の造成土部分を掘り下げると、東側の１・２トレンチでは、現地表下45～55cmで黄褐色砂質シルト層があらわれた。この土層は、１次調査のSR-01、２次調査の１号溝の上面を覆う土層と対応する。工事の中断を指示し、掘削面までを精査したが、遺物は出土しなかった(図.35、写真.18)。

西側の３・４トレンチでは、現地表下30cmで花崗岩の風化砂礫が多く混じる茶褐色粘質シルト層がみられる。基本層序のⅣ層である。４トレンチでは、暗茶褐色シルトを埋土にもつ小穴をⅣ層上面で確認した(図.35、写真.19・20)。

写真.18　99206-1トレンチ土層断面

写真.19　99206-3トレンチ土層断面

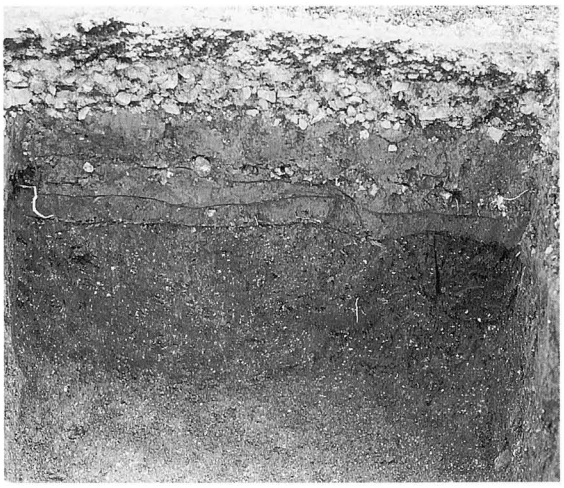


写真.20　99206-4トレンチ土層断面

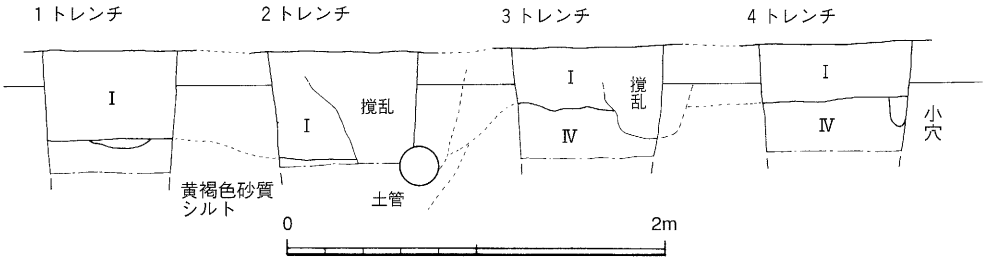


図.35　99206-1～4トレンチ土層断面図（縮尺 1/40）

以上から、２次調査地点からのびる１号溝（１次調査のSR-01）は、今回の調査地点で大きく西へ張り出すことが確認できた。しかし、溝が西に折れるのか、もしくは水口などの水利施設があるのかは、調査範囲が狭いために確定できない。

99207　農学部拓翠寮他自転車置場新設工事に伴う調査（その２）

調 査 地 点：松山市樽味３丁目５番７号
　　樽味団地（図.24）
調 査 面 積：２㎡
調 査 期 間：1992年９月21日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・佐伯美幸

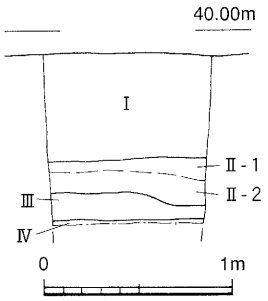


図.36　99207-1トレンチ土層断面（縮尺 1/40）

調査地点は、樽味団地の南西角にある学生寮の拓翠寮内に位置する（図.５）。周辺の水田面と比べて、60cmほどの盛り土が行われていると考えられ、工事による掘削が現地表下60cmまでであり、埋蔵文化財に影響はないものと判断した。しかし、周辺では調査が実施されておらず、今後の工事に対する基礎データを得るため、立会調査を実施することとした。

３ヶ所の自転車置場の支柱部分は、いずれも現地表下60cmまで客土層（Ⅰ層）と造成以前の旧水田層（Ⅱ層）であった。１地点（トレンチ）では、深掘りを行い、現地表下70cmで土器の細片をまばらに包含する暗茶褐色粘質土を確認した。樽味遺跡全体の基本層序のⅢ層であり、炭化物の細片を多く含む。Ⅲ層を精査しながら掘り下げ、現地表下80～85cmで、基本層序のⅣ層にあたる黄褐色粘質シルトを確認した。Ⅳ層上面で遺構検出に努めたが、調査範囲が狭いこともあり、遺構は出土していない（図.36）。

99208　城北団地外灯設備改修工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番地
　　城北団地（図.25）
調 査 面 積：２㎡
調 査 期 間：1993年10月26日

調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄
図版篇図幅：図幅18（Ｊ4-20）

城北団地西半部、教養部本館西側の２ヶ所に外灯が設置されることとなり、立会調査を実施した。調査地点北側を１トレンチ、南側を２トレンチとした。

１トレンチは、新旧の配管によって著しく攪乱されていた(写真.21)。２トレンチでは、現地表下55cmで灰黄褐色の砂質土層があらわれた。近代の陶磁器片が出土した。類似した土質・土色の土層は、調査番号99305地点、99405地点、そして1996年度に実施した文京遺跡15次調査(確認調査、調査番号：99602)の７トレンチでみられ、城北団地北部に東西にのびる谷状地形の窪地上面に堆積する土層があることを確認している。城北団地全体にわたる基本層序のⅡ層下部に相当する(図.37、写真.22)。

Ⅱ層下では、砂層と砂礫層が互層状態で堆積している。自然流路の堆積物と考えられ、上面から弥生土器もしくは土師器と考えられる土器の細片がごく少量であるが出土した。同様な流路は、文京遺跡15次調査の５トレンチでも確認されている。

写真.21　99208-1トレンチ

写真.22　99208-2トレンチ土層断面

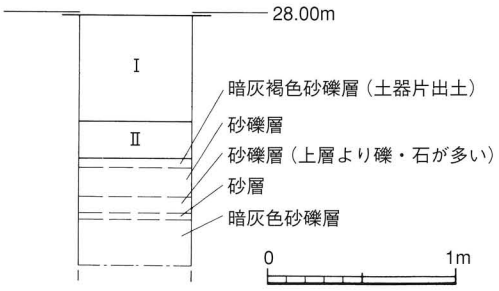


図.37　99208-2トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

99209　教育学部附属小学校給水設備工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市持田町１丁目５番22号
持田団地(図.38)
調 査 面 積：11m²
調 査 期 間：1993年10月26日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄
図版篇図幅：図幅32（K5-２）
図幅38（K5-７）

調査地点は、持田団地の教育学部附属小学校本館の北東に位置する。給水管が埋設される現地表下45cmまで工事に立ち会って調査したが、造成土・客土層が続き、遺構・遺物ともに出土しなかった。

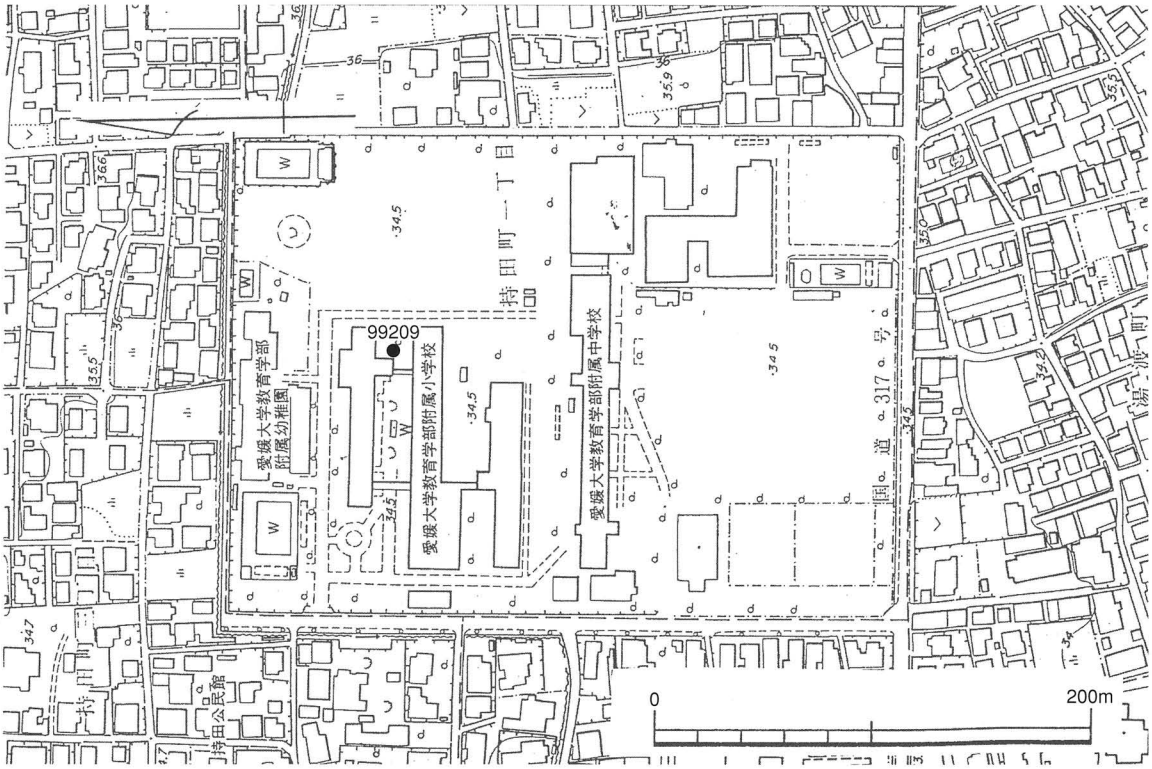


図.38　1992年度 持田団地調査地点（縮尺 1/3,500）

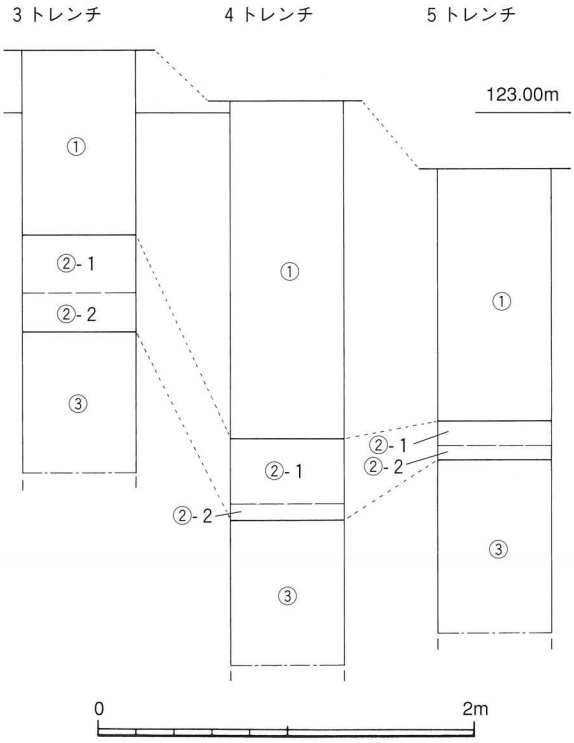


図.39　99210-3～5トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

写真.23　99210-5トレンチ土層断面

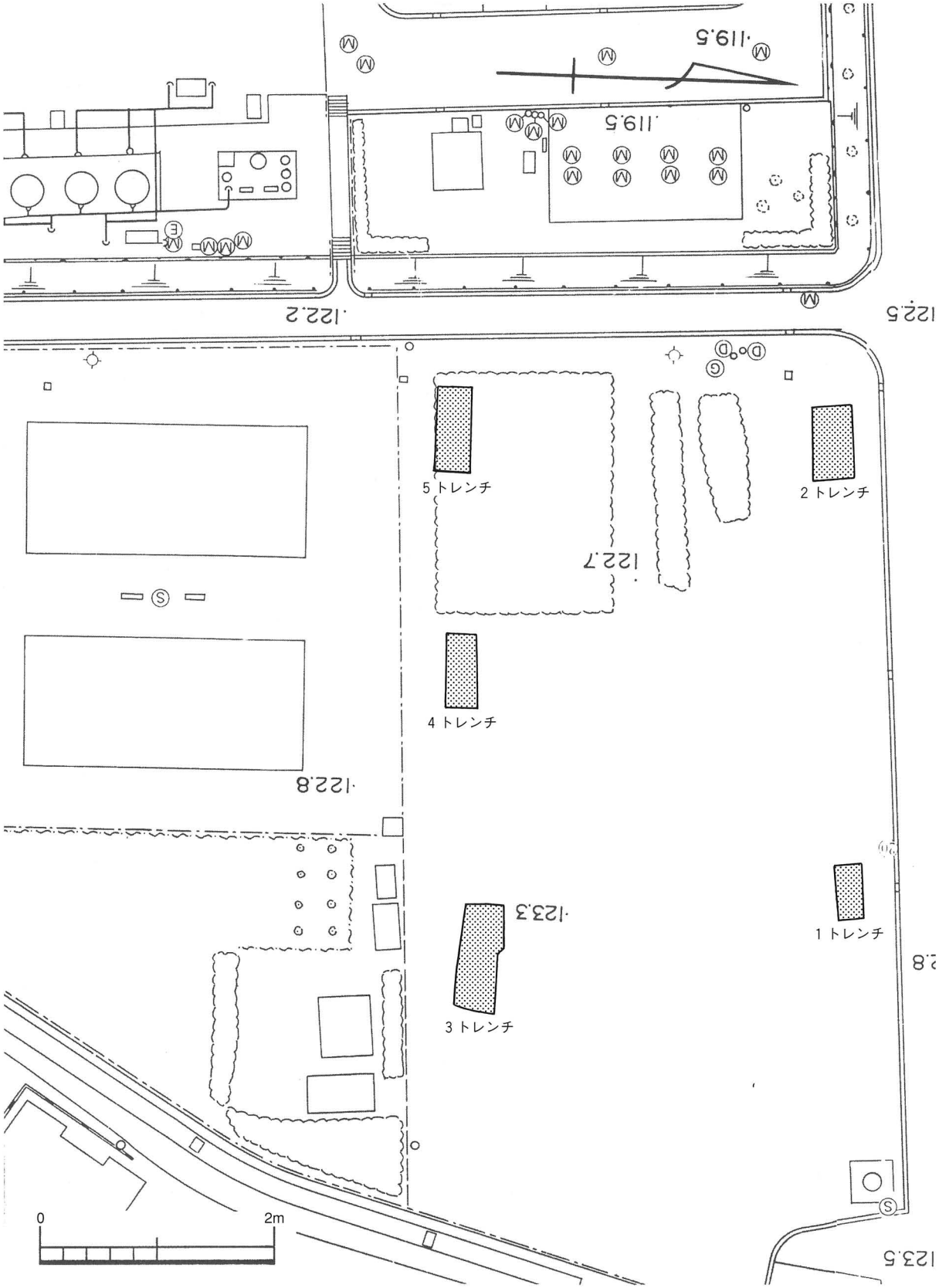


図.40　99210調査地点位置図（縮尺 1/500）

99210　医学部附属病院駐車場取設工事に伴う調査

調 査 地 点：温泉郡重信町大字志津川
　　重信団地(図.29)
調 査 面 積：40㎡
調 査 期 間：1993年10月27日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄

重信団地東半部分に設置されている医学部附属病院の駐車場が整備されることとなった。重信団地における既往の調査は、医学部附属病院病歴室新営工事に伴う試掘調査(調査番号：99204)のみであり、埋蔵文化財分布の有無さえ把握できていない。そこで、工事に先立って試掘調査を実施することになった。

駐車場敷地の北辺に2ヶ所、南辺に3ヶ所のトレンチを設定した(図.40)。ただし、1・2トレンチでは、配管が埋設されていることから調査を途中で中止せざるをえなかった。

3～5トレンチでは、厚い造成土である表層の①層下に、暗灰色シルト層、黄茶褐色粘質土層がみられる。遺物は出土しなかったが、造成以前の旧水田層と考えられる。②層と一括し、上部の暗灰色シルト層を②-1層、下部の黄茶褐色粘質土層を②-2層とした。②層の下位には、厚い暗灰色の砂礫層が堆積している。拳大の花崗岩の円礫層や砂層が互層でみられる。重信団地が位置する扇状地を構成する礫層である。③層とした(図.39、写真.23)。

99211　1992年度構内遺跡確認調査（その2）

調 査 地 点：温泉郡重信町大字志津川
　　重信団地(図.29)
調 査 面 積：54.6㎡
調 査 期 間：1993年1月20日～1993年1月21日
調査の種別：確認調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保

重信団地では、来年度以降、附属病院病歴室の新営工事や、医学部看護学科の校舎建設が計画されている。ところが、団地敷地内の調査は、1992年度に実施された試掘調査(調査番号：99204)と確認調査(調査番号：99210)の2件のみである。調査範囲も狭いために、遺構や遺物は出土していない。99210地点では、造成以前の旧水田層の直下には扇状地の礫層があらわれる。しかし、99204地点では、扇状地を構成する礫層群の上面に比較的安定した環境を物語る粘質土(99204調査地点の④層)がみられた。その上面では砂層が確認され、水路あるいは自然流路などの遺構であることが考えられる。こうした比較的安定した土層を鍵層として、その広がりを把握することで、一定程度の埋蔵文化財の分布状況を把握できると考えた。そこで、1992年度の大学敷地内における遺跡範囲確認調査として、すでに実施している持田団地に加えて、重信団地の調査を行うこととした。

重信団地の西辺に沿って4ヶ所の調査トレンチを設定し、北から1～4トレンチとした。各トレンチを通じて、土層は、上位から表土の造

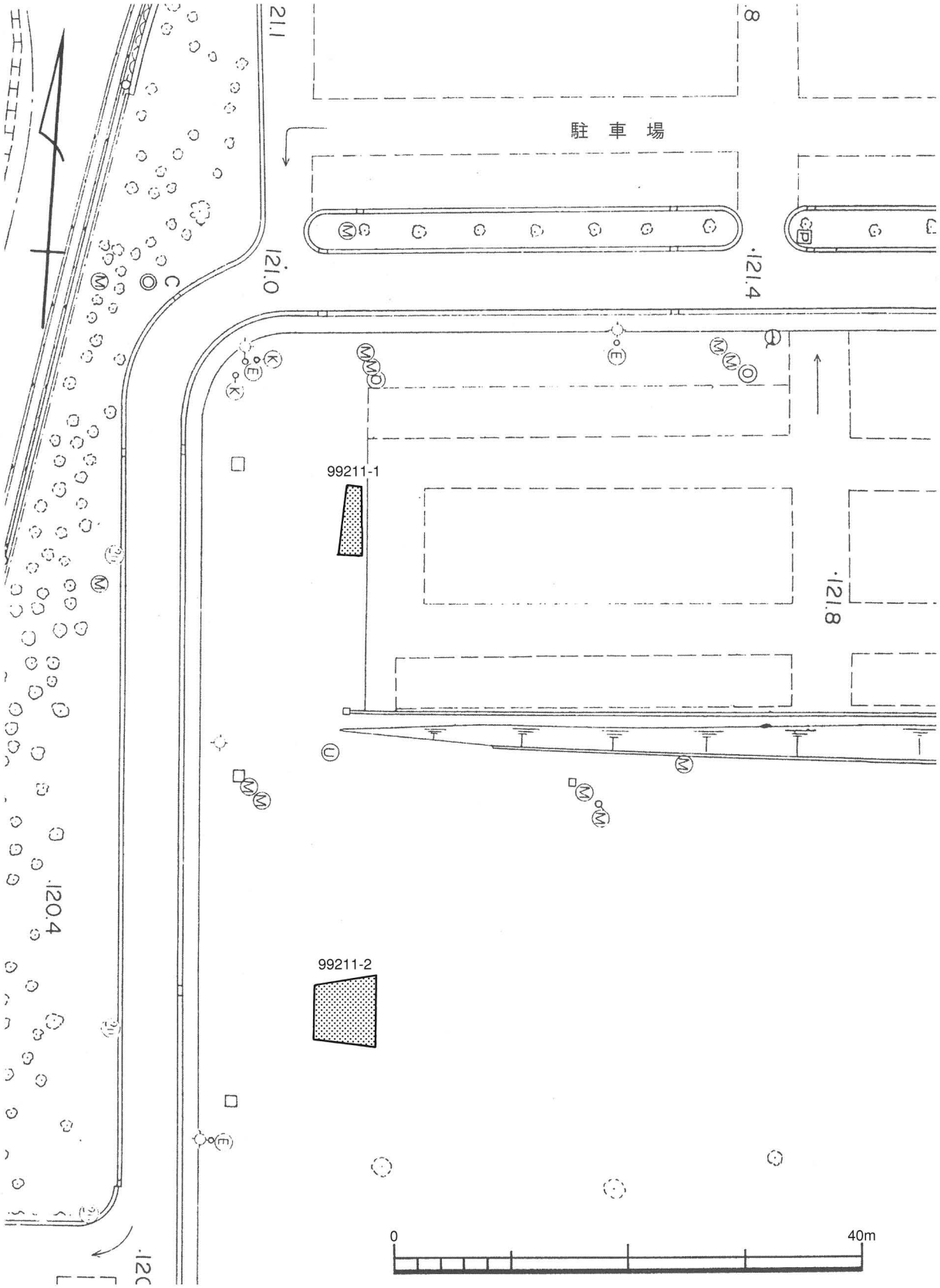


図.41　99211-1･2トレンチ位置図（縮尺 1/500）

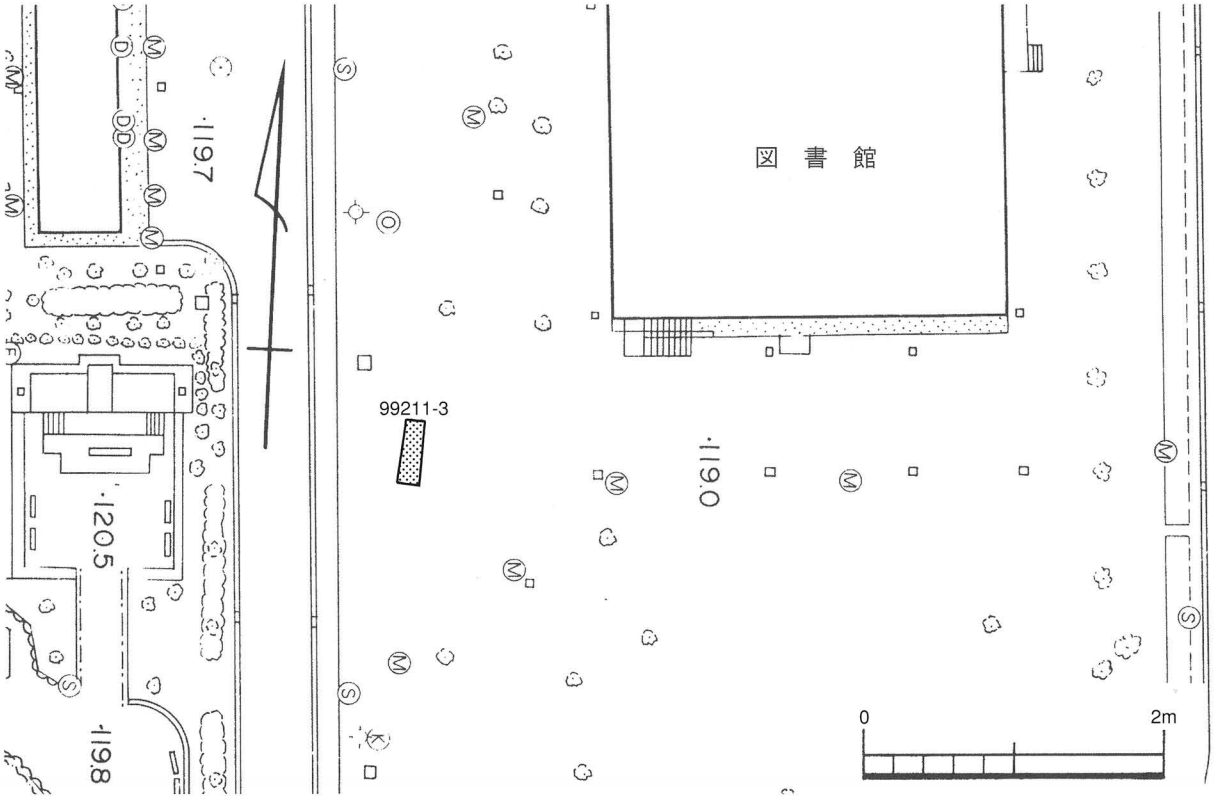


図.42 99211-3トレンチ位置図（縮尺 1/500）

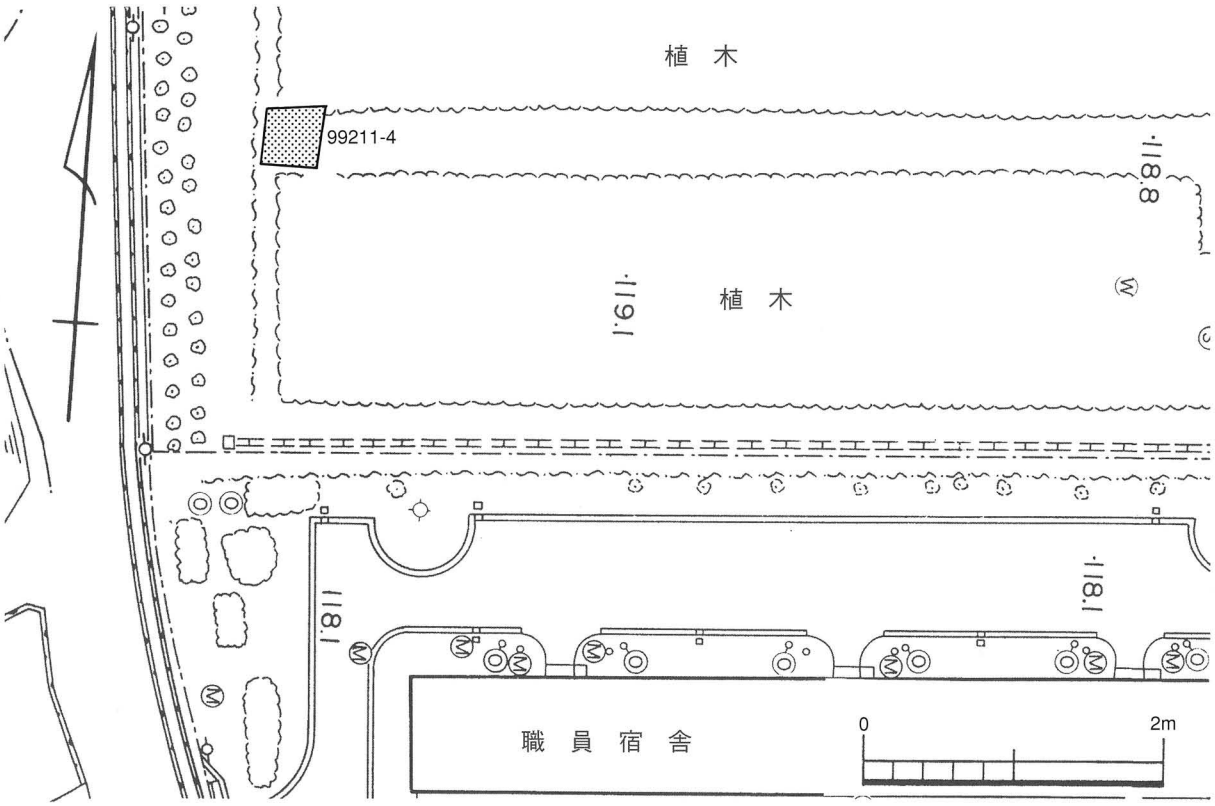


図.43 99211-4トレンチ位置図（縮尺 1/500）

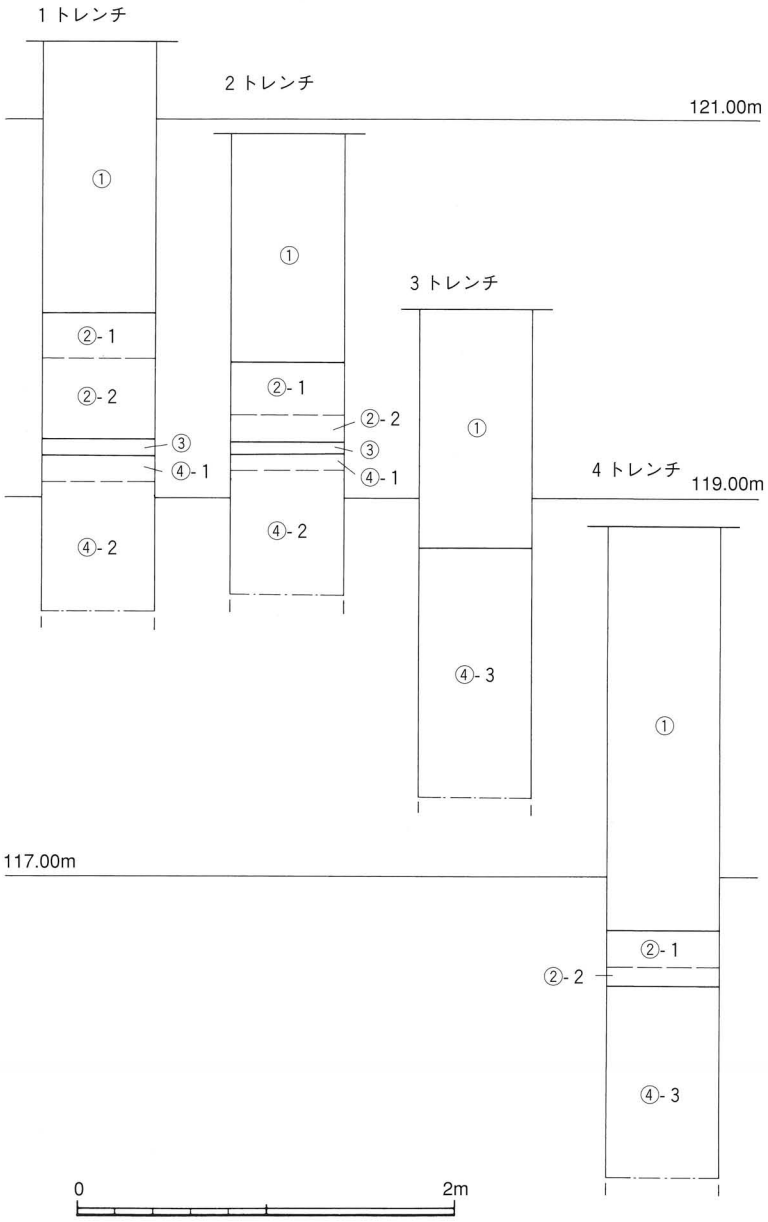


図.44　99211-1～4トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

写真.24　99211-2トレンチ土層断面

写真.25　99211-4トレンチ土層断面

成・客土部分の①層、造成以前の旧水田層である②層、比較的安定した環境を示す粘質土の③層、扇状地を構成する礫層の④層に大別できる。以下、この基本層位に沿って、各トレンチでの調査結果を報告する。

［1トレンチ］

団地敷地の北西角に位置する(図.41)。表土部分の①層下には、造成以前の旧水田層の耕作土部分であるオリーブ黒色の粘質土層(②-1層)と、床土部分である礫がほとんど混じらないマンガンが

沈着したオリーブ褐色粘質土層(②-2層)がみられる。②層の下層、現地表下2.2mで、オリーブ褐色の粘質土層の上面を確認した。下層は花崗岩の円礫混じりの土層に変化する。さらに下層には、人頭大～拳大の円礫を多く含む礫層に変化する。しかし、礫がぎっしり詰まった状態ではなく、黒褐色の粘質土が多くまじる。上位のオリーブ褐色の粘質土層を③層、下位の円礫混じりの土層を④-1層、礫層を④-2層とする(図.44)。

［2トレンチ］

1トレンチの南40mほどの地点に設定した(図.41)。表土層の①層、旧水田層の②層を掘り下げると、花崗岩の円礫が少量混じるオリーブ褐色の粘質シルト層の③層があらわれた。トレンチを拡張し、遺構の検出を試みた。しかし、遺物・遺構ともに出土しなかった。③層下には、1トレンチの④-1層と比べて黒味を帯びた砂質シルト層、黒褐色の砂礫層が堆積している(図.44、写真.24)。

［3トレンチ］

団地西辺のほぼ中央部分、図書館の北西側に設定した(図.42)。造成・客土部分である①層を掘り下げると、拳大～人頭大の花崗岩の円礫からなる礫層があらわれた。1・2トレンチの④-2層と比べて、礫がぎっしり詰まっている。④-3層とした。①層の下面から湧水があり、トレンチの壁が崩れやすくなっているため深堀を中止した(図.44)。

［4トレンチ］

団地敷地の南西角にある職員宿舎の北側に設定した(図.43)。前述の3トレンチでは造成以前の旧水田層である②層はみられなかったが、4トレンチでは現地表下2.1mで②層を確認した。その下層には、1・2トレンチで確認した③層はみられず、人頭大～拳大の花崗岩の円礫がぎっしり詰まった暗オリーブ褐色の礫層がみられる。3トレンチの④-3層と対応する礫層である(図.44、写真.25)。

今回の調査では、1・2トレンチで標高119.1m前後でオリーブ褐色の粘質土層を検出した。前述したように、比較的安定環境を示す土層である。しかし、今回の調査では、遺構は検出できなかった。3・4トレンチでは、造成以前の旧水田層の直下には氾濫性の礫層が堆積している。これまでの調査では、団地北半部の附属病院外来病棟の北側に位置する99204調査地点で、今回の調査で確認できた扇状地性の礫層の上面にみられる比較的安定した粘質土層の広がりを確認している。これに対して、団地中央の東寄りに位置する99210調査地点では、この土層はみられず、今回調査の3・4トレンチと同様な堆積がみられる。オリーブ褐色の粘質土層の広がりを遺跡の可能性がある範囲とすれば、附属病院病棟より以南には、埋蔵文化財は分布していないものと考えられる。

99212　城北団地情報通信設備工事に伴う調査

調査地点：松山市文京町3番
　　城北団地(図.25)
調査面積：11.8m²
調査期間：1993年3月8日～1993年3月9日
調査の種別：立会調査
調査担当：田崎博之
調査補助：宮崎直栄・高原美保
図版篇図幅：図幅18（J4-20）
　　図幅24（J4-25）

城北団地における情報通信設備工事に伴って、既設の共同溝から工学部本館と教養部本館へ通信ケーブルを取設することとなった。施設部と協議を行い、工事に伴う掘削深度を埋蔵文化財に影響がないように浅く設定するように申し入れ、掘削深度が深い部分についてのみ立会調査を実施することとなった。

今回の調査地点は、工学部本館北側と教養部本館東側の２ヶ所である。前者の地点を１トレンチ、後者を２トレンチとした。調査結果は以下の通りである。

［１トレンチ］

城北団地の南半部、工学部本館北側に位置する。既設の配管によって、調査範囲の大部分が攪乱されていた。表土である造成土部分のⅠ層を掘り下げると、トレンチの中央部分で、灰黄褐色砂質シルト層があらわれた。下部にはマンガン・鉄が沈着している。城北団地全体の基本層序のⅡ層にあたる造成以前の旧水田層である。遺物は出土していない。

現地表下60～75cmで、黒褐色砂質シルト層が

写真.26　99212-1トレンチ（北から）

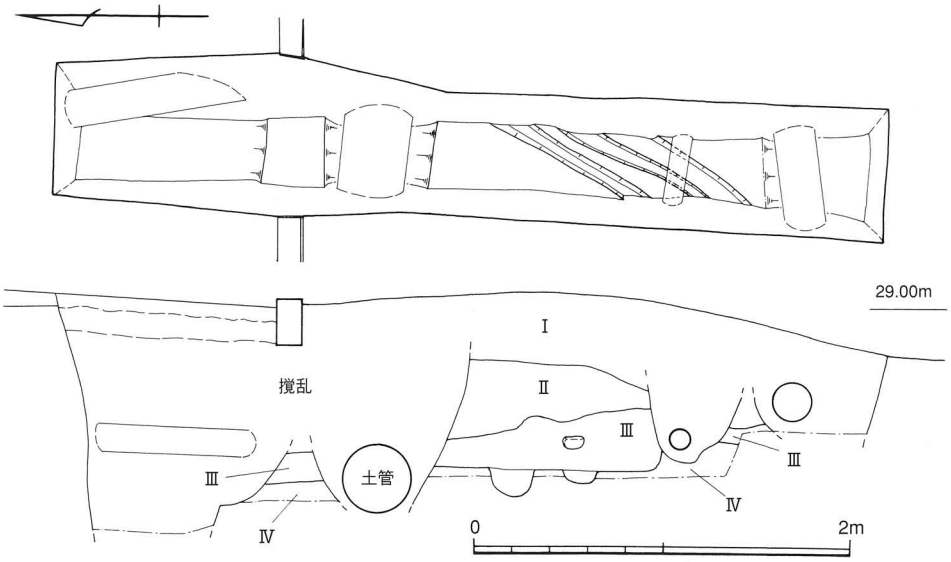


図.45　99212-1トレンチ（縮尺 1/40）

あらわれた。親指大の炭化物を多く含み、弥生土器の細片が含まれている。基本層序のⅢ層に対応する。工事の中断を指示し、人力で精査することとした。上・中・下層に人為的に分層して、現地表下90～95cmまで掘り下げた。上～中層からは弥生時代中期中頃～後半の甕・高坏や凹石などが出土した。大形の破片が目立つ。下層からは磨滅が著しいものの、縄文土器と考えられる破片が出土した。Ⅲ層下は、にぶい黄褐色シルト層で、基本層序のⅣ層である。調査区南端で、にぶい黄褐色シルト層の立ち上がり部分を土層断面で確認し、弧状にのびる幅20cm前後の溝を検出した。円形の竪穴式住居跡の一部と考えられる(図.45、写真.26)。

［2トレンチ］

教養部本館の東側に位置する。2トレンチも攪乱が著しい。表土層のⅠ層を掘り下げると、現地表下30cmで、黄灰色砂質シルト層があらわれた。近世以降の磁器染め付け碗が出土した。近世以降の旧水田層で、基本層序のⅡ層にあたる。

Ⅱ層下の現地表下55cm以下は、黄褐色系の砂礫層が続き、98cmでにぶい黄褐色の砂質シルトを確認した。にぶい黄褐色砂質シルト層の上面で、溝状にのびるオリーブ黒色の砂礫層(SX-01)・土壙(SK-02)と小穴(SP-03)を検出した。SP-03の上面から縄文時代晩期末(凸帯文土器期)の甕口縁部破片が1点出土した。2トレンチでは工事による掘削面が現地表下1mに設定されているので、西端部のみで遺構上面を確認・記録をとって調査を終了した(図.46、写真.27)。

写真.27　99212-2トレンチ（北東から）

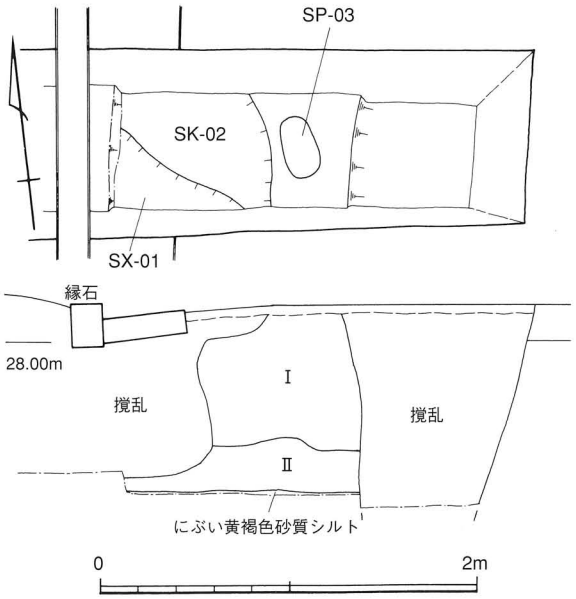


図.46　99212-2トレンチ（縮尺 1/40）

99213　医学部附属病院病歴室新営工事に伴う調査（その2）

調 査 地 点：温泉郡重信町大字志津川
重信団地(図.29)
調 査 面 積：6.8m²
調 査 期 間：1993年3月22日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之

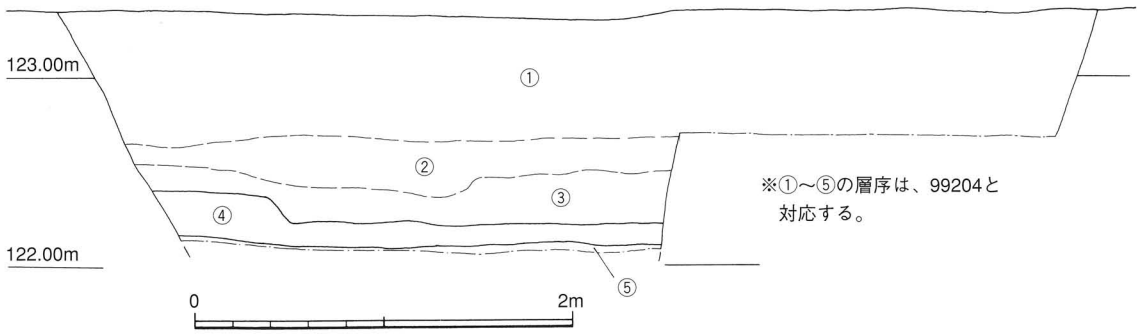


図.47　99213 土層断面図（縮尺 1/40）

調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保

年度当初に実施した医学部附属病院病歴室新営工事に伴う試掘調査(調査番号：99204)の2度目の調査である。今回は、前回設定したトレンチの北東側に近接して、比較的広く調査範囲を設けて、遺構の有無を確認することに努めた(図.30)。しかし、遺構が存在する可能性をもつ茶褐色粘質土層(調査番号：99204の④層)の上面では、遺構は検出されず、遺物も出土しなかった(図.47、写真28)。

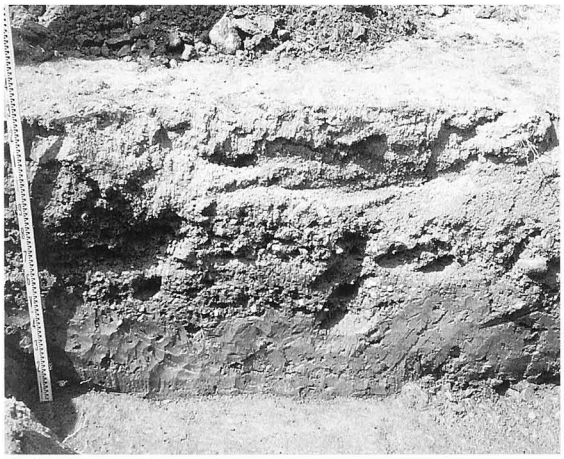


写真.28　99213 調査トレンチ土層断面

99214　樽味団地自転車置場取設その他工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市樽味3丁目5番7号
樽味団地(図.24)
調 査 面 積：3.3㎡
調 査 期 間：1993年3月23日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保

樽味団地北半部のテニスコート北側に接して自転車置場が取設されることとなった。工事予定地は、樽味遺跡1次調査(調査番号：98704)地点が隣接している(図.5)。調査結果では、地表下40～50㎝に遺物を包含する暗褐色土層が確認されている。施設部と協議を行い、工事に伴う掘削を遺物包含層の上面にとどめることになり、立会調査を実施することとした。

表土の造成土であるⅠ層を掘り下げると、1次調査地点で調査された遺物を包含する暗褐色土層のⅢ層はみられず、Ⅳ層の黄褐色シルト層があらわれた。Ⅳ層の上面の標高44m前後で1次調査で調査された溝の延長部分や小穴を確認した。小穴の埋土は、ほとんどが樽味遺跡2次調査の14～15世紀の掘立柱建物の柱穴と近似した土質・土色で、やや灰色味がかった黒褐色粘

写真.29　99214 調査区全景（北西から）

写真.30　99214 調査区（北東から）

質シルトである。１次調査地点でも、やはり14～15世紀のＬ字形に折れる溝が調査されており、当該期の掘立柱建物の柱となるものが含まれているものと考えられる。しかし、調査範囲が狭いために、建物を復元することはできなかった(図.48、写真.30)。

工事に伴う掘削が遺構検出面以下におよばないことから、調査は遺構の検出だけにとどめ、遺構の調査は行わなかった。

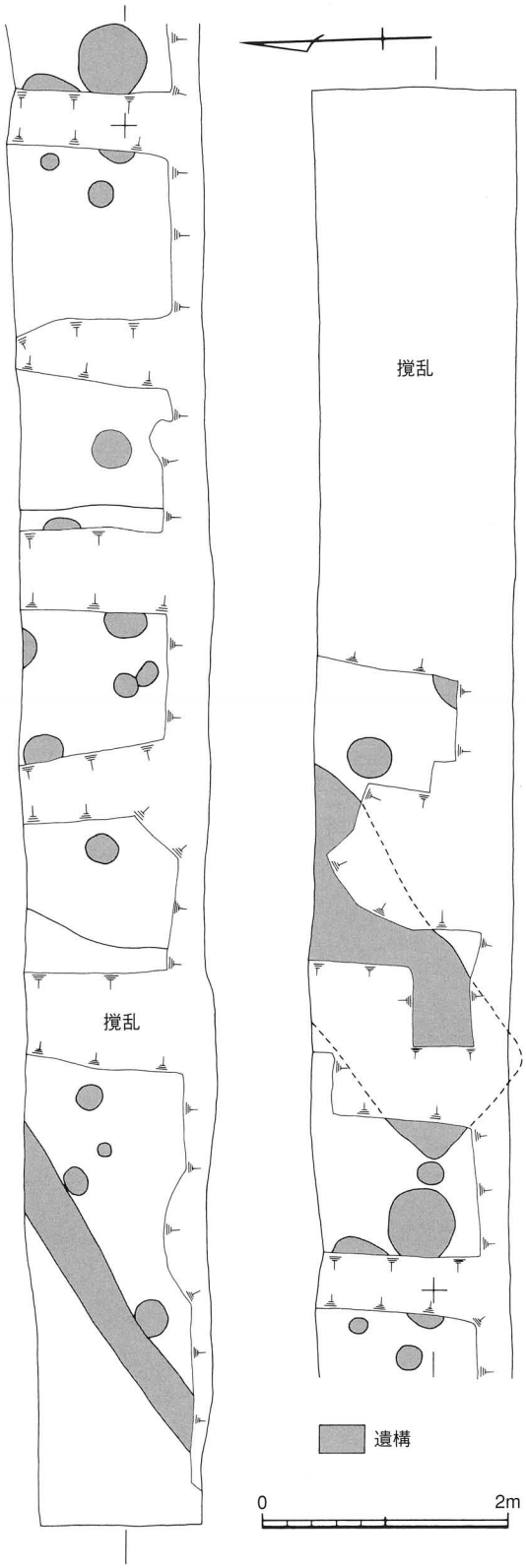


図.48　99214 遺構検出状況（縮尺 1/60）

99215　城北団地交通規制遮断機取設工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.25)
調 査 面 積：２㎡
調 査 期 間：1993年３月24日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保
図版篇図幅：図幅24（Ｊ４-25）

交通遮断機等の取設工事に伴って、西門周辺の避難器具用固定環の改修工事が行われることになり、部分的に遺物包含層を掘り下げる可能性が生じたため、立会調査を実施することとなった。

固定環が埋設される３ヶ所を１～３トレンチとした。その中で、３トレンチは既設の共同溝部分にあたり攪乱が著しかった。１・２トレンチでは、現地表下55～60cmで、城北団地全体にわたる基本層序のⅢ層である黒褐色シルトの遺物を包含する土層を確認した(図.49)。Ⅲ層を工事で破壊しないように、慎重工事を指示して調査を終了した。

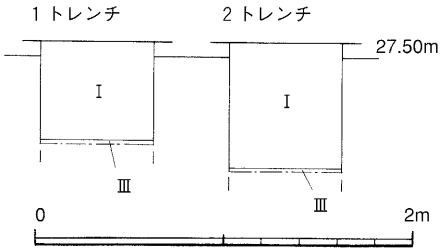


図.49　99215-1･2トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

Ⅶ 1993年度の調査

1993年度に埋蔵文化財調査室が実施した発掘調査は、附属図書館農学部分館新営工事に伴う樽味遺跡３次調査の全面調査１件、1992年度から始められた構内遺跡の確認調査１件、試掘調査・立会調査12件である。確認調査の１件は持田団地で実施した。また、試掘調査・立会調査の団地別の内訳は、城北団地６件、樽味団地５件、重信団地１件である。

その中で、試掘調査や立会調査という形式をとりながら、実体は小規模な本格的な調査である例がみられるようになり、調査体制や予算的な面などで問題化しつつある。

99301　医学部看護学科校舎新営工事に伴う調査

調 査 地 点：温泉郡重信町大字志津川
　　重信団地（図.50）
調 査 面 積：20㎡
調 査 期 間：1993年５月24日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄

医学部看護学科新設のため校舎を新営する計画が埋蔵文化財調査室に提示され、事前の試掘調査を実施することとなった。予定地は、重信団地の北東部、医学部本館と動物実験施設に挟まれた位置にある（図.51）。

調査では、校舎が新営される敷地のほぼ中央部分で東西13.5m、幅約1.5mのトレンチを設定した。表土層の造成土部分である①層を除去すると、現地表下1.17～1.25cmでオリーブ褐色粘質シルトの②層があらわれた。礫をまったく含まず、かなり安定した土層であり、遺構が営まれていることを考え、上面で機械力による掘り下げを中止し、人力で遺構の検出に努めた。しかし、遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。トレンチ西端部で、②層を部分的に掘り抜

写真.31　99301 調査状況

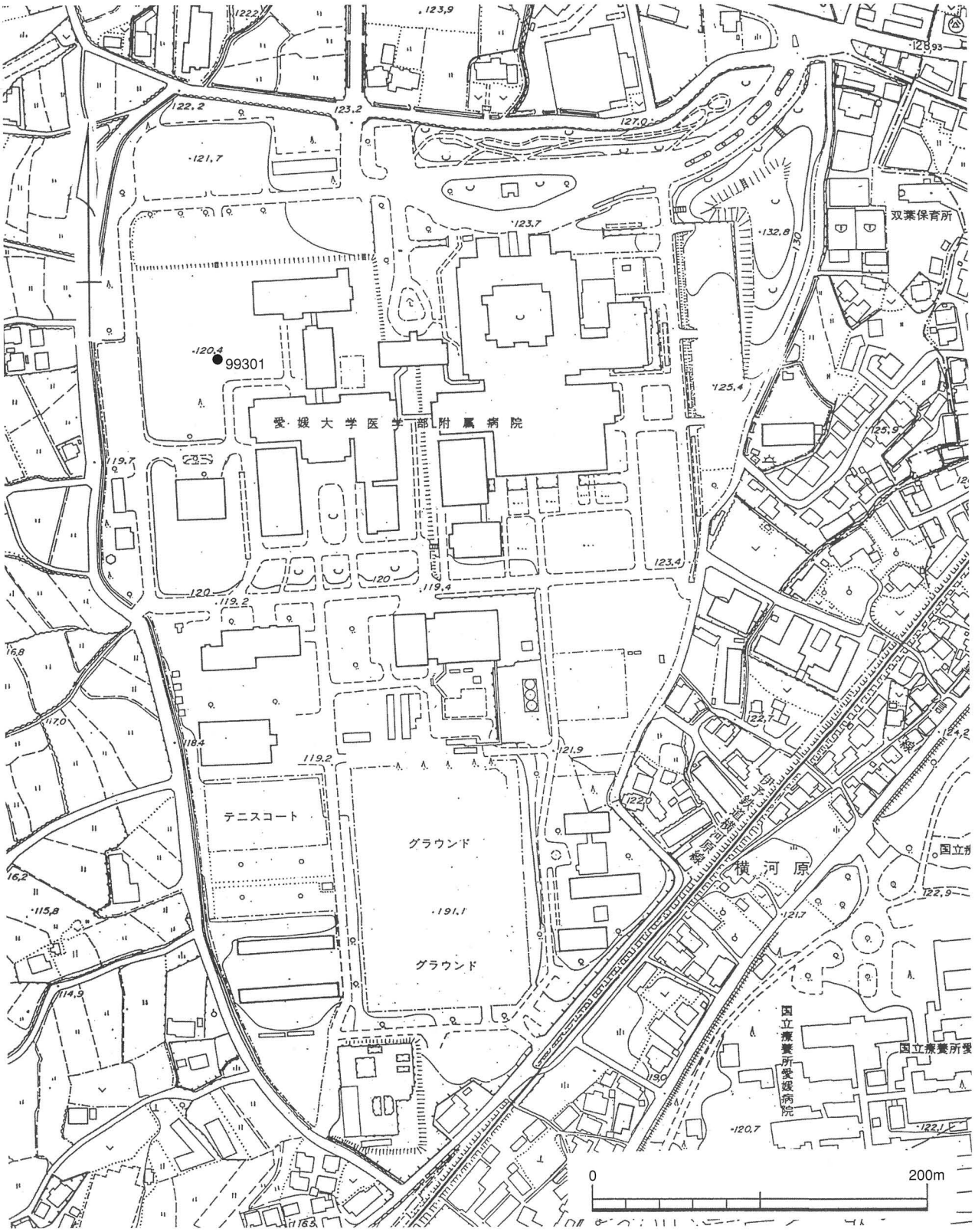


図.50　1993年度 重信団地調査地点（縮尺 1/3,500）

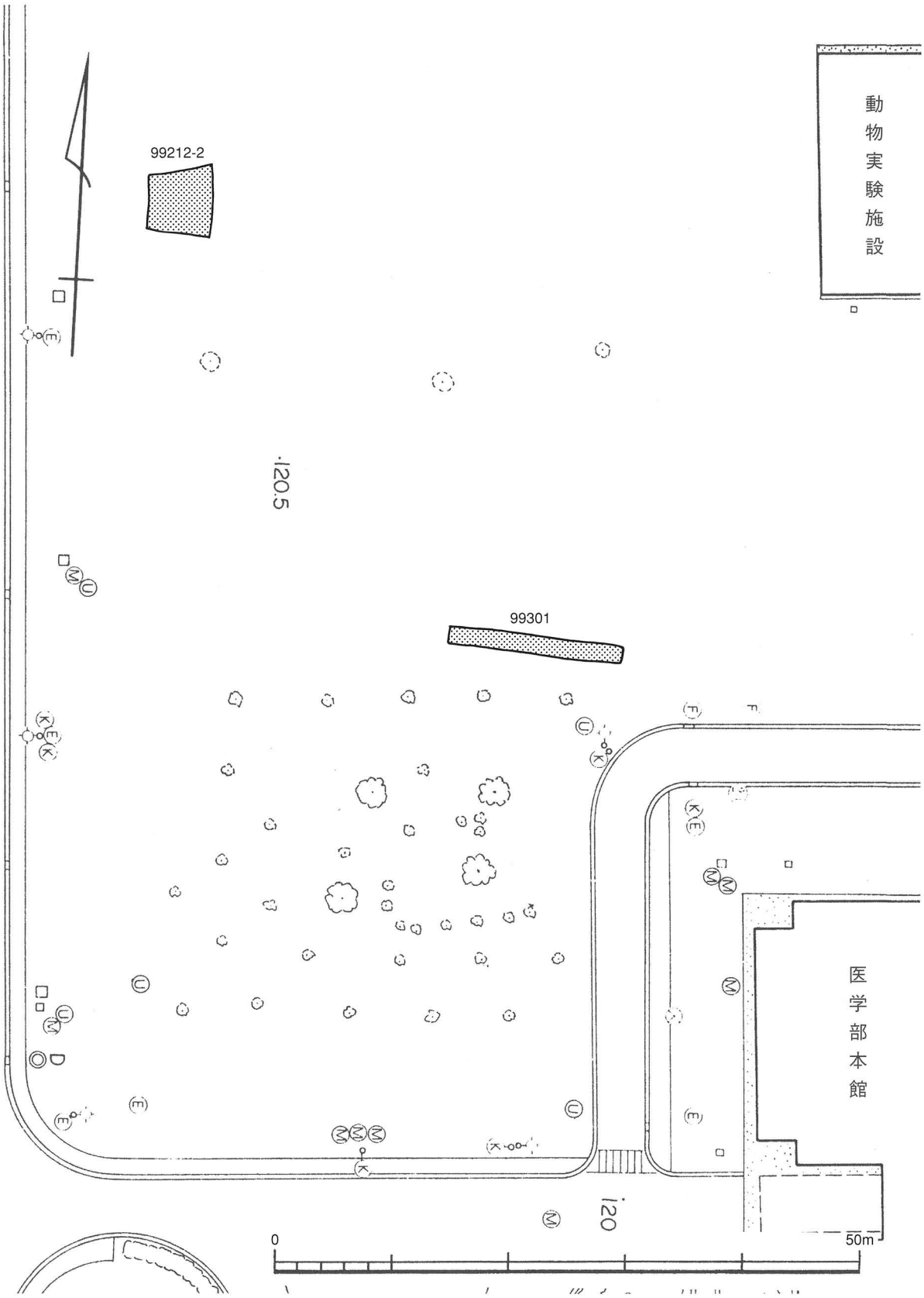


図.51　99301調査地点位置図（縮尺 1/500）

いた。②層の層厚は約27cmで、その下層には人頭大～拳大の円礫が混じる黒褐色砂礫層の③層を確認した(図.52)。

今回の調査では、遺構・遺物は出土しなかった。周辺には、1992年度確認調査(調査番号：99211)の１～３トレンチがあり、やはり、遺構・遺物は確認できていない。したがって、医学部看護学科校舎の新営予定地には、埋蔵文化財は分布していないものと考えられる。

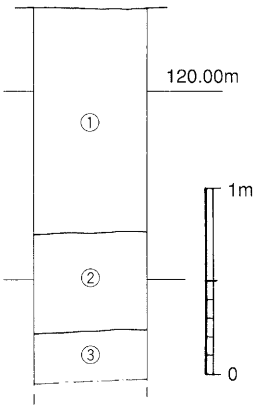


図.52　99301
調査区西端
土層柱状図
(縮尺 1/40)

99302　附属図書館農学部分館新営(樹木移植)工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市樽味３丁目５番７号
樽味団地(図.53)
調 査 面 積：14㎡
調 査 期 間：1993年６月24日～1993年６月25日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄･高原美保

附属図書館農学部分館の新営予定地には楠が植栽されており、工事に先立って移植が行われることになった。移植先の調査とあわせて立会調査を実施した。移植先を１トレンチ(地点)、予定地内の掘削地点を２トレンチ(地点)とした(図.５)。

［１トレンチ］

移植先は、樽味遺跡２次調査(調査番号：99101)が実施された農学部３号館の北側である(写真.32)。樽味遺跡２次調査では、溝で方形に区画された中世の集落遺跡が調査されている。集落は、楠の移植先も含めた周辺にひろがっていることが予想された。

調査では、機械力で、土層のⅠ層である造成土部分、下層は造成以前の旧水田層のⅡ層を掘り下げた。調査区内の南寄りと東端で建物の基礎と考えられる溝状の攪乱部分２ヶ所、北西隅に方形の攪乱壙がある(図.54、写真.33)。

遺物を包含する黒褐色シルトのⅢ層は、現地表下95～100cmで確認した。Ⅲ層は攪乱部分の壁で観察すると２～３cmと非常に薄く、広がりも部分的で、北東隅では不整形の落ち込み状の溜まりがみられた。この時点で、掘削深度を施設部と協議したが、楠を移植するには十分な深度ではないとのことで、急遽、Ⅲ層の遺物包含層と、その下層に予想される遺構の調査を行うこととなった。

Ⅲ層からは中世の遺物が少量出土した。Ⅲ層下の現地表下100cmで、にぶい黄褐色粘質シルトのⅣ層があらわれ、上面では小穴が多数検出できた。小穴からは、中世の土器類が少量出土した。埋土の状況から掘立柱建物や柵列を構成すると考えられる小穴もあり、調査地点の位置関係からも２次調査区の中世集落跡と関連する遺構が予想された。しかし、調査範囲が狭いために、掘立柱建物などの確認は出来なかった。埋土の土質･色調の記録をとりながら、遺構の精査作業を行い、遺構実測･写真撮影を行った後に、調査を終了した(図.54、写真.32・33)。

［２トレンチ］

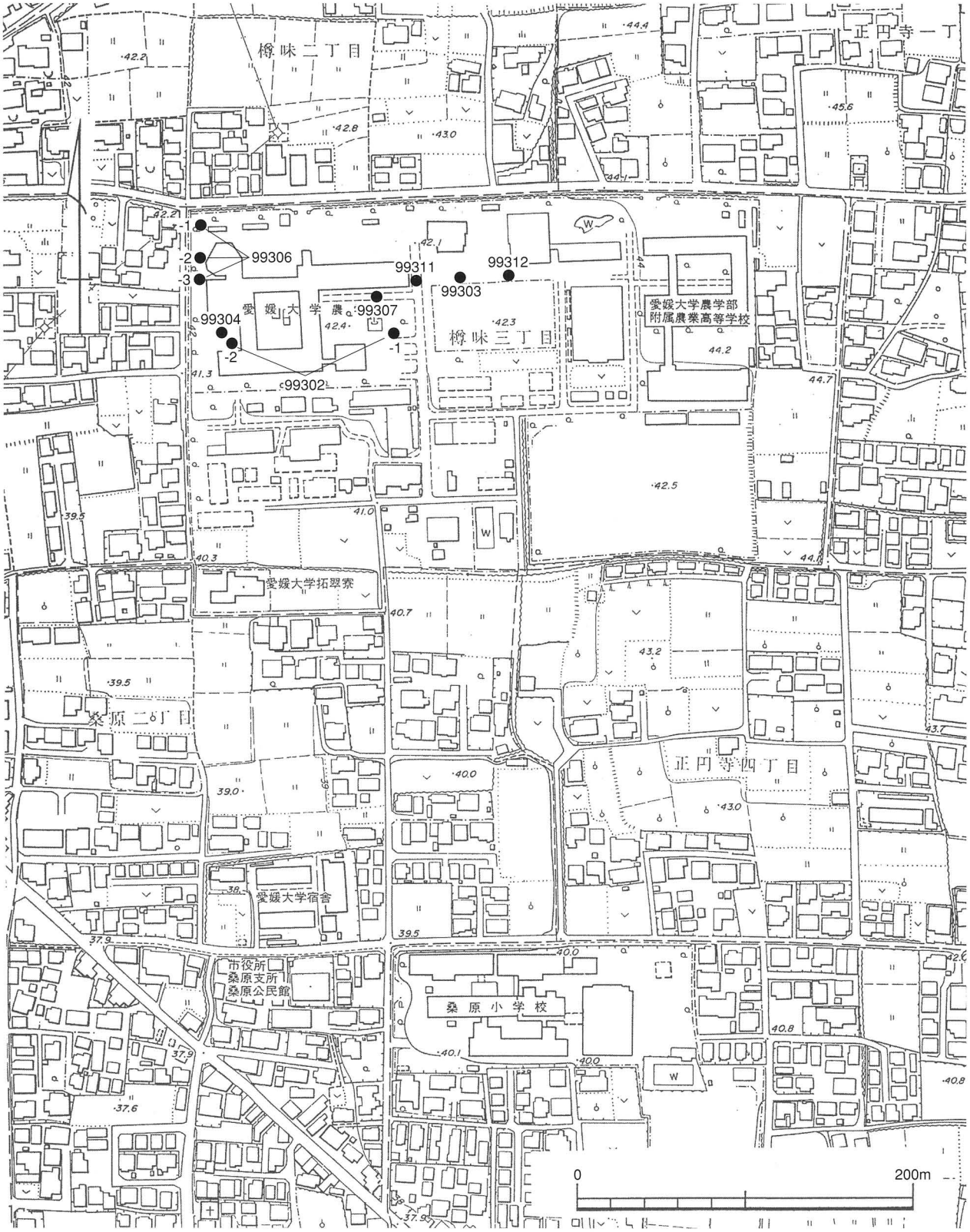


図.53　1993年度 樽味・北吉井団地調査地点（縮尺 1/3,500）

写真.32　99302調査区遠景（南西から）

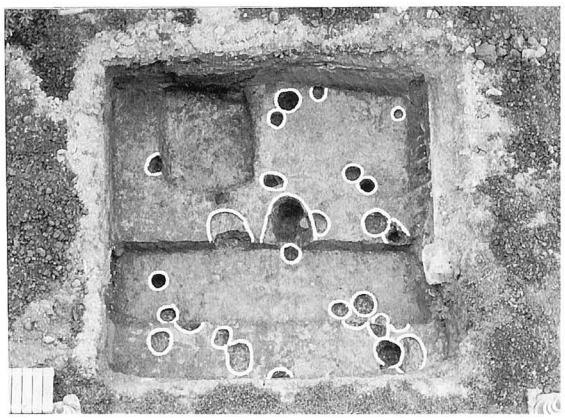


写真.33　99302調査区全景（南から）

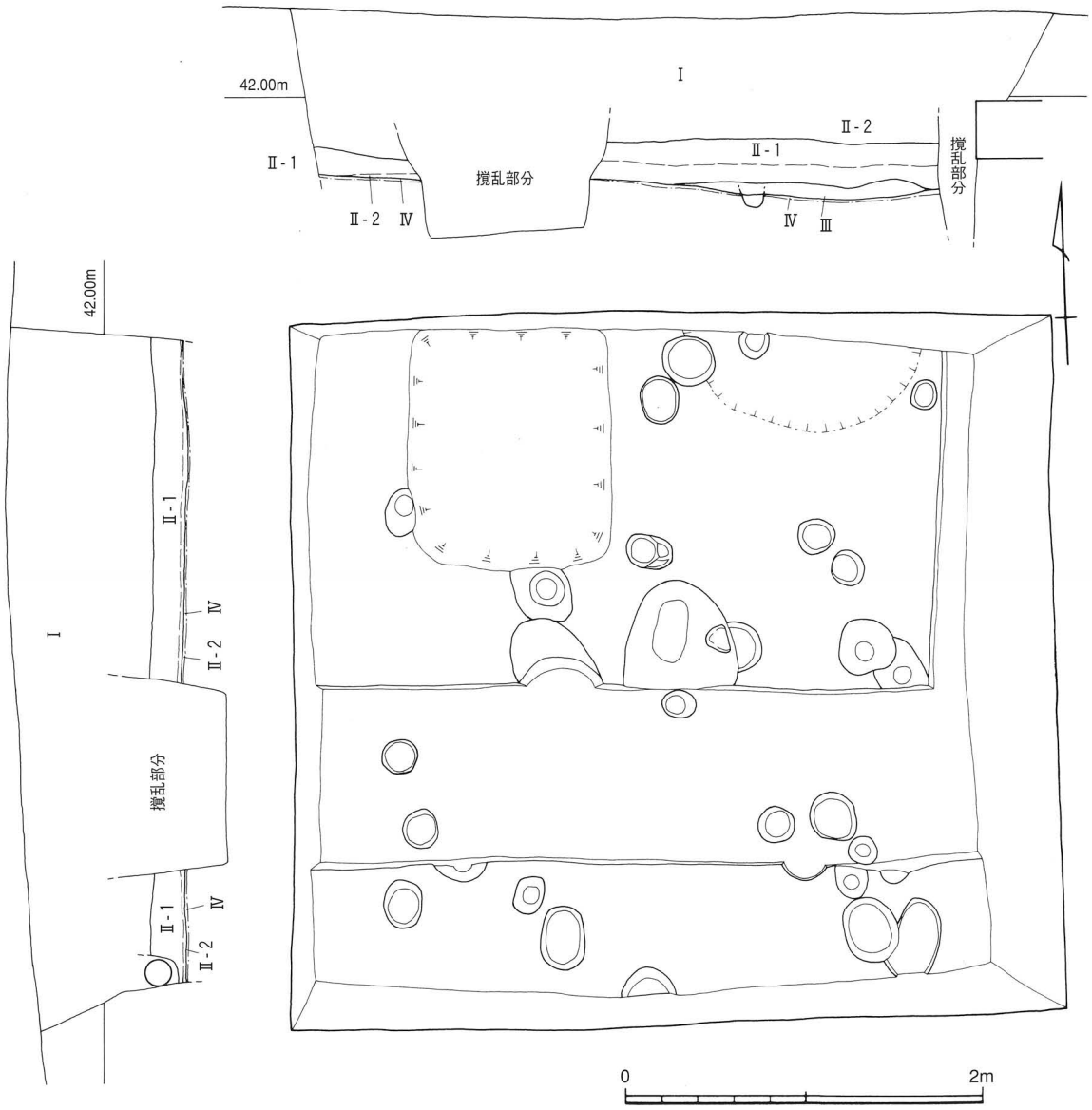


図.54　99302調査地点遺構実測図および土層断面図（縮尺 1/40）

現地表下1.5mで、遺物包含層である黒褐色シルトのⅢ層があらわれ、土師器の細片が出土し始めた。農学部の担当者などと協議を行い、根巻作業に伴う掘削をG.L-1.5m前後までとし、本格的な精査は、8月以降に予定されている本調査で行うこととした。楠を移動した後には、掘削した底面にブルーシートを敷いて埋め戻し、全面調査に備えることとした。

99303　農学部自転車置場取設工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市樽味3丁目5番7号
樽味団地(図.53)
調 査 面 積：80.8m²
調 査 期 間：1993年6月27日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保

樽味団地北部のテニスコート北側に設置されている自転車置場を東側へ増設することが計画され、工事に先立って試掘調査を実施した(図.5)。表土層のⅠ層にあたるアスファルト舗装および造成土を掘り下げると、現地表下55～85cmで褐色砂礫層のⅣ層があらわれた。Ⅳ層は西から東へ向かって次第に高くなる(写真.34)。砂礫層上面で遺構の検出に努めたが、遺構・遺物は出土していない。

写真.34　99303調査区全景（東から）

99304　附属図書館農学部分館新営工事に伴う調査（樽味遺跡3次調査）

調 査 地 点：松山市樽味3丁目5番7号
樽味団地(図.53)
調 査 面 積：258.5m²
調 査 期 間：1993年8月23日～1993年10月6日
調査の種別：全面調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保

調査地点は樽味団地の北西部に位置している(図.5)。表土層の造成土と旧水田層を除去し、現地表下1.1～1.2mで遺物を包含する黒色～黒褐色シルトのⅢ層を確認した。Ⅲ層の広がりは部分的であり、厚さも最大で20cmほどである。弥生時代前期～中世の遺物が出土したが、もっとも量が多いのは、古墳時代の5～6世紀の遺物である。

Ⅲ層を掘り下げ、暗褐色～黄褐色粘質シルト層であるⅣ層の上面で、古墳時代5～6世紀の遺構を検出した。竪穴式住居跡7棟、掘立柱建物跡2棟、溝1条、土壙7基など、調査面積が狭いわりに多くの遺構を確認できた(図.55、写真.35～37)。3次調査地点から西へ120～130m

離れた樽味高木遺跡や樽味四反地遺跡などでも、同時期の竪穴式住居跡や掘立柱建物などが調査されている。これらの地点と同じく、樽味遺跡３次調査地点の遺構の密度は高く、樽味団地西半部を中心として古墳時代の集落遺跡が展開していることが考えられる。

以下、調査の詳細は、1996年度に刊行された愛媛大学埋蔵文化財調査報告書Ⅵである『樽味遺跡Ⅲ』を参照されたい。

写真.35　99304（樽味遺跡３次調査）調査状況

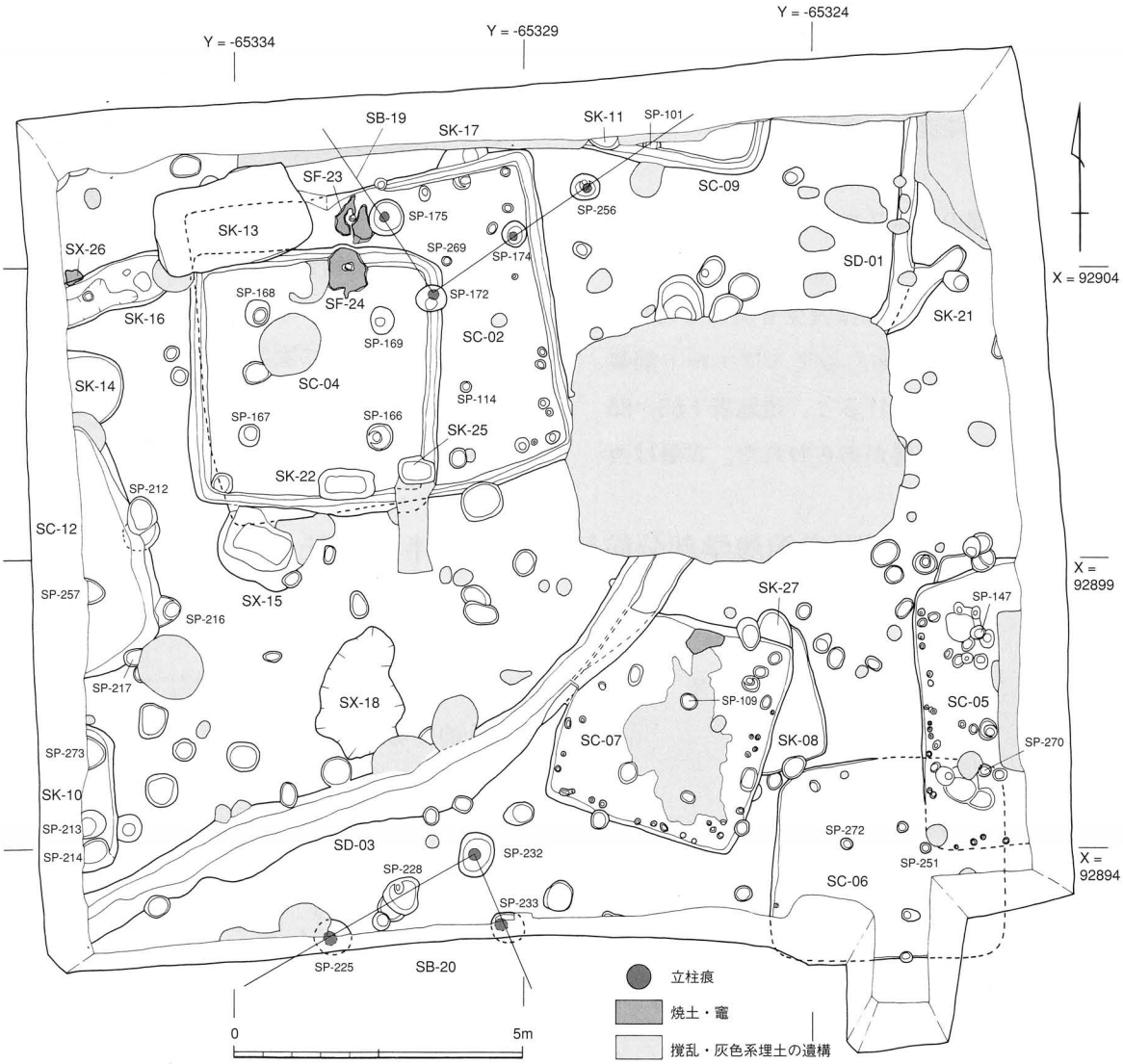


図.55　99304（樽味遺跡３次調査）調査区全体図（縮尺 1/250）

写真.36　99304（樽味遺跡３次調査）調査区全景（南から）

写真.37　99304（樽味遺跡３次調査）SC-02・04（西から）

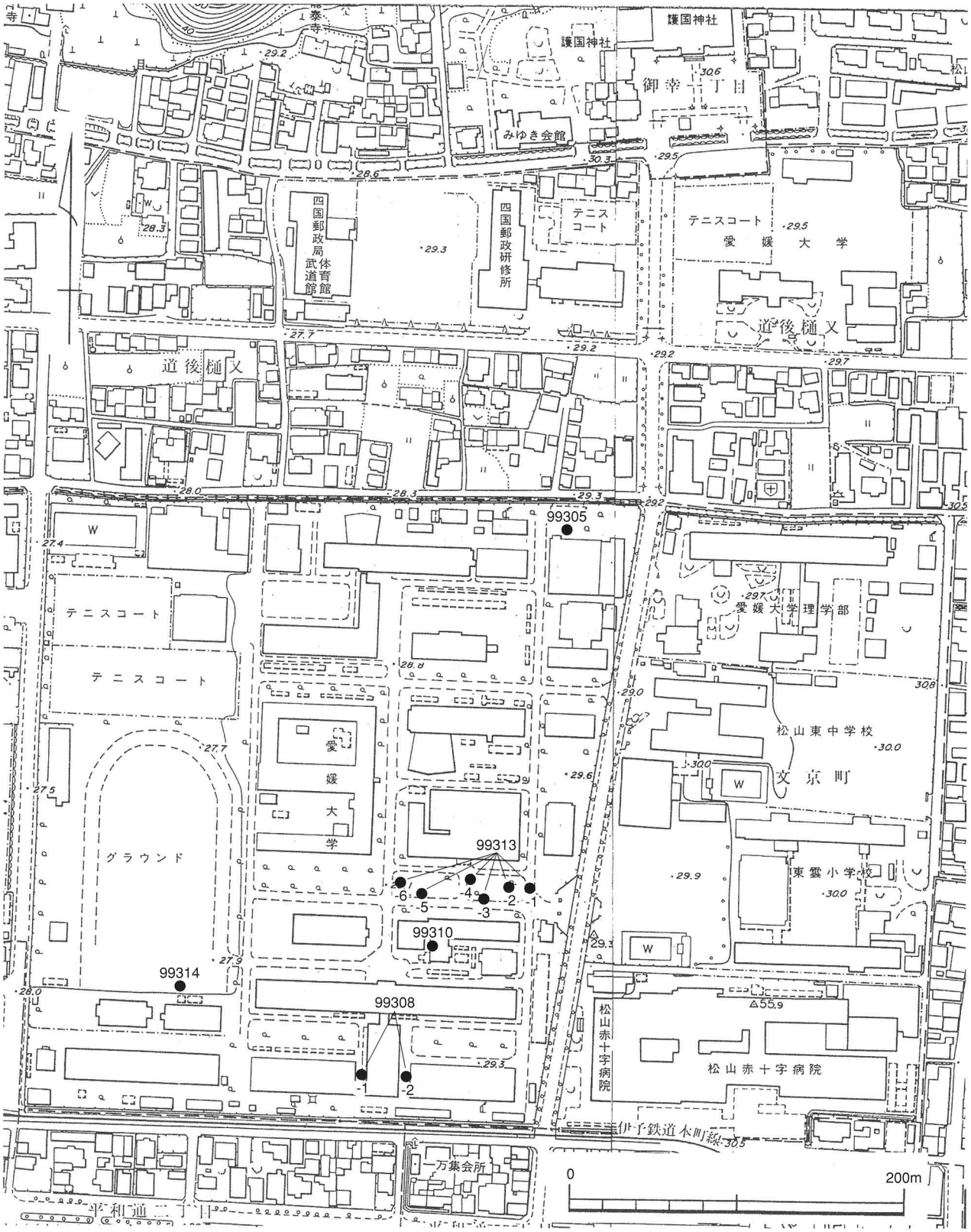


図.56　1993年度 城北団地調査地点（縮尺 1/3,500）

99305　城北団地大学会館廻り道路整備(樹木移植)工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.56)
調 査 面 積：２㎡
調 査 期 間：1993年11月９日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保
図版篇図幅：図幅18（Ｊ４-20）

大学会館廻り道路整備に伴って樹木が移植されることとなった。移植に際しては、現地表下50～60㎝で掘削面が計画されていたが、周辺では既往の調査がなく、埋蔵文化財の分布を判断するデータを収集するために、工事に立ち会って調査を実施することとした。

調査地点は、城北団地の北部、大学会館の北側に位置する。表土にあたるⅠ層は、造成土の真砂土のⅠ-1層と、暗緑灰色の砂質シルトからなる。下層には、小礫を多く含むオリーブ褐色の細砂が薄い縞状に互層で堆積している。５㎜大の炭化物片を含む。流水による堆積物と考えられ、Ⅰ-3層としてⅠ層の中にまとめた。

Ⅰ層の下層、現地表下55～60㎝で、造成以前の旧水田層であるⅡ層を確認した。また、Ⅱ層の下層には、暗オリーブ褐色の粘質シルト層がみられ、オリーブ褐色の微細砂礫を含む粘質シルト層へと漸移的に変化する。遺物は出土していない。この土層は、1996年度に実施した確認調査(調査番号：99602)で、城北団地の北半部を東西に走る谷状地形の窪地部分に堆積する土層群であることが確認されている。そこで、造成以前の旧水田層をⅡ-1層、下層の暗オリーブ褐色粘質シルト層をⅡ-2層とした。

また、Ⅱ-1層は①～⑤層に分層できる。①層は、オリーブ褐色の砂質シルト層で、1～2㎝大の小石や炭化物細片をごく少量含む。水田土壌か？　下部の1/4ほどには鉄・マンガンの沈着がみられる。②層は、黄褐色砂質シルト層で、①層と比べて粘性がある。下層の③層へは漸移的に変化する。水田耕作土層か？　③層は、黄褐色の粘質シルト層で、マンガンが沈着する。

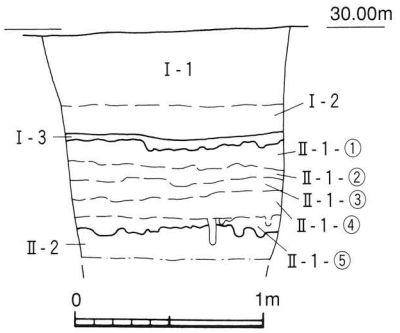


図.57　99305土層断面図（縮尺 1/40）

写真.38　99305調査地点土層断面

②層の床土部分。④層は、灰オリーブ色の粘質シルト層で、砂礫が下部に混じる。水田層と考える。⑤層は、暗オリーブ褐色の粘質シルト層で、粘性が強い。以上の観察から、3枚以上の水田層が重なっているものと考えられる。出土遺物はない(図.57、写真.38)。

99306　附属図書館農学部分館新営(外灯設備管路)工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市樽味3丁目5番7号
樽味団地(図.53)
調 査 面 積：3㎡
調 査 期 間：1993年11月24日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄

附属図書館農学部分館新営工事に伴って外灯設備が取設されることとなった。取設予定地は、樽味団地の北西角で、隣接する樽味遺跡3次調査(調査番号：99304)の成果から、何らかの遺構が分布することが予想されたので、事前に試掘調査を実施することとなった。

調査地点は、外灯設備管路上および外灯設置地点の3ヶ所で、北から順番に1～3トレンチとした(図.5)。

1・2トレンチは外灯設備管路上にあたる。1トレンチでは現地表下88㎝、2トレンチでは77㎝で、樽味団地全体にわたる基本層序のⅢ層にあたる黒褐色土層の上面を確認した。管路部分の掘削は、現地表下60㎝に設定されており、工事によってⅢ層が破壊されないと判断し、慎重工事を指示した。

3トレンチは外灯が設置される地点である。表土にあたる造成土のⅠ層、造成以前の旧水田層であるⅡ層を掘り下げ、現地表下75㎝でⅢ層上面を確認した。この部分については、掘削深度が1.4mであるので、Ⅲ層の調査と、下層のにぶい黄褐色のしまった粘質シルト質であるⅣ層上面での遺構の検出に努めた。その結果、遺構の一部と考えられる黒色シルト質土の落ち込

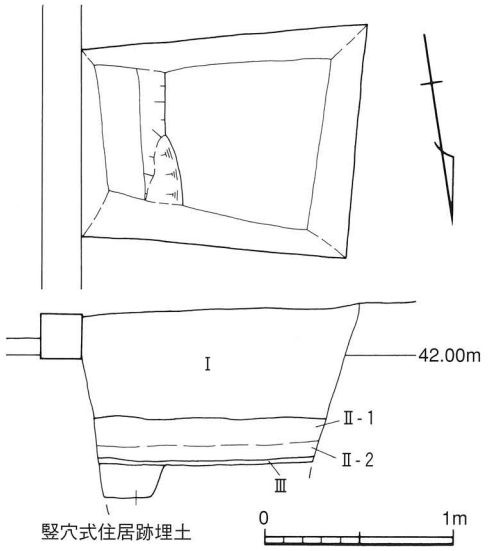


図.58　99306-3トレンチ平面図・土層断面図
(縮尺 1/40)

写真.39　99306-3トレンチ

みが発見された(図.58、写真.39)。落ち込みは、15～20cmの深さで、炭化物の小塊や拳大～親指先大の風化が進んだ花崗岩の礫石が混じる。土師器の細片が少量出土した。落ち込みの肩部が直線的であること、底面がほぼ水平で、壁の立ち上がりが垂直に近いことから、樽味遺跡３次調査地点でも発見されている竪穴式住居跡の一部分と考える。

99307　城北団地他情報通信電気設備工事に伴う調査（その１）

調 査 地 点：松山市樽味３丁目５番７号
　　樽味団地(図.53)
調 査 面 積：７㎡
調 査 期 間：1993年11月24日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄

工事地点は、樽味団地北部の農学部本館南側に隣接する地点である(図.５)。工事に伴う掘削作業に立ち会った。掘削は、現地表下面70cmまで行われたが、本館建物を建設する際の余掘り部分にあたるためか、攪乱が著しく、遺構・遺物は出土しなかった。

99308 城北団地他情報通信電気設備工事に伴う調査（その２）

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.56)
調 査 面 積：7.9㎡
調 査 期 間：1993年11月25日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄
図版篇図幅：図幅24（Ｊ４-25）

城北団地の南端に近い工学部実習工場に挟まれた講義棟の東西２ヶ所に通信電気管路を設ける工事が行われることとなり、工事に際して立会調査を実施した。講義棟の西側の調査地点を１トレンチ、東側を２トレンチとしたが、１トレンチ部分は、文京遺跡６次調査(調査番号：98601)の２トレンチと交差する。

１トレンチでは、現地表下70cmまでの掘削作業に立ち会ったが、既設の配管などによる最近の攪乱が著しく、遺構･遺物は確認できなかった。

写真.40　99308-2トレンチ西半部分のⅢ層残存状況

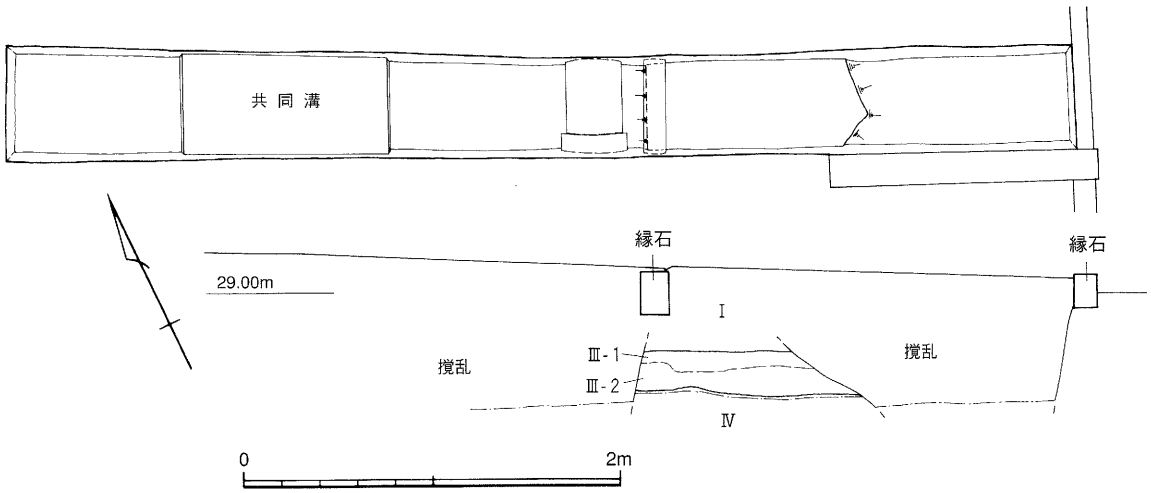


図.59　99308-2トレンチ平面図・土層断面図（縮尺 1/40）

2トレンチでは、表土にあたる造成土のⅠ層を掘り下げると、城北団地全体にわたる基本層序のⅡ層に相当する灰色系シルトの旧水田層はなく、暗褐色砂質シルト層があらわれた。しかし、既設の配管設置による撹乱が著しく、トレンチ西半部にしか残存していない(写真.40)。この暗褐色砂質シルト層は、城北団地全体にわたる基本層序ではⅢ層に対応する。工事による掘削が現地表下70cmまでおよぶことから、工事の中断を指示して、部分的に残るⅢ層を調査した。

Ⅲ層の上部からは、炭化物や弥生土器の細片が出土した。Ⅲ層の下部は、小礫を少量含む褐色砂質土へ漸移的に変化し、遺物が混じらなくなる。上部をⅢ-1層、下部をⅢ-2層に細分した(図.59)。Ⅲ層の下層は、にぶい黄褐色シルト層のⅣ層である。上面で遺構の検出に努めたが、その痕跡は確認できなかった。

99309　1993年度構内遺跡確認調査（その１）

調 査 地 点：松山市持田町１丁目５番22号
　　持田団地(図.60)
調 査 面 積：39㎡
調 査 期 間：1993年12月24日～1993年12月25日
調査の種別：確認調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄
図版篇図幅：図幅32（K5-2）
　　図幅38（K5-7）

持田団地では既往の調査は１件のみである。しかも、立会調査(調査番号：99209)であるために、掘削深度は浅く、埋蔵文化財の有無さえ把握できていない。そこで、1993年度に、持田団地内における埋蔵文化財の分布状況を把握するために、確認調査を実施することとなった。

今回の調査では、持田団地西辺で３ヶ所、東辺で３ヶ所に調査トレンチを設定した。西辺の３ヶ所のトレンチには、北から順次１～３トレンチ、東辺でも北から４～６トレンチとした。以下、各トレンチごとに調査結果を報告する(図.61、写真.41～46)。

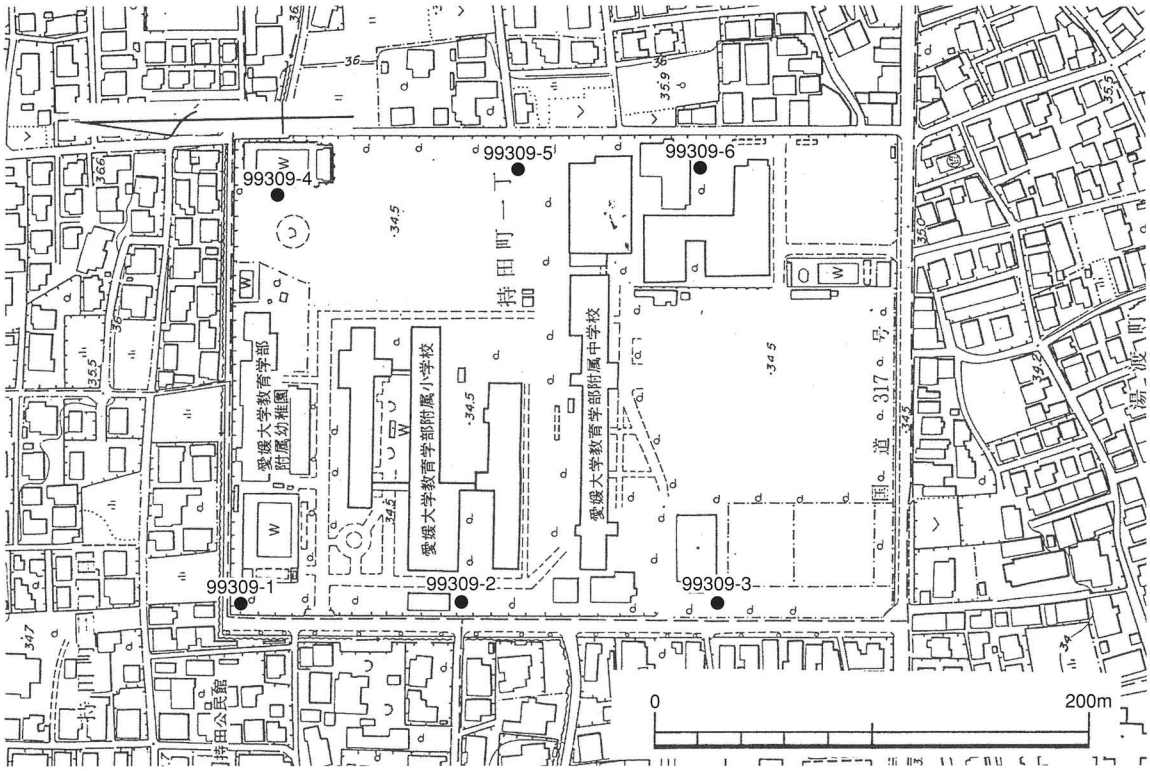


図.60　1993年度 持田団地調査地点（縮尺 1/3,500）

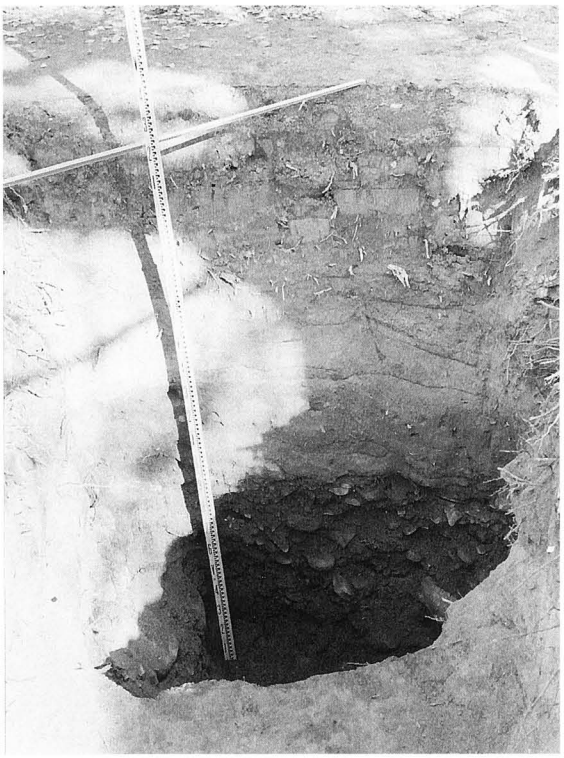


写真.41　99309-1トレンチ土層

写真.42　99309-2トレンチ北端土層

写真.43　99309-3トレンチ土層

写真.44　99309-4トレンチ土層

写真.45　99309-5トレンチ土層

写真.46　99309-6トレンチ土層

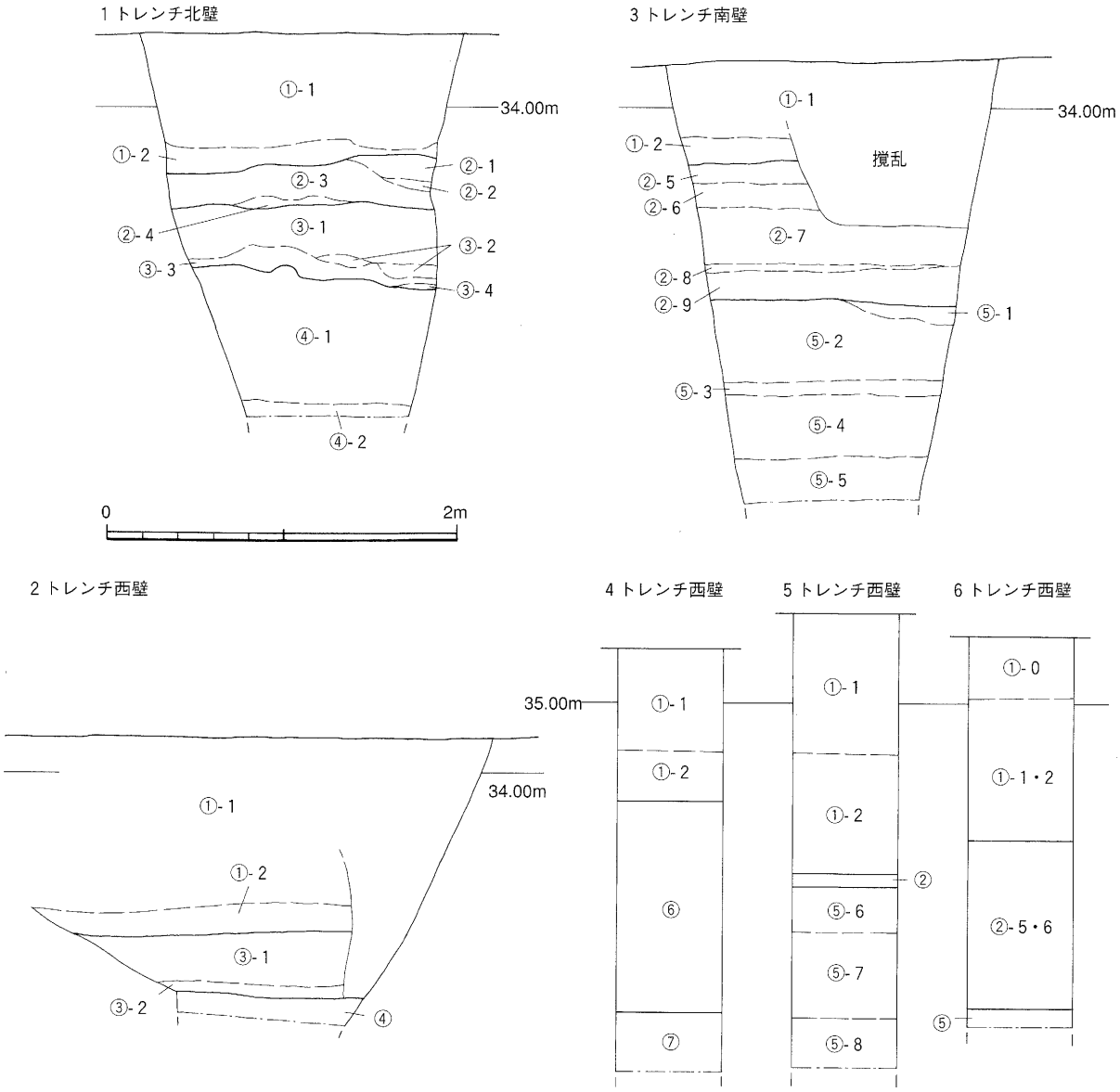


図.61　99309-1～6トレンチ土層断面および土層柱状図（縮尺 1/40）

［1 トレンチ］

持田団地の北西角に位置する。堆積土は①～④層に大別できる。①層は表土層である。上部の①-1層とした土層はオリーブ褐色の砂質シルト層、下部の①-2層は黄褐色微細砂層で細かく薄い白色砂のレンズ状ブロックが混じる。

②層は灰黄色～黄褐色の砂質土層で、②-3層とした灰黄色の微細砂、細砂層が互層で堆積する砂質土層の中に、②-1層の暗灰黄色の細・粗砂層の互層、②-2層とした黄褐色の微細砂層、②-4層とした黄褐色の微細砂層がみられる。

③層は黄褐色の砂質土層である。③-1層とした黄褐色の砂質土層の下位に、③-2層の黄褐色の粗砂層、③-3層の黄褐色の微細砂層と細砂層の互層、③-4層の黄褐色の粗砂層が堆積している。

④層は砂礫層で、④-1層とした上部は明褐色の砂礫層で、親指先大～人頭大の花崗岩の円礫

が混じる。また、鉄分の沈着が著しい。下部の④-2層は、黒褐色の砂礫層で、基本的な構成は④-1層と共通するが、しまりは弱い。

［2トレンチ］

団地西辺のほぼ中央に位置する。トレンチの北端部分を深掘りして、1トレンチと対応する①・③・④層の堆積土層が確認できたが、②層は確認されなかった。

［3トレンチ］

団地西辺の南側に位置する。3トレンチでは、表土層の①層と、1・2トレンチで確認した礫層の間に、灰白色の粗砂・砂礫層の2層が挟まる。1トレンチの②層に近い灰黄色砂質土が含まれているので、上部から②-5層～②-9層とした。これに対応する土層は、5・6トレンチでも確認された。

①層は、オリーブ褐色の砂質土層で、下部ほど砂質が強くなる。それぞれ1トレンチの①-1層と①-2層に対応する。

②-5層は灰白色粗砂層、②-6層は黄褐色の砂礫層である。②-7層は黄褐色の砂質土層で、砂礫を多く含む。砂礫は上層の②-6層から巻き込まれたものと考えられる。②-6層下からは砂礫を多く含む砂質土があらわれた。上層の②-5層および②-6層に近い堆積物で、②-7層とした。さらに下層にも、黄褐色砂が混じる②-8層、部分的に灰白色の粗砂層がブロックで混じる黄褐色砂層である②-9層が堆積している。

②層に下層には1・2トレンチで確認できた③層や④層はみられず、旧河道内の堆積物と考えられる砂礫層や砂層が互層状態で堆積していた。⑤層と一括した。上位から⑤-1～⑤-2層に細分できる。⑤-1層は微細なにぶい黄褐色の砂層と灰白色粗砂層の互層、⑤-2層は砂礫を多く含み、部分的に下層の⑤-3層の灰白色粗砂層と同質のブロックを含む。⑤-3層は灰白色粗砂層、⑤-4層は親指先大～20cm大の石礫を含む砂礫層、⑤-5層は淡黄灰色細砂層である。

［4トレンチ］

持田団地の北東角に位置する。1～3トレンチと比べると、様相が異なっている。表土層の①層の下層では、1.2mの厚さで、微細砂・粗砂・粘質土が互層となって堆積物があらわれた。レンズ状のブロックが縞状に堆積し、流水による堆積物である。⑥層とした。さらに下層の現地表下2.1m前後以下では、にぶい黄褐色、灰白・白色の粗・細砂層の互層がみられる。親指先大～人頭大の礫石がぎっしりつまっている。堆積状況は、1・2トレンチの④層に近いが、しまりがない。⑦層とした。

［5トレンチ］

表土層は他のトレンチの①-1・①-2層と対応する砂質土層であるが、かなり厚い。①層下には、やや薄いが、細・粗砂や礫層が縞状に互層をなす。質感は1・3トレンチの②層に近く対応するものと考えられる。さらに下位には、3トレンチの⑤層に対応する堆積物がみられる。上位から、⑤-6層は微細砂と細砂が互層をなす。礫はほとんど含まれない。鉄・マンガンの沈着が認められる。⑤-7層は灰白色の粗・細砂や小礫の互層で、⑤-8層は小指先大～人頭大の礫石を多く含む砂礫層である。

［6トレンチ］

団地南東角に位置する。他のトレンチでみられた表土の砂質土である②-1・②-2層の上部に造成土の真砂土がみられる。真砂土部分を①-0層とした。①-1・2層の下層には、灰白色の粗・細砂や小礫の互層状態で堆積していた。3トレンチの②-5層あるいは②-6層と対応する。さらに下層は、親指先大～人頭大の礫石を多く含む砂礫層である。しまりはほとんどない。かなり新しい河川堆積物と考えられる。層序的には3

トレンチの⑤層と対応する。

以上、各トレンチの表土層である①層からは近現代の陶磁片が出土した。また、1996年に実施した立会調査(調査番号：99606)では、②層と対応する暗灰黄色の砂質土から、近代の砥部焼きの高台付皿の破片が出土している。①・②層は近代以降の堆積物と考えられる。また、3・5・6トレンチの②層下で確認された⑤層は、かなり新しい時期の堆積物である可能性が強い。昭和22年に極東米空軍が撮影した航空写真を観察すると、石手川の氾濫原が持田団地の南半分以上を占めている。①・②・⑤層は、こうした石手川の氾濫原を構成するものと考えられる。

しかし、1・2トレンチでみられた③層については、砂質土層といっても、かなり土壌化の進んだ土層である。団地北東角近くでは、松山市埋蔵文化財センターが1996年度に調査した外環状線道路部分(岩崎遺跡)で中世の水田が確認されている。中世水田の耕作土層は、1・2トレンチの③層と層序的に対応する。③層は水田層であると考えられる。持田団地の北半部分には、こうした中世の水田域が展開している可能性が強い。

99310　城北団地情報機器更新電源容量増設工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町3番
　　城北団地(図.56)
調 査 面 積：3.7m²
調 査 期 間：1994年1月18日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・三神恵美香
図版篇図幅：図幅24（J4-25）

調査地点は、城北団地南半部の法文学部2号館と変電室の間に設置される配管路部分である。調査区の東西端は大きく攪乱されていたが、中央部分で、遺物を包含する暗褐色シルト層を確認し、下面では遺構を部分的にではあるが検

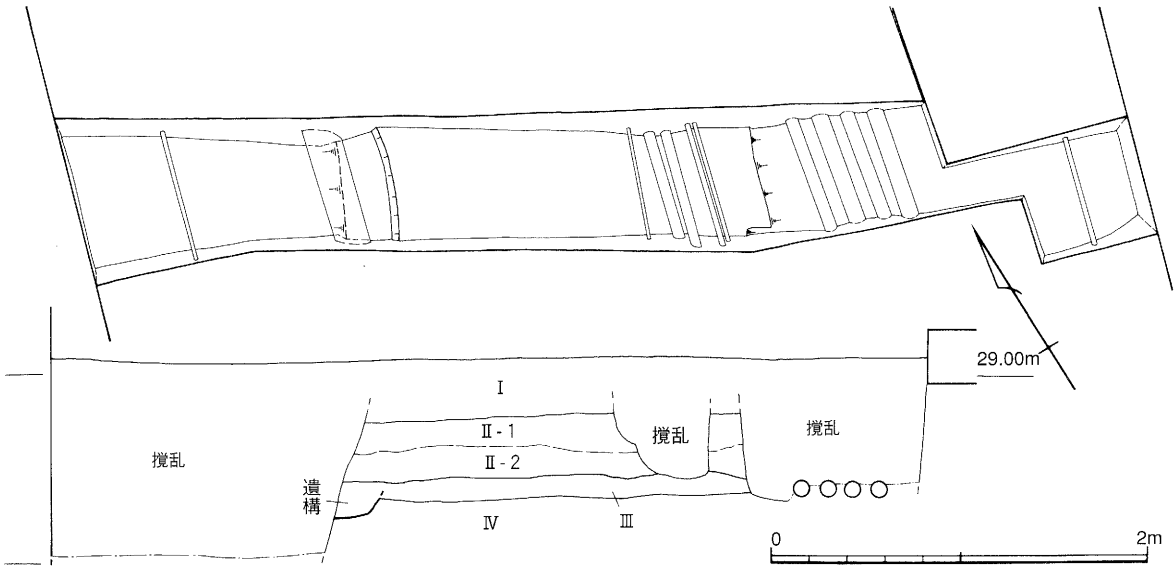


図.62　99310調査区平面図および土層断面図（縮尺 1/40）

写真.47　99310調査区全景

写真.48　99310調査区土層断面

出し調査を行った。

Ⅰ層の表土層にあたる造成土部分、Ⅱ層の灰黄褐色で小礫や砂が混じるシルト層の旧水田層（Ⅱ-1層は耕作土部分、Ⅱ-2層は床土部分）を掘り下げ、Ⅲ層の暗褐色シルト層を確認した。Ⅲ層中には、数㎜～小指大の炭化物片が多く混じり、弥生時代中期後葉～後期の凹線文土器の甕や壷などの破片が、調査区の中央と東側に集中して出土した。また、西側ではⅢ層が15～20㎝落ち込んだ部分を検出した。落ち込みの立ち上がり方から、遺構の一部分であると判断した。落ち込み部分からは、弥生土器の細片が出土した。Ⅲ層の下層には、黒褐色の砂質シルトに黄褐色の砂質土を散漫に含む土層が堆積している。城北団地における基本層序のⅣ層を構成する土層群の一つである（図.62、写真47・48）。

99311　農学部附属図書館新営(排水管埋設)工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市樽味３丁目５番７号
　　樽味団地（図.53）
調 査 面 積：19.8㎡
調 査 期 間：1994年２月８日・1994年２月15日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保

調査地点は、樽味団地北部、テニスコート北側に位置する（図.５）。排水管路部分では、既

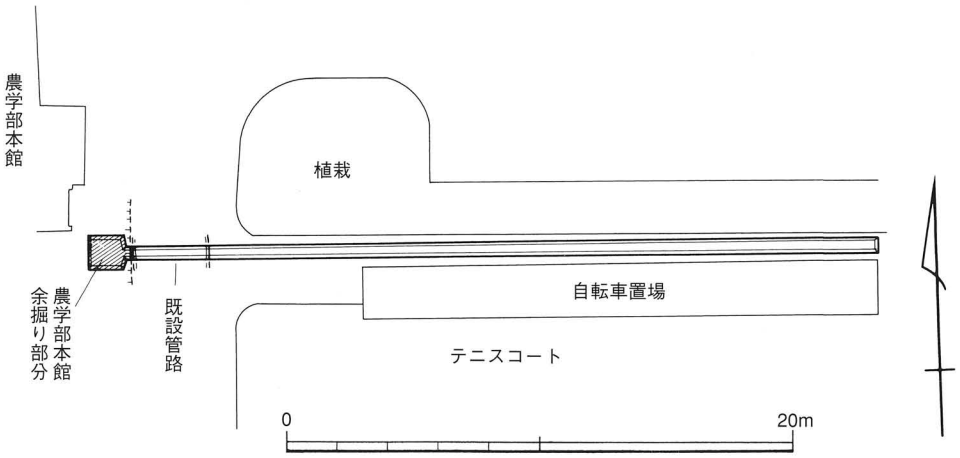


図.63　99311調査全体図

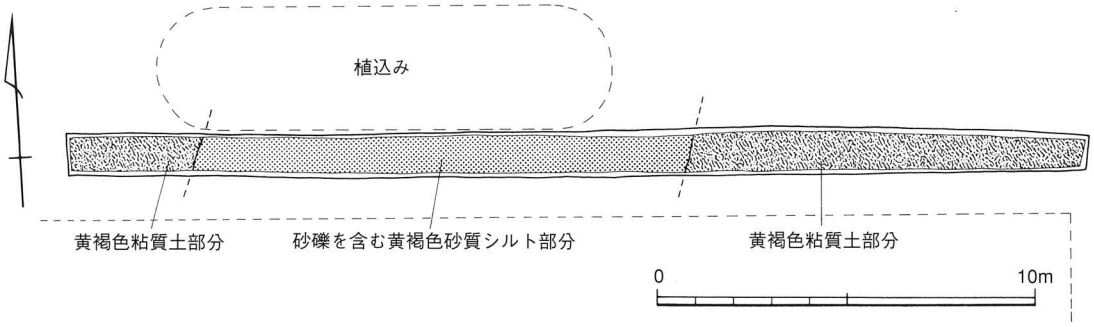


図.64　99312調査区内Ⅳ層の変化（縮尺 1/200）

設の配管が工事中にみつかり、掘削を現地表下40cmまでにとどめることとなり、排水枡が設置される部分のみを立会調査することとなった。しかし、排水枡部分も大部分が、農学部本館建設に伴う余掘りで攪乱されており、その範囲を確認して調査を終了した(図.63)。

99312　農学部自転車置場排水管路工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市樽味３丁目５番７号
　　樽味団地(図.53)
調 査 面 積：29.7㎡
調 査 期 間：1994年２月８日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄･高原美保

調査地点は、樽味団地北部、テニスコート北側に位置する(図.５)。既往の調査(調査番号：99214、99303、99311)の結果では、遺物包含層や遺構が現地表下40～50cmであらわれる。そこで、自転車置場取設工事に伴う掘削を40～45cmにおさめることとなり、工事に際して立会調査を実施するだけとした。調査では、表土層を掘り下げると、現地表下47cmで褐色～黄褐色の砂礫質のシルトがあらわれた。この土層は樽味遺跡全体における基本層序のⅣ層に相当する。Ⅳ層上面では遺構は検出できなかった。周辺は削平を受けている可能性が高い。

99313　城北団地基幹整備(屋外環境)工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.56)
調 査 面 積：14.8㎡
調 査 期 間：1994年２月９日・２月10日・
　　２月16日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄･高原美保
図版篇図幅：図幅24（Ｊ４-25）

城北団地南半部、法文学部講義棟と附属図書館に挟まれた範囲の屋外環境整備計画が埋蔵文化財調査室に提示され、施設部と協議を行い、埋設管の多くを盛り土内に設置することなどの設計計画に変更された。しかし、掘削深度が深い給水管埋設部分の１ヶ所、外灯基礎部分の５カ所については、工事に先立って調査することとなった(写真.49・50)。

調査地点を東から１～６トレンチとして調査を進めた。以下、各トレンチでは、城北団地全体にわたる基本層序と共通する堆積状況を確認できた(図.65・66)。

Ⅰ層は表層のアスファルト舗装部分、砂利や真砂土などの造成土部分。

Ⅱ層は造成以前の旧水田層、下部にはマンガン・鉄分の沈着が著しい床土部分を確認できた。上部の耕作土部分をⅡ-1層、下部の床土部分をⅡ-2層とした。

Ⅲ層は遺物を包含する暗褐色粘質シルト層である。４・５トレンチでは、にぶい黄褐色の細

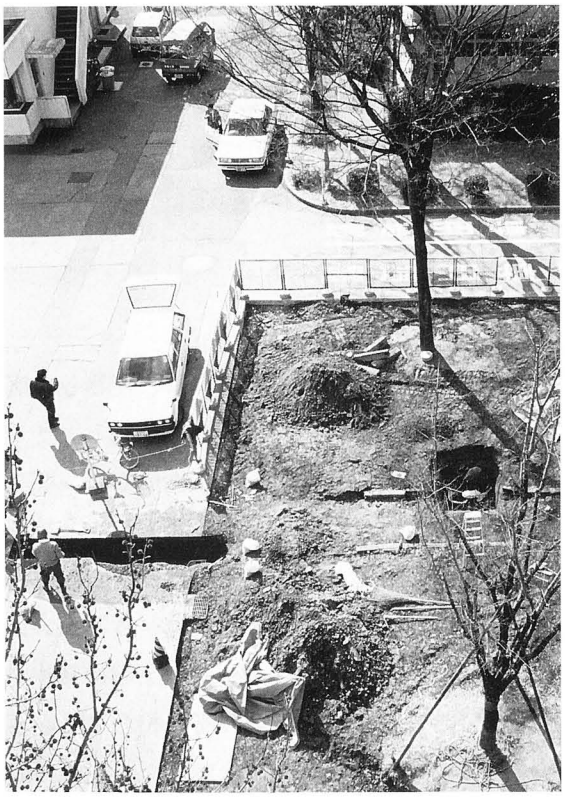


写真.49　99313-1･2トレンチ（南から）

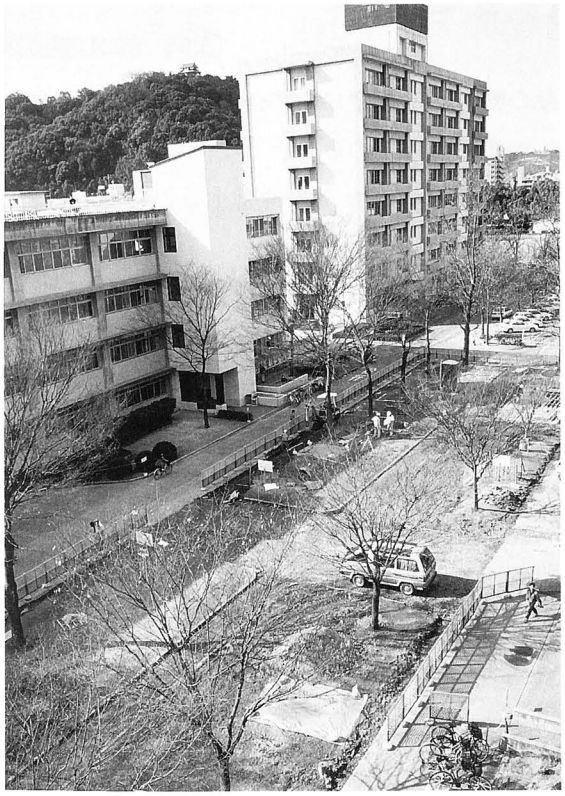


写真.50　99313-3～6トレンチ（南東から）

砂層の中に暗褐色粘質シルトの小塊が混じる部分(Ⅲ-2層)がみられる。とくに、5トレンチでは、Ⅲ-2層下に、何らかの遺構と考えられる灰褐色の砂礫部分(Ⅲ-3層)を確認した(写真.53)。しかし、Ⅲ-2・Ⅲ-3層からは遺物は出土していない。

Ⅳ層はⅣ-1～Ⅳ-4層の土層群から構成される。下層ほど砂質が強くなり、各層は漸移的に変化し、境界は不明瞭である。Ⅳ-1層はにぶい黄褐色の粘質シルト層。Ⅳ-2層はオリーブ褐色

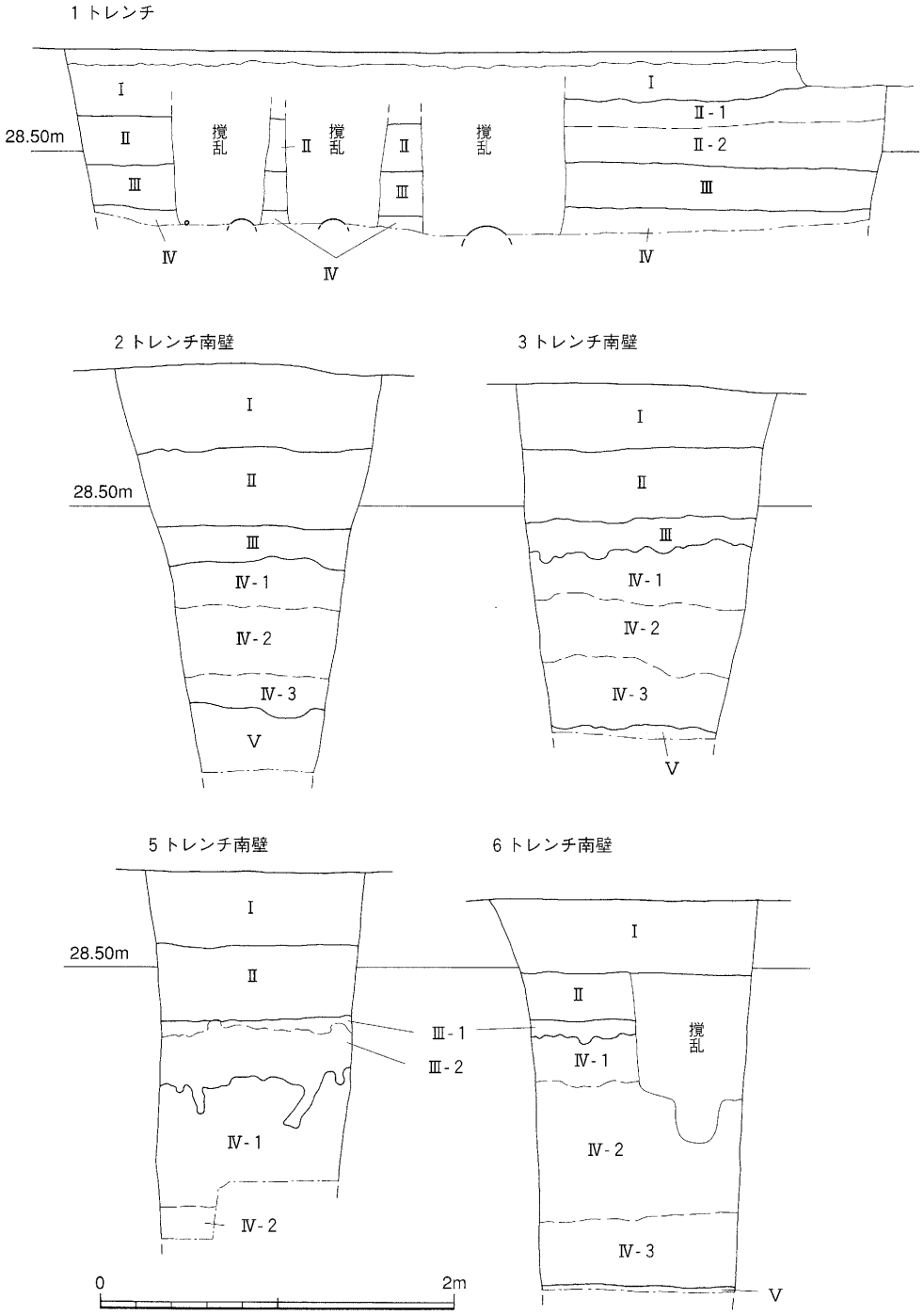


図.65 99313-1～3･5･6トレンチ土層断面図（縮尺 1/40）

写真.51　99313-1トレンチⅢ層検出状況（西から）

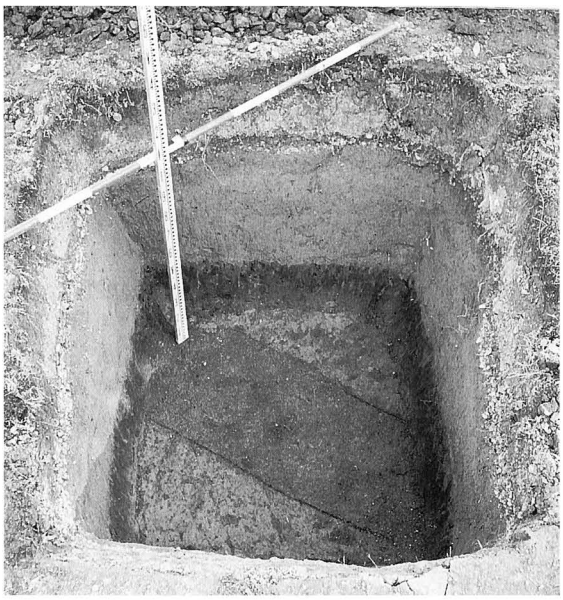


写真.52　99313-2トレンチSD-01検出状況（南から）

写真.53　99313-3トレンチ南壁土層断面

写真.54　99313-6トレンチ南壁土層断面

の砂質シルト層。近接する文京遺跡11次調査地点(調査番号：98901)では、Ⅳ-1層とⅣ-2層の境界部分を中心として縄文時代後期の遺物が出土している。Ⅳ-3層は灰オリーブ色の砂質が非常に強い砂質シルトあるいは砂質土。Ⅳ-4層は2トレンチ内で検出した落ち込み内の土層である(図.67)。Ⅳ-3層と土質や色調は変化なく、わずかに砂質が強い程度である。

Ⅴ層は、2トレンチで黒褐色、3トレンチでは暗灰黄色、5トレンチでは暗赤褐色、文京遺跡11次調査地点では灰色の粗砂と直径2～5㎝大の円礫からなる砂礫層である。

以下、各トレンチごとの状況を報告する。

［1トレンチ］

既設の低圧電線管などの配管工事によって一部撹乱を受けていた(写真.51)。Ⅲ-1層から土器の細片が数点出土したが、遺構は検出されなかった。Ⅳ層は上半部分で掘り下げを中止したこともあり、遺構･遺物は出土しなかった。

［2トレンチ］

Ⅲ-1層下面で北西－南東方向の溝(SD-01)を検出した(図.66、写真.52)。土層断面の観察で、Ⅲ-1層の中位から掘り込まれていることを確認できた。幅60㎝、深さ15㎝をはかる。埋土は暗灰褐色の粗砂・細砂・Ⅲ-1層と同じ暗褐色の粘質シルトが薄いレンズ状の互層状態で堆積し、流水の痕跡をとどめる。

Ⅴ層上面でⅣ層部分の落ち込みを確認した(写真.55)。同様の落ち込みは、文京遺跡11次調査地点でも発見されており、一連のものと考

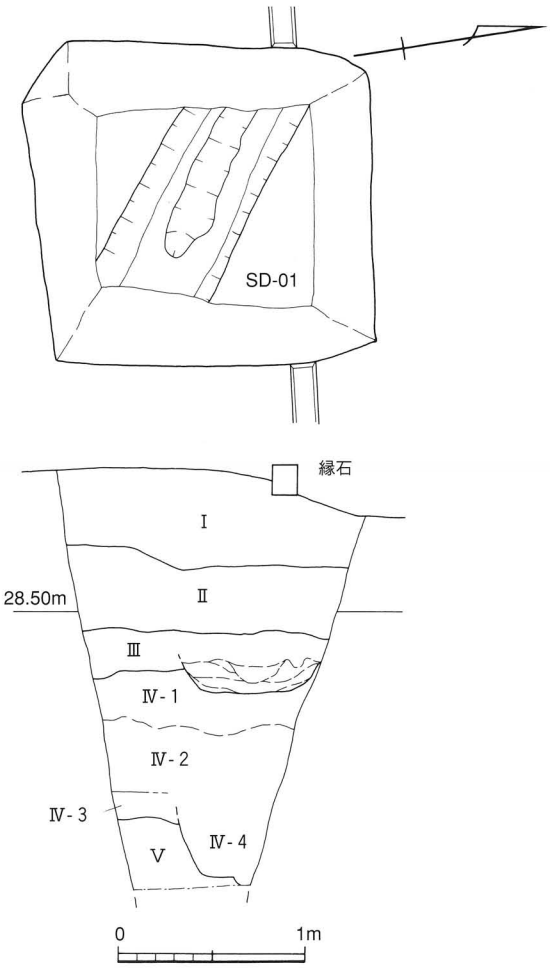


図.66　99313-2トレンチSD-01および土層断面
（縮尺 1/40）

写真.55　99313-2トレンチ西壁土層断面

えられる。落ち込み内の土層をⅣ-4層としたが、Ⅳ-3層とは土質や色調は変化なく、わずかに砂質が強い程度である。

Ⅲ-1層で弥生土器と考えられる細片が数点出土した以外、他に遺物は出土していない。

［3トレンチ］

Ⅲ-1層で弥生土器と考えられる細片が数点出土した以外、遺構・遺物は出土していない(写真.53)。

［4トレンチ］

Ⅲ-1層は検出できず、Ⅱ層の直下にⅢ-2層とⅢ-3層が堆積している。Ⅳ-1層とⅣ-2層の境界部分から親指先大の円礫や炭化物の小塊、縄文土器が出土した(図.67)。前述したように、11次調査地点で同一層準から縄文時代後期の土器や炉跡が出土している。他に遺構・遺物は出土していない。

［5トレンチ］

Ⅲ-1層は厚さ5～7㎝と薄く、砂が比較的多く含まれる。下層のⅢ-2層にはⅢ-1層が小ブロックとして含まれる。遺構・遺物は出土していない(図.67)。

［6トレンチ］

西側の1/3程度を近代の溝で撹乱されていた。撹乱土内から縄文土器と考えられる細片が2点出土したのみで、他に遺構・遺物は出土していない(写真.54)。

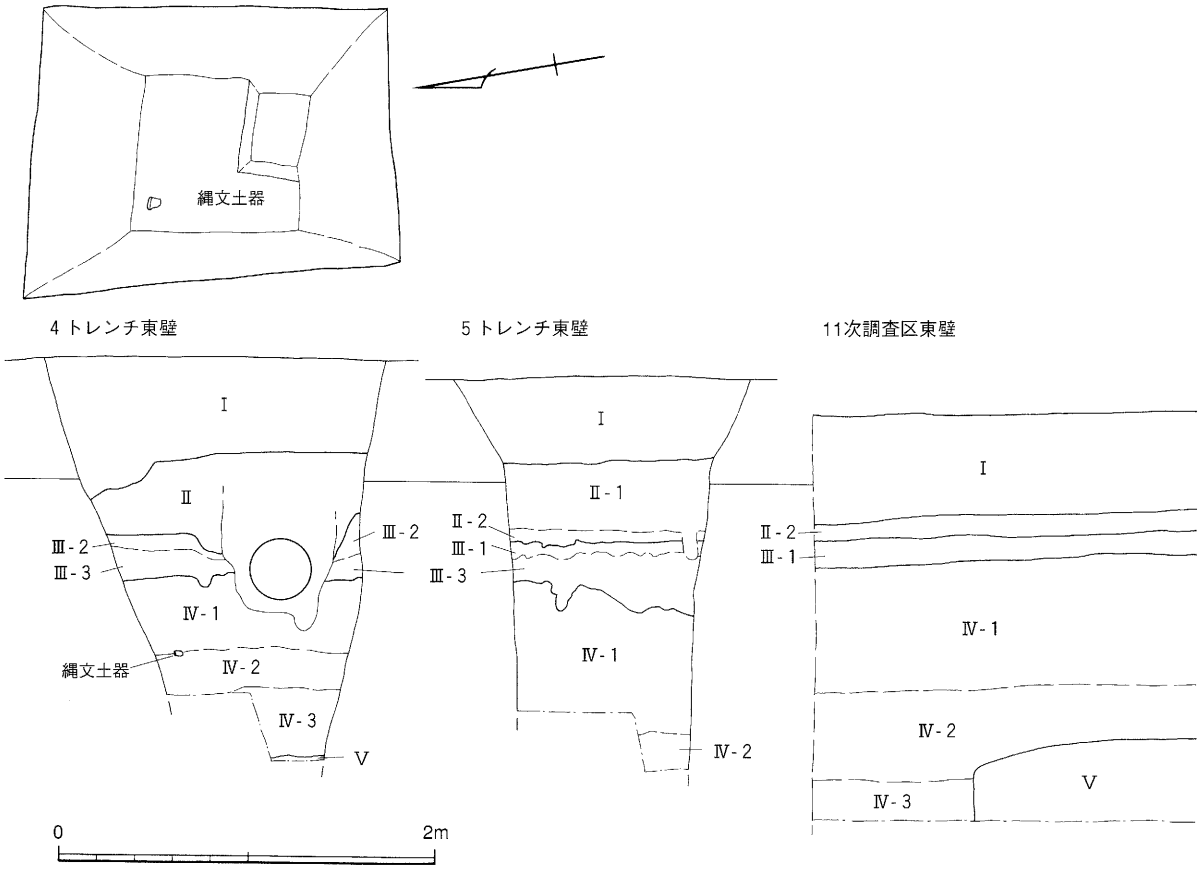


図.67　99313-4･5トレンチおよび文京遺跡11次調査の土層対応関係（縮尺 1/40）

99314　工学部研究実験棟の建設に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.56)
調 査 面 積：37.9㎡
調 査 期 間：1994年３月29日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄･高原美保
図版篇図幅：図幅24（Ｊ４-25）

1994年度以降、城北団地の南西部の運動場では、工学部研究実験棟の建設が計画されている。周辺では、文京遺跡１次調査(調査番号：97501)、２次調査(調査番号：98001)、10次調査(調査番号：98801)が実施され、弥生時代中期後葉を中心とする竪穴式住居跡・掘立柱建物・円形周溝遺構などが確認されている。予定されている工学部校舎の建設予定地内にも集落遺跡が広がっているものと考えられる。その広がりを確認するために、試掘調査を実施した。

運動場のほぼ中央に南北長37ｍ、幅1.3ｍの試掘トレンチを設定した。表土にあたる造成土部分のⅠ層、造成以前の旧水田層であるⅡ層を掘り下げ、現地表下45～50㎝で、遺物を包含する暗褐色の粘質をやや帯びるシルト層であるⅢ層を検出した。上面だけの観察ではあるが、弥生土器の大形破片や炭化物が大量に包含され、南側ほど量が多い。また、土質は北側ほど砂質が強くなる。４ヶ所撹乱部分のうち２ヶ所を掘り下げたところ、遺物包含層の保存状態は良好である。Ⅲ層下のにぶい黄褐色の砂質シルトであるⅣ層まで掘り込まれた遺構を確認できた(図.68)。

工学部校舎建設にあたっては、全面調査が必要である。

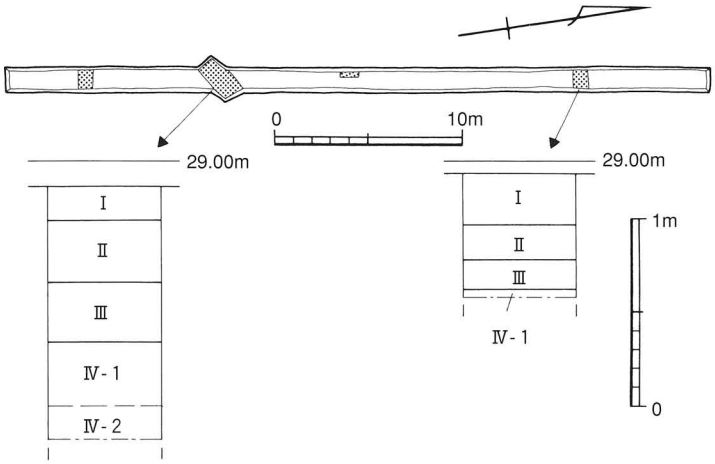


図.68　99314調査撹乱壙壁の土層柱状図
（縮尺 1/400・1/40）

Ⅷ　1994年度の調査

1994年度には、城北団地で工学部校舎新営(Ⅰ期)工事に伴う本格的な全面調査である文京遺跡12次調査(調査番号：99410)が実施された。加えて、城北団地で６件、東長戸団地で１件、樽味団地で１件、北吉井団地で１件、津田山団地で１件、計10件の試掘・立会調査を行った。

11月以降に文京遺跡12次調査の本格的な全面調査が予定されているため、年度前半に試掘・立会調査が集中することとなった。こうした調査が続き、1993年度に実施された樽味遺跡３次調査の整理作業は寸断され停滞することとなった。また、1992年度から大学構内の遺跡の有無や範囲を把握するための確認調査についても、1994年度は中止せざるをえなかった。

試掘・立会調査の中では、北吉井団地の調査は、立会調査の形式をとったが、溝・柱穴などの遺構が予想以上に確認され、調査期間も６日間を要し、予算・人員・期間の面で十分な対応がとれない状況が生じた。工事予定地の全面調査だけではなく、事前の試掘・立会調査においても、調査体制の充実、状況に即した施設部との協議方法が検討課題として残される。

99401　東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査(その１)

調 査 地 点：松山市桑原２丁目９番８号
　　北吉井団地(図.70)
調 査 面 積：54.5m²
調 査 期 間：1994年５月10日～1994年５月13日
　　1994年５月16日・18日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保

北吉井団地では、これまで発掘調査は行われていなかった。しかし、周辺では松山市埋蔵文化財センターによって、弥生時代～古墳時代の集落遺跡が断続的に営まれていることが確認されている。駐車場整備に伴う舗装工事は掘削面が浅いため、掘削深度が比較的深い排水管枡部分と管路部分を調査することとした。排水管が埋設される宿舎建物に挟まれた部分を１トレンチ、敷地南側の自転車置場に沿った部分を２トレンチとした(図.73)。

１・２トレンチともに、樽味遺跡の基本層序と共通した大別層位が確認できた(図.74・75)。Ⅰ層は表土層にあたる造成土、Ⅱ層は造成以前の旧水田層である。２トレンチでは、耕作土層のⅡ-1層と、床土層にあたるⅡ-2層に細分できる。Ⅱ-1層は暗灰黄褐色シルト。Ⅱ-2層はオリーブ褐色ないし褐色シルトである。

Ⅲ層は黒褐色シルト質土層で、細片化した遺物を包含する。部分的にしか残存していない。２トレンチでは、１トレンチや樽味遺跡２・３次調査と比べて、Ⅲ層はやや明るい色調を帯びる。Ⅳ層は鈍い黄褐色粘質シルト質土層で、上面で遺構を確認した。Ⅴ層とⅥ層は、２トレンチの東端、SD-23の下層で確認した砂礫層である(写真.59)。全体によくしまっている。Ⅴ層

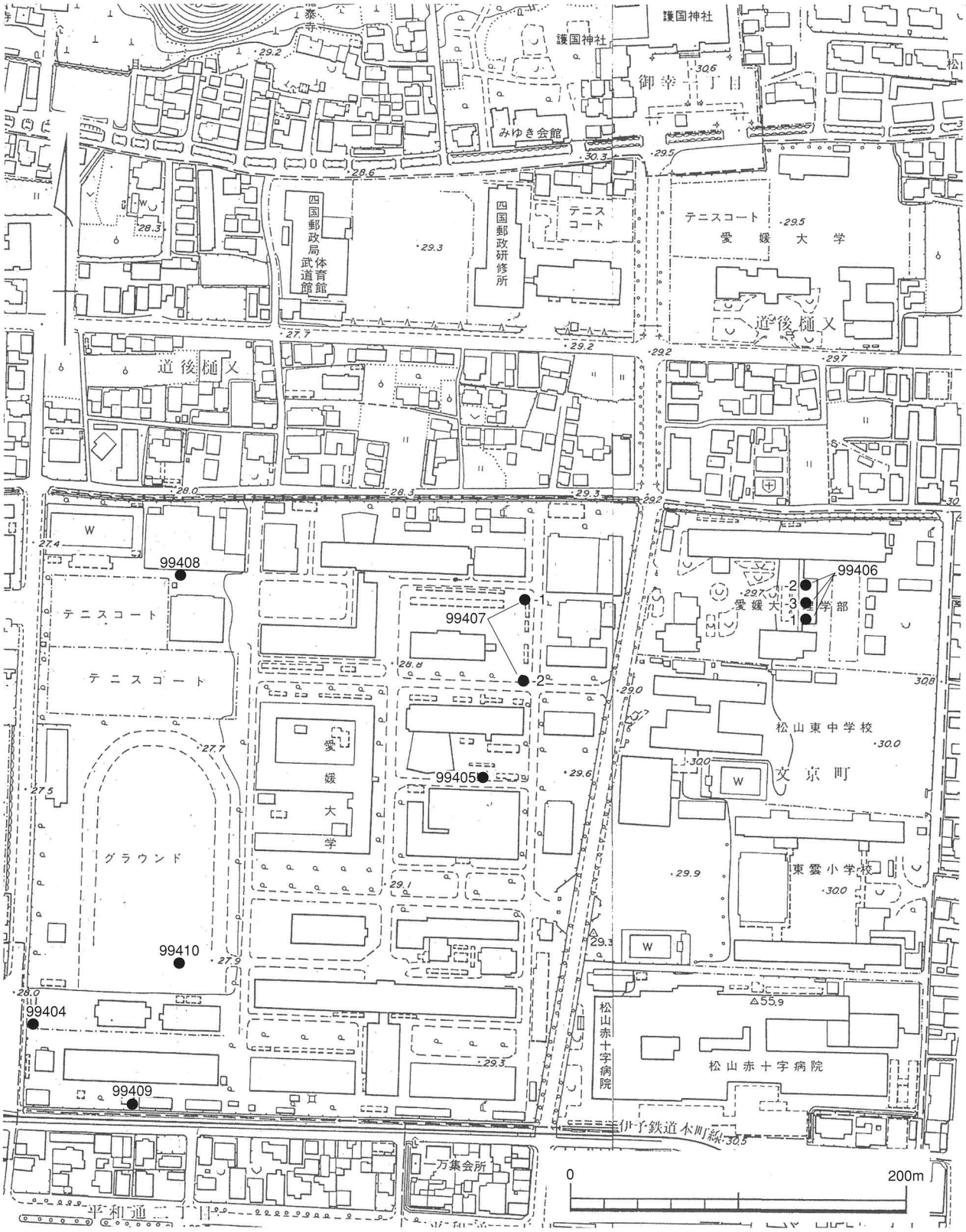


図.69 1994年度 城北団地調査地点（縮尺 1/3,500）

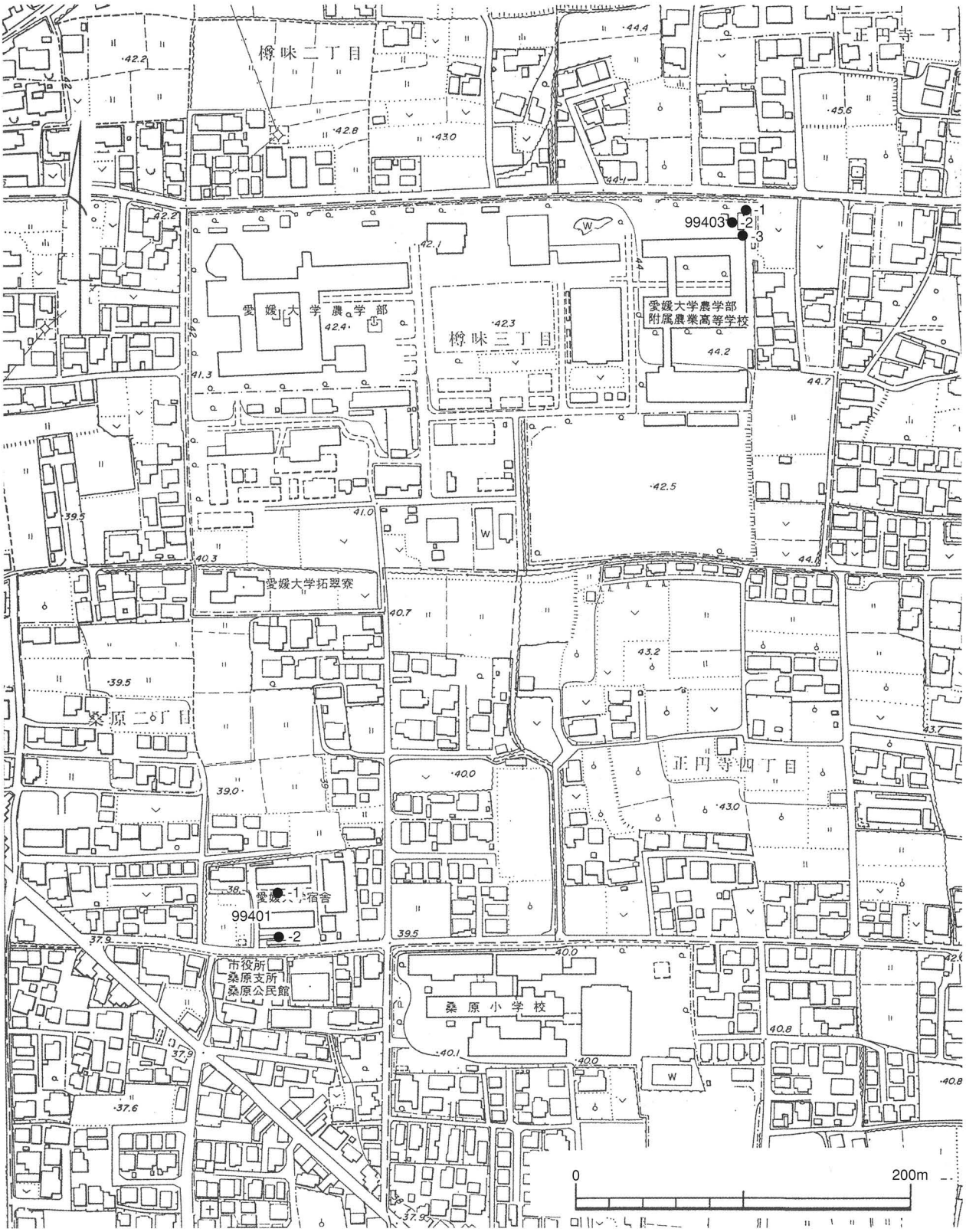


図.70　1994年度樽味・北吉井団地調査地点（縮尺 1/3,500）

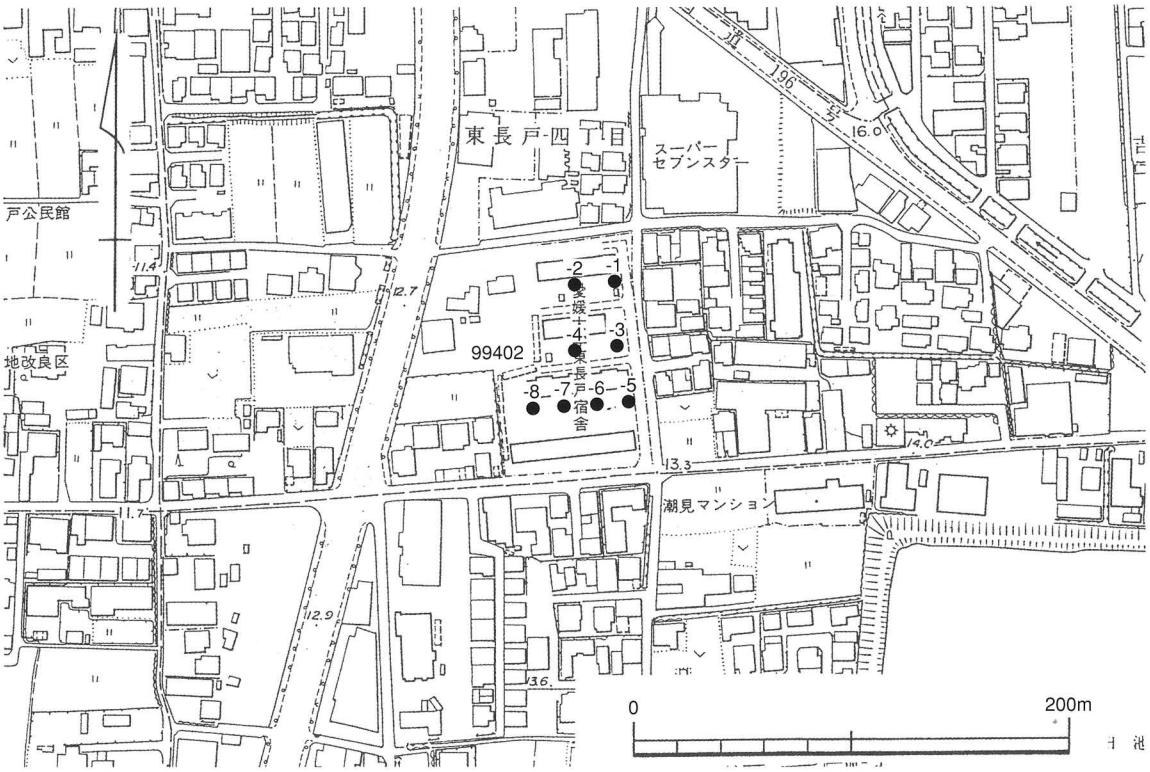


図.71　1994年度東長戸団地調査地点（縮尺 1/3,500）

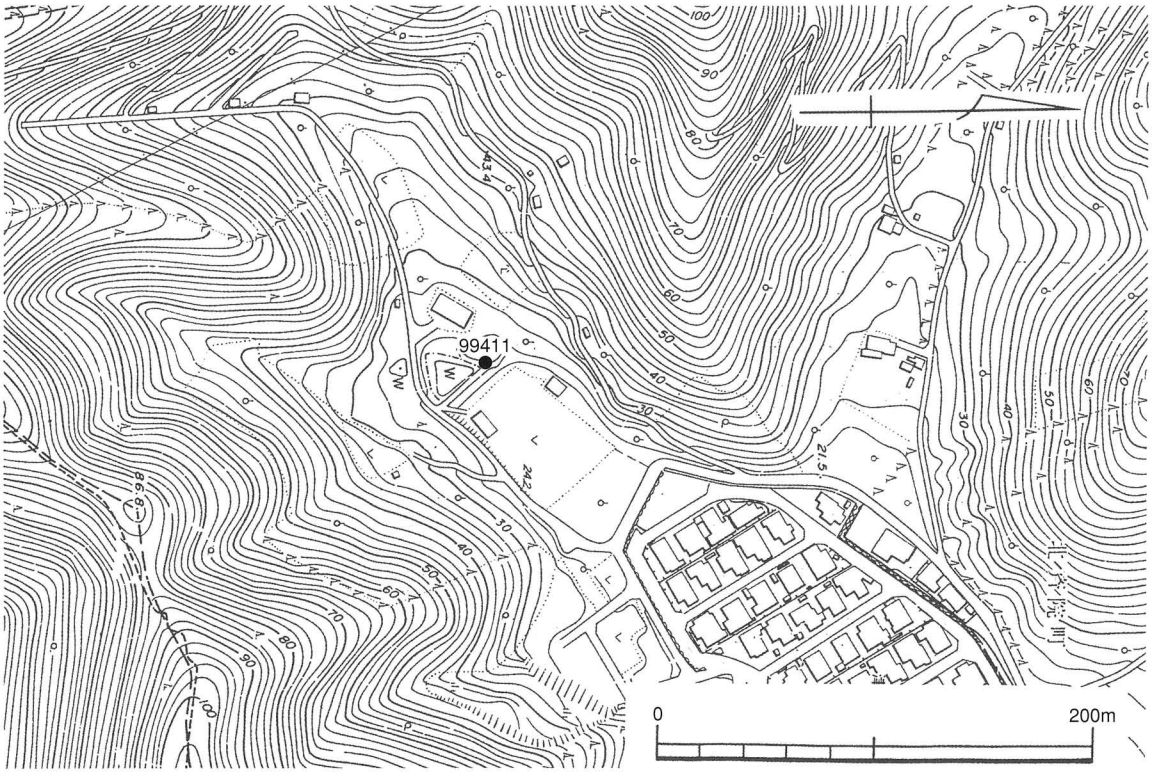


図.72　1994年度津田山団地調査地点（縮尺 1/3,500）

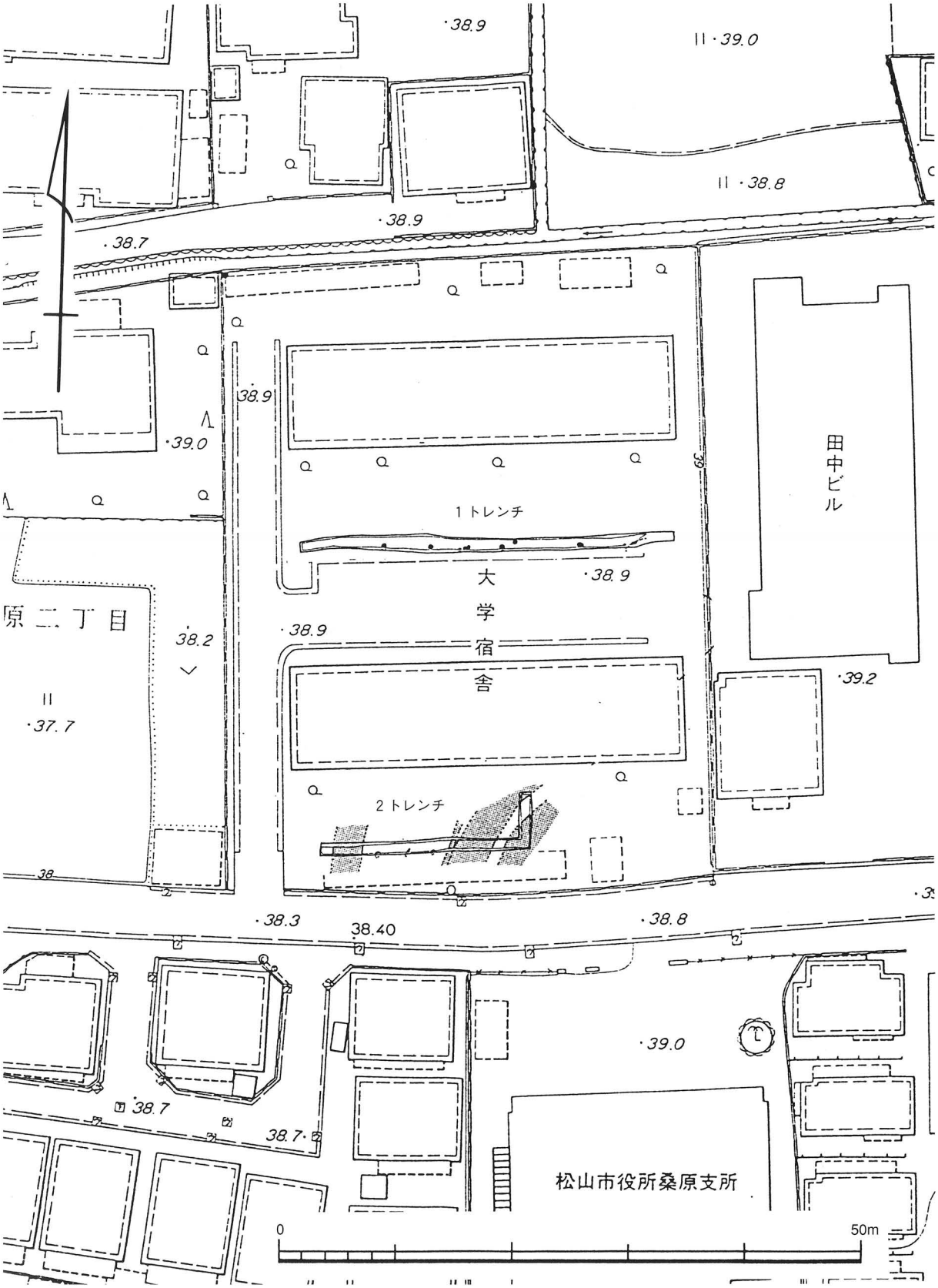
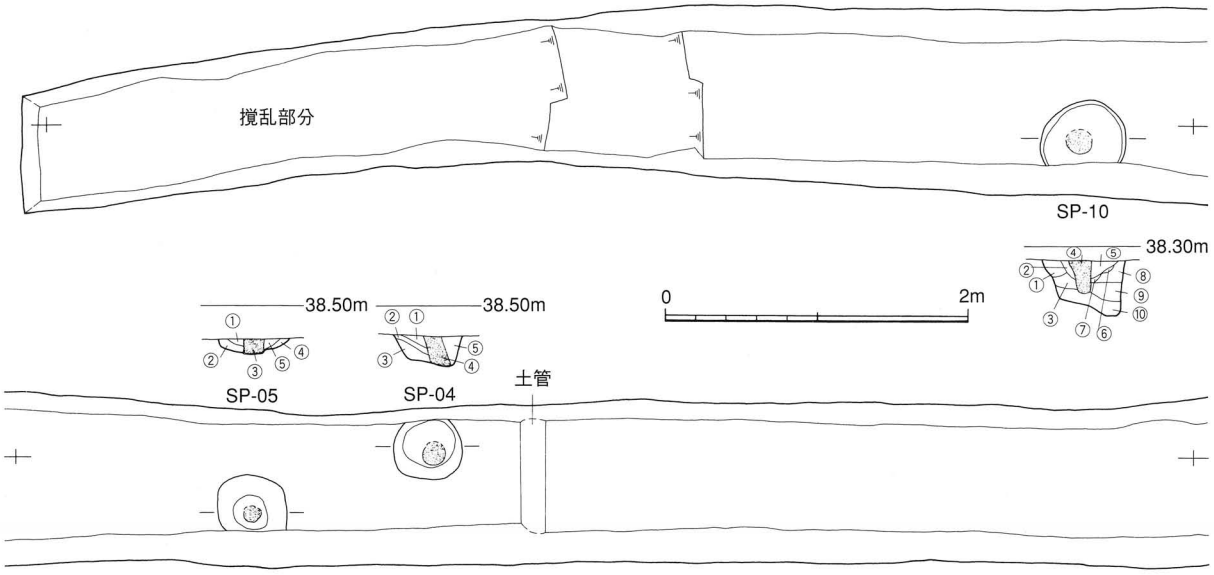


図.73　99401トレンチ位置図（縮尺 1/500）

写真.56　99401-1トレンチ（東から）

写真.57　99401-2トレンチ（東から）

写真.58　99401-2トレンチ（北西から）



SP-03
①黒色粘質シルトに褐色粘質シルトを多く含む。
②①と同じ土質・土色であるが、炭化物を少量含む。
③黒色粘質シルトに褐色粘質シルトが混じり、一部薄いレンズ状ブロックとなっている。1cm大の炭化物片が少量出土。
④黒色粘質シルトに褐色粘質シルトが多く混じる。土器細片が出土。

SP-04
①黒色粘質シルトに暗褐色粘質シルトが少量混じる。
②黒色粘質シルトに暗褐色粘質シルトの小塊が混じる。
③黒褐色粘質シルトで、鈍い黄褐色シルトの幅2cmほどのレンズ状ブロックが少量混じる。炭化物の細片が少量出土。
④柱痕跡。鈍い黄褐色シルトで、暗褐色シルトの小塊が少量混じる。
⑤黒色粘質シルトで、暗褐色や黒褐色の粘質シルトが散漫に混ざり込む。

SP-05
①黒色粘質シルトで暗褐色粘質シルトの小指先大の塊が多い。
②黒色粘質シルトで、暗褐色粘質シルトを少量含む。
③柱痕跡。黒色粘質シルト、暗褐色粘質シルトを少量含む。
④黒色粘質シルトで、暗褐色粘質シルトの小さな塊が多い。
⑤黒色粘質シルトで、暗褐色粘質シルトの小塊を少量含む。

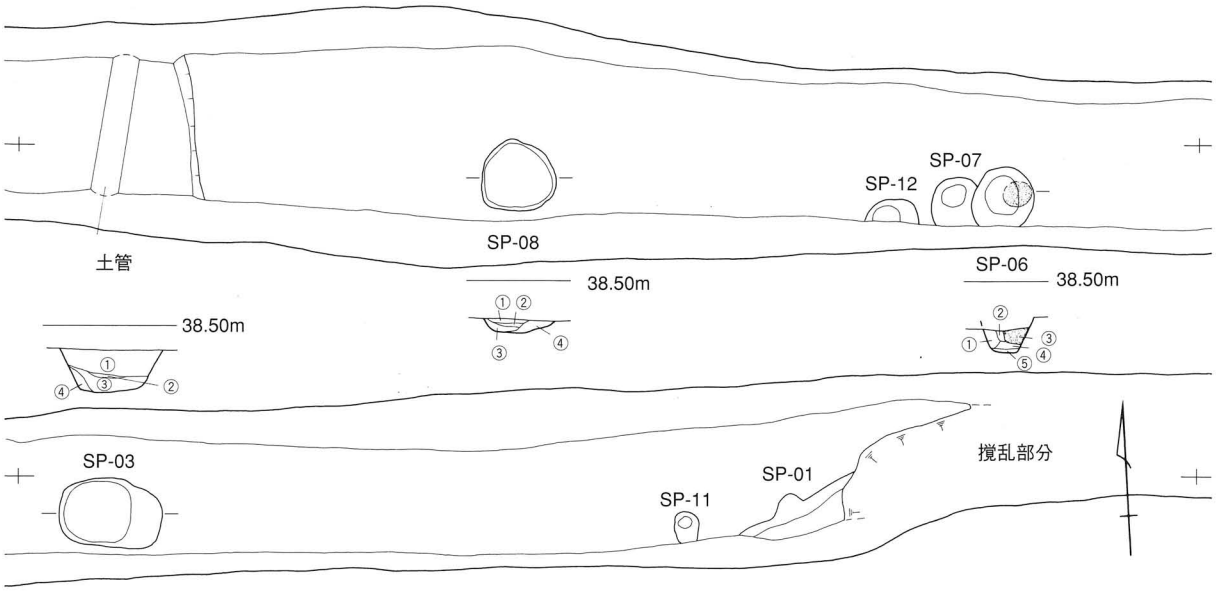
SP-06
全体の土層に1㎝大の炭化物をごく少量含む。
①黒色粘質シルト、黒褐色シルトの小塊を少量含む。
②黒色粘質シルト、黒褐色シルトの小指先大の塊を少量含む。
③柱痕跡。黒色粘質シルトで、暗褐色シルトを少量含む。土器片が出土。
④鈍い黄褐色砂質シルトに黒色粘質シルトの小塊を少量含む。
⑤黒色粘質シルトで、鈍い黄褐色砂質シルトが流れ込む。

図.74　99401-1トレンチ遺構実測図（縮尺 1/50）

は4層に細分でき、いずれもほぼ水平に堆積している。Ⅴ-1層は黄褐色砂礫層。鈍い黄褐色シルトが混ざり合う。風化が進む花崗岩の円礫を多く含む。Ⅴ-2層は鈍い黄褐色砂礫層。Ⅴ-3層は灰黄褐色粗砂層。Ⅴ-4層とは礫石をほとんど含まない点が異なる。Ⅴ-4層は白色粗砂層で、礫石を多く含む。Ⅵ層は鈍い黄褐色粘質シルト質土層である。

Ⅳ層上面で検出した遺構は、1トレンチで柱穴を含む小穴11基、2トレンチで溝4条と柱穴を含む小穴3基である。出土遺物は、主として2トレンチの溝からコンテナ(容量30㍑)2箱分が出土した。いずれも古墳時代6世紀後半の土師器・須恵器で、検出した遺構も当該期のものと考えられる。

1トレンチの遺構の中で、SP-01は溝または



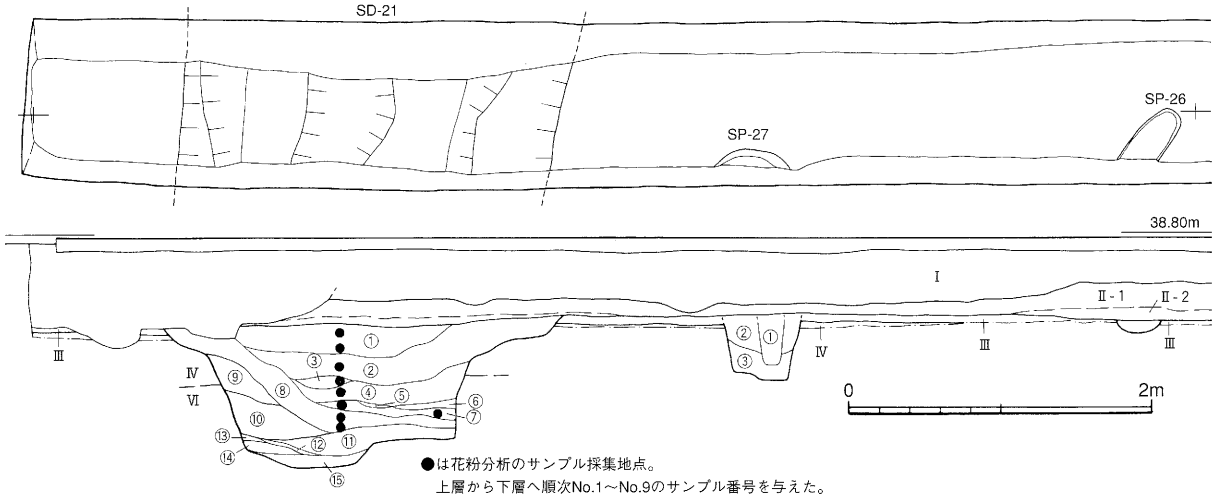
SP-07
黒色粘質シルトを主体として、黒褐色粘質シルトの1cm幅ほどの薄いレンズ状ブロックを多く含む。土器細片が出土。
SP-08
土器の細片・炭化物細片が疎らに出土。
①黒色粘質シルトで、鈍い黄褐色シルトの薄いレンズ状ブロックが多く含まれる。
②黒色粘質シルト。
③黒色粘質シルトで、鈍い黄褐色シルトのレンズ状ブロックが少量混じる。
④黒色粘質シルトで、鈍い黄褐色シルトの小塊が少量混じる。
SP-10
埋土には万遍なく1cm大の炭化物片が少量含まれ、土器の細片が出土。

①黒色粘質シルトで、鈍い黄褐色粘質シルトの小指先大の丸い塊が少量混じる。
②黒色粘質シルト。
③褐色粘質シルト。
④柱痕跡。黒色粘質シルトに、鈍い黄褐色シルトの小指先大の丸い塊が混じる。土器細片が出土。
⑤黒色粘質シルト。土器片が出土。
⑥･⑦同質の土層。黒色粘質シルトで、黄褐色粘質シルトの塊が混じる。
⑧黒色粘質シルト、鈍い黄褐色粘質シルトの2cm大の塊を少量含む。
⑨黒色粘質シルトで、鈍い黄褐色粘質シルトの1cm大のレンズ状ブロックを少量含む。
⑩黒色(7.5YR1.7/1)粘質シルト。

土壙状の遺構で、黒色～黒褐色粘質シルトの埋土をもち、小指先大の炭化物、土器の細片が出土した。SP-04～06・10では、杭もしくは柱の痕跡を確認した。SP-03・07～09・11・12は小穴で、SP-11・12の埋土は黒色～黒褐色である。SP-02は欠番である。

2トレンチでは、水路と考えられるSD-21～24の3条(SD-23・24は同一の溝と考えられる)、水路沿いの幅の狭い溝であるSD-28の1条、立柱痕跡をもつSP-27、小穴のSP-25・26を調査した。

SD-21の埋土上部はシルト質土で、Ⅵ層の鈍い黄褐色粘質シルトの塊が混じる。下底付近には流水によると考えられる縞状の砂礫層が堆積している。SD-22の埋土最下層にも流水による砂礫層が堆積する。埋土の中でも、図.75－①



SD-21

①黒褐色シルト。黄褐色シルトの小指大の丸い、直径２～３mmほどの礫をごく少量含む。

②黒色シルト。①と比べてやや砂っぽい。鈍い黄褐色の小塊を疎らに含む。２～３mmの礫石が全体にごく少量混じる。土器の細片が出土。

③黒色シルトを主に、鈍い黄褐色の小塊をごく少量含む。炭化物の細片がごく少量出土。

④黒色シルトで、黒褐色の２cm大の丸い塊をごく少量含む。土器片が出土。

⑤暗褐色粘質シルトで、全体に黄色味が強い。

⑥暗褐色粘質シルトに、黒色が少し混ざり込む。

⑦黒色シルトに、暗褐色の薄いレンズ状ブロックを含む。

⑧黒色のやや粘質の強いシルトで、褐色シルト質の小塊を少量含み、炭化物細片が疎らに出土。また、多くの土器片が出土。

⑨黒色シルトで、褐色シルトの小指先大の丸い塊をごく少量含む。炭化物の細片が疎らに出土。土器片が出土。

⑩黒色砂質シルトを主体に、褐色の0.5cmの粒状ブロックを疎らに含む。土器片、炭化物片が疎らに混じる。

⑪黒褐色砂礫層、下部ほど砂質が強く、黒色の薄いレンズ状ブロックをごく少量含む。砥石、土器、炭化物片がごく少量出土。

⑫暗褐色細砂質土で、５cm幅の薄いレンズ状ブロックを極少量含む。下部から１cm大の角張った炭化物の塊が少量出土。

⑬鈍い黄褐色の細砂質土。

⑭黒褐色細砂質土。

⑮暗褐色砂礫層で、鈍い黄褐色シルトの１～２cm幅の薄いレンズ状ブロックが多く混じる。

SD-22

①黒褐色砂質シルトに黄褐色の小塊が疎らに混じる。

②黒色砂質シルトに鈍い黄褐色の３cm大の楕円形の塊がごく少量混じる。

③黒褐色砂質シルトに明黄褐色の小塊がごく少量混じる。

④黒褐色シルト。

⑤黒褐色砂質シルトに、黄褐色シルトの薄いレンズ状ブロックが多く混じる。

⑥鈍い黄褐色シルト。

⑦暗褐色砂質シルトに明黄褐色の２cm大の塊が混じる。

⑧黒色砂質シルトに黄褐色シルトの５cm大の塊が混じる。

⑨黒褐色砂質シルトで明黄褐色の２cm大の楕円形の塊がごく少量混じる。

⑩黒褐色砂質シルトに黄褐色シルトの10cm大の塊が混じる。

⑪黒褐色シルト。

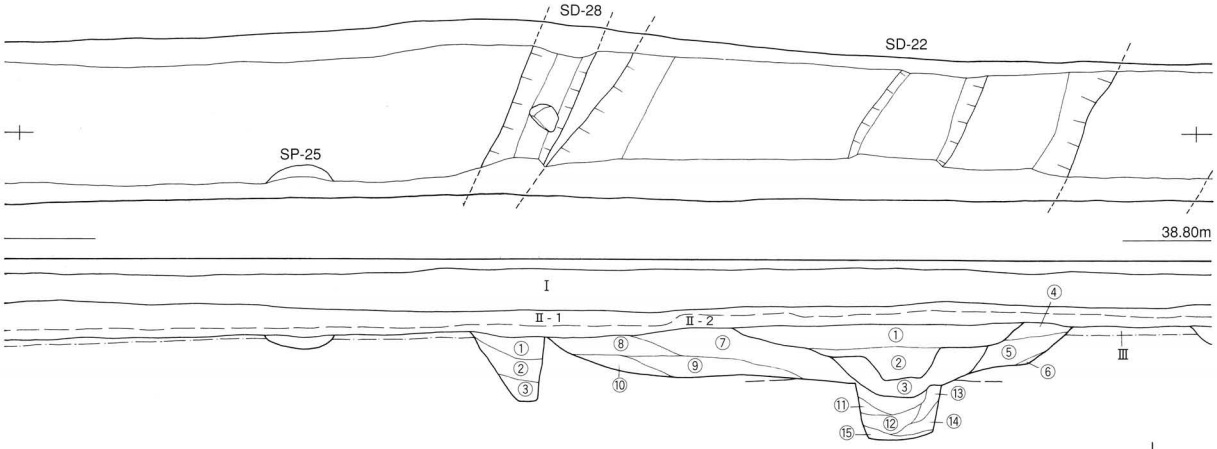
⑫黒褐色砂質シルトを主体として明黄褐色(10YR6/6)の小塊が疎らに混じる。

⑬黒褐色シルト。

⑭黒褐色砂質シルトに黄褐色の２cm大の丸い塊がごく少量混じる。

⑮鈍い黄褐色シルト。

図.75　99401-2トレンチ遺構・土層断面実測図（縮尺 1/50）



SP-27

①柱痕跡。黒色シルトに、暗褐色シルトの１～５cm大の塊が多く混じる。

②黒色シルトに黒褐色が多く混ざり込み、明黄褐色の小塊が疎らに混じる。

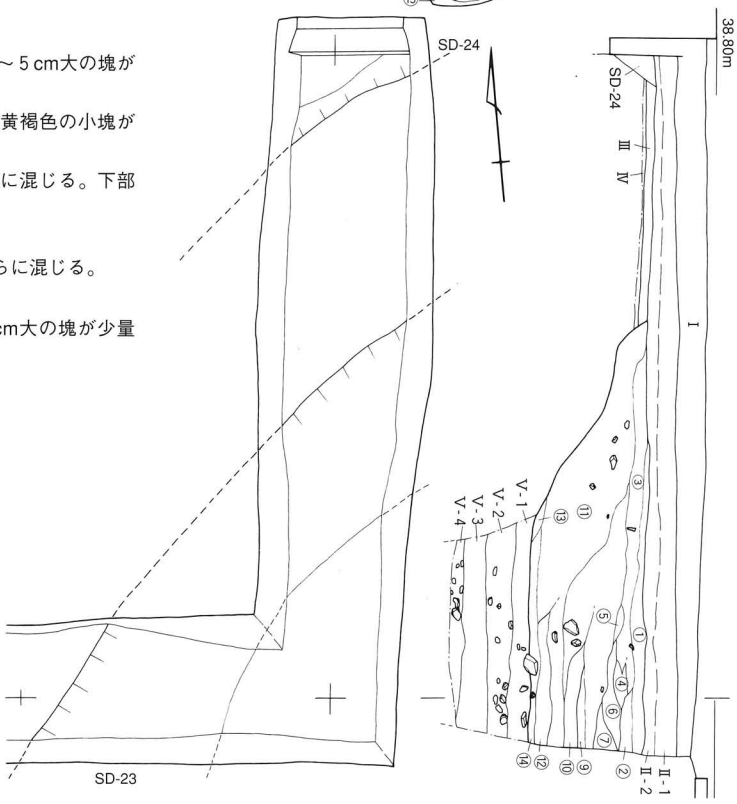
③黒色シルトに明黄褐色シルトの小塊が散漫に混じる。下部には10cm大の塊がいくつか混じる。

SD-28

①黒色で、上部にはオリーブ褐色の小塊が疎らに混じる。

②黒色シルト。土器片が出土。

③黒色シルトで黄褐色の小塊や明黄褐色の3cm大の塊が少量混じる。



SD-23

①黒褐色砂質シルトで、かなり砂礫を含む。

②黒色砂質シルトに、暗褐色シルトのレンズ状ブロックや、褐色シルトの小塊が少量混じる。

③黒色砂質シルト。

④黒褐色砂礫混じりのシルトで、鈍い黄褐色シルトの小塊が少量混じる。

⑤黒褐色砂質土。

⑥黒色シルトで、黒褐色粘質シルトや褐色シルトの２cm大の塊がごく少量混じる。

⑦黒色シルトで、右斜め上方から、厚さ１cm、長さ５cmほどの鈍い黄褐色の細長いブロックがみられる。

⑧黒色砂質土で、薄いレンズ状の微細、細砂が縞状に堆積し、褐色シルトの小塊が少量混じる。土器が出土。

⑨黒色のやや砂質の強い砂質シルトで、褐色の小塊がごく少量混じる。

⑩黒褐色砂層で、微細・細砂が縞状の互層となって堆積。褐色のごく小さい塊が疎らに混じる。

⑪黒色砂質シルトで、鈍い黄褐色シルトの２～５cm大や11cm大の塊が混じる。量はごく少量である。土器が出土。

⑫灰黄褐色砂質シルトで黄褐色粘質シルトの親指大の塊が混じる。

⑬黒褐色砂質シルトで、角張った炭化物片を少量含む。

⑭黒褐色砂質土で、微細、細砂が縞状に互層堆積。

～⑦・⑨・⑫・⑭は、砂礫を多く含む砂質シルトで、Ⅳ層の黄褐色粘質シルトのブロックが混じる。土層の堆積状態から２度ほどの掘り直しを確認できた。SD-23は全体に砂質が強い埋土をもつ。いくつかの土層では、流水を物語る砂層が縞状に互層状態で堆積している。SD-28の埋土はシルト質土で、流水を示す砂層などは検出されなかった。この他、SP-27の立柱痕跡は平面で検出できず、土層断面で確認した。SP-25･26は黒色～黒褐色シルトの埋土をもつ。

今回は、北吉井団地における最初の発掘調査である。樽味遺跡３次調査や周辺の調査では、古墳時代５～６世紀の竪穴式住居跡や掘立柱建物が調査されている。今回調査した遺構も、こうした古墳時代集落の一部と考えられる。

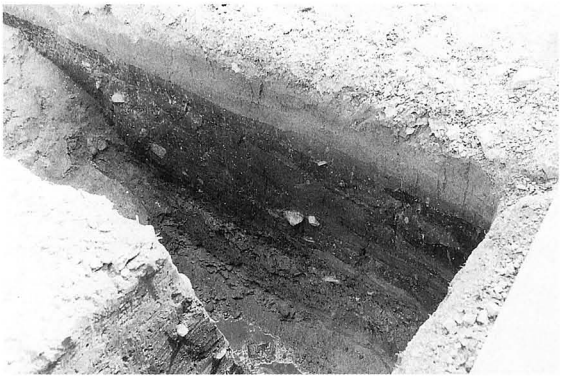


写真.59　99401-2トレンチSD-23土層断面

99402　東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査(その２)

調 査 地 点：松山市東長戸４丁目３番１号
東長戸団地(図.71)
調 査 面 積：９㎡
調 査 期 間：1994年５月17日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保

東長戸団地では、既往の発掘調査はなく、埋蔵文化財の有無さえ把握されていない。しかし、団地敷地は、周囲の現水田面と比べて40～50㎝高い。そのため、掘削面が浅い駐車場の舗装と排水管路部分の工事は、表土にあたる造成土までしかおよばないと判断した。しかし、駐車場整備に伴って埋設される排水管枡の埋設部分には、現地表下１ｍまで掘削されるため、立会調査することとした(図.76)。

排水管枡が設置される個所は８ヶ所で、北側から１～８のトレンチ(地点)名を与えた。各地点ともに、以下Ⅰ～Ⅴ層の土層堆積が認められた(図.77)。

Ⅰ層は造成土である真砂土層で、Ⅱ層は造成以前の旧水田層で、各トレンチで確認した。Ⅱ層は、Ⅱ-1層の耕作土層と、Ⅱ-2層の床土層に細分できる。

Ⅲ層は遺物包含層で、１～４・６トレンチで調査した。５トレンチでは、Ⅲ層はみられず、Ⅱ-2層下には、後述するⅣ層が堆積している。７・８トレンチではⅢ層は確認できていない。Ⅲ層は、上部の黒褐色粘質シルト層と、下部の極暗褐色シルト層に細分できる。上部をⅢ-1層、下部をⅢ-2層とした。遺物はⅢ-1層から土器が出土したが、器面の磨滅が著しい細片である。また、炭化物片が多く混じる。Ⅲ-2層からは土器は出土しておらず、炭化物も少ない。

４・５トレンチではⅢ層の下層でⅣ層の砂礫層を確認した。Ⅳ-1・Ⅳ-2層に細分できる。Ⅳ-1層は暗褐色～鈍い黄褐色の砂礫が縞状の互層で堆積している。５トレンチでは、親指先大の円礫が混じる。Ⅳ-2層はオリーブ褐色の細砂層で、礫は含まれない。

団地全体での土層の堆積状況をみると、東南

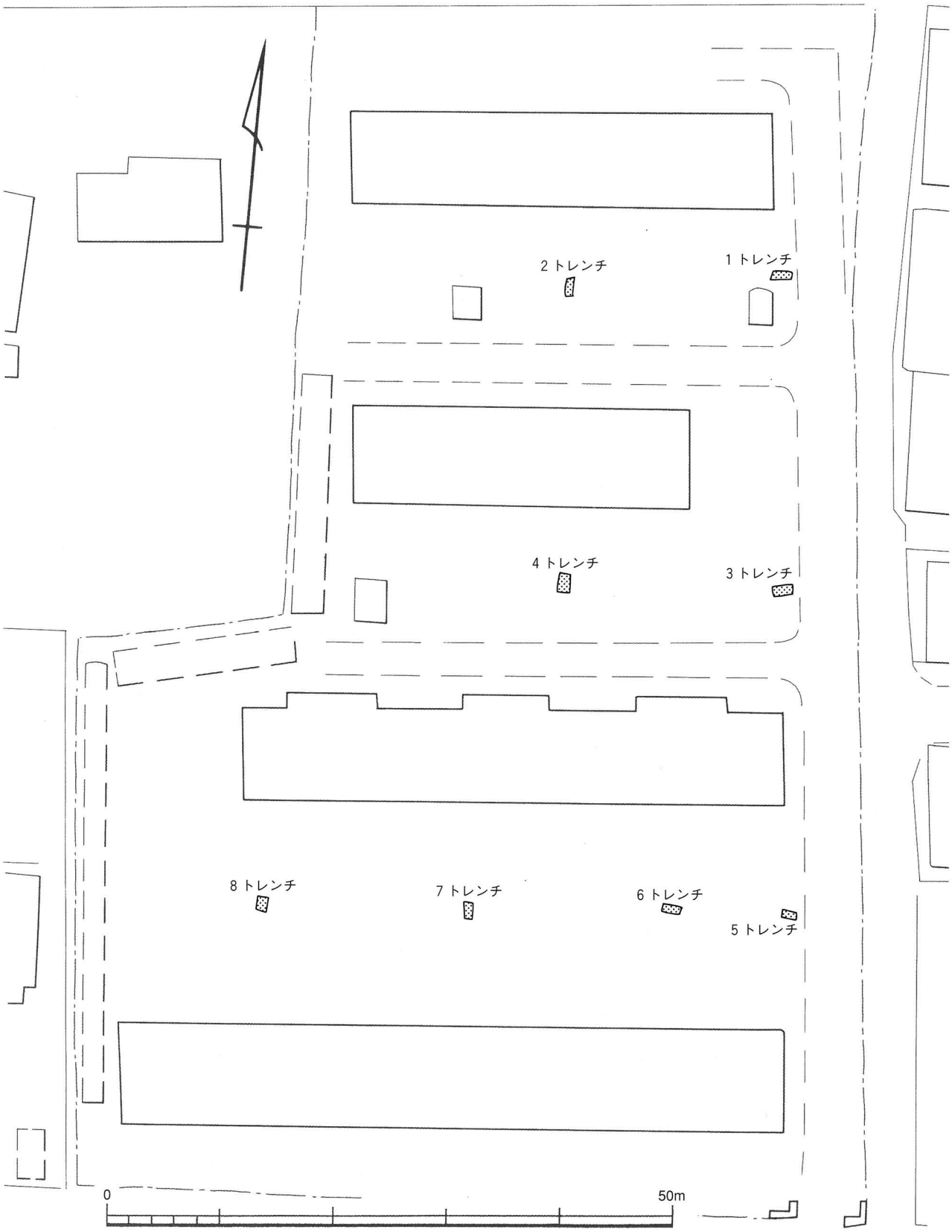


図.76　994021～8トレンチ位置図（縮尺 1/500）

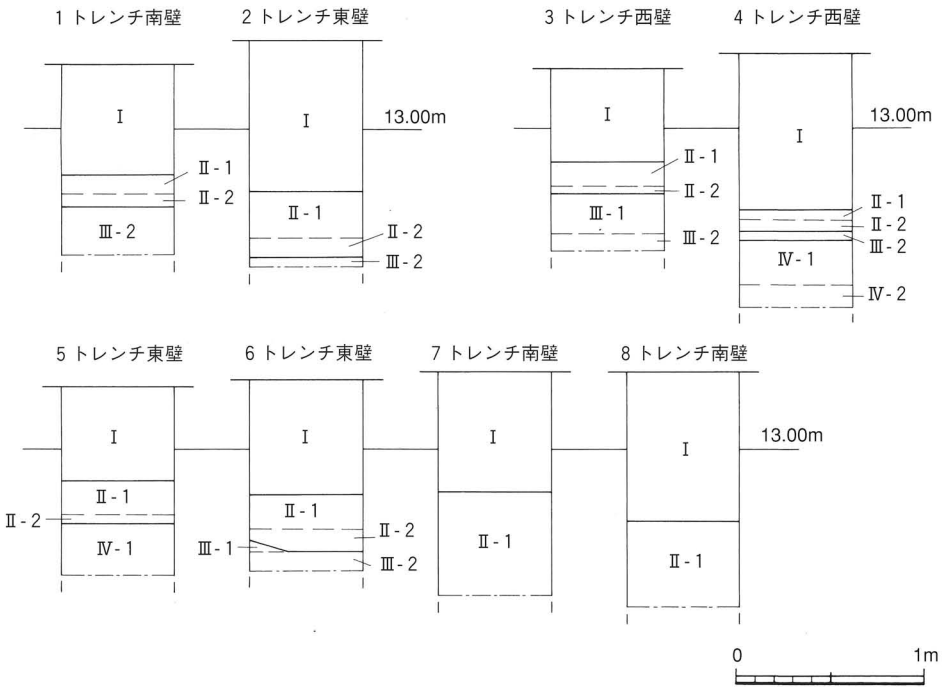


図.77　99402-1～8トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

写真.60　99402-3トレンチ土層断面

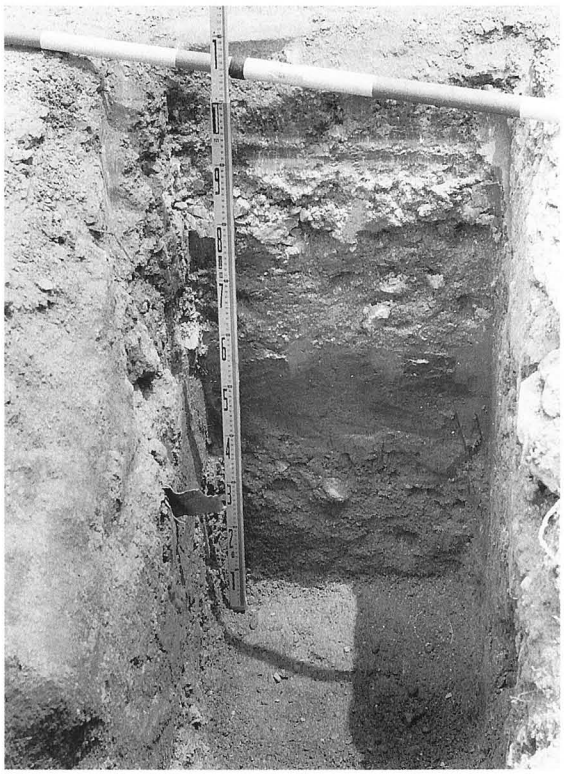


写真.61　99402-5トレンチ土層断面

部の１・３トレンチでは遺物包含層であるⅢ層が比較的厚く堆積し、２・４・６トレンチでは層厚は薄い。とくに、６トレンチではⅢ層の検出面は、他のトレンチと比べて低く、堆積も部分的である。また、南西部の７・８トレンチでは現地表下1.2mまで掘り下げたが、Ⅲ層は確認できていない。以上から、東長戸団地の北東側からのびる微高地上に遺物包含層が形成されていると考えられる。また、４・５トレンチで確認されたⅤ層は河川堆積物である。微高地沿いの水利関連の遺構が営まれている可能性が残されている。

99403　樽味団地環境整備(附属農業高等学校他自転車置場取設)工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市樽味町３丁目５番７号
樽味団地(図.70)
調 査 面 積：7.8m²
調 査 期 間：1994年５月24日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保

工事の対象地となった地点は、樽味団地の附属農業高等学校の北東角に位置し、周辺の既往の調査はない(図.５)。そのため、自転車置場整備に伴う排水管路と排水枡が設置される３ヶ所について、事前に試掘調査を実施して埋蔵文化財の有無を確認することとなった。工事の対象範囲は舗装もしくは植栽されており、間隙をぬって３ヶ所に試掘トレンチを設定した。各トレンチには北側から１～３の番号を付している。

序説で述べたように、樽味団地では既往の調査成果から、Ⅰ～Ⅴ層の基本層序を設定している。今回の調査では、１～３トレンチのいずれにおいても、表土層のⅠ層と旧水田層のⅡ層が確認できたが、Ⅱ層の直下では、基本層序のⅣ層に対応する褐色シルト質土層があらわれ、遺物を包含するⅢ層はみられない。北側に隣接する水田面と比べて、工事対象地は50～80cmほど低く、附属農業高等学校の敷地を造成する際に削平を受けたものと考えられる。

各トレンチの土層の特徴は、Ⅰ層は表土層にあたる舗装部分(Ⅰ-1層)、造成土部分(Ⅰ-2層)、Ⅱ層は造成以前の旧水田層である灰色系のシルト層である。Ⅳ層は褐色シルト質土層で、１トレンチでは下部が漸移的に同色の砂礫層に変化する。Ⅳ層の上面で精査したが、調査範囲が狭

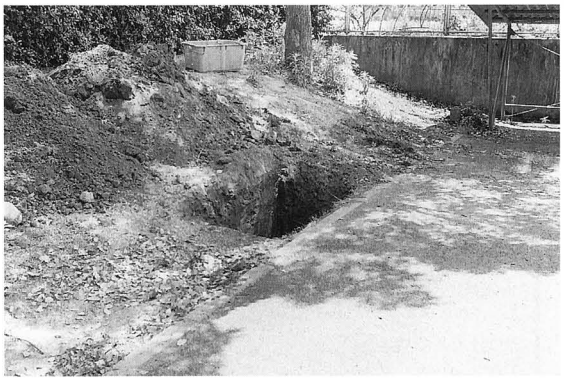


写真.62　99403-1トレンチ（西から）

写真.63　99403-2トレンチ（東から）

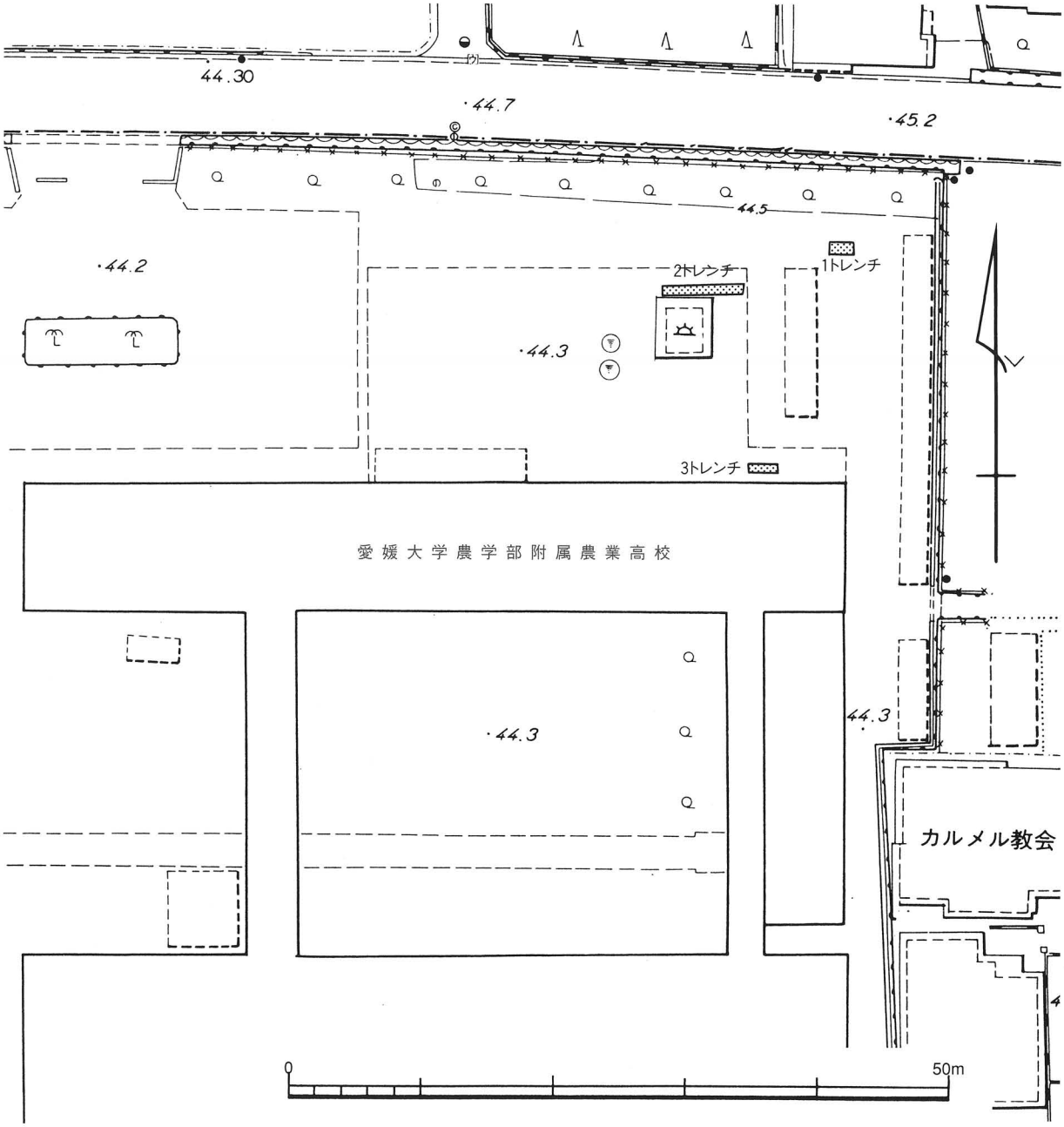


図.78　99403-1～3トレンチ位置図（縮尺 1/500）

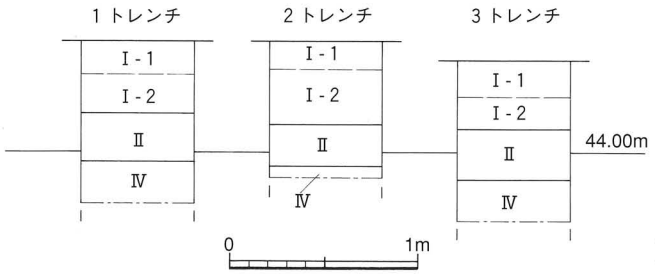


図.79　99403-1～3トレンチ
土層柱状図（縮尺 1/40）

いこともあって、遺構・遺物ともに出土しなかった。しかし、工事対象範囲には遺構が残存している可能性も残っている。

そこで、調査終了後、施設部との協議を行い、もっとも掘削面が深い排水管路と排水枡の掘削深度を、Ⅳ層上面があらわれる現地表下0.6～0.65mまでにとどめるとの設計変更を行うことで慎重工事を指示した。

99404　城北団地他環境整備(単車置場整備)工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.69)
調 査 面 積：1.4㎡
調 査 期 間：1994年６月７日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保
図版篇図幅：図幅24（Ｊ４-25）

単車置場が整備される地点は、城北団地の西門に隣接する位置にある。工学部４号館の建設に伴って、70～100㎝ほど盛り土されている。単車置場の舗装工事に伴う掘削は20㎝ほどで、埋蔵文化財に影響ないものと考えられる。ただし、単車置場の西側に設置される排水管路部分は50㎝ほどの掘削が行われるため、この部分についてのみ立会調査を実施することとした。

表土層にあたる砂利および造成土のⅠ層、造成以前の旧水田層であるⅡ層を掘り下げ、現地表下55㎝で遺物包含層にあたるⅢ層があらわれた。Ⅲ層は暗褐色砂質シルトで、小さな炭化物片を多く含む。20㎝以上の厚さが予想されたため、上下に人工的に分層しながら精査した。上部からは弥生時代中期後葉～末の甕・分銅形土製品、下部からは甕・壺などの胴部の細片が少量出土した。Ⅲ層中に炭化物を含むことから、竪穴式住居跡などの遺構の埋土部分である可能性が強い。そこで、Ⅲ層を掘り下げた後に、褐色砂質シルトのⅣ層上面で、遺構の検出を試みたが、調査範囲が極端に狭いために確証を得ることはできなかった(図.80、写真.64)。

今回の排水枡設置工事に伴う掘削面が、遺物包含層のⅢ層直上に設定されているので、埋蔵文化財への影響はないものと判断し、慎重工事を指示して調査を終了した。

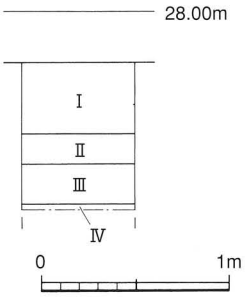


図.80　99404土層柱状図（縮尺 1/40）

写真.64　99404 調査地点（東から）

99405　城北団地他環境整備(自転車置場設置)工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.69)
調 査 面 積：81.3㎡
調 査 期 間：1994年６月８日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保
図版篇図幅：図幅18（Ｊ４-20）

今回の自転車置場の設置地点は、城北団地中央部の東より部分である。周辺では松山市教育委員会による立会調査(調査番号：98301)があるが、調査結果のデータが残されておらず、工事の直前に、試掘調査を実施することとした。工事部分である東西長32.5m、幅2.5mの範囲の中で、東西端の２カ所で、自転車置場の屋根の支柱を設置するために掘削する現地表下60㎝まで掘り下げた(図.81、写真.65・66)。

Ⅰ層の表土層にあたる造成土の下層からは、城北団地における基本層序のⅡ層にあたる暗灰黄色～灰黄褐色の砂質シルト層があらわれた。とくに、西端部では、Ⅱ層中に縞状にマンガンや鉄分の薄い集積層が観察された。幾層かの水田層が重なった土層群である。既往の調査では、Ⅱ層の旧水田層の時期を出土遺物から判断できないでいたが、今回の調査でⅡ層中位から近世～近代の染付碗破片などが出土し、近世以降の水田であることを確定できた。

Ⅱ層は、西端部では現地表下0.95m前後まで続く。東端部では0.7m前後までⅡ層がみられ、その下層は、暗灰色の粗細砂および小礫が縞状に互層堆積した砂礫層である。堆積状況から旧流路の堆積物と考えられる。流れの方向から３層に細分できるが、ほとんど質の変化はみられない。

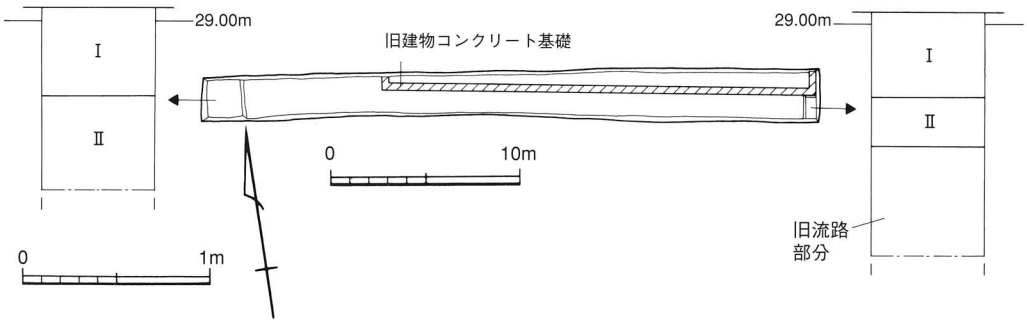


図.81　99405トレンチ実測図および土層柱状図（縮尺 1/400・1/40）

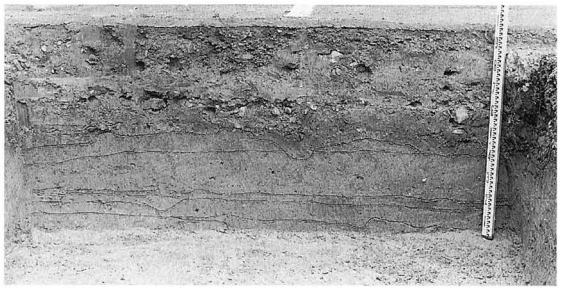


写真.65　99405 調査区西端土層断面

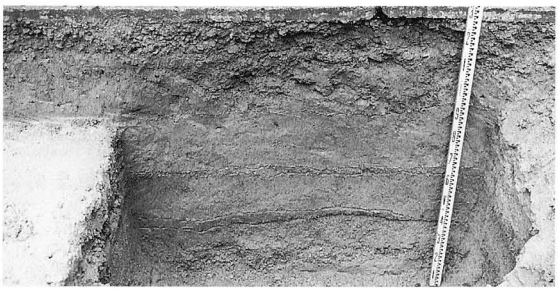


写真.66　99405 調査区東端土層断面

99406　城北団地他環境整備(自転車置場・排水管設置)工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町２番
　　城北団地(図.69)
調 査 面 積：5.3㎡
調 査 期 間：1994年６月10日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保
図版篇図幅：図幅19（Ｊ５-16）

調査地点は城北団地理学部敷地のほぼ中央に位置する。これまで理学部敷地内では、文京遺跡８次調査(調査番号：98603)が行われている。その調査結果から自転車置場の整備工事について埋蔵文化財に影響がないものと判断できた。ただし、排水管路は掘削面が深いために、立会調査を実施することとした。

排水管路には両端の排水枡が設置される。そのため、南端部分を１トレンチ、北端を２トレンチとし、その中間の管路部分に３トレンチを設定した(写真.67)。各トレンチとも攪乱が著しかったが、黒褐色の遺物包含層(Ⅲ層)が部分的に残存していた。排水枡部分の1・2トレンチでは調査を続けたが、管路部分については、施設部との協議の上、掘削深度を遺物包含層(Ⅲ層)上面までにとどめることで、Ⅲ層上面を確認した段階で調査を終了した。

各トレンチの層序は、表土層にあたる造成土部分のⅠ層、造成以前の旧水田層であるⅢ層の下層、現地表下60cmで遺物を包含する黒褐色シルト層があらわれた。砂礫をほとんど含まない土層で、土器の細片がごく少量出土した。Ⅲ層の層厚は10～15cmほどで、その下層には、にぶい黄褐色シルト層が堆積している。城北団地における基本層序のⅣ層である。１トレンチの下層では、３～５cm大の花崗岩の円礫の集中する部分を挟み、部分的に細砂の小さく薄いレンズ状ブロックが混じる白っぽい砂質土層が確認できた。にぶい黄褐色シルト層をⅣ-1層、１トレンチの白っぽい砂質土層をⅣ-2層とした。Ⅳ-1層に縄文時代後期の遺物が包含されている可能性を考え精査したが、遺物は出土しなかった(図.82、写真.68～70)。

99407　城北団地他環境整備(排水枡及び管路取設)工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.69)
調 査 面 積：5.9㎡
調 査 期 間：1994年８月１日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保
図版篇図幅：図幅18（Ｊ４-20）

調査地点は、城北団地の北西部に位置し、学生部と教育学部４号館の間に位置する。計画されている排水管路の両端を事前に試掘調査した。北側の調査地点を１トレンチ、南側を２トレンチとした。１トレンチでは、現地表下60cm

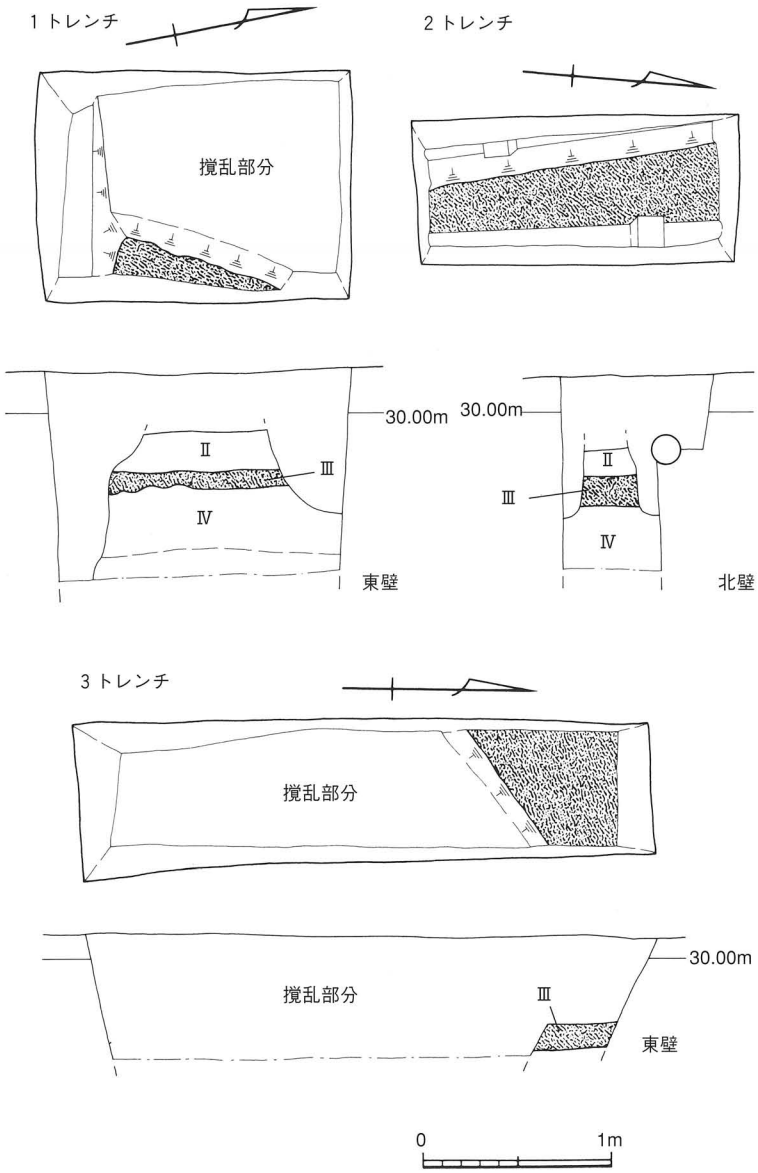


図.82　99406-1～3トレンチ実測図（縮尺 1/40）

写真.67　99406-1～3トレンチ

写真.68　99406-3トレンチ

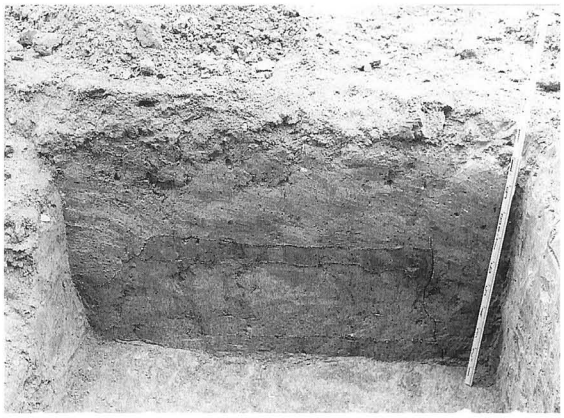


写真.69　99406-1トレンチ土層断面

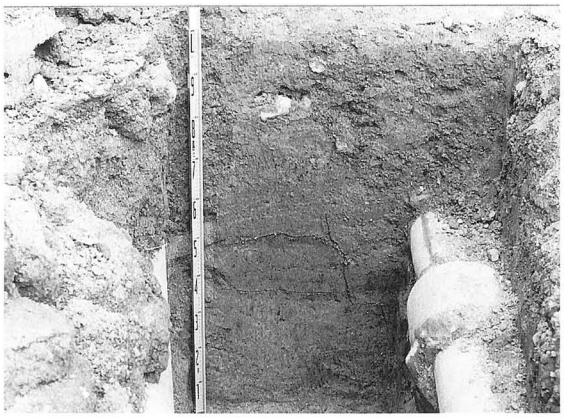


写真.70　99406-2トレンチ土層断面

で配水管、２トレンチでも40cmで電気通信線があらわれたため、掘削面が浅く変更されることになり、埋蔵文化財への影響がないと判断して調査を終了した。

ただし、１トレンチの北端を若干深く掘り下げた。その結果、表土層であるⅠ層下に、黒褐色砂質土を確認した。鉄釘などが出土し、攪乱層と考えられる。さらに、現地表下63cmで、にぶい黄褐色砂礫層のⅣ層があらわれた。Ⅳ層には、小さく破砕した花崗岩の小円礫が混じる(図.83)。

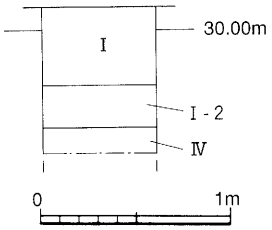


図.83　99407-1トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

99408　城北団地他環境整備(電気配管路取設)工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.69)
調 査 面 積：3.2m²
調 査 期 間：1994年８月１日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保
図版篇図幅：図幅18（Ｊ４-20）

城北団地の北西部に位置する第１体育館前への電気通信線の設置が計画され、事前に試掘調査を実施した。しかし、現地表下75cmまで造成土が堆積しており、さらに既設の電気通信線があらわれた(図.84)。そのため、掘削深度が変更されたので、調査を終了した。

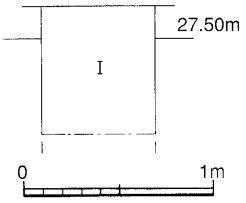


図.84　99408土層柱状図（縮尺 1/40）

99409　工学部岩盤切削試験機設置工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市文京町３番
　　城北団地(図.69)
調 査 面 積：1.1m²
調 査 期 間：1994年９月27日
調査の種別：立会調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄
図版篇図幅：図幅24（Ｊ４-25）

調査地点は、城北団地の南西角近くに位置する。東側の文京遺跡５次調査地点(調査番号：98401)の成果から、当該地点での遺物包含層の上面は現地表面下40cmより深いものと推測された。そこで、掘削面の深い電線埋設部分の立会調査を実施することとした。

表土部分の瓦礫と真砂土からなる造成土が厚く堆積し、造成土下には攪乱されたと考えられる砂礫混じりの褐色砂質シルトがみられる。造成土部分をⅠ-1層、攪乱部分をⅠ-2層とした。

電線の埋設工事に伴う掘削はⅠ層中におさま

る。しかし、埋蔵文化財分布のデータをえるために、現地表下110～115cmまで深掘りを行い、遺物包含層であるⅢ層の上面を確認した。この地点では、Ⅲ層は暗褐色の砂質シルトである。Ⅲ層の上面を一部掘り下げたが、弥生土器の細片が少量出土した(図.85)。

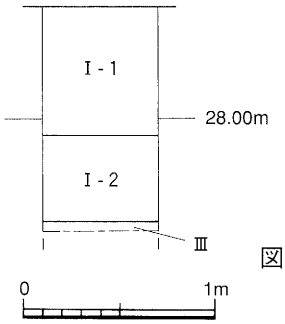


図.85　99409土層柱状図
(縮尺 1/40)

99410　工学部校舎新営(Ⅰ期)工事に伴う調査(文京遺跡12次調査)

調 査 地 点：松山市文京町３番
城北団地(図.69)
調 査 面 積：1,183㎡
調 査 期 間：1994年11月10日～1995年７月26日
調査の種別：全面調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄・高原美保
図版篇図幅：図幅24（Ｊ４-25）

調査地点は、城北団地の南西部、工学部３・４号館の北側、運動場の南半部に位置する。工学部では、大学院博士課程の設置と研究施設の充実に向けて、実験研究棟を３期に分けて建設することになった。今回の調査は、その第Ⅰ期工事に伴う調査である。事前試掘調査(調査番号：99314)を1993年度に実施したが、Ⅲ層上面を検出した時点で、工事予定地には遺構が密集していることが予想された。調査結果では、予想に違わず、弥生時代中期後葉～後期中頃と古墳時代６世紀後半の竪穴式住居跡・掘立柱建物・貯蔵穴・溝・土壙などの遺構が幾重にも重なり密集する状況が確認できた(図.86、写真.71・72)。

時期別にみると、弥生時代の遺構には、竪穴式住居跡30棟、掘立柱建物５棟以上、貯蔵穴14基、溝２条、大小の土壙60基以上がある。竪穴式住居跡には、直径５～６ｍほどの円形住居(写真.73)と、一辺３ｍ前後の小型の方形住居(写真.74)が同時に営まれている。また、北側の３基の貯蔵穴からは大量の炭化米が出土した(写真.78)。貯蔵穴は、壁が倒壊すると、ゴミ穴に利用されており、大量の土器が出土している(写真.77)。掘立柱建物は１×２間で高床式倉庫と考えられる(写真.75・76)。この他、粘土を貯蔵した土壙(写真.80)などがある。出土遺物には、石包丁・打製石鏃・片刃石斧や土錘、鋳造鉄斧などがある。土器の中には、焼成時に粘土に含まれる構造水分が失われる際に、器面が破裂した痕跡をもつものや、破裂した土器剥片がみられる。

古墳時代(６世紀後半)の遺構は少なく、竪穴式住居跡２棟、溝２条などがある。調査区を東西に横断する溝には馬の下顎が投棄されていた(写真.81)。

遺構の分布状況から、集落は調査区の北側へ広がることが予想される。1996年度から実施されている工学部校舎新営Ⅱ期工事に伴う文京遺跡14次調査では、より密集した状況で竪穴式住居跡などの遺構が調査されつつある。

図.86　99410（文京遺跡12次調査）調査区全体図

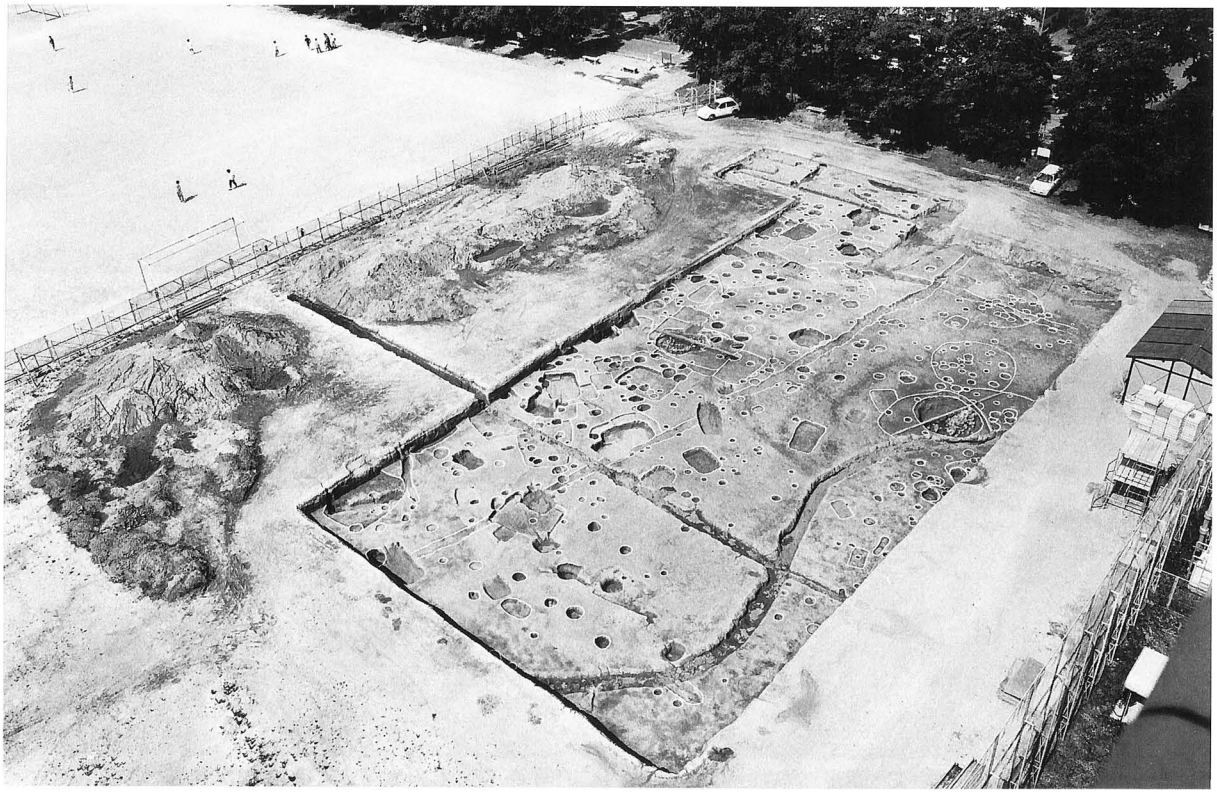


写真.71　99410（文京遺跡12次調査）調査区全景（南西から）

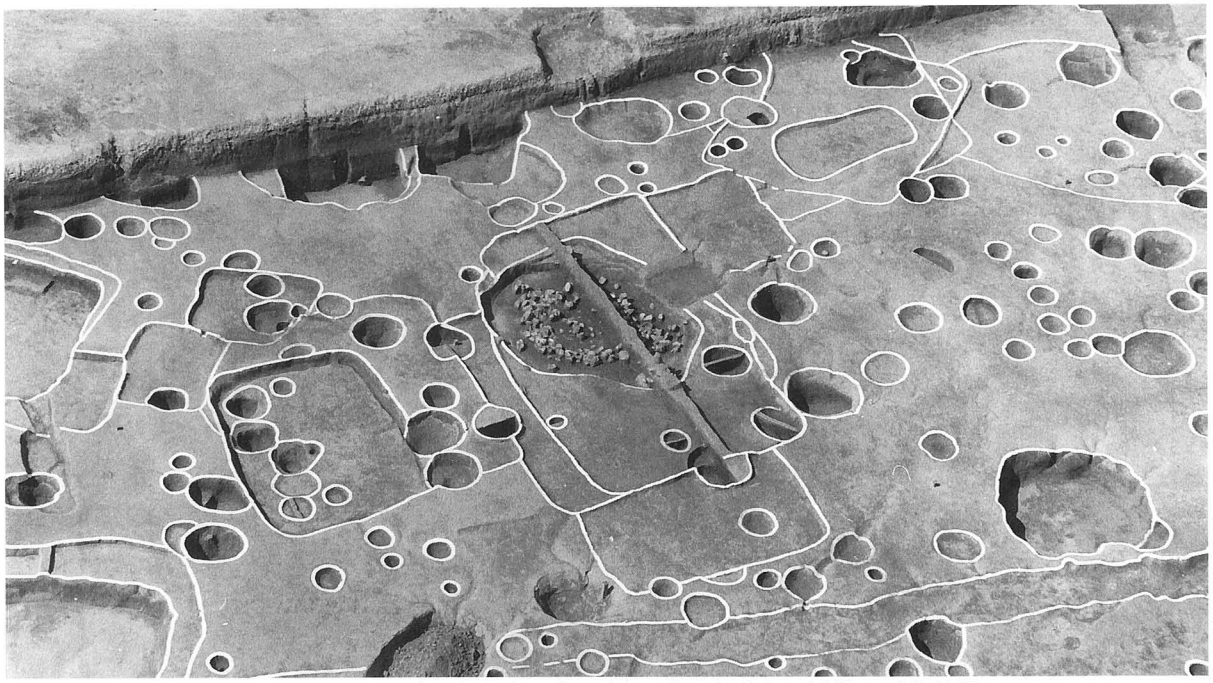


写真.72　99410（文京遺跡12次調査）調査区北半部の遺構の重複状況

写真.73　99410（文京遺跡12次調査）SC-27

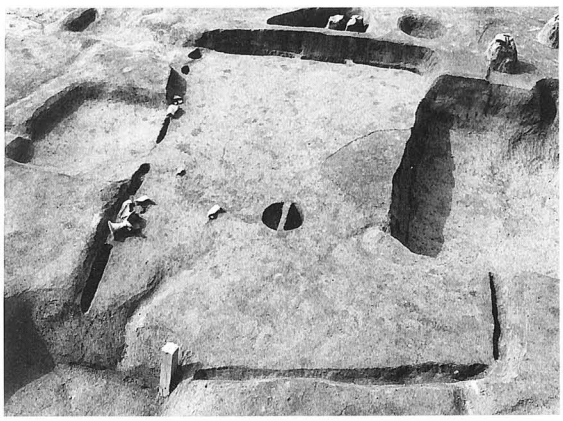


写真.74　99410（文京遺跡12次調査）SC-62

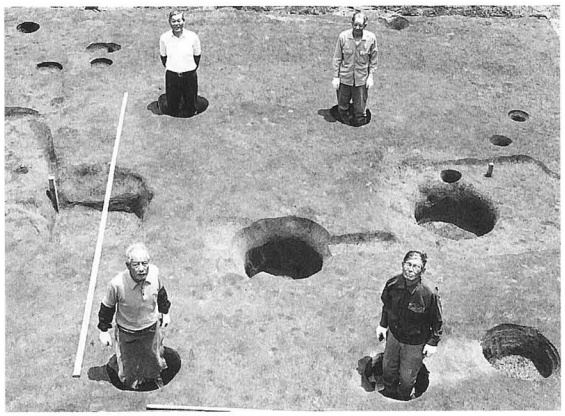


写真.75　99410（文京遺跡12次調査）掘立柱建物

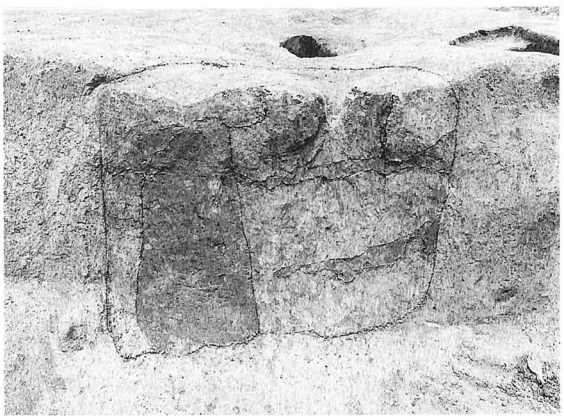


写真.76　99410（文京遺跡12次調査）掘立柱建物
柱穴断面

写真.77　99410（文京遺跡12次調査）SU-375

写真.78　99410（文京遺跡12次調査）SU-33

写真.79　99410（文京遺跡12次調査）SK-387

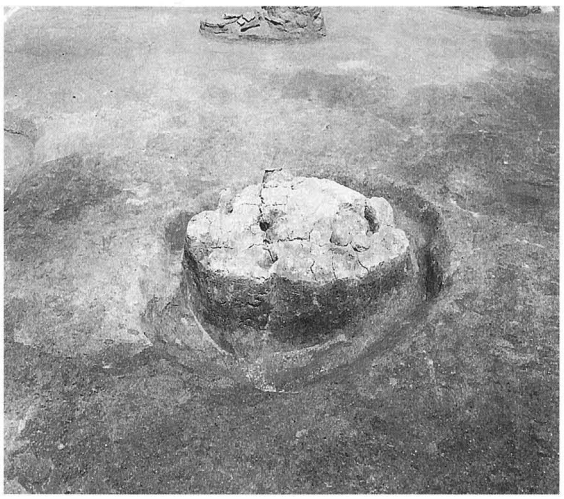


写真.80　99410（文京遺跡12次調査）SK-81

写真.81　99410（文京遺跡12次調査）SD-06
馬歯出土状況

写真.82　99410（文京遺跡12次調査）現地説明会

99411　教育学部附属養護学校野外施設(東屋)設置工事に伴う調査

調 査 地 点：松山市北斎院町津田山
　　津田山団地(図.72)
調 査 面 積：33m²
調 査 期 間：1995年１月27日
調査の種別：試掘調査
調 査 担 当：田崎博之
調 査 補 助：宮崎直栄

附属養護学校の野外施設(東屋)が設置される予定地は、津田山団地の丘陵南斜面に位置する(写真.83)。工事に先立って、事前に試掘調査を実施することとした。まず、工事予定地の南西部分に、丘陵斜面に平行する長さ5.5m、幅１mのトレンチを設定した。調査の結果、遺構・遺物は出土しなかった。その後、工事予定地の全面を掘削面まで掘り下げ、遺構がないことを確認し調査を終了した。

東南部のトレンチ壁では、以下の土層の堆積が観察できた(図.87)。表土層の①層は真砂土からなる造成土である。②層は灰色粘質土層で、土質は軟らかい。③層は暗黒褐色粘質土に和泉砂岩の小指大の角礫を多く含む。②層と比べると、土質は比較的硬くしまっている。②・③層は丘陵斜面の流土部分と考えられる。④層は丘陵の岩盤にあたり、灰褐色粘質土に小指～拳大の和泉砂岩の角礫を多く含む。

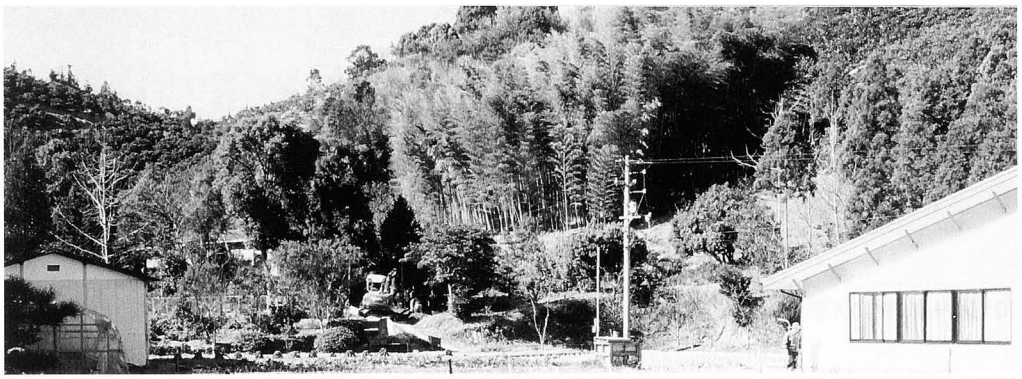


写真.83　99411調査地点遠景（北東から）

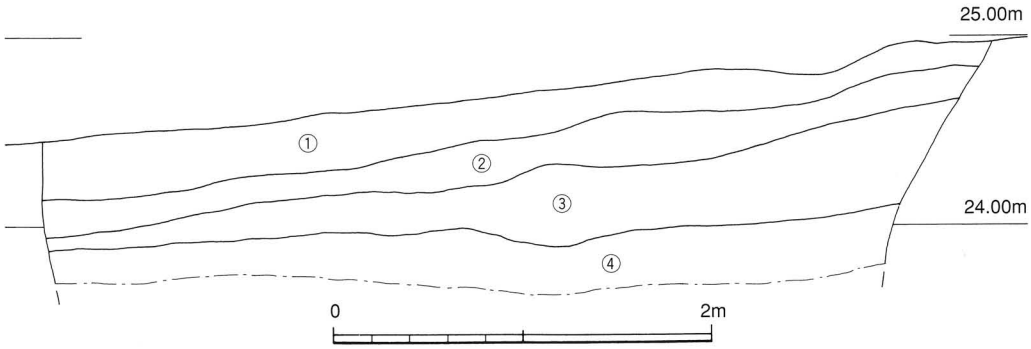


図.87　99411土層断面図（縮尺 1/40）

巻　末　表

1．愛媛大学構内における調査一覧

2．道後・城北遺跡群における調査一覧

参考文献・註

1．愛媛大学構内における調査一覧（1997年３月現在）

調査番号	遺跡名 次数	団地	工事調査名	調査種別	調査機関（調査担当者）	面積（m²）	調査期間	図版図幅	参考文献
EU－97501	文京遺跡１次	城北	工学部海洋工学科校舎新営工事に伴う調査	全面	松山市教育委員会（長井数秋）	750	19750801 ～19750824	24	6
EU－98001	文京遺跡２次	城北	工学部資源科学科校舎新営工事に伴う調査	全面	松山市教育委員会（西尾幸則）	600	19800708 ～19800930	24	23
EU－98101	文京遺跡３次	城北	法文学部校舎新営工事に伴う調査	全面	松山市教育委員会（西尾幸則）	800	19820110 ～19820325	24	23
EU－98301	文京遺跡	城北	雨水管・汚水管・ガス管埋設工事に伴う調査	立会	松山市教育委員会（西尾幸則）	1,374		18・24	
98302	文京遺跡	城北	教育学部校舎建設に伴う調査	立会	松山市教育委員会（西尾幸則）	－	1983年	18	
EU－98401	文京遺跡５次	城北	工学部危険物貯蔵庫新営工事に伴う調査	全面	松山市教育委員会（西尾幸則）	18	19841026 ～19841028	24	23
EU－98601	文京遺跡６次	城北	城北地区基幹整備工事に伴う調査	全面	人類考古学研究室（下條信行）	99	19861000	18・24	
98602	文京遺跡７次	城北	法文学部校舎増築工事に伴う調査	全面	人類考古学研究室（下條信行）	142	19860800 ～19860900	24	註1.
98603	文京遺跡８次	城北	城北団地基幹整備事業に伴う調査	全面	人類考古学研究室（下條信行）	854	19861125 ～19870218	19	18
98604	樽味遺跡	樽味	連合農学研究科校舎新営工事に伴う調査	試掘	人類考古学研究室（下條信行）	5	19870109		
98605	鷹子遺跡	鷹子	国際交流会館新営工事に伴う調査	試掘	人類考古学研究室（下條信行）	47	19870116		
EU－98701	鷹子遺跡１次	鷹子	国際交流会館新営工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室（宮本一夫）	962	19870720 ～19870920		16 本書5～8頁
98702	樽味遺跡	樽味	連合農学研究科校舎新営工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室（下條信行）	18	19870820 ～19870821		本書8～12頁
98703	樽味遺跡	樽味	附属高等学校課外活動施設新営工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室（下條信行）	6	19870820		本書12・13頁

調査番号	遺跡名 次数	団地	工事調査名	調査 種別	調査機関(調査担当者)	面積 (m²)	調査期間	図版 図幅	参考文献
EU－98704	樽味遺跡１次	樽味	連合農学研究科校舎新営工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	684	19871028 ～19871217		16 本書13～15頁
98705	文京遺跡	城北	城北地区プール廻り浄化装置増設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	2	19871113	18	本書15頁
98706	文京遺跡９次	城北	城北地区プール廻り浄化装置増設工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	62	19880111 ～19880129	18	18 本書15～18頁
EU－98801	文京遺跡10次	城北	工学部情報工学科校舎新営工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	1,075	19880919 ～19890303	24	19 本書19～24頁
98802	文京遺跡	城北	城北地区基準点等設置工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	5	19881013	18･24	本書25頁
98803	文京遺跡	城北	工学部講義棟高圧ケーブル埋設工事に伴う調査（その１）	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	2	19881208	24	本書25頁
98804	文京遺跡	城北	工学部講義棟高圧ケーブル埋設工事に伴う調査（その２）	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	1	19881212	24	本書25頁
98805	文京遺跡	城北	工学部情報工学科校舎排水施設取設工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	6	19890207	24	本書25・26頁
98806	文京遺跡	城北	工学部情報工学科校舎給水施設取設工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	3	19890209 ～19890210	24	本書26頁
EU－98901	文京遺跡11次	城北	法文学部講義棟身障者用昇高機取設工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	85	19890801 ～19890829	24	18 本書27～29頁
98902	文京遺跡	城北	城北団地電波障害用の外線工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	2	19900303	24	本書29頁
EU－99001	文京遺跡	城北	城北団地囲障工事及び教育学部自転車置場新設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	3	19900808	18･24	本書30頁
EU－99101	樽味遺跡２次	樽味	農学部研究実験棟新営工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	506	19920107 ～19920228		28 本書30～33頁
99102		津田山	教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(下條信行)	13	19910608		本書33・34頁
99103	文京遺跡	城北	城北団地囲障（Ⅱ期）改修及び外灯改修工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(下條信行)	36	19910821	18･24	本書34頁
EU－99201	樽味遺跡	樽味	農学部屋外ガス本管改修工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	6	19920526		本書35頁
99202	文京遺跡	城北	城北地区東側囲障改修工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	19920730	19	本書35～38頁

調査番号	遺跡名 次数	団地	工事調査名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積(m²)	調査期間	図版図幅	参考文献
EU−99203	樽味遺跡	樽味	附属図書館農学部分館新営工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1	19920826		本書38・39頁
99204		重信	医学部附属病院病歴室新営工事に伴う調査（その１）	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	19920826		本書39～42頁
99205		山越	1992年度構内遺跡確認調査（その１）	確認	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	57	19920828	2・5	本書42～45頁
99206	樽味遺跡	樽味	農学部拓翠寮他自転車置場新設工事に伴う調査（その１）	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	19920921		本書46・47頁
99207	樽味遺跡	樽味	農学部拓翠寮他自転車置場新設工事に伴う調査（その２）	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19920921		本書47頁
99208	文京遺跡	城北	城北団地外灯設備改修工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19930126	18	本書47・48頁
99209	持田・岩崎遺跡	持田	教育学部附属小学校給水設備工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	11	19931026	32	本書48・49頁
99210		重信	医学部附属病院駐車場取設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	40	19921027		本書49～51頁
99211		重信	1992年度構内遺跡確認調査（その２）	確認	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	54.6	19930120 ～19930121		本書51～55頁
99212	文京遺跡	城北	城北団地情報通信設備工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	11.8	19930308 ～19930309	24	本書55～57頁
99213		重信	医学部附属病院病歴室新営工事に伴う調査（その２）	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	6.8	19930322		本書57・58頁
99214	樽味遺跡	樽味	樽味団地自転車置場取設その他工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	33.3	19930323		本書58・59頁
99215	文京遺跡	城北	城北団地交通規制遮断機取設工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19930324	24	本書60頁
EU−99301		重信	医学部看護学校校舎新営工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	20	19930524		本書61～64頁
99302	樽味遺跡	樽味	附属図書館農学部分館新営工事(樹木移植)に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	14	19930624 ～19930625		本書64～67頁
99303	樽味遺跡	樽味	農学部自転車置場取設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	80.8	19930827		本書67頁
99304	樽味遺跡３次	樽味	附属図書館農学部分館新営工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	258.5	19930823 ～19931006		28 本書67～69頁
99305	文京遺跡	城北	城北団地大学会館廻り道路整備（樹木移植）工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19931109	18	本書71・72頁
99306	樽味遺跡	樽味	附属図書館農学部分館新営(外灯設備管路)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	19931124		本書72・73頁
99307	樽味遺跡	樽味	城北団地他情報通信電気設備工事に伴う調査（その１）	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	7	19931124		本書73頁

調査番号	遺跡名 次数	団地	工事調査名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積(m²)	調査期間	図版図幅	参考文献
EU−99308	文京遺跡	城北	城北団地他情報通信電気設備工事に伴う調査(その2)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	7.9	19931125	24	本書73・74頁
99309	持田・岩崎遺跡	持田	1993年度構内遺跡確認調査	確認	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	39	19931224 ～19931225	32・38	本書74～79頁
99310	文京遺跡	城北	城北団地情報機器更新電源容量増設工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3.7	19940118 ～19940119	24	本書79・80頁
99311	樽味遺跡	樽味	農学部附属図書館新営(排水管埋設)工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	19.8	19940208 ・19940215		本書80・81頁
99312	樽味遺跡	樽味	農学部附属図書館新営(自転車置場)工事に伴う調査(その2)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	29.7	19940208		本書81頁
99313	文京遺跡	城北	城北団地基幹整備(屋外環境)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	14.8	19940209 ・19940210 ・19940216	24	本書82～86頁
99314	文京遺跡	城北	工学部研究実験棟の建設に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	37.9	19940329	24	本書87頁
EU−99401	樽味・桑原遺跡	北吉井	東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査(その1)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	54.5	19940510 ～19940513 ・19940516 ・19940518		本書88～90・92～98頁
99402		東長戸	東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査(その2)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	9	19940517		本書98頁～101頁
99403	樽味遺跡	樽味	環境整備(附属高等学校他自転車置場)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	7.8	19940524		本書101～103頁
99404	文京遺跡	城北	城北団地他環境整備(単車置場整備)工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1.4	19940607	24	本書103頁
99405	文京遺跡	城北	城北団地他環境整備(自転車置場整備)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	81.3	19940608	18	本書104頁
99406	文京遺跡	城北	城北団地他環境整備(自転車置場・排水管設置)工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	5.3	19940610	19	本書105頁
99407	文京遺跡	城北	城北団地他環境整備(排水枡及び管路取設)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	5.9	19940801	18	本書105～107頁
99408	文京遺跡	城北	城北団地他環境整備(電気配管路取設)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3.2	19940801	18	本書107頁
99409	文京遺跡	城北	工学部岩盤切削試験機設置工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1.1	19940927	24	本書107・108頁

調査番号	遺跡名 次数	団地	工事調査名	調査 種別	調査機関(調査担当者)	面積 (m²)	調査期間	図版 図幅	参考文献
EU−99410	文京遺跡12次	城北	工学部校舎新営(Ⅰ期)に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1,183	19941110 ～19950726	24	本書108～111頁
99411		津田山	教育学部附属養護学校野外施設(東屋)設置工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	33	19950127		本書112頁
EU−99501	文京遺跡	城北	教育学部運動場内鉄棒移設工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	48	19950411 ～19950412		
99502	文京遺跡	城北	教養部テニスコート(事務局北側)改修工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	9	19950801		
99503	文京遺跡	城北	工学部南側囲障工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	19950801		
99504	文京遺跡	城北	理学部構内井戸工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	4	19950802		
99505		山越	防球ネット取設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	7	19950802		
99506	文京遺跡13次	城北	地域共同研究センター新営工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	890	19951017 ～19960412		
99507	樽味遺跡	樽味	農学部公共下水桝取設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19951114		
99508	樽味・桑原遺跡	北吉井	北吉井宿舎公共下水道設置工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	2	19951115		
99509	文京遺跡	城北	城北団地(北西)通用門改修工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	19951116		
99510	文京遺跡	城北	埋蔵文化財調査室改修(下水桝取設)工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1	19960131		
99511	文京遺跡	城北	城北団地基幹整備(電線管等)工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	34	19960213 ～19960220		
EU−99601	文京遺跡14次	城北	工学部校舎新営(Ⅱ期)工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室 (吉田広・三吉秀充)	1,349	19960520 ～19970331		
99602	文京遺跡15次	城北	1996年度構内遺跡確認調査	確認	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	225	19961113 ～19961209		
99603	樽味遺跡	樽味	農学部附属高等学校校舎新営工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	21.7	19961128 ・19961211		
99604	樽味遺跡	樽味	農学部附属高等学校温室新営工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	5	19961129		
99605	樽味遺跡	樽味	ATMネットワーク工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1	19961129		
99606	持田・岩崎遺跡	持田	附属小学校ガス管改修、附属幼稚園電源改修工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3.6	19970204		

2．道後・城北遺跡群における調査一覧（1994年６月までの松山市教育委員会・埋蔵文化財センター、愛媛県埋蔵文化財センターの調査一覧）

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版篇図幅	参考文献
MC－47003	東雲遺跡	丸之内、東雲神社境内	－	後世の古墳と神社による攪乱が著しいが、弥生時代中期の円形土壙を確認。弥生土器の中には鹿の線刻画あり。S.48に松山市が調査。→EP－0891に対応。	30	13 15
MC－48004	緑台遺跡	道後緑台10番地	立会	=「緑台遺物包含地」、弥生時代の竪穴式住居跡・遺物が出土。遺物には弥生時代中期の壷が完形品を含めて11点ある。	13・14	
MC－50005	文京遺跡１次	文京町３番、愛媛大学構内	全面	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、弥生時代中期後葉を中心とする竪穴式住居跡・土壙などを調査。→EU－97501と対応。	24	6
50007	文京遺跡	文京町１番、日本赤十字病院	全面	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、弥生時代の遺物包含層を確認。溝・柱穴を調査。出土遺物には弥生土器がある。	25	15
MC－52003	松山城跡	堀之内13、国立病院四国癌ｾﾝﾀｰ附属高等看護学校・倉庫、	立会	=「堀之内遺物包含地」、トレンチ調査が実施されたが、調査の詳細なデータは不明。	28	
52007	松山城跡	堀之内13、国立病院四国癌ｾﾝﾀｰ、特殊診療棟	立会	=「堀之内遺物包含地」、松山第22連隊兵営施設によって、大きく攪乱を受け、松山城跡関連の遺構・遺物は出土していない。	28	
MC－53004	松山城跡	堀之内13、国立病院四国癌センター、受水槽・汚物処理槽	立会	=「堀之内遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	28・34	
MC－54002		大街道３丁目２番地24、松山東雲学園内	立会	調査データの詳細は不明。	30	
54003	松山城跡	堀之内13、国立病院四国癌センター、受水槽	立会	=「堀之内遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	28	
MC－55005	文京遺跡２次	文京町３番、愛媛大学構内	全面	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、弥生時代中期後葉～後期初頭の竪穴式住居跡・掘立柱建物・土壙などを調査。→EU－98001と対応。	24	23
MC－56010	カキツバタ遺跡	若草町	立会	=「若草町遺跡」、弥生時代後期～古墳時代前期の壷棺墓・遺物包含層を確認。他に土器(壷・鉢など)・石包丁が出土。	28	15
56013	文京遺跡３次	文京町３番、愛媛大学構内	全面	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、弥生時代中期後葉～後期初頭の竪穴式住居跡・円形周溝・土壙などが出土。また7次調査で確認された掘立柱建物が調査区西端で確認されている。→EU－98101と対応。	24	23

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版篇図幅	参考文献
MC－57034	文京遺跡４次	文京町２番２号、松山東中学校敷地内	全面	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、弥生時代前期の竪穴式住居跡、古墳時代後期の自然流路を調査。住居跡の1棟は松菊里型。また、周辺からは縄文時代中期の土器片が採集されている。	19	24
57013		御幸１丁目513-１、松山大学構内	踏査		11	
57021	松山城跡	堀之内13-2、国立病院四国癌ｾﾝﾀｰ、公務員宿舎	立会	=「堀之内遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	28･34	
MC－58007		道後鷺谷町434-１、祝谷東町441-６	立会	遺物・遺構は出土しなかった。	15	
58010	山越遺跡	山越１丁目309-１	立会	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	8	
58013		鉄砲町６-27、清水集会所地	試掘	調査データの詳細は不明。	23	
58016	文京遺跡	文京町３番、愛媛大学構内	立会	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。→ＥＵ－98301と対応する。	18･24	
58017	文京遺跡	文京町３番、愛媛大学城北団地教育学部校舎	試掘	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。→ＥＵ－98302と対応する。	18	
58027	山越遺跡	山越２丁目56-１	立会	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	5	
MC－59003	文京遺跡	文京町２番５号･３番、愛媛大学城北団地構内	立会	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、遺構・遺物は出土しなかった。→ＥＵ－98402	18･19	
59006	姫原遺跡	山越３丁目721-２	立会	=「姫原包含地」、調査データの詳細は不明。	3	
59007		道後町２丁目815	立会	調査データの詳細は不明。	26	
59008	土居の段遺跡	祝谷東町441-７	－	=「土居の段遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	15	
59009	文京遺跡５次	文京町３番、愛媛大学構内	全面	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺物)」、弥生時代中期後葉の竪穴式住居跡(?)・古墳時代後期の竪穴式住居跡(?)・掘立柱建物を調査。→ＥＵ－98401と対応。	24	23
59033	松山城跡	堀之内13-１、国立病院四国癌ｾﾝﾀｰ、外来診療棟	試掘	=「堀之内遺物包含地」、松山第22連隊の兵営施設建設時に大きく攪乱を受けており、松山城跡関連の遺構・遺物は出土していない。また、現地表下2.3m前後で黒色土層を確認した。	34	
59035	松山城跡	丸之内１	試掘	松山城本丸に関連する建物跡と礎石列を確認。	29	
5900Ａ	平和通り遺跡	平和通り２-13	全面	弥生時代中期中頃～後葉の遺物包含層を確認。他に後期の遺物あり。遺構は未確認。	24	15
MC－5900Ｂ	松山城跡	丸之内	全面	松山城二ノ丸跡。	29･35	13

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版篇図幅	参考文献
MC－60029	松山城跡	堀之内13-1、国立病院四国癌ｾﾝﾀｰ、公務員宿舎	立会	=「堀之内遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	28	
60056	松山城跡	堀之内、県民館敷地汚水管路	試掘	=「堀之内遺物包含地」、調査トレンチの位置を示すデータはないが、現地表下70～100cmに松山第22連隊兵営施設時の造成と考えられる瓦片を多く含む茶褐色土層がみられる。その下位、100～150cmには、安定した茶褐色土層が堆積している。	34	
MC－61002		道後鷺谷町421-3	立会	調査データの詳細は不明。	15	
61030	松山大学構内遺跡1次	清水町3丁目2-2、松山大学法学部校舎	試掘	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、工事対象範囲の一部をトレンチ調査。遺構は未確認であるが、弥生土器・中世の陶磁器類が出土した。	17･18	15
MC－62009	松山城北郭遺跡	平和通4丁目1-6	全面	松山城北ノ郭に関連する石垣を確認。	23	17
62040	山越遺跡	山越2丁目12-20	立会	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	8	
62045	山越遺跡	山越1丁目591-20	立会	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	9	17
62047	(文京遺跡)	清水町1丁目8-53	立会	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。	23	17
62064	道後城北RNB遺跡	道後樋又6-24	全面	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、古墳時代の溝、縄文時代～弥生時代初頭と縄文時代後期の遺物包含層を調査。	18	17
62061		道後多幸町7-26	試掘	調査データの詳細は不明。	15	
62067	道後今市遺跡	道後一万787-12	立会	=「今市遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	25	17
62083		道後湯月町甲1669-3	立会	其盤層の褐色粘質土地山まで造成がかかり、遺構・遺物は出土していない。	21	17
62086	(祝谷遺跡)	祝谷2丁目4-29	立会	調査データの詳細は不明。	14	
62101	松山城跡	堀之内官有地	試掘	=「堀之内遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	28･34	
6200A	道後鷺谷遺跡	道後鷺谷町5-32	全面	弥生時代中期の貯木土壙、遺物包含層を調査。土壙からは木製の鍬・柄・板材が出土。包含層からは、弥生時代前期後半～後期後半の土器・人面形土製品・石鏃・石斧・砥石・凹石が出土。この他に、古墳時代の須恵器・土師器・中世の黒色土器・近世の土師器皿がある。	15	30
MC－63004	山越遺跡	山越1丁目323-11-16	立会	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	8	17
63007	若草町遺跡1次	若草町8番地、旧国鉄所有地内	全面	弥生時代後期後半～終末の竪穴式住居跡・壺棺墓・前方後方形や円形の周溝群・土壙、古墳時代前期の竪穴式住居跡・溝・土壙などを調査。円形周溝SD－02に囲まれたSK－03から重圏異体字銘帯鏡、SK－57から小型防製鏡が出土。	22	21

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版篇図幅	参考文献
MC－63018	道後今市遺跡	道後今市998－6・9	立会	＝「今市遺物包含地」、調査データの詳細は不明。参考文献ではMC－63017で記載。	20·26	17
63027	道後今市遺跡	道後今市1049－2	立会	＝「今市遺物包含地」、調査データの詳細は不明。参考文献ではMC－63023で記載。	25	17
63038	山越遺跡	山越1丁目317－9	立会	＝「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。参考文献ではMC－63034で記載。	8	17
63075	山越遺跡	山越1丁目274－9	立会	＝「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。参考文献ではMC－63069で記載。	8	17
63100	山越遺跡２次	山越1丁目314－1、315－1、316－1	全面	＝「山越遺物包含地」、弥生時代～古墳時代の溝が調査されている。特に、ＳＤ－02からは、弥生時代前期中頃の土器と伴って、木製の平鍬・磨製石鏃が出土した。	8	27
63104	道後今市遺跡６次	道後今市1053－1	全面	＝「今市遺物包含地」、古墳時代中期の竪穴式住居跡、柱穴を調査。包含層からは、弥生時代中期後葉の土器・石包丁、古墳時代後期6世紀代の須恵器が出土。	25	24
63109	山越遺跡１次	山越1丁目13－5、267－1	全面	＝「山越遺物包含地」、弥生時代前期と考えられる土壙、古墳時代中期の竪穴式住居跡、掘立柱建物などが調査された。	8	27
63128	道後今市遺跡	道後今市1023－2	試掘	＝「今市遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	20	
63141	緑台遺跡	道後緑台1324－1	試掘	＝「緑台遺物包含地」、須恵器出土。	20	
63147		道後鷺谷町421·422·423·424	立会	調査データの詳細は不明。	21	21
MC－01014	山越遺跡３次	山越1丁目268－1	全面	＝「山越遺物包含地」、弥生時代の土壙、時期不明の溝と土壙が調査されている。	8	27
01015	土居窪遺跡	道後緑台９丁目29	試掘	＝「緑台遺物包含地」、土壙・遺物包含層を確認。弥生土器・須恵器・瓦が出土。	14	21
01017	今市遺跡	道後北代1271－3	試掘	＝「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、土師器・須恵器が出土。	19	21
01019	松山大学構内遺跡２次	文京町４－10、４－２、清水町２丁目14－3	全面	弥生時代前期の溝、弥生時代後期前半～中頃の竪穴式住居跡、古墳時代前期～７世紀後半の竪穴式住居跡・掘立柱建物・自然流路などを調査。	17	20
01039		松前町５丁目１～６、味酒公民館敷地	－	包蔵地外。調査データの詳細は不明。	16	21
01085	土居窪遺跡	祝谷２丁目298	立会	＝(祝谷遺跡)、調査データの詳細は不明。	14	21
01088	姫原遺跡	姫原１丁目230－2	試掘	＝「姫原包含地」、須恵器が出土。	3	21
01090	道後鷺谷遺跡	道後鷺谷町５－32	試掘	弥生～近世の土壙・柱穴・遺物包含層を確認。土師器が出土。	15	21

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版篇図幅	参考文献
MC－01105	山越遺跡	山越１丁目301－12	試掘	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	8	21
01127	道後今市遺跡	道後喜多町1018－６	立会	=「今市遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	20	21
01137	道後今市遺跡	道後今市998－１、998－４	試掘	=「今市遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	20･26	21
01139	道後北代遺跡	道後北代1286－４	試掘	=「北代遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	19	21
01155	道後今市遺跡７次	道後一万775－１・７・８	全面	=「今市遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	25	
01156	松山城跡	堀之内	立会	=「堀之内遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	28	21
MC－02002	山越遺跡	山越１丁目539－２	試掘	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	9	21
02017	道後今市遺跡	道後今市1051－１、1054－５	試掘	=「今市遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	19	21
02020	道後樋又遺跡２次	道後樋又1219－８	全面	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、中世階段の自然流路・土壙、中世～古代の溝、古代～古墳時代の溝・自然流路、弥生時代前期～中期の溝・土壙・自然流路などを調査。また、文京遺跡の基本層序のⅣ層に対応する土層から縄文時代後期の土器が出土。	19	24
02024	道後樋又遺跡	清水町２丁目21－５・７	試掘	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。	17	21
02028	山越遺跡	山越２丁目34	試掘	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	5	21
02030	影浦谷古墳	山越３丁目752－１	全面	=「姫原古墳群」、6世紀中頃～7世紀前半の横穴式石室を主体部とする古墳3基を調査。1号墳裾からは円筒埴輪・形象埴輪(盾)が出土。2号墳は横穴式石室に小石室が並列して構築。墳裾には箱式石棺が営まれる。他に、弥生時代中期末の土壙を確認。	3	25
02034	道後今市遺跡８次	道後今市1065－５	全面	=「今市遺物包含地」、弥生時代前期～古墳時代の自然流路を調査。流路内からは弥生時代前期中頃の大型壷が出土している。	19	24
02060	山越遺跡	山越１・６丁目(道後)	立会	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	8	
02060		道後樋又３(道後)	立会	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。	19	
02067	松山大学構内遺跡	文京町４－２、松山大学構内	試掘	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。	18	21
02068	松山大学構内遺跡	文京町４－２、松山大学構内	試掘	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。	18	21
02069	松山大学構内遺跡３次	文京町４－10、松山大学構内	全面	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、弥生時代の自然流路、弥生時代後期終末～古墳時代初頭の竪穴式住居跡・溝・土壙、古墳時代中期～後期の竪穴式住居跡・溝、古墳時代後期の竪穴式住居跡、古墳時代終末期の掘立柱建物、古代の溝・土壙など多数の遺構を調査。	17	35
02076	松山城跡	堀之内13－１、国立病院四国癌ｾﾝﾀｰ、ﾏｲｸﾛﾄﾛﾝ棟	－	=「松山城跡指定区域」、調査データの詳細は不明。	28	22
02077	松山城跡	堀之内13－１、国立病院四国癌ｾﾝﾀｰ、受電棟	試掘	=「松山城跡指定区域」、柱穴・遺物包含層を確認。弥生土器・須恵器・陶磁器などが出土。	28	22

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版篇図幅	参考文献
MC－03009	(祝谷遺跡)	祝谷２丁目３－９	立会	調査データの詳細は不明。	14	
03010	山越遺跡	山越１丁目18－８	試掘	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	8	
03024		道後樋又５－36、３－３(道路)	立会	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。	18	22
03034	山越遺跡	山越２丁目10－26	試掘	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	5	
03039	緑台遺跡	道後緑台1325－３	試掘	=「緑台遺物包含地」、標高33.3ｍから１ｍ下位まで水田層がみられるが、遺物は出土しておらず、時期は不明。	20	22
03049	道後今市遺跡９次	道後北代1272－１・４・５・７	試掘	=「北代遺物包含地」、中世の溝・柱穴・鋤溝跡・水田跡を調査。中世の遺構面の下位には、弥生時代中期・古墳時代後期の遺物が混じる砂礫層が堆積する。	19	30
03058	道後北代遺跡	道後北代10－33	試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物出土なし。土層データあり。	13	22
03060	姫原遺跡	山越３丁目752－８	試掘	=「姫原包含地」、遺構なし、弥生土器が出土。土層図あり。	3	22
03083	道後北代遺跡	道後北代1288－７・８	試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物出土なし。土層データあり。	19	22
03088	姫原遺跡	姫原246－１・1046－２	試掘	=「姫原包含地」、遺構なし。弥生～中世の遺物数点出土。	3	22
03100	道後北代遺跡	道後北代173－１	試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物出土なし。土層データあり。	14	22
03122	道後今市遺跡	道後町２丁目989－１	試掘	=「今市遺物包含地」、中世(?)の土器細片出土。土層データあり。	26	22
03125		清水町２丁目20－１	試掘	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。	17	22
03129	姫原遺跡	山越３丁目15、NTT山越内	試掘	=「姫原包含地」、調査データの詳細は不明。	3	?
03131	道後北代遺跡	道後北代32－10	試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物出土なし。土層データあり。	13	22
0300Ａ	松山城跡	堀之内、国立病院四国癌ｾﾝﾀｰ敷地内	試掘	=「堀之内遺物包含地」、Ｈ３.２.21～３.６調査、調査データの詳細は不明。	28	
MC－04001	道後北代遺跡	道後北代９－５	試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物出土せず。土層データあり。	19	26
04016	道後今市遺跡	道後喜多町1331－９	試掘	=「今市遺物包含地」、遺構・遺物出土せず。土層データあり。	20	26
04035	道後北代遺跡	道後北代２－24	試掘	=「北代遺物包含地」、中世の遺物包含層と遺構を確認。また縄文土器が出土。土層データあり。	19	26
04036	(祝谷遺跡)	祝谷２丁目乙635－２	試掘	造成土が厚く、遺構・遺物は確認していない。土層データあり。	14	26
04042	道後今市遺跡	道後今市８－32	試掘	=「今市遺物包含地」、遺構・遺物出土せず。土層データあり。	19	26
04073	(文京遺跡)	清水町２丁目20－６	試掘	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、遺構・遺物は出土していない。土層データあり。	17	26
04086	土居の段遺跡	祝谷東町乙771－２・５、甲441－19･63	踏査	=「土居の段遺物包含地」、削平が著しく、岩盤が一部露出した状況であった。遺構・遺物は出土しなかった。	15	26
04088	山越遺跡	山越１丁目588－１	試掘	=「山越遺物包含地」、遺構なし。中世以降の土器が出土。土層データあり。	9	26
04094	若草町遺跡３次	若草町８－２	全面	弥生時代～近世の円形周溝墓・土壙墓・竪穴式住居跡・土壙・溝・井戸・石組み排水溝などを調査。とくに、円形周溝墓は古墳時代前期初頭のもので、短い張り出し部分がつく。	22･28	31

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版篇図幅	参考文献
MC－04114	道後今市遺跡	道後一万９－57	試掘	=「今市遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	25	26
04117	山越遺跡	山越１丁目11－22	試掘	=「山越遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	8	26
04122		緑町１丁目４－４	試掘	遺構・遺物は出土していない。土層データあり。	30	26
0400C	松山城跡	堀之内	立会	=「堀之内遺物包含地」、杭列Ｈ４.７.22調査、ﾄﾚﾝﾁ位置図なし。	28	
0400B	松山城跡	堀之内	立会	=「堀之内遺物包含地」、遺構図あり。	28	
0400A	松山城跡	堀之内	立会	=「堀之内遺物包含地」、胴木等の土塁基底部遺構等の検出。H4調査、ﾄﾚﾝﾁ位置図あり。	35	
MC－05006	緑台遺跡	道後緑台331－３、339－１	試掘	=「緑台遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	14	31
05010		緑町１丁目３－13	試掘	遺構・遺物は出土なし。土層データあり。	30	31
05025	道後北代遺跡	道後北代９－53	試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	19	31
05038	山越遺跡	山越町９－９－16	試掘	=「山越遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	5	31
05046	山越遺跡	山越１丁目303－３	試掘	=「山越遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	8	31
05050	(祝谷遺跡)	祝谷２丁目13－17	試掘	遺構・遺物は出土していない。土層データあり。	14	31
05060	道後今市遺跡	道後今市1063－５	試掘	=「今市遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	19	31
05063	姫原遺跡	山越３丁目811－７	試掘	=「姫原包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	3	31
05067	姫原遺跡	山越３丁目768－２	試掘	=「姫原包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	6	31
05068	道後北代遺跡	道後北代1298－４	試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	20	31
05074	道後今市遺跡	道後喜多町1018－８	試掘	=「今市遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	20	31
05095	緑台遺跡	道後緑台1318－１	試掘	=「緑台遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	20	31
05104	道後今市遺跡	道後今井1073－10･11	試掘	=「今市遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	19	31
05109	道後北代遺跡	道後北代８－24	試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	20	31
05115	山越遺跡	山越１丁目甲274－10	試掘	=「山越遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	8	31
05125	(文京遺跡)	清水町１丁目９－５	試掘	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」、遺構・遺物は出土していない。土層データあり。	23	31
05126	道後今市遺跡	道後今市1043－３	試掘	=「今市遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	25	31
05137		木屋町２丁目６－19、６－29･30	試掘	遺構・遺物は出土していない。土層データあり。	16	31
05144	道後今市遺跡	道後今市1056－１・８、1057－１・７・９・10･11	試掘	=「今市遺物包含地」、遺構・遺物は出土していない。土層データあり。	19	31
05147	山越遺跡	山越１丁目294－１・２	試掘	=「山越遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	8	31
05170	山越遺跡	山越１丁目328･329	試掘	=「山越遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	8	31
0500A	松山城跡	堀之内、国立病院四国癌ｾﾝﾀｰ敷地内	立会	=「堀之内遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	28	

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版篇図幅	参考文献
MC－0500B	松山城跡	堀之内	立会	石積残存、Ｈ５調査、石積残存部の遺構図あり。	34	
0500C	松山城跡	堀之内、国立病院四国癌ｾﾝﾀｰ敷地内	立会	=「堀之内遺物内包地」、調査データの詳細は不明。	28	
MC－06016	道後北代遺跡	道後北代10－41	試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物は出土していない。	13	32
06023		木屋町２丁目1－26	試掘	遺構・遺物は出土していない。土層データあり。	22	32
06024	（文京遺跡）	清水町２丁目19－５	試掘	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺物)」、遺構・遺跡は出土せず。	17	32
06031	道後北代遺跡	道後北代175－３、166－２・５	試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土層データあり。	14	32
06032	（文京遺跡）	清水町２丁目21－３	試掘	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺物)」、調査データの詳細不明。参考文献では、MC-06033で登録。	17	32
06040	姫原遺跡	山越３丁目814－２・５	試掘	=「姫原包含地」、遺構･遺物は出土せず。土層データあり。	3	32
06049	山越遺跡	山越２丁目20－５	試掘	=「山越遺物包含地」、遺構･遺物は出土せず。土層データあり。	5	32
06059	（平和通り遺跡）	平和通３丁目１－10･38･44	試掘	遺構･遺物は出土は出土していない。土層データあり。	23	32
06109	松山大学構内遺跡４次	文京町４－２、松山大学構内	試掘	=「樋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺物)」、工事予定地の南東部分で溝を検出したが、遺物は出土していない。	18	
0600A	松山城跡	堀之内、国立病院四国癌ｾﾝﾀｰ敷地内	立会	=「堀之内遺物内包地」、杭列Ｈ６.12.21～12.27調査、調査データの詳細は不明。	28･34	
ＥＰ－0160	山越遺物包含地	山越１・２・４丁目		松山市分布図№160、弥生～縄文時代の遺跡地とされるが、遺跡台帳には、「縄文時代後期、地下５～６ｍから植物遺体との記載がある。	５・６・８・９	4
0168	姫原遺物包含地	山越１・２丁目、山越３丁目		松山市分布地図№168、縄文時代の土器・石器が出土。	３・６	4
0674	土居の段遺跡	祝谷１丁目８番周辺		縄文時代～弥生時代の土器片が出土。西田栄が1963年2月10日に踏査して台帳記載。	14･15	4
0685	土居窪遺跡	祝谷２丁目２・３･12･13周辺		水田地下１ｍほどから弥生時代中期を主体とする遺物が出土。土器以外に、石斧・木製の鍬・櫂状木製品がある。また、縄文土器も出土している。	14	３・４
0686	冠山遺跡	道後湯之町冠山、(旧)湯神社境内		冠山山頂で弥生時代前期土器が出土したことを、西田栄が1963年３月４日に踏査して台帳記載。他に、弥生土器・須恵器・石斧が出土。また、湯神社の階段付近で縄文土器が表採されている。正確な位置を確定できないので、図版篇地図には○範囲で表示。	21	４･10

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版篇図幅	参考文献
EP－0690	堀之内遺跡	若草町1・2番、堀之内堀端付近		弥生時代終末期の土器が出土。西田栄が1963年3月4日に踏査して台帳記載。	28	4
0691	山崎遺跡	祝谷3丁目6－30		弥生時代前期～中期の土器が出土。土砂採集で消滅。	13	4
0692	道後今市遺跡	道後今市1053		明治42年、平形銅剣10口が出土。西田栄が1963年2月10日に踏査して記載された台帳では、弥生土器も出土しており、「弥生土器及び平形銅剣とはほぼ同一場所より出土している。遺構未確認」との記載あり。明確な地点は確認できなかったので、図版篇地図には○で範囲を表示した。	25	4・10
0694	水口遺跡	平和通り2丁目2番		弥生時代後期(?)の器台形土器などが出土。西田栄が記載した台帳による。	24	4
0695	通町遺跡	平和通り2丁目2番		弥生時代後期の壺が出土。西田栄が1963年3月4日に踏査して台帳に記載。	24	4
0696	土器掘遺跡	東雲町7番		弥生時代後期土器が出土。西田栄が1963年3月4日に踏査して台帳記載。	31	4
0697	城山遺跡	一番町城山東南角		古墳時代の土師器・須恵器が出土。西田栄が1963年3月4日に踏査して台帳記載。	36	4
0698	持田遺跡	南町1丁目2・3番		弥生時代中期の土器が出土。西田栄が1963年3月4日に現地踏査して台帳記載。	32	4
0701	田高遺跡	道後鷺谷町4番7		弥生時代後期土器・石斧が出土。	15	4
0702	義安寺遺跡	道後姫塚114		弥生時代後期土器が出土。	27	4
0708	長建寺古墳	御幸1・2丁目		松山市分布地図に、「No46：長建寺古墳」として登録。	9	4
0709	御幸寺山古墳群	御幸1丁目、祝谷西町、祝谷3丁目		松山市分布地図No48。西田栄が記載した台帳には、「横穴式石室を主体部にもつ古墳があり、鏡が出土」とある。	11・12・13	4
0723	城ノ内古墳	丸之内、水源調整池		横穴式石室を主体部とする円墳。須恵器・鉄鏃などが出土。西田栄が1963年2月10日に踏査して台帳記載。	35	4
0724	道後公園山麓遺跡	道後湯築		中世紀の城郭遺跡として著名。丘陵の東側斜面を「露戦捕虜運動場」にするために削り取る際に、平形銅剣が出土。正確な出土地点は確定できなかったために、図版篇地図には○で推定出土地を表示。	27	4
0729	石手伊佐爾波古墳群	桜谷町、道後湯月町		1972年8月15日に西田栄・森光晴・長井数秋が踏査して台帳に古墳時代～弥生時代の遺跡として記載。直径10m前後の古墳を13基確認、2基消滅。	15・21	4
0883	松山大学構内遺跡	文京町4－2、松山大学構内		体育館建設中に、弥生時代～古墳時代の土器が多数出土。	17	4
0891	東雲神社遺跡	丸之内73－1		MC－47003と対応する。	30	4
1475	緑台遺跡	道後緑台10		弥生時代中期の土器が出土。	14	4

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版篇図幅	参考文献
EP－01	松山北高遺跡１次	文京町４番１、松山北高等学校構内	全面	弥生時代後期中頃～終末期の竪穴式住居跡を調査。	23	9
02	道後姫塚遺跡	道後姫塚118	全面	弥生時代中期初頭の土壙、弥生時代終末期～古墳時代初頭の竪穴式住居跡・土壙などが調査され、古墳時代後期や中世の遺物が出土している。	21･27	7
03	道後今市遺跡10次	道後今市11－11	全面	縄文時代後期の遺物包含層、縄文時代晩期末の土壙と遺物包含層、弥生時代前期の土壙、中世の掘立柱建物・溝などが調査。	19	29
04	道後今市遺跡１次	道後町２丁目12	全面	弥生時代前期初頭前後の土壙、古墳時代中期の集積遺構などの遺構が調査され、弥生時代中期後葉・古墳時代中期・中世の遺物が出土した。	26	11
05	道後今市遺跡３次	道後町２丁目４～８	全面	弥生時代中期初頭の土壙、古墳時代中期の竪穴式住居跡、古墳時代後期の竪穴式住居跡、中世の墓・土器焼成遺構(?)・溝などが調査されている。	26	11
06	道後今市遺跡２次	道後今市９－２	全面	弥生時代中期後葉の土壙、古墳時代後期の土壙、中世の掘立柱建物・土壙が調査されている。	26	11
07	松山北高遺跡３次	文京町４番１、松山北高等学校構内	全面	古墳時代前期の竪穴式住居跡・土壙を調査。	23	33
08	松山北高遺跡２次	文京町４番１、松山北高等学校構内	全面	弥生時代終末期～古墳時代前期の土器集積遺構、古墳時代前期の竪穴式住居跡などを調査。	23	9
09	道後今市遺跡４次	道後町２丁目９	全面	弥生時代中期後葉の竪穴式住居跡、古墳時代中期の竪穴式住居跡、古墳時代～中世の掘立柱建物・柵列が調査されている。	26	11
10	道後湯築城跡	道後湯築城道後公園内	全面	二重に巡らされた堀、土塁に囲まれる。大手門・搦手門関連の遺構、内部には土塀で囲まれた数棟の礎石建物など家臣団の居住区、庭園、道路跡、鍛冶遺構が確認されている。	27	
11	道後今市遺跡５次	道後町２丁目12	全面	弥生時代中期前半の竪穴式住居跡・土壙・中世墓などが調査されている。	20	11
12	若草町遺跡２次	若草町	全面	弥生時代後期～古墳時代前期初頭の竪穴式住居跡・円形周溝遺構・土壙、６～７世紀の横穴式石室を主体部とする円墳、近世の松山城の城下町関連の遺構などが調査。	18	37
13	持田町３丁目遺跡	持田町３丁目	全面	弥生時代前期中頃～末の壷棺墓・木棺墓・土壙墓、古墳時代中期～後期の竪穴式住居跡を調査。他に、縄文時代晩期中頃の遺物が出土。とくに、弥生時代の墓地は縦列に配置され、各墓には副葬小壷や磨製石剣・碧玉製管玉などが副葬されている。	32	34
14	松山北高遺跡４次	文京町４番１、松山北高等学校構内	全面	自然流路から、縄文時代晩期末・弥生時代中期後葉～後期中頃、古墳時代後期６世紀末・中世の遺物が出土。	17･23	33

調査番号	遺 跡 名	所 在 地	調査種別	調 査 概 要	図版篇図幅	参考文献
A−1	勝山中学遺跡	清水町３丁目148-２		弥生時代後期土器が出土。	17	3
A−2	府中町遺跡	平和通４丁目１、若草町８		弥生時代後期土器が出土。	22	3
A−3	道後南町２丁目遺跡	岩崎町２丁目７、NHK第１道後寮敷地内		弥生時代前期～後期の遺物が出土。	32	3
A−4	湯之町廃寺跡	道後祝谷１丁目、文教会館敷地内		軒丸瓦・軒平瓦。一町四方の伽藍(?)。正確な位置を確定できないので、図版篇地図には○で範囲を表記。	15	12
A−5	(伝)樋又銅剣出土地	道後樋又		1929年旧制松山高等学校創立10周年記念展陳列出土品目録の檜垣家旧蔵品の４口と、旧愛媛県男子師範学校郷土館所蔵の1口の平形銅剣は、樋又出土といわれる。出土推定位置は、松山市教育委員会の西尾幸則の教示による。	19	12
A−6	伊佐爾波神社裏古墳	道後桜谷町駐車場内		方格規矩渦文鏡が出土。正確な位置は不明。図版篇地図には○で範囲を表示。	21	12
A−7	内代廃寺跡	道後上市２丁目、義安寺の前方		軒丸瓦・軒平瓦が出土。正確な位置を確定できない。図版編地図には○で範囲を表示。	27	12
A−8	持田遺跡	持田市営ｱﾊﾟｰﾄ北側道路		弥生時代前期の木葉文をもつ小型壷が井戸掘り中に出土。	32	3

【註】

1.弥生時代中期後葉～後期初頭の竪穴式住居跡・掘立柱建物・土壙が出土した。竪穴式住居跡には推定直径７～８ｍの大形住居がある。また、掘立柱建物には高床式倉庫と考えられる１×２間のものに加えて、柱間1.8m、梁間４間、桁行き４間以上の大型掘立柱建物が調査されている。柱の抜き跡内に、弥生中期後葉～末のミニチュアの鉢形土器、高坏が部分的に打ち欠かれて詰め込まれていた。

【参考文献】

1.松山市埋蔵文化財包蔵地地図
2.柴村敬次郎 1954：伊予考古遺物出土地名一覧表(中予篇)
3.西田栄 1957：道後土居窪弥生遺跡の発掘報告.伊予史談会,150.伊予史談会
4.愛媛県埋蔵文化財包蔵地調査カード 1963作成
5.名本二六雄 1967：愛媛県道後平野北部における弥生末期の様相.考古学研究.第15巻.第1号.40−53
6.森光晴・大山正風ほか 1976：文京遺跡.松山市文化財報告書,11
7.坂本安光編 1979：道後姫塚遺跡. 埋蔵文化財調査報告書.愛媛県教育委員会
8.松山市史料集編集委員会編 1980：松山市史料集,第一巻,考古編
9.愛媛県教育委員会編 1981：愛媛県立松山北高等学校遺跡,愛媛県埋蔵文化財調査報告書

10.愛媛県史編纂室編 1983：愛媛県史.原始･古代,Ⅰ
11.岡田敏彦･中島博文･小林一郎･谷若倫郎 1985：道後今市遺跡.愛媛県教育委員会
12.愛媛県史編纂室編 1986：愛媛県史.資料編,考古
13.松山市教育委員会編 1987：松山市埋蔵文化財調査年報,Ⅰ
14.松山市史料集編集委員会編 1987：松山史料集,第二巻,考古２,古代～中世･近世･文化編
15.古代学協会四国支部 1988：松山道後城北の弥生遺跡をめぐって(シンポジウム資料)
16.宮本一夫編 1989：鷹子･樽味遺跡.愛媛大学埋蔵文化財調査報告,Ⅰ
17.松山市教育委員会編 1989：松山市埋蔵文化財調査年報,Ⅱ
18.宮本一夫編 1990：文京遺跡第８･９･11次調査.愛媛大学埋蔵文化財調査報告,Ⅱ
19.宮本一夫編 1991：文京遺跡第10次調査.愛媛大学埋蔵文化財調査報告,Ⅲ
20.梅木謙一編 1991：松山大学構内遺跡２次調査.松山市文化財報告書,20
21.松山市教育委員会編 1991：松山市埋蔵文化財調査年報,Ⅲ
22.松山市教育委員会編 1992：松山市埋蔵文化財調査年報,Ⅳ
23.栗田茂敏編 1992：文京遺跡－第２･３･５次調査.松山市文化財報告書,28
24.梅木謙一･宮内慎一編 1992：道後城北遺跡群.松山市文化財報告書,30
25.栗田茂敏編 1993：影浦谷古墳.松山市文化財報告書,33
26.松山市教育委員会編 1993：松山市埋蔵文化財調査年報,Ⅴ
27.梅木謙一･宮内慎一編 1993：山越･久万ノ台の遺跡.松山市埋蔵文化財調査報告書,32
28.田崎博之編 1993：樽味遺跡,Ⅱ.愛媛大学埋蔵文化財調査報告,Ⅳ
29.多田仁･湖西一成･林奈美 1994：道後今市遺跡,Ⅹ.(財)愛媛埋蔵文化財調査センター
30.梅木謙一･橋本雄一編 1994：道後城北遺跡群,Ⅱ.松山市文化財報告書,37
31.松山市教育委員会編 1994：松山市埋蔵文化財調査年報,Ⅵ
32.松山市教育委員会編 1995：松山市埋蔵文化財調査年報,Ⅶ
33.伊藤直子編 1995：愛媛県立松山北高等学校遺跡埋蔵文化財調査報告書,２.(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
34.真鍋昭文編 1995：持田町３丁目遺跡.(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
35.宮内慎一篇 1995：松山大学構内遺跡,Ⅱ.松山市文化財調査報告書,49
36.田崎博之編 1996：樽味遺跡,Ⅲ.愛媛大学埋蔵文化財調査報告書,Ⅵ
37.土井光一郎･伊藤祐三 1996：若草町遺跡,Ⅱ.(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

愛媛大学構内遺跡調査集報Ⅰ

－1987～1994年度における立会・試掘・確認調査成果の報告－

愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅴ

1997年3月26日

発行　愛媛大学埋蔵文化財調査室
松山市道後樋又10－13
TEL(089)927－9127

印刷　原印刷株式会社
〒791　松山市山越4丁目8－15
TEL(089)924－8823